

SETSUNAN UNIVERSITY  
**SYLLABUS**

2015 看護学部 授業計画  
看護学科

# 看 護 学 部

(学部略号：N)

Faculty of Nursing

看護学科

(学科略号：N)

Department of Nursing

## 看護学部 教育目標

看護学部看護学科は、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観、心豊かな人間性と看護実践能力を備えた人材を育成し、地域社会における保健・医療・福祉の向上、看護の発展に貢献できる看護職者を養成することを目的とする。



# 授 業 計 画



科目名	担当者	ページ
<b>イ</b>		
医療経済論	田井義人	41
<b>エ</b>		
英語Ⅰ	沢田美保子	196
英語Ⅰ	米田繭子	198
英語Ⅰ	中道英美子	200
英語Ⅱ	沢田美保子	201
英語Ⅱ	米田繭子	202
英語Ⅱ	中道英美子	203
英語Ⅲ	沢田美保子	204
英語Ⅲ	米田繭子	206
英語Ⅲ	木村理恵子	208
英語Ⅳ	辻琢己	210
	小森浩二	
疫学・保健統計	小堀栄子	37
<b>カ</b>		
カウンセリング論	宮川貴美子	29
家族関係論	南野美穂	40
家族看護学	後閑容子	136
看護学概論	田中結華	47
看護関係法規	齋藤悦子	43
	小野晃正	
看護管理学	後閑容子	69
	竹中泉	
看護教育学	竹中泉	138
韓国語Ⅰ	北島由紀子	216
韓国語Ⅰ	北島由紀子	217
韓国語Ⅱ	北島由紀子	218
韓国語Ⅱ	北島由紀子	219
看護研究Ⅰ	後閑容子	148
	赤井由紀子	
	泉川孝子	
	鎌田佳奈美	
	川畑安正	
	小崎篤志	
	小堀栄子	
	白田久美子	
	田中結華	
	野田洋子	
	池田友美	
	竹中泉	
	徳重あつ子	
	松本葉子	
	眞野祥子	
	金原京子	
	竹下裕子	
	中山由美	
	福山智子	
	宮本雅子	

科目名	担当者	ページ
	森木ゆう子	
	森谷利香	
	山本智津子	
	吉川有葵	
	田丸朋子	
看護研究Ⅱ	後閑容子	149
	赤井由紀子	
	泉川孝子	
	鎌田佳奈美	
	川畑安正	
	小崎篤志	
	小堀栄子	
	齋藤悦子	
	白田久美子	
	田中結華	
	野田洋子	
	池田友美	
	竹中泉	
	徳重あつ子	
	松本葉子	
	眞野祥子	
	金原京子	
	竹下裕子	
	中山由美	
	福山智子	
	宮本雅子	
	森木ゆう子	
	森谷利香	
	山本智津子	
	吉川有葵	
	田丸朋子	
看護対人関係論	田中結華	49
看護倫理	鎌田佳奈美	137
	川畑安正	
	塚田敬義	
感染と防御	高松宏治	21
<b>キ</b>		
基礎看護学実習Ⅰ	田中結華	71
	川畑安正	
	竹中泉	
	中山由美	
	森木ゆう子	
	金原京子	
	竹下裕子	
	森谷利香	
	山本智津子	
	吉川有葵	
	岡田純子	
	田丸朋子	
	森嶋道子	
	小川宣子	

科目名	担当者	ページ
	亀田直子 阪上由美 志戸岡恵子 七山知佳 山本十三代 吉村公一	
基礎看護学実習Ⅱ	田中結華 川畑安正 池田友美 竹中泉 徳重あつ子 松本葉子 中山由美 森木ゆう子 金原京子 竹下裕子 森谷利香 吉川有葵 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子 小川宣子 亀田直子 阪上由美 志戸岡恵子 名草みどり 山本十三代	72
基礎看護技術Ⅰ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	51
基礎看護技術Ⅰ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	54
基礎看護技術Ⅱ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	57
基礎看護技術Ⅱ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	60

科目名	担当者	ページ
基礎看護技術Ⅲ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	63
基礎看護技術Ⅲ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	65
基礎看護技術Ⅳ	田中結華 中山由美 森木ゆう子 岡田純子 田丸朋子 森嶋道子	67
キャリアデザイン	西鶴智香	194
<b>ケ</b>		
経済学	紀国正典	183
研究入門	小堀栄子	147
<b>コ</b>		
公衆衛生学	小堀栄子	39
国際看護学	野田洋子	140
コミュニケーション論	櫻井清華	169
<b>サ</b>		
災害看護論	松田宣子 寺師榮 担当者未定	145
在宅看護学援助論Ⅰ	後閑容子 阪上由美 石橋文枝	128
在宅看護学援助論Ⅱ	後閑容子 阪上由美 石橋文枝	130
在宅看護学概論	後閑容子 石橋文枝	126
在宅看護学実習	後閑容子 阪上由美 山本十三代	132
在宅看護学実習	後閑容子 阪上由美 山本十三代	133
<b>シ</b>		
疾病・治療論Ⅰ	小崎篤志	33
疾病・治療論Ⅱ	小崎篤志	35
周産期医学	杉本有紀子	152

科目名	担当者	ページ
	担当者未定	
小児看護学援助論Ⅰ	鎌田佳奈美 池田友美 亀田直子 大橋敦	103
小児看護学援助論Ⅱ	池田友美 鎌田佳奈美 亀田直子	106
小児看護学概論	鎌田佳奈美	101
小児看護学実習	鎌田佳奈美 池田友美 亀田直子 中山祐一	108
小児看護学実習	鎌田佳奈美 池田友美 亀田直子 中山祐一	109
情報リテラシーⅠ	小堀栄子	190
情報リテラシーⅠ	小堀栄子	191
情報リテラシーⅡ	小堀栄子	192
情報リテラシーⅡ	小堀栄子	193
食生活論	浅野真理子	18
助産学概論	赤井由紀子 泉川孝子	154
助産学実習	赤井由紀子 泉川孝子 福山智子 宮本雅子 但馬まり子 名草みどり	164
助産管理論	赤井由紀子	163
助産技術学演習	宮本雅子 赤井由紀子 泉川孝子 福山智子 但馬まり子	160
助産診断・技術学Ⅰ	泉川孝子 赤井由紀子	156
助産診断・技術学Ⅱ	赤井由紀子 宮本雅子	157
助産診断・技術学Ⅲ	宮本雅子 赤井由紀子	158
女性学	荒木菜穂	177
女性学	荒木菜穂	179
人体の構造と機能Ⅰ	倉本展行	11
人体の構造と機能Ⅱ	倉本展行	13
人体の構造と機能Ⅲ	米山雅紀	15
人体の構造と機能Ⅳ	米山雅紀	16
心理学	小牧一裕	170

## ス

スポーツ科学	藤林真美	220
--------	------	-----

科目名	担当者	ページ
	横山喬之	
スポーツ科学	藤林真美 横山喬之	222

## セ

成人看護学援助方法	川畑安正 白田久美子 松本葉子 竹下裕子 森谷利香 吉川有葵	83
精神看護学援助論Ⅰ	眞野祥子 山本智津子 吉村公一 小笠原一能	121
成人看護学援助論Ⅰ	川畑安正 松本葉子 竹下裕子 吉川有葵	77
精神看護学援助論Ⅱ	山本智津子 眞野祥子 吉村公一	123
成人看護学援助論Ⅱ	白田久美子 松本葉子 森谷利香	79
精神看護学概論	眞野祥子	119
成人看護学概論Ⅰ	川畑安正	73
成人看護学概論Ⅱ	白田久美子	75
精神看護学実習	眞野祥子 山本智津子 吉村公一	124
精神看護学実習	眞野祥子 山本智津子 吉村公一	125
成人看護学実習Ⅰ	川畑安正 竹中泉 松本葉子 竹下裕子 森谷利香 吉川有葵 志戸岡恵子	85
成人看護学実習Ⅱ	川畑安正 竹中泉 松本葉子 竹下裕子 森谷利香 吉川有葵 志戸岡恵子	87
成人看護学実習Ⅲ	白田久美子 川畑安正 松本葉子 竹中泉	89

科目名	担当者	ページ
	竹下裕子 森谷利香 吉川有葵 志戸岡恵子	
成人看護学実習Ⅱ	白田久美子 川畑安正 松本葉子 竹中泉 竹下裕子 森谷利香 吉川有葵 志戸岡恵子	90
成人病態看護論	川畑安正 白田久美子 松本葉子 竹下裕子 森谷利香	81
生物・化学の基礎	安原智久 片岡誠	187
生命科学概論	竹内健治	186
生命倫理	大橋範子	188

## ソ

総合看護学演習	後閑容子 赤井由紀子 泉川孝子 鎌田佳奈美 川畑安正 小崎篤志 小堀栄子 齋藤悦子 白田久美子 田中結華 野田洋子 池田友美 竹中泉 徳重あつ子 松本葉子 眞野祥子 金原京子 竹下裕子 中山由美 福山智子 宮本雅子 森木ゆう子 森谷利香 山本智津子 吉川有葵	150
---------	---	-----

## タ

代謝栄養学	竹内健治	17
-------	------	----

科目名	担当者	ページ
地域看護学	後閑容子	134
中国語Ⅰ	今中崇文	212
中国語Ⅰ	今中崇文	213
中国語Ⅱ	今中崇文	214
中国語Ⅱ	今中崇文	215

## チ

## テ

哲学	森本誠一	172
----	------	-----

## ト

統合看護学実習	後閑容子 赤井由紀子 泉川孝子 鎌田佳奈美 川畑安正 白田久美子 田中結華 池田友美 竹中泉 徳重あつ子 松本葉子 眞野祥子 金原京子 竹下裕子 中山由美 福山智子 宮本雅子 森木ゆう子 森谷利香 山本智津子 吉川有葵 岡田純子 亀田直子 阪上由美 志戸岡恵子 但馬まり子 田丸朋子 名草みどり 七山知佳 森嶋道子 山本十三代 吉村公一	151
---------	---	-----

## ニ

日本国憲法	小宮山直子	181
-------	-------	-----

## ヒ

病院薬学演習	菊田真穂 小森浩二	27
病院薬学演習	菊田真穂	28

科目名	担当者	ページ
	小 森 浩 二	
病理学総論	小 崎 篤 志	19

## フ

文学	丹 下 暖 子	174
文章表現法	山 中 延 之	167
文章表現法	山 中 延 之	168

## ホ

法学入門	柄 谷 藍 香	182
保健医療福祉行政論	小 堀 栄 子	38
母性看護学援助論 I	赤 井 由紀子	111
	泉 川 孝 子	
	福 山 智 子	
	宮 本 雅 子	
	但 馬 まり子	
	小 林 浩	
母性看護学援助論 II	泉 川 孝 子	113
	赤 井 由紀子	
	福 山 智 子	
	宮 本 雅 子	
	但 馬 まり子	
母性看護学概論	泉 川 孝 子	110
	赤 井 由紀子	
母性看護学実習	赤 井 由紀子	115
	泉 川 孝 子	
	福 山 智 子	
	宮 本 雅 子	
	但 馬 まり子	
	名 草 みどり	
母性看護学実習	赤 井 由紀子	117
	泉 川 孝 子	
	福 山 智 子	
	宮 本 雅 子	
	但 馬 まり子	
	名 草 みどり	
ボランティア活動論	森 本 誠 一	175

## ヤ

薬物治療学	奈 邊 健	25
薬理学総論	奈 邊 健	23

## リ

臨床看護学演習 I	川 畑 安 正	141
	松 本 葉 子	
	竹 下 裕 子	
	吉 川 有 葵	
	河 野 武 幸	
	辻 琢 己	
臨床看護学演習 II	白 田 久美子	143
	竹 中 泉	
	森 谷 利 香	

科目名	担当者	ページ
	埜 由美子	
	小 森 浩 二	
臨床心理学	宮 川 貴美子	31

## ロ

老年看護学援助論 I	徳 重 あつ子	93
	小 崎 篤 志	
	金 原 京 子	
	七 山 知 佳	
	松 田 千登勢	
老年看護学援助論 II	徳 重 あつ子	95
	金 原 京 子	
	七 山 知 佳	
	松 田 千登勢	
老年看護学概論	松 田 千登勢	91
老年看護学実習 I	徳 重 あつ子	97
	金 原 京 子	
	小 川 宣 子	
	七 山 知 佳	
老年看護学実習 I	徳 重 あつ子	98
	金 原 京 子	
	小 川 宣 子	
	七 山 知 佳	
老年看護学実習 II	徳 重 あつ子	99
	金 原 京 子	
	小 川 宣 子	
	七 山 知 佳	
老年看護学実習 II	徳 重 あつ子	100
	金 原 京 子	
	小 川 宣 子	
	七 山 知 佳	



# 專 門 基 礎 科 目



科目名	人体の構造と機能 I	科目名 (英文)	Anatomy and Physiology I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期前半	授業担当者	倉本 展行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「解剖学」「組織学」の基礎から学習を始め、「骨格」「関節」の全容を学習すると共に、全身を取りまく「骨格筋」と、骨格筋による「運動」を学習する。さらに、「末梢神経系」の支配について学習する。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心として、人体臓器模型等を用いた演習形式学習も行う。授業は指定席で実施することがある。できるだけ毎回講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	なぜ看護職に人体の構造と機能の知識が必要か？	「人体の構造と機能」を概説するとともに、看護師にとっての「人体の構造と機能」の知識の重要性を実地経験に基づいて看護職経験教員が説明する。	レポート「なぜ人体の構造と機能の知識が重要か？」の作成提出
2	細胞、組織、臓器・器官の成り立ちと生命維持の仕組み	細胞の機能及び細胞、組織、臓器・器官の成り立ちについて説明する。また、人体の正常機能を維持するための仕組みについて説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
3	骨の構造、発生・成長、機能	人体の骨の構造・機能、発生と成長、全身の骨格について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
4	人体の骨格	人体の骨格 (連結を含む) について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
5	筋の構造・機能	骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
6	筋の収縮とその特徴	骨格筋、心筋、平滑筋の収縮の仕組み、収縮の特徴について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
7	体幹の骨格と筋	脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
8	上肢の骨格と筋	上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、前腕の筋群、手の筋群、上肢の運動について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
9	下肢の骨格と筋	下肢帯の骨格、自由下肢の骨格、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下腿の筋群、足の筋群、下肢の運動について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
10	頭頸部の骨格と筋	脳頭蓋、顔面頭蓋、頭部の筋、頸部の筋について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
11	自律神経系の機能	自律神経系 (交感神経と副交感神経) の特徴・機能について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
12	自律神経系の構造	交感神経系と副交感神経系の構造について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
13	自律神経系の調節	自律神経系の神経伝達物質、受容体、調節について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
14	筋の神経支配	に骨格筋、心筋、平滑筋の神経支配について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を育成する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して定期試験に備える。

関連科目	人体の構造と機能 II、III、IV
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学 (人体の構造と機能①)」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社	
3	人体の構造と機能衡講義ノート			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	小テスト (30%)、定期試験 (70%) により総括評価する。レポート提出は必須とする。
------	---

(基準)	
学生へのメッセージ	『人体の構造と機能 I II 講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。
担当者の研究室等	1号館 (薬学部) 7階 倉本准教授室
備考	

科目名	人体の構造と機能Ⅱ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期後半	授業担当者	倉本 展行
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「消化器系器官」の構造と機能を学習して栄養の消化と吸収を理解する。また、「呼吸器系器官」「血液系」の構造と機能を学習して呼吸と血液のはたらきを理解する。また、すでに学習した「自律神経系」の機能による内蔵の調節について、理解を深める。
授業方法と留意点	授業方法はプレゼンテーション及び板書による「講義」を中心として、人体臓器模型等を用いた演習形式学習も行う。授業は指定席で実施することがある。できるだけ毎回講義前に小テストを実施するので、普段からの学習習慣を身につけるようにすること。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	口・咽頭・食道の構造と機能	口、咽頭、食道の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
2	胃の構造と機能	胃の構造、運動、機能、調節について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
3	小腸の構造と機能	小腸の構造、運動、機能、調節について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
4	大腸の構造と機能	大腸の構造、運動、機能、調節について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
5	膵臓の構造と機能	膵臓の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
6	肝臓・胆嚢の構造と機能	肝臓と胆嚢の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
7	栄養素の消化と吸収	栄養素(糖質、タンパク質、脂質)の消化・吸収とビタミンやミネラルの吸収について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
8	呼吸器の構造	気道、肺、胸膜の構造について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
9	呼吸	呼吸運動、呼吸気量、ガスの運搬と交換について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
10	呼吸の調節	呼吸の神経調節について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
11	血液	赤血球、白血球、血小板の種類と働きについて説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
12	血漿	血漿タンパク質の種類と働きについて説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
13	止血と血液凝固	止血の機構と血小板凝集、血液凝固について説明する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して小テストに備える。
14	フィジカルアセスメント演習	血中酸素濃度、ストレス、呼吸機能(ピークフロー)の測定方法の習得し、測定値の変動を考察すること生理学の理解を高める(看護職経験教員による演習)。	演習の方法・結果・考察のレポートの作成
15	総合演習	問題演習等を通して本科目範囲の理解を深めるとともに、問題解決能力を育成する。	授業のまとめノートの作成を中心とした復習及びメディカルイメージブックを活用して定期試験に備える。

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学(人体の構造と機能①)」	坂井建雄、岡田隆夫	医学書院
2	メディカルイメージブック 解剖学	中島雅美 編	医歯薬出版株式会社	
3	人体の構造と機能衡講義ノート			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(30%)、定期試験(70%)により総括評価する。レポート提出は必須とする。
----------	--

学生へのメッセージ	『人体の構造と機能 I II 講義ノート』を活用しながら授業をまとめ、小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。
担当者の研究室等	1号館（薬学部） 7階 倉本准教授室
備考	

科目名	人体の構造と機能Ⅲ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	米山 雅紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「循環器系器官」「泌尿器系器官」の構造と機能を学習して血液の循環と調節及び尿生成と体液の調節を理解する。また、「内分泌系器官」の構造と機能を学習して内臓機能の調節を理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心臓の構造	心臓の位置と外形、心臓の部屋と弁、心臓壁、心臓の血管と神経について模型等を用いて説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
2	心臓の機能	心臓の興奮と伝播、心電図について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
3	心臓の機能	心臓の収縮とその調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
4	末梢循環系の構造	血管の構造、肺循環、全身の動脈系、全身の静脈系について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
5	血液の循環調節	血圧、血液循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
6	血液の循環調節	血圧調節、微小循環、循環器系の病態生理について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
7	リンパ系の構造と機能	リンパ管の構造、リンパ循環について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
8	体液の調節と尿の生成	腎臓の構造と機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
9	体液の調節と尿の生成	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質、排尿路の構造について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
10	体液の調節と尿の生成	尿の貯蔵と排尿、体液調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
11	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモンの化学構造と作用機序、内分泌系器官について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
12	内分泌系による内臓機能の調節	視床下部一下垂体系、甲状腺、副甲状腺(上皮小体)について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
13	内分泌系による内臓機能の調節	膵臓、副腎、性腺の構造と分泌ホルモンの機能について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
14	内分泌系による内臓機能の調節	ホルモン分泌調節、ホルモンによる生体機能調節について説明する。	授業のまとめノートの作成することにより復習し、小テストに備える。
15	人体解剖見学	人体の胸部、腹部、頭部を中心とした解剖の見学を通して、内臓の位置、色、構造等について理解する。	事前に人体模型等で主な臓器について学習する(授業時間以外に補習として実施するので必ず出席すること)。事後にレポートを提出すること

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、薬理学Ⅰ、Ⅱ
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄/岡田隆夫	医学書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。
----------	--

学生へのメッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館6階 薬理学研究室
----------	--------------

備考	薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。
----	--

科目名	人体の構造と機能Ⅳ	科目名(英文)	Anatomy and Physiology IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	米山 雅紀
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「人体の構造と機能」は看護師を含む医療専門職の教育において基礎となる重要な科目である。生命体の成り立ちを個体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能及び機能調節などに関する基本的知識を修得する。
到達目標	本科目では、「神経系器官・感覚器系器官」の構造と機能、「生体防御機構」を学習して生体情報の伝達・受容と調節や生体防御反応について理解する。また、「生殖系器官」の構造と機能を学習して生殖・発生・老化のしくみを理解する。
授業方法と留意点	授業方法は「講義」を中心として、人体臓器模型や問題等を用いた演習形式学習も行う。小テストを実施する場合もあるので、普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	神経系の構造と機能	神経細胞と支持細胞、神経細胞の興奮と伝播、シナプス伝達について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
2	脊髄と脳	脊髄の構造の機能、脳の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
3	脊髄神経と脳神経	脊髄神経の構造と機能、脳神経の構造と機能、運動性上行路、感覚性下行路について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
4	脳の高次機能	脳波と睡眠、記憶、本能と情動行動、内臓調節機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
5	眼の構造と機能	眼球の構造、眼球付属器、視覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
6	耳の構造と機能	耳の構造、聴覚、平衡感覚について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
7	味覚、嗅覚、疼痛	味覚器と味覚、嗅覚器と嗅覚、痛みの分類、疼痛発生機序について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
8	生体防御	皮膚・粘膜における防御、食食作用・細胞傷害物質による防御、免疫による防御について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
9	体温	熱の出納、体温の分布と測定、体温調節について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
10	男性生殖器	男性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
11	女性生殖器	女性生殖器の構造と機能について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
12	受精と胎児発生	生殖細胞と受精、初期発生と着床、胎児と胎盤について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
13	成長と老化	小児期の成長、老化について説明する。	授業のまとめノートを作成すること。
14	体表から見た人体の構造	体表から触知できる骨格部分・骨格筋・血管を各自が確認して部位の名称を確認する。	授業のまとめノートを作成すること。
15	総合演習	人体の生理について問題演習を通して学習する。複数の看護学部教員とともに指導にあたる。	問題演習の復習

関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、薬理学Ⅰ、Ⅱ
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	解剖生理学 - 人体の構造と機能 -	坂井健雄/岡田隆夫	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	筆記試験100点満点の60点以上で合格とする。ただし、小テスト等の一定割合を評価に入れることもある。
----------	--

学生へのメッセージ	授業のまとめノートの作成や小テストを通して、普段からの学習習慣を身につけてください。疑問をもったときには遠慮なく質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館6階 薬理研究室
----------	-------------

備考	薬理学の基礎となる教科ですから、講義内容をよく理解し、予習・復習するよう努めてください。
----	--

科目名	代謝栄養学	科目名(英文)	Biochemical Nutriology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	糖質、脂質、タンパク質(アミノ酸)、ビタミン、ミネラルの五大栄養素を中心に、その構造、性質、役割など生化学的な特徴を理解する。また、摂取した食物の消化、吸収の機序を知り、どのように体内で代謝され体のエネルギーや構成成分になるのかについて、体内で起こる種々の化学反応とその反応を触媒している酵素の役割を中心に理解する。さらに、栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解する。
到達目標	栄養不足や栄養過多、代謝異常に伴う疾患についてその発症機構を分子レベルで理解することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容に沿って、プロジェクター、プリントなどを用いて講義する。
科目学習の効果(資格)	生物系科目全般の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	栄養素各論「糖質」	栄養素としての糖質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
3	糖質の代謝①	食べた糖質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
4	糖質の代謝②	細胞内で糖質がどのように代謝され、利用されるのかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
5	栄養素各論「脂質」	栄養素としての脂質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
6	脂質の代謝①	食べた脂質が、どのように消化吸収されるかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
7	脂質の代謝②	細胞内で脂質がどのようにエネルギーを生み出すかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
8	栄養素各論「アミノ酸、タンパク質」	栄養素としてのアミノ酸とタンパク質の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
9	アミノ酸とタンパク質の代謝	食べたタンパク質の消化、吸収と、アミノ酸の代謝を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
10	エネルギー代謝の統合と制御	代謝のバランスが崩れたときに、どのようなことが起こるかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
11	体の中での酵素の役割	私たちの体温は37℃、pHは中性である。このような緩和な状況で栄養を代謝できるのは体内に酵素があるおかげである。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
12	栄養素各論「ヌクレオチド、核酸」	ヌクレオチドと核酸の基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
13	遺伝情報	遺伝情報がどのように保存され、どのように次世代へ伝わるのかを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
14	栄養素各論「ビタミン」	栄養素としてのビタミンの基本構造と種類、さらにその役割を理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。
15	代謝異常と疾患	遺伝情報に誤りがあると、それが原因で代謝異常がおこることを理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておくこと。

関連科目	生物・化学の基礎、生命科学概論など生物系科目全般
------	--------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	小テストと課題(25%)、定期試験(75%)で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	代謝栄養学の観点からみると、健康とは、食物の消化・吸収から代謝、および老廃物の排出という人体の活動が正常に営まれることであり、疾病はこの正常な営みが崩れた場合に起こる。代謝栄養学の知識は、他領域の分野を学習するための基礎であり、それらの習得に役立つことは間違いない。講義内容についての質問はいつでも受け付けますので、気軽にたずねてください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館5階
------------	-------

科目名	食生活論	科目名(英文)	Dietary Life
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 真理子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	私達は毎日食材を調理し、食事をするという習慣的な食生活を営んでいる。近年、健康食品ブームなど人々の食への関心が高まっている一方で、経済成長やライフスタイルの変化は私達の食生活にも大きな影響を及ぼし、栄養バランスのひずみなどが大きな社会問題となっている。本科目では、人間にとって「食べる」とはどのようなことかについて、生理的・精神的・社会的な機能などから考える。また、各ライフステージにおける食の特徴や役割について学習する。
到達目標	栄養素の役割について理解し、各ライフステージにおいてどのような食事が必要かについて理解する。 また、疾病時の栄養管理について、看護師として必要な知識を身につける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。教科書と各回に配布するプリントを活用する。
科目学習の効果(資格)	生活から切り離すことの出来ない「食」について理解を深めるとともに、各ライフステージにおける食の特徴や役割を理解することで、今後の履修科目の理解につながることを期待する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食生活の概念	はじめに食生活の概念と、食生活論を学ぶ意義について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
2	食生活の変遷—日本・世界の食文化—	古代から現代に至るまで、ヒトは何をどのように食べてきたのか、「おいしさ」と食文化について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
3	食品と栄養	私たちが普段何気なく口にしている食品について理解を深める。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
4	食生活の機能—生理的機能1—	三大栄養素の生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
5	食生活の機能—生理的機能2—	ビタミンの生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
6	食生活の機能—生理的機能3—	ミネラルの生理的機能について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
7	ライフステージにおける食の特徴と役割—妊娠期—	妊娠期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
8	ライフステージにおける食の特徴と役割—乳幼児期—	乳幼児期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
9	ライフステージにおける食の特徴と役割—学童期—	学童期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
10	ライフステージにおける食の特徴と役割—思春期—	思春期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
11	ライフステージにおける食の特徴と役割—成人期—	成人期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
12	ライフステージにおける食の特徴と役割—高齢期—	高齢期における栄養と食生活について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
13	食生活の現状と課題1	現在の食生活について、現状と課題について、また、現代の情報化社会における、本当に信頼できる情報とは何か、を理解する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
14	食生活の現状と課題2	遺伝子組み換えなど食材の安全性や、食中毒・食品汚染などの安全性の問題について学習する。	講義で配布したプリントや板書したノート、また図書館の書籍等を利用して授業内容を復習しておく。
15	これからの食生活	現代社会の「食」を取り巻く背景から、食の役割、これからの食生活について学習する。最後にまとめの小テストを行う。	まとめの小テストを行うので、これまでの授業内容をしっかりと復習して講義に望むこと。

関連科目	生化学、栄養学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	保健・医療・福祉のための栄養学	渡邊早苗・寺本房子・丸山千寿子	医歯薬出版株式会社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験、小テストおよび課題などから総合的に判断する。
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	「食」は私たちが生きていく上で切り離すことのできないものです。しっかりと理解し、自分の食生活にも応用して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	病理学総論	科目名(英文)	Pathology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に消化器および代謝内分泌疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱへと引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病理学総論(消化器2)	講義にて消化器疾患、主に食道疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
3	病理学総論(消化器3)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
4	病理学総論(消化器4)	講義にて消化器疾患、主に胃十二指腸疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
5	病理学総論(消化器5)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
6	病理学総論(消化器6)	講義にて消化器疾患、主に腸および腹膜疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
7	病理学総論(消化器7)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
8	病理学総論(消化器8)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
9	病理学総論(消化器9)	講義にて消化器疾患、主に胆肝脾疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の予習・復習
10	病理学総論(代謝内分泌1)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
11	病理学総論(代謝内分泌2)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
12	病理学総論(代謝内分泌3)	講義にて代謝内分泌疾患、主に糖尿病および代謝異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の予習・復習
13	病理学総論(代謝内分泌4)	講義にて代謝内分泌疾患、主に尿酸代謝および異常疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
14	病理学総論(代謝内分泌5)	講義にて代謝内分泌疾患、主に甲状腺疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
15	病理学総論(代謝内分泌6)	講義にて代謝内分泌疾患、主に副甲状腺・下垂体疾患の原因、主要症状、病理学、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習

関連科目	疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.1 消化器		メディックメディア
2	病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌		メディックメディア	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出題する。講義中の授業態度を評価の一部とする。 定期試験(90%)、講義での授業態度評価など(10%)で最終評価する。
学生への メッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	感染と防御	科目名(英文)	Microbiology and Immunology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高松 宏治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	それぞれの感染症に特定のウイルスや微生物が関与することを理解するため、代表的な病原体の種類や特徴とそれらが引き起こす症状について学ぶ。また、病原体に対する生体防御機構と予防法や治療法の基礎知識を学ぶことにより、科学的な根拠に基づいて感染症の予防と治療に従事する専門職としての能力を身につける。さらに、分子生物学的・遺伝学的観点から感染と防御について概説することにより、最先端の感染症医療に対応できる能力を身につける。
到達目標	1. 代表的な病原微生物の生物学的特徴、感染経路、代表的な治療法および予防法などについて説明できる。2. 微生物の検出、取扱い、滅菌と消毒について概説できる。 3. 免疫学の発展と免疫系について説明できる。 4. 感染症の患者や家族などに対して適切な態度で接することができる。
授業方法と留意点	教科書の内容を中心にPowerPointを用いて解説する。練習問題や課題を出すので、正誤にかかわらず自らの考えを記すこと。PowerPointの内容をまとめたプリントを配布するので、講義前に教科書の該当領域と合わせて熟読し、概要を理解すること。また、講義中に重要と思われる内容をマークしたり、必要に応じて書き込みすること。講義後、再度、教科書とプリントの内容を確認し、重要な内容をノートにまとめること。疑問や質問などがあれば研究室に来て確認して欲しい。
科目学習の効果(資格)	目に見えない病原体の存在とそれらの特性を理解することで、一般市民の健康と生命を守るために必要な衛生的知識を修得できる。また、感染防御と感染症治療の基礎を理解することで、感染症患者の治療や院内感染防止に役立つ知識を身につけることができる。感染症が誰にでも起こりうる病気であることを理解することで、感染症の患者やその家族に対する偏見を無くし、献身的に医療に従事する態度を醸成する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション(講義の概要について) 感染症とは何か? 病原体とは何か? 免疫とは何か?	講義の方法、資料、注意事項、評価方法について説明する。 様々な病原体によって引き起こされる感染症と、免疫の概念について解説する。	事前学習: 教科書 p. 43~p. 56 を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
2	病原体の概要と分類	病原体(プリオン・ウイルス・細菌・真菌・原虫・寄生虫)の特徴と分類、および疾患との関連について、教科書・プリント・PowerPointを用いて解説する。	事前学習: 教科書 p. 4~p. 9 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
3	免疫の概念	免疫反応に関与する細胞や分子の種類と、それらの働きについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 56~p. 61 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
4	免疫系のネットワーク	自然免疫と獲得免疫の特徴、および細胞性免疫反応と液性免疫反応の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 62~p. 66、p. 70~p. 71 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
5	免疫による感染防御と、免疫に基づく疾患	正常な免疫系が関与する疾患と、免疫系の過剰反応や異常によって起こる疾患の特徴について解説する。	事前学習: 教科書 p. 66~p. 70 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
6	微生物検査法・滅菌と消毒	病原微生物の存在や特性を知る方法と、それらを除去する方法について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~82、p. 102~p. 107 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
7	滅菌と消毒・化学療法・感染症の予防	病原体を除去したり殺滅する方法と、感染症の予防や治療について解説する。	事前学習: 教科書 p. 74~p. 100 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
8	プリオンとウイルスのアウトライン	プリオンの特徴やプリオン感染症と、ウイルスの特徴・構造・分類・増殖などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 28~p. 36、p. 189 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
9	代表的なウイルス感染症-1	ウイルス感染症の例として、ヘルペスやインフルエンザを中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 159~p. 183 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
10	代表的なウイルス感染症-2	ウイルス感染症の例として、後天性免疫不全症候群(AIDS)を中心に解説する。	事前学習: 教科書 p. 184~p. 190 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
11	細菌のアウトライン	細菌の形態・構造・遺伝子などについて解説する。	事前学習: 教科書 p. 12~p. 25 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習: 重要な内容についてノートにまとめる。 疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。
12	代表的な細菌感染症-1	グラム陽性菌による感染症の例として、ブドウ球菌感染症、ボツリヌス症、結核	事前学習: 教科書 p. 111~p. 126 とプリントの該当部分を熟読する。

			などについて解説する。	事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	13	代表的な細菌感染症－2	グラム陰性菌やその他の細菌による感染症の例として、ペスト、コレラ、大腸菌感染症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 128～p. 158 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	14	真菌・原虫・寄生虫のアウトライン	真菌・原虫・寄生虫の特徴や分類について解説する。	事前学習：教科書 p. 37～p. 41 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
	15	代表的な真菌・原虫・寄生虫感染症	真菌・原虫・寄生虫感染症の例として、マラリアや住血吸虫症などについて解説する。	事前学習：教科書 p. 191～p. 197 とプリントの該当部分を熟読する。 事後学習：重要な内容についてノートにまとめる。疑問に思ったことをレポート用紙に書く。課題を解く。																
関連科目	生命科学概論、生物・化学の基礎、公衆衛生学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジュアル生物学</td> <td>小田 紘</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジュアル生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジュアル生物学	小田 紘	ヌーヴェルヒロカワ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験（100点満点中60点以上で合格）により総合評価する。																			
学生への メッセージ	ヒトは多種多様な生物との関わり合いの中で生きている。目に見えないほど小さな生物の中には、ヒトにとって有益なものもあれば、有害なものもある。正常な免疫系は我々の身体を種々の病原体から守る役割を果たしているが、免疫系の異常によって病気が引き起こされる場合もある。ヒトと微生物の関係と免疫の仕組みを理解し、科学的な見地に基づいて感染防御に必要なことは何かを考えられる医療従事者になることを望む。																			
担当者の 研究室等	1号館5階 微生物学研究室																			
備考	感染症や免疫系、および微生物について学ぶためには、生物学の基礎的知識が不可欠であり、高校レベルの生物学の知識を有することが要求される。高校で生物学を履修していない者は、本講義を履修する前に高校の生物学の教科書や教材を参考に自己学習することを勧める。																			

科目名	薬理学総論	科目名(英文)	Pharmacology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	奈邊 健
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	薬物療法における看護師の役割として、(1) 誤薬の防止、(2) 治療効果の確認、(3) 有害作用の予防と早期発見、(4) 服薬に対する患者指導、(5) 患者・家族に対する治療の説明、などがある。これらを適切に実行するためには、薬物が生体に及ぼす種々の作用及びその作用機序について詳細に学ぶ必要がある。薬理学総論では、薬物の作用を、分子、細胞、臓器、個体レベルで学習し、上記の役割を実践していく上で必要な薬物の基礎知識を修得する。また、薬物の投薬方法及び投薬後の注意点、副作用とその対策、医薬品の取り扱い上の留意点等を総合的に理解し、臨床での実践へ向けた薬物療法の基盤を確かなものとする。																																																																		
到達目標	(1) 薬物療法における看護師の役割について概説できる。 (2) 薬が作用するしくみについて、受容体、イオンチャネル、酵素、などを交えて説明できる。 (3) 薬を投与した際の体内挙動(吸収、分布、代謝、排泄)について概説できる。 (4) 薬物相互作用について例を挙げて説明できる。 (5) 薬物の危険性について理解し、例を挙げて説明できる。 (6) 薬に関連した法律について概説できる。 (7) 自律神経系(交感神経・副交感神経)に作用する薬物について説明できる。 (8) 体性神経系(運動神経、知覚神経)に作用する薬物について説明できる。 (9) 心臓血管系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (10) 呼吸器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (11) 泌尿器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。																																																																		
授業方法及び留意点	基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配付します。また、臨床的観点から、薬物治療や新薬の話も提供したい。小テストを複数回実施する。普段からの学習習慣を身につけるようにしてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>薬理学を学ぶにあたって</td> <td>薬理学とはなにか、薬による病気の治療について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>薬理学の基礎知識(1)</td> <td>薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>薬理学の基礎知識(2)</td> <td>薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>薬理学の基礎知識(3)</td> <td>薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>薬理学の基礎知識(4)</td> <td>薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割</td> <td>看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について看護職経験教員が臨床経験に基づいて講義する。</td> <td>レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(1)</td> <td>神経系による情報伝達、自律神経作用薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(2)</td> <td>交感神経作用薬、副交感神経作用薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>末梢での神経活動に作用する薬物(3)</td> <td>筋弛緩薬・局所麻酔薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(1)</td> <td>抗高血圧薬・狭心症治療薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(2)</td> <td>心不全治療薬、抗不整脈薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(3)</td> <td>利尿薬、脂質異常症治療薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>心臓・血管系に作用する薬物(4)</td> <td>血液に作用する薬物について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>呼吸器系に作用する薬物</td> <td>気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>泌尿器系に作用する薬物</td> <td>排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について看護職経験教員が臨床経験に基づいて講義する。	レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出	7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬による病気の治療について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
2	薬理学の基礎知識(1)	薬が作用するしくみ(受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
3	薬理学の基礎知識(2)	薬の体内挙動(投与経路、吸収、分布、代謝、排泄)について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
4	薬理学の基礎知識(3)	薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
5	薬理学の基礎知識(4)	薬物使用の有益性と危険性、薬と法律について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
6	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割	看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割について看護職経験教員が臨床経験に基づいて講義する。	レポート「看護師にとって必要な医薬品知識の重要性と看護の役割」の作成・提出																																																																
7	末梢での神経活動に作用する薬物(1)	神経系による情報伝達、自律神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
8	末梢での神経活動に作用する薬物(2)	交感神経作用薬、副交感神経作用薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
9	末梢での神経活動に作用する薬物(3)	筋弛緩薬・局所麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
10	心臓・血管系に作用する薬物(1)	抗高血圧薬・狭心症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
11	心臓・血管系に作用する薬物(2)	心不全治療薬、抗不整脈薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
12	心臓・血管系に作用する薬物(3)	利尿薬、脂質異常症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
13	心臓・血管系に作用する薬物(4)	血液に作用する薬物について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
14	呼吸器系に作用する薬物	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
15	泌尿器系に作用する薬物	排尿を促す薬物、尿失禁に対する薬物、前立腺肥大症治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3</td> <td>吉岡充弘、泉 剛、井関 健</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学</td> <td>古川裕之</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験、小テスト、出席率等を加味し、100点満点の60点以上で合格とする。																																																																		
学生への	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する																																																																		

メッセージ	基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。
担当者の研究室等	1号館7階 奈邊教授室
備考	

科目名	薬物治療学	科目名(英文)	Pharmacotherapeutics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	奈邊 健
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	薬理学総論で修得した薬物の作用機序をもとに、さらに幅を広げ、全身の各種疾患に対して科学的根拠に基づいた薬物治療を行うための実践的な医薬品の使用方法を学ぶ。医療チームの一員として患者の治療に貢献できる看護師となるために、医薬品を投与した際の患者の管理や観察に必要な知識・技能・態度を身につける。																																																																		
到達目標	(1) 病態時の薬物動態と看護上の注意点について概説できる。 (2) 中枢神経に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (3) 免疫系、アレルギー疾患、炎症性疾患に用いる薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (4) 消化器系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (5) 抗がん薬、緩和医療について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (6) 生殖系に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (7) 物質代謝に作用する薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (8) 抗感染症薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (9) 救急の際に使用される薬物について、看護上の留意点を交えて説明できる。 (10) 漢方薬について、看護上の留意点を交えて概説できる。 (11) 消毒薬について、看護上の留意点を交えて説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には指定した教科書に沿って講義を進め、必要に応じてプリントなどを配布します。また、臨床的観点からの薬物治療や新薬の話題も提供します。小テストを複数回実施するので、普段からの学習習慣を身につけてください。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>病態時の薬物動態</td> <td>病態時の薬物動態について概説するとともに、薬物治療を行う上で看護師が注意しなければならないことを看護職経験教員が講義する。</td> <td>レポート「病態時の薬物動態と看護上の注意点」の作成・提出</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中枢神経系に作用する薬物(1)</td> <td>中枢神経系のはたらきと薬物について概説する。また、全身麻酔薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中枢神経系に作用する薬物(2)</td> <td>催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>中枢神経系に作用する薬物(3)</td> <td>気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>中枢神経系に作用する薬物(4)</td> <td>抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>免疫治療薬</td> <td>免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)</td> <td>抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)</td> <td>関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>消化器系に作用する薬物</td> <td>消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬などについて講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>抗がん薬(1)</td> <td>がん治療に関する基礎事項について、緩和医療を交えて講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>抗がん薬(2)</td> <td>抗がん薬各論について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>生殖系に作用する薬物</td> <td>女性ホルモン関連製剤などについて講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>物質代謝に作用する薬物</td> <td>糖尿病治療薬、骨粗しょう症治療薬などについて講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>抗感染症薬</td> <td>感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬</td> <td>救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識について概説する。また、消毒薬について講義する。</td> <td>教科書の該当範囲の予習・復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	病態時の薬物動態	病態時の薬物動態について概説するとともに、薬物治療を行う上で看護師が注意しなければならないことを看護職経験教員が講義する。	レポート「病態時の薬物動態と看護上の注意点」の作成・提出	2	中枢神経系に作用する薬物(1)	中枢神経系のはたらきと薬物について概説する。また、全身麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	3	中枢神経系に作用する薬物(2)	催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	4	中枢神経系に作用する薬物(3)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	5	中枢神経系に作用する薬物(4)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	6	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	7	抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	8	抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)	関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	9	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	10	抗がん薬(1)	がん治療に関する基礎事項について、緩和医療を交えて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	11	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	12	生殖系に作用する薬物	女性ホルモン関連製剤などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	13	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬、骨粗しょう症治療薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	14	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習	15	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識について概説する。また、消毒薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	病態時の薬物動態	病態時の薬物動態について概説するとともに、薬物治療を行う上で看護師が注意しなければならないことを看護職経験教員が講義する。	レポート「病態時の薬物動態と看護上の注意点」の作成・提出																																																																
2	中枢神経系に作用する薬物(1)	中枢神経系のはたらきと薬物について概説する。また、全身麻酔薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
3	中枢神経系に作用する薬物(2)	催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
4	中枢神経系に作用する薬物(3)	気分障害治療薬、パーキンソン症候群治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
5	中枢神経系に作用する薬物(4)	抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
6	免疫治療薬	免疫系の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬・予防接種薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬(1)	抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬(2)	関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症、片頭痛治療薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
9	消化器系に作用する薬物	消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
10	抗がん薬(1)	がん治療に関する基礎事項について、緩和医療を交えて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
11	抗がん薬(2)	抗がん薬各論について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
12	生殖系に作用する薬物	女性ホルモン関連製剤などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
13	物質代謝に作用する薬物	糖尿病治療薬、骨粗しょう症治療薬などについて講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
14	抗感染症薬	感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、感染症治療に関する問題点について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
15	救急の際に使用される薬物、漢方薬、消毒薬	救急に用いられる薬物、急性中毒に対する薬物、漢方医学の基礎知識について概説する。また、消毒薬について講義する。	教科書の該当範囲の予習・復習																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、疾病・治療論Ⅰ、Ⅱ、薬理学総論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3</td> <td>吉岡充弘、泉 剛、井関 健</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3	吉岡充弘、泉 剛、井関 健	医学書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学</td> <td>古川裕之</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち 2 臨床薬理学	古川裕之	メディカ出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験、小テスト、出席率等を加味し、100点満点の60点以上で合格とする。																																																																		
学生への	私達が日常の生活で利用している薬剤から関心を持つと楽しく授業を受けられると思います。臨床で薬剤師と意見交換が出来るよう薬物に関する																																																																		

メッセージ	基礎的な知識を身につけましょう。質問は遠慮せず来てください。
担当者の研究室等	1号館7階 奈邊教授室
備考	薬理学総論と同じ教科書を使用します。

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	X
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 小森 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	計数調剤・軟膏剤調剤の基本を実践する 前半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	計数調剤・軟膏剤調剤の基本を実践する 後半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	水剤・散剤 調剤の基本の実践 前半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	水剤・散剤 調剤の基本の実践 後半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤混合調剤の実践・調剤薬の監査 前半	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
10	注射剤混合調剤の実践・調剤薬の監査 後半	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	医薬品の管理方法の基本を理解する	講義（小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	抗がん剤・消毒剤の基本的な調剤を実践する	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会）前半	演習（菊田・小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会）後半	演習（菊田・小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	プレファーマシー実習
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	受講態度（70%）および成果物（30%）で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。
----------	---

学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	6号館3階 医療薬学研究室
----------	---------------

備考	講義前の予習（教科書を読む）：1時間×13回 復習および課題に関連する情報の収集：1時間×13回
----	---

科目名	病院薬学演習	科目名(英文)	Practice in Hospital Pharmacy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菊田 真徳, 小森 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	チーム医療を担える看護師になるために、模擬処方せんを用いて調剤や服薬指導を実践する中で、病院内で薬剤を取り扱う際の注意点や薬剤に関わる基本的な実務を理解する。
到達目標	チーム医療を担える看護師になるために、演習を通して薬剤に関わる基本的な実務を理解し、薬剤に関する基本的な知識、技能を修得する。
授業方法と留意点	週替わりで講義（7号館にて実施）と演習（6号館にて実施）を行うので実施場所や準備に留意すること。
科目学習の効果（資格）	チーム医療に貢献できる看護師を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	処方せんの読み方を理解する	講義（小森）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
2	調剤の基本（計数調剤・散剤・水剤・軟膏剤）を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
3	計数調剤・軟膏剤調剤の基本を実践する 前半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
4	計数調剤・軟膏剤調剤の基本を実践する 後半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
5	水剤・散剤 調剤の基本の実践 前半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
6	水剤・散剤 調剤の基本の実践 後半	演習（菊田・小森） （6号館2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
7	基本的な処方箋の意図を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
8	注射剤調剤（混注）の基本を理解する	講義（菊田）	講義（授業）内容を復習し、実際に行う演習に備えてください。
9	注射剤混合調剤の実践・調剤薬の監査 前半	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
10	注射剤混合調剤の実践・調剤薬の監査 後半	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
11	医薬品の管理方法の基本を理解する	講義（小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。
12	注射剤の基本的な計算が出来る	講義（菊田）	演習で行った内容を復習しておいてください。
13	抗がん剤・消毒剤の基本的な調剤を実践する	演習（菊田・小森） （6号館1階 無菌調剤実習室・2階 調剤実習室）	演習で行った内容を復習しておいてください。
14	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会）前半	演習（菊田・小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。
15	医薬品情報提供書の作成の基本を理解し、服薬指導を実践する（発表会）後半	演習（菊田・小森）	演習で行った内容を復習しておいてください。

関連科目	プレファーマシー実習
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	受講態度（70%）および成果物（30%）で総合的に評価する。但し、受講態度が不良な場合には減点することがある。 100点満点中60点以上で合格。
学生へのメッセージ	薬剤に関わる基本的な実務を理解してもらいます。医薬品の一般名称など初めて目にする知識もあるとは思いますが、医薬品をさわらない看護師はいませんのでしっかり取り組んでください。
担当者の研究室等	6号館3階 医療薬学研究室
備考	講義前の予習（教科書を読む）：1時間×13回 復習および課題に関連する情報の収集：1時間×13回

科目名	カウンセリング論	科目名(英文)	Counseling
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮川 貴美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	臨床現場で役に立つカウンセリングの基礎理論と技法を学び、援助的なコミュニケーションとは何かを考える力を育てることを目的とする。ここではカウンセリングの基本となる「きくこと」の援助的な意味を学び、カウンセリングの対話と日常的対話の違いを理解することを目指すものである。これら講義による知的理解に加えて、「聴く・聴いてもらう」「聴く・語る」という自らの体験実習と、さまざまな映像資料を通して、援助的な対話のあり方とは何か、カウンセリングの基本的要素である「傾聴」を学び、カウンセリングについての理解を深めていく。
到達目標	カウンセリングの基礎を学ぶとともに、対象者に寄り添い、傾聴する構えを習得することができる。

授業方法と留意点	<p>授業はプリントを使用して講義形式により行うとともに、補助的に映像資料を用いたり、さまざまな実習(実習1～実習8)を行う予定である。講義による知的理解に加えて、これらの実習を通して受講生それぞれの体験的理解を目指している。実習では、ペアやグループでの作業が多くなるので、受講生の主体的な参加が求められる。また実習の体験をもとにレポートが課されるので、欠席・遅刻をするとレポートの作成ができないだけでなく他のメンバーへも迷惑をかけることになる。したがって、やむをえない場合を除き、原則として欠席・遅刻は認めない。</p> <p>授業中に数回、宿題レポートを提出してもらう予定である。レポートの提出期限については、指定の日時を厳守すること。期日を過ぎたものについては、いかなる理由であっても受け付けない(ただし学校感染症などによる欠席の場合は、公的な証明書類の提出をもって考慮する)。</p> <p>毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを自由にまとめる「コメントカード」を提出してもらい、書かれた内容について次回の授業の中で、教員から全体へ向けてのフィードバックを行う。この「コメントカード」の提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とするともに、学生と教員との双方向コミュニケーションをめざすものである。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	看護の現場で役に立つカウンセリングの態度と技法を学ぶことができる。
-------------	-----------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: カウンセリングとは	・授業のねらいと授業概要の概説。 ・カウンセリングとは何かを考えるきっかけをつくる(実習1)	授業内容をふりかえって、次回の授業に備えましょう。
2	心理療法の歴史	心理療法の歴史と理論を概観する。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
3	心理療法とカウンセリング	・心理臨床における心理療法とカウンセリング ・心理療法の構造	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
4	対人援助の方法としてのカウンセリング	・対人援助としてのカウンセリングの意味 ・援助的なコミュニケーションとは何か(実習2)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
5	カウンセリングにおける応答のあり方	・カウンセリング場面の実際を知る ・援助的な応答とは何かを考えるきっかけを作る(実習3)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
6	カウンセリングにおける援助の技法	・カウンセリングの方法論 ・カウンセリングの目的 ・基本的なカウンセリング技法 ・共感とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
7	クライアント中心療法	C.R. ロジャーズの理論を学ぶ	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
8	カウンセリングの実際	映像資料を通して、カウンセリングの理論と技法の理解を深める。	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
9	援助的なコミュニケーションとは	コミュニケーション実習(実習4、実習5、実習6)を通して、カウンセリングについて体験的に理解する。	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
10	「聴く」ことを考える	・自分の聴き方の特徴に気づく ・傾聴の意義について考える(実習7)	講義内容を整理するとともに、実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
11	カウンセリングにおけるラポールと転移・逆転移	・ラポールとは ・転移・逆転移とは	授業内容を整理して、理解を深めましょう。
12	カウンセリングのロールプレイ	クライアント役とカウンセラー役を体験してみる(実習8)。	実習を通して感じたこと、気付いたこと、考えたことをまとめておきましょう。
13	カウンセリングの実際	資料映像を通して、終末期にある人に対する援助的なコミュニケーションのあり方を考える。	終末期を生きるということの意味を考えてみましょう。
14	看護師のメンタルヘルス	・メンタルヘルスとは何か ・ストレスコーピング ・看護師のメンタルヘルスの必要性	自分のメンタルヘルスについて考えてみましょう。
15	まとめ	授業全体をふりかえる	授業全体をふりかえって整理し、期末試験に備えましょう。

関連科目	臨床心理学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>期末試験の成績（60％）とレポートの評価および授業への積極的関与度（40％）をもって、総合的に評価する。                  上記の「授業方法と留意点」にあるように、ほぼ毎回の授業の最後には「コメントカード」の提出があり、このコメントカードの記述内容により授業への積極的関与の程度を判断する。</p>
学生への メッセージ	<p>カウンセリング論は実践の学である。したがって知的な理解だけでは臨床の現場では役に立たないとの観点から、この授業では講義による知的理解に加えて、さまざまな実習が用意されている。実習に対しては主体的に参加することが求められている。また受講生諸君には、この授業を通して看護師としての対人援助のあり方について考える機会としてほしい。</p>
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	臨床心理学	科目名(英文)	Clinical Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮川 貴美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	臨床心理学は、心の病(症状・問題行動・病的体験)を抱える人に対する援助、その改善・解決を考える実践の学である。本講義では、心の病とは何か、そして心の病を抱える人をどのように援助するかを学び、理解する。他者援助のあり方を考える上で役に立つ臨床心理学の基礎的理論を学習する。これら臨床心理学的知見から、人が人を深く理解するという意味を考える。 講義は主として以下の3つの柱で構成される。 ① 臨床心理学が対象とする心の諸問題と、これらをめぐる現代のトピックスを取り上げる。 ② 心理アセスメントの意義と方法およびその実際を学ぶ。 ③ 心理臨床の実践として様々な心理療法を紹介する。
---------	--

到達目標	この授業の到達目標は以下の4点である。 ① 臨床心理学の基礎を理解することができる。 ② 臨床心理学が対象とするさまざまな心の問題を学ぶことができる。 ③ 心理アセスメントの基本を学び、理解することができる。 ④ 心理療法の基本を学び、さまざまな心理療法の理論と実際を知ることができる
------	--

授業方法と留意点	授業はプリントを使用して主に講義形式により行う。補助的に映像資料を用いたり、簡単な実習的要素も取り入れて講義内容の理解を深める。  授業中に数回、レポートを提出してもらう予定である。レポートの提出期限については、指定の日時を厳守すること。期日を過ぎたものについては、いかなる理由であっても受け付けない(ただし学校感染症などによる欠席の場合は、公的な証明書類の提出をもって考慮する)。  毎回、授業の最後に講義を受けて気づいたこと、感じたこと、考えたこと、疑問に思うこと、講師への質問などを自由にまとめる「コメントカード」を提出してもらい、書かれた内容について次回の授業の中で、教員から全体へ向けてのフィードバックを行う。この「コメントカード」の提出は「授業への積極的関与度」をはかる指標とするともに、学生と教員との双方向コミュニケーションをめざすものである。
----------	---

科目学習の効果(資格)	臨床心理学的知見をもとに、看護の現場で役に立つ「人を深く理解する」構えを養い、心理的問題を抱える対象者とその家族に対するよりよい援助を考えることができる。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	臨床心理学とは何か	・「心が病む」ということ ・臨床心理学の歴史	「悩む」と「心が病む」ということについて考えてみましょう。
3	心をめぐる諸理論—フロイト、ユングの考え方	・心の構造、無意識について ・精神分析 ・分析心理学	フロイトとユングの考え方の違いを理解しましょう。
4	臨床心理学が対象とする心の問題と現代のトピックス<1>	・精神病レベル ・事例紹介	授業の内容を整理して、心の問題への理解を深めましょう。
5	臨床心理学が対象とする心の問題と現代のトピックス<2>神経症レベル	・神経症レベル ・事例紹介	授業の内容を整理して、心の問題への理解を深めましょう。
6	臨床心理学が対象とする心の問題と現代のトピックス<3>発達障害	・発達障害とは：特徴と分類 ・発達障害を抱えて生きること ・発達障害を抱える人とその家族への援助のありかた	授業の内容を整理して、心の問題への理解を深めましょう。
7	臨床心理学が対象とする心の問題と現代のトピックス<4>社会的問題行動とライフサイクルをめぐる問題	・不登校、スチューデントアパシーなど ・人格障害 ・その他：ライフサイクルをめぐる問題	授業の内容を整理して、心の問題への理解を深めましょう。
8	心理アセスメントと心理テスト	・心理アセスメントの分類(観察法、面接法、質問紙法、投映法) ・心理テストの実施にあたって ・倫理的問題	授業の内容を整理して、心理アセスメントについての理解を深めましょう。
9	心理アセスメントの実際	・バウムテスト ・HTP ・風景構成法 ・事例紹介	4Bの黒鉛筆、黒のサインペン、色鉛筆を準備、持参してください。
10	カウンセリングと心理療法	臨床心理学的援助のプロセスを学ぶ	援助的な応答について、考えてみましょう。
11	心理療法の理論と実際<1>来談者中心療法、論理療法、ゲシュタルト療法	・心理療法の理論を学ぶ。	授業の内容を整理して、理解を深めましょう。
12	心理療法の理論と実際<2>行動療法と認知行動療法	・心理療法の理論を学ぶ。	授業の内容を整理して、理解を深めましょう。
13	心理療法の理論と実際<3>さまざまな表現療法	・箱庭療法の基本を学ぶ ・さまざまな表現療法の紹介	授業の内容を整理して、理解を深めましょう。
14	心理療法の理論と実践<4>箱庭療法の実際	・映像資料を使って考える	授業の内容を整理して、理解を深めましょう。
15	おわりに～まとめ	授業全体をふりかえる	授業全体をふりかえて整理し、期末試験に備えましょう。

関連科目	カウンセリング論、家族関係論
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>期末試験の成績（70%）とレポートの評価および授業への積極的関与度（30%）をもって、総合的に評価する。          上記の「授業方法と留意点」にあるように、毎回の授業の最後には「コメントカード」の提出があり、この記述内容で授業への積極的関与の程度を判断する。</p>			
学生への メッセージ	<p>臨床心理学が対象とする「心をめぐる諸現象（問題・症状）」に対して関心を持って授業に臨むとともに、関連図書にも積極的に触れておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	<p>1号館2階 非常勤講師室</p>			
備考				

科目名	疾病・治療論Ⅰ	科目名(英文)	Clinical Medicine I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小崎 篤志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に呼吸器および循環器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は2年前期の疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾病・治療論(呼吸器2)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸機能検査などについて学習する	教科書内授業部分の予習・復習
3	疾病・治療論(呼吸器3)	講義にて呼吸器疾患、主に呼吸器感染症などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
4	疾病・治療論(呼吸器4)	講義にて呼吸器疾患、主に免疫・アレルギー性肺炎および間質性肺炎の原因、原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
5	疾病・治療論(呼吸器5)	講義にて呼吸器疾患、主に閉塞性肺疾患などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
6	疾病・治療論(呼吸器6)	講義にて呼吸器疾患、主に肺腫瘍の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
7	疾病・治療論(呼吸器7)	講義にて呼吸器疾患、主に肺循環異常・換気障害などの原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
8	疾病・治療論(循環器1)	講義にて循環器疾患、主に循環器の解剖生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
9	疾病・治療論(循環器2)	講義にて循環器疾患、主に心不全の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
10	疾病・治療論(循環器3)	講義にて循環器疾患、主に虚血性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
11	疾病・治療論(循環器4)	講義にて循環器疾患、主に不整脈疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
12	疾病・治療論(循環器5)	講義にて循環器疾患、主に先天性心疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
13	疾病・治療論(循環器6)	講義にて循環器疾患、主に心臓弁膜症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
14	疾病・治療論(循環器7)	講義にて循環器疾患、主に心筋・心膜疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習
15	疾病・治療論(循環器8)	講義にて循環器疾患、主に血管疾患および高血圧疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する	教科書内授業部分の予習・復習

関連科目 病理学総論、疾病治療論Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.4 呼吸器		メディックメディア
	2	病気がみえる vol.2 循環器		メディックメディア
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出题する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。

(基準)	定期試験 (90%)、講義での授業態度など (10%) で最終評価する。
学生へのメッセージ	授業には指定教科書を持参して下さい。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疾病・治療論Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Medicine II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小崎 篤志
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護において、身体の構造や機能のメカニズム、それらの障害である疾病を理解する事は重要である。本科目は、医学的対応が必要となる成人各期に起り得る疾病を身体の系統臓器別に取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。
到達目標	本科目では、主に血液・膠原病・腎および泌尿器疾患に関して講義を行い、これらの基礎知識を修得し、各疾患の患者への的確な観察や看護援助さらには充実した生活を送るための支援が行えるように理解を深める。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。教科書を中心に液晶プロジェクターを用いて授業を進めるが、その中には初めて目にするような専門用語が多く含まれており、その意味を正確に理解させるには生物学・医化学などのバックグラウンドが必要となる。授業では、新しい単語の説明や分かりにくい点を板書で説明しながら内容を補足しながら進めて行く。学生の習熟度により、授業の進行スピードの変更並びに、プリント、模型やビデオなどを併用した授業方法も考慮する。
科目学習の効果(資格)	本講義は1年後期の病理学総論、疾病治療論Ⅱとともに各疾患の知識を修得する事により、患者への的確な看護支援が行える基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	疾病・治療論(麻酔学)	講義で配布するプリントにて、麻酔学について学習する	配布プリントの復習
2	疾病・治療論(血液1)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
3	疾病・治療論(血液2)	講義にて血液疾患、主に赤血球系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
4	疾病・治療論(血液3)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
5	疾病・治療論(血液4)	講義にて血液疾患、主に白血球・血液凝固系疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
6	疾病・治療論(免疫・膠原病1)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
7	疾病・治療論(免疫・膠原病2)	講義にて免疫・膠原病疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
8	疾病・治療論(感染症1)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
9	疾病・治療論(感染症2)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
10	疾病・治療論(感染症3)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(3)	教科書内授業部分の予習・復習
11	疾病・治療論(感染症4)	講義にて感染症疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(4)	教科書内授業部分の予習・復習
12	疾病・治療論(腎泌尿器1)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
13	疾病・治療論(腎泌尿器2)	講義にて腎泌尿器疾患、主に腎疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習
14	疾病・治療論(腎泌尿器3)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(1)	教科書内授業部分の予習・復習
15	疾病・治療論(腎泌尿器4)	講義にて腎泌尿器疾患、主に泌尿器疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する(2)	教科書内授業部分の予習・復習

関連科目	病理学総論、疾病治療論Ⅱ
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	病気がみえる vol.5 血液		メディックメディア
2	病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		メディックメディア	
3	病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		メディックメディア	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	合否判定は定期試験を中心に総合判定する。試験には主に客観問題を出题する。講義中の授業態度などを評価の一部とする。定期試験(90%)、講義での授業態度など(10%)で最終評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	第2回以降、講義には指定教科書を持参して下さい。
担当者の研究室等	7号館3階 研究室23
備考	病理学総論、疾病治療論Ⅰ、疾病治療論Ⅱで同じシリーズの教科書を使用します。

科目名	疫学・保健統計	科目名(英文)	Epidemiology and Health Statistics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	集団の健康を扱い、人々の健康の維持・増進、そして疾病予防を目指す公衆衛生では、集団の健康や疾病発生に関連する情報の入手とその解析が不可欠である。そうした情報は将来を見通し適切な対策を立てる上でも欠かせない。本講義では、集団の健康や疾病の分布とその関連要因を明らかにする疫学について講義し、その基本的考え方及び方法について学ぶ。また、疫学で用いられる統計とその基礎について学び、日本人の健康を表す人口・出生・死亡に関わる保健統計の理解も深める。																																																																		
到達目標	疫学および保健統計を含む統計学の基本を学び、疾病予防の背景にある科学的な根拠およびその意味が理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>疫学の概要</td> <td>疫学の考え方、歴史</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学指標</td> <td>割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>観察研究</td> <td>疫学研究デザイン(1)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>介入研究</td> <td>疫学研究デザイン(2)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>バイアスと交絡</td> <td>偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>スクリーニング</td> <td>検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>疫学研究と倫理</td> <td>医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>統計の基本</td> <td>データの種類、度数分布、ヒストグラム</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>記述統計(1)</td> <td>保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>記述統計(2)</td> <td>代表値、散布度、相関</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>確率分布(1)</td> <td>正規分布、標準正規分布</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>確率分布(2)</td> <td>その他の確率分布</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>母集団の推定</td> <td>母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>仮説の検定(1)</td> <td>平均値の差の検定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>仮説の検定(2)</td> <td>割合の差の検定</td> <td>授業をよく聞き、考えること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	授業をよく聞き、考えること	2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	授業をよく聞き、考えること	3	観察研究	疫学研究デザイン(1)	授業をよく聞き、考えること	4	介入研究	疫学研究デザイン(2)	授業をよく聞き、考えること	5	バイアスと交絡	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整	授業をよく聞き、考えること	6	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	授業をよく聞き、考えること	7	疫学研究と倫理	医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針	授業をよく聞き、考えること	8	統計の基本	データの種類、度数分布、ヒストグラム	授業をよく聞き、考えること	9	記述統計(1)	保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)	授業をよく聞き、考えること	10	記述統計(2)	代表値、散布度、相関	授業をよく聞き、考えること	11	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布	授業をよく聞き、考えること	12	確率分布(2)	その他の確率分布	授業をよく聞き、考えること	13	母集団の推定	母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定	授業をよく聞き、考えること	14	仮説の検定(1)	平均値の差の検定	授業をよく聞き、考えること	15	仮説の検定(2)	割合の差の検定	授業をよく聞き、考えること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	疫学の概要	疫学の考え方、歴史	授業をよく聞き、考えること																																																																
2	疫学指標	割合、比、率、罹患率、有病率、相対リスク、寄与リスク	授業をよく聞き、考えること																																																																
3	観察研究	疫学研究デザイン(1)	授業をよく聞き、考えること																																																																
4	介入研究	疫学研究デザイン(2)	授業をよく聞き、考えること																																																																
5	バイアスと交絡	偶然誤差、系統誤差、精度、妥当性、交絡、交絡の調整	授業をよく聞き、考えること																																																																
6	スクリーニング	検査、感度、特異度、カットオフポイント、ROC曲線	授業をよく聞き、考えること																																																																
7	疫学研究と倫理	医学研究と倫理の歴史、日本の薬害の歴史、研究倫理に関する日本法令・指針	授業をよく聞き、考えること																																																																
8	統計の基本	データの種類、度数分布、ヒストグラム	授業をよく聞き、考えること																																																																
9	記述統計(1)	保健統計(人口、出生、死亡、様々な統計調査)	授業をよく聞き、考えること																																																																
10	記述統計(2)	代表値、散布度、相関	授業をよく聞き、考えること																																																																
11	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布	授業をよく聞き、考えること																																																																
12	確率分布(2)	その他の確率分布	授業をよく聞き、考えること																																																																
13	母集団の推定	母集団の推定、推定と検定、点推定、区間推定	授業をよく聞き、考えること																																																																
14	仮説の検定(1)	平均値の差の検定	授業をよく聞き、考えること																																																																
15	仮説の検定(2)	割合の差の検定	授業をよく聞き、考えること																																																																
関連科目	情報リテラシーⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～</td> <td>日本疫学会</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待～	日本疫学会	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために</td> <td>片平 潤彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平 潤彦	桐書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、疫学・保健統計を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁</li> <li>・授業中に出てきたとき教室にいなかった場合は欠席扱い</li> </ul>																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	保健医療福祉行政論	科目名(英文)	Health and Welfare Administration
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	日本の公衆衛生を向上させ、国民の健康を守ってきたのが保健医療福祉行政とその制度である。本講義ではこうした保健医療福祉行政とその制度や仕組みについて学ぶ。また、保健、医療、福祉が連携して展開されている現状について講義する。																																																																		
到達目標	保健医療福祉行政とその制度・仕組みについて理解するとともに、制度ごとの関係や違いについても説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と事例検討を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>保健医療福祉行政の概要と変遷</td><td>社会保障の仕組み・機能・歴史</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>医療保険(1)</td><td>成り立ちと仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>医療保険(2)</td><td>保険料と給付</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>医療保険(3)</td><td>高齢者医療制度</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>医療保険(4)</td><td>国民医療費</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>生活保護(1)</td><td>成り立ちと仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>生活保護(2)</td><td>給付の要件と保護基準</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>生活保護(3)</td><td>事例学習</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td>社会福祉(1)</td><td>成り立ちと仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>10</td><td>社会福祉(2)</td><td>給付と社会手当</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>11</td><td>社会福祉(3)</td><td>事例学習</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>12</td><td>介護保険(1)</td><td>成り立ちと仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>13</td><td>介護保険(2)</td><td>保険料、給付とサービス提供体制</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>14</td><td>年金(1)</td><td>成り立ちと仕組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>15</td><td>年金(2)</td><td>財政方式</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	保健医療福祉行政の概要と変遷	社会保障の仕組み・機能・歴史	最新ニュースに留意	2	医療保険(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意	3	医療保険(2)	保険料と給付	最新ニュースに留意	4	医療保険(3)	高齢者医療制度	最新ニュースに留意	5	医療保険(4)	国民医療費	最新ニュースに留意	6	生活保護(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意	7	生活保護(2)	給付の要件と保護基準	最新ニュースに留意	8	生活保護(3)	事例学習	最新ニュースに留意	9	社会福祉(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意	10	社会福祉(2)	給付と社会手当	最新ニュースに留意	11	社会福祉(3)	事例学習	最新ニュースに留意	12	介護保険(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意	13	介護保険(2)	保険料、給付とサービス提供体制	最新ニュースに留意	14	年金(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意	15	年金(2)	財政方式	最新ニュースに留意
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	保健医療福祉行政の概要と変遷	社会保障の仕組み・機能・歴史	最新ニュースに留意																																																																
2	医療保険(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意																																																																
3	医療保険(2)	保険料と給付	最新ニュースに留意																																																																
4	医療保険(3)	高齢者医療制度	最新ニュースに留意																																																																
5	医療保険(4)	国民医療費	最新ニュースに留意																																																																
6	生活保護(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意																																																																
7	生活保護(2)	給付の要件と保護基準	最新ニュースに留意																																																																
8	生活保護(3)	事例学習	最新ニュースに留意																																																																
9	社会福祉(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意																																																																
10	社会福祉(2)	給付と社会手当	最新ニュースに留意																																																																
11	社会福祉(3)	事例学習	最新ニュースに留意																																																																
12	介護保険(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意																																																																
13	介護保険(2)	保険料、給付とサービス提供体制	最新ニュースに留意																																																																
14	年金(1)	成り立ちと仕組み	最新ニュースに留意																																																																
15	年金(2)	財政方式	最新ニュースに留意																																																																
関連科目	地域看護学、公衆衛生学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)</td> <td>増田 雅暢 平野 かよ子 島田 美喜</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田 雅暢 平野 かよ子 島田 美喜	メディカ出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	社会福祉と社会保障 (ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障)	増田 雅暢 平野 かよ子 島田 美喜	メディカ出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、保健医療福祉行政論を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁</li> <li>・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い</li> </ul>																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	公衆衛生学	科目名(英文)	Introduction to Public Health
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	産業が発達して都市に人口が集中し始めた 18 世紀に、人々の健康を集団の健康問題として対処すべき必要性から生まれた。そこでは個人ではなく集団や社会を対象とした健康問題の把握・対処方法がとられ、領域も環境、地域、産業、学校など多岐にわたる。本講義では、公衆衛生の歴史、日本人の健康問題の変化と現状、及び各領域の公衆衛生について取り上げる。また、社会の変化に伴って、現在の公衆衛生制度が抱える課題について考察する。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公衆衛生とは</td><td>公衆衛生の歴史と概要</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>保健統計</td><td>健康指標と人口統計</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>疫学</td><td>集団の疾病をとらえる</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>疾病予防と健康管理</td><td>予防医学の考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>感染症と予防</td><td>感染症の疫学と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>慢性疾患と予防</td><td>慢性疾患の疫学と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>環境保健</td><td>環境が健康に及ぼす影響</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>地域保健</td><td>地域保健のしくみ</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td>母子保健</td><td>母子保健の現状と課題</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>10</td><td>学校保健</td><td>子どもの健康と学校保健</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>11</td><td>産業保健</td><td>勤労者の労働災害と健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>12</td><td>高齢者の健康と福祉</td><td>高齢期の健康と福祉</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>13</td><td>精神保健</td><td>精神障害の現状と保健福祉</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>14</td><td>保健医療制度</td><td>日本の保健医療制度と法規</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>15</td><td>国際保健</td><td>世界の健康・日本の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意	2	保健統計	健康指標と人口統計	最新ニュースに留意	3	疫学	集団の疾病をとらえる	最新ニュースに留意	4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	最新ニュースに留意	5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	最新ニュースに留意	6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	最新ニュースに留意	7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意	8	地域保健	地域保健のしくみ	最新ニュースに留意	9	母子保健	母子保健の現状と課題	最新ニュースに留意	10	学校保健	子どもの健康と学校保健	最新ニュースに留意	11	産業保健	勤労者の労働災害と健康	最新ニュースに留意	12	高齢者の健康と福祉	高齢期の健康と福祉	最新ニュースに留意	13	精神保健	精神障害の現状と保健福祉	最新ニュースに留意	14	保健医療制度	日本の保健医療制度と法規	最新ニュースに留意	15	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意																																																																
2	保健統計	健康指標と人口統計	最新ニュースに留意																																																																
3	疫学	集団の疾病をとらえる	最新ニュースに留意																																																																
4	疾病予防と健康管理	予防医学の考え方	最新ニュースに留意																																																																
5	感染症と予防	感染症の疫学と予防	最新ニュースに留意																																																																
6	慢性疾患と予防	慢性疾患の疫学と予防	最新ニュースに留意																																																																
7	環境保健	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意																																																																
8	地域保健	地域保健のしくみ	最新ニュースに留意																																																																
9	母子保健	母子保健の現状と課題	最新ニュースに留意																																																																
10	学校保健	子どもの健康と学校保健	最新ニュースに留意																																																																
11	産業保健	勤労者の労働災害と健康	最新ニュースに留意																																																																
12	高齢者の健康と福祉	高齢期の健康と福祉	最新ニュースに留意																																																																
13	精神保健	精神障害の現状と保健福祉	最新ニュースに留意																																																																
14	保健医療制度	日本の保健医療制度と法規	最新ニュースに留意																																																																
15	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意																																																																
関連科目	疫学・保健統計、保健医療福祉行政論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>シンプル衛生公衆衛生学 2015</td><td>鈴木 庄亮</td><td>南江堂</td></tr> <tr><td>2</td><td>国民衛生の動向 2015/2016</td><td>厚生労働統計協会</td><td>厚生労働統計協会</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2015	鈴木 庄亮	南江堂	2	国民衛生の動向 2015/2016	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2015	鈴木 庄亮	南江堂																																																																
2	国民衛生の動向 2015/2016	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけではわかりにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁</li> <li>・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い。</li> </ul>																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	家族関係論	科目名(英文)	Family Relationship
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	南野 美穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目ではまず、個人の対人関係の持ち方と、ライフサイクルの中でのその発達を学ぶ。つぎに、社会の中で家族の機能がどのように変遷してきたかを概観し、現代の社会、家族、個人の関係について、講義とディスカッションを通して多角的に理解を深めていく。また、何らかの困難をもつ個人の家族を対象とした具体的な介入方法についても実践的に身につける。これらを通じて、対人援助の対象である個人と、個人の背景としての家族をアセスメントし、適切に介入する力の基礎を養成する。
到達目標	家族は患者の治癒への意志、QOLと関係する。現場では様々な家族に出会うことが予測される。客観的に家族関係を捉える視点を持つことは的確な看護につながる。そのための知識を得ることができる。
授業方法と留意点	講義を中心とし、時々グループディスカッションを取り入れる予定である。教科書使用。その他、特別に必要なものがあれば授業中に伝える。質問時間は授業中に設ける。
科目学習の効果(資格)	援助専門職として、患者、患者の家族に関わる際の心理的援助の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	家族を考える	オリエンテーション。各自が持つ家族イメージを言語化し、ディスカッションを通して家族について考える。	事前学習：なし 事後学習：ディスカッション内容の整理
2	対人関係の生涯発達(1) 乳児期	家族の中で生まれる対人関係の基礎的構えについて学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
3	対人関係の生涯発達(2) 幼児期以降	いくつかの発達論を概観し、生涯にわたる対人関係の課題と発達を学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
4	家族の概念	教科書第1章を中心に、日本における家族の概念を学ぶ。	事前学習：教科書第1章の通読 事後学習：講義内容の整理
5	現代の家族	教科書第4章を中心に、現代の家族の多様化と単一化について学ぶ。	事前学習：教科書第4章の通読 事後学習：講義内容の整理
6	夫婦関係	教科書第2章を中心に、婚姻、夫役割、妻役割、また、子育ての様相について学ぶ。	事前学習：教科書第2章の通読 事後学習：講義内容の整理
7	親子関係	教科書第3章を中心に、親子関係の諸相、親役割、祖父母役割について学ぶ。	事前学習：教科書第3章の通読 事後学習：講義内容の整理・第1回～6回の学習をふまえた小レポート
8	関係に困難を抱える子どもたち	発達障害を持つ子どもの特性を学び、関係発達に困難を持つ子どもを育てる場合の家族形成を考える。	事前学習：なし 事後学習：なし
9	ペアレント・トレーニング	ADHD の子どもをもつ親への具体的援助法を学ぶ。	事前学習：第8回の授業時に配布する 事後学習：授業時に伝える
10	臨床心理学的家族理解(1) 家族機能	家族のもつ機能について、心理面から理解する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
11	臨床心理学的家族理解(2) 親子	家族の機能不全と児童虐待について学ぶ。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
12	臨床心理学的家族理解(3) 夫婦・兄弟・高齢者と家族	家族の機能不全と、個人の問題との関係を理解する。	事前学習：なし 事後学習：講義内容の整理
13	患者の家族の心理(1)	フィクションを題材とし、患者の家族の心理について考えていく。	事前学習：なし 事後学習：授業で扱ったテーマについて考察する
14	患者の家族の心理(2)	フィクションを題材とし、患者の家族への支援について考えていく。	事前学習：第13回の内容を整理しておく 事後学習：授業中に指示する
15	対人援助職の家族支援	家族を支援する具体的方法のいくつかを概観する。	事前学習：教科書第6章の通読 事後学習：講義内容の整理

関連科目	臨床心理学 カウンセリング論
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 基礎分野 家族論・家族関係論	岡堂哲雄 編集	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間レポート(10%)、授業中の課題提出(30%)、定期試験(60%)を目安として総合評価する。
学生へのメッセージ	知識をもとに考えることを大切にしていきたいと思います。積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	医療経済論	科目名(英文)	Healthcare Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療における課題を経済学的に考察し、医療サービスの供給体制、制度及び医療機関の経営問題に関わる考察を行い、看護職に求められる経済学的視点を修得する。</li> <li>看護職となるに当たって保健・医療・福祉における経済面・経営面に関する社会常識としての知識を修得する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>診療報酬制度として収入が規定されており、一般の企業における売上とは異なる収入体系とその制度の必要性について認識・理解した上で適正なコスト意識と業務改善意識を持って看護業務に従事できることを目標とする。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職に求められる経済学視点について講義する。診療報酬制度に基づく報酬の支払いを中心に経済学による需要と供給の価格決定プロセスを比較しながら考察する。</li> <li>医療における財・サービスの交換システムの特殊性に焦点を置きながら、多くの看護職が勤務する病院での現状と課題について講義する。</li> <li>後半は、看護職の管理的立場において求められる考え方について講義する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護専門職の科目だけでなく、就職・勤務にむけた経済社会の財・サービス交換活動への経済学的思考の修得を目的とする。</li> <li>経済理論だけでなく実際の組織において必要とされる看護職の今後の課題に対する政策構築に関する考察についても考慮したい。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	経済学からみた看護サービス	経済活動と医療経済との違いについて講義する。	第I章
2	社会経済環境の変化と看護師雇用の現状	変化に伴う看護師の環境と雇用関係について講義する。	第II章
3	診療報酬制度がもたらす影響1	看護師が他職種の業務を担うメカニズムについて講義する。	第III章
4	診療報酬制度がもたらす影響2	看護師の技能評価を妨げるメカニズムについて講義する。	第IV章
5	看護師の労働供給	看護師の労働力提供の体系について説明する。その主な原因である結婚と出産・育児について講義する。	第V章
6	看護師の労働需要と市場構造	労働市場における搾取と労働力不足について講義する。	第VI章
7	人的資本論から検証する労働条件格差	看護師間で生じている賃金格差の状況を確認した上で、その格差を、教育やトレーニングにより養成される技能の差異をもって説明する「人的資産」の視点から講義する。	第VII章
8	市場の階層性が生み出す賃金格差	日本における看護師の労働市場構造において、人的投資の機会費用をはじめとして看護師の賃金を決める要因は何か、看護師の賃金決定メカニズムについて講義する。	第VIII章
9	職務価値からみた賃金格差	賃金格差を説明するもう1つの分析視角、「職務価値」と看護師の賃金との関係について講義する。	第IX章
10	看護師の雇用政策とインパクト	看護師の労働市場にどのような影響を及ぼしそして雇用にどう影響を与えたのかについて講義する。	第X章
11	よりよい看護を実現するために	看護師の働きが、そして技能が正当に評価され、消費者である患者に対してよりよい看護サービスを産生し、それをどのように提供していくかについて講義する。	第XI章
12	習熟度試験(予定)	講義時間内に論述形式での中間試験を行う。	これまでの配布資料、教科書のみ持込可。
13	看護管理職の備えるべき視点1	「看護部長の基本事務、変化への対応力、看護部長の組織管理、マネジメント技法への関心度、専門看護職と組織改革、看護部門の組織文化」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 2, 3, 4
14	看護管理職の備えるべき視点2	「変革期の人材マネジメント、看護政策対応力、院内看護政策力、情報マネジメント、コミュニケーション、看護業務の変化、苦情対応のマネジメント、組織フレームワークの再検討」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 9, 11, 12
15	看護管理職の備えるべき視点3	「コスト意識と金銭感覚、看護情報提供と看護連携、看護業務の電子化、病院統治力」について講義する。	「病院のDON Director Of Nursing」 Chapter 32, 34, 35

関連科目 労働経済学、ミクロ経済学、経営学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師の働き方を経済学から読み解く 看護のポリティカル・エコノミー	角田由佳	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	病院のDON 看護管理で病院がよみがえる	小林秀夫	医学書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職になるための科目の修得は、国家資格取得も含め必須である。しかし、卒業後、多くの看護職が勤務する病院や福祉施設の運営は、公的な補助があるものの経済学の考え方に基づいて運営されている。</li> <li>・少子高齢化社会の到来に向けて、これからの看護職は、社会的な知識(経済学等の社会科学科目)も必要とされる。本講義は、そのための基礎的な考え方の習得を目指す。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス1号館7階 田井准教授室(経済学部)			
備考	社会科学分野である経済学、経営学による分析内容について、看護職の視点から説明する。			

科目名	看護関係法規	科目名(英文)	Nursing-related Laws
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 悦子、小野 晃正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護職は保健医療福祉サービスに携わる多くの職種と連携し、対象となる人々の健康を回復・維持・増進する。</li> <li>チーム医療の中で看護職がどのような役割を担い、職務を遂行する必要があるのか理解するために、基盤となる保健師助産師看護師法をはじめ、保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令を学ぶ必要がある。</li> <li>看護職として職務を遂行するための根拠や判断基準が修得できるよう学ぶ。</li> </ul> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(齋藤悦子/10回)</p> <p>チーム医療の中で看護職としての職務を遂行するための法の理解。 保健師助産師看護師法の目的・定義・免許・資格・沿革などの理解。 看護職と連携・協働するために関与する他職種の法の理解。</p> <p>(小野晃正/5回)</p> <p>対象となる人々の健康の回復、保持、増進に関わる法の理解。 保健師助産師看護師法および周辺の医事法、薬事法、環境衛生法、社会保険法、労働法。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健師助産師看護師法の目的を説明できるようになる。</li> <li>「ヒヤリ・ハット」、「医療事故」および「医療過誤」の区別を理解する。</li> <li>医療従事者の行政責任、民事責任および刑事責任の内容を正しく理解する。</li> <li>看護関係法規を類型ごとに整理し、とくに、保健師助産師看護師法および周辺の医事法、薬事法、環境衛生法、社会保険法、労働法の重要事項を確実に理解する。</li> <li>国家試験の問題を確実に解けるようにする。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回～第5回までを法学部の小野が担当。</li> <li>質疑応答を加えつつ概ね講義形式で行う。</li> <li>必要に応じてレジュメを配布する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	看護師をする上で必須の衛生諸法規に関する知識が身につくとともに、国試で出題される関係法規の重要ポイントを理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法学の基礎①(法学一般と憲法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義概要の説明</li> <li>社会規範と法の強制力</li> <li>憲法25条2項と看護関係法規</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の入手</li> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
2	法学の基礎②(行政法、民法、刑事法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生行政と法</li> <li>保健所</li> <li>民事責任(債務不履行責任と不法行為責任)</li> <li>刑事責任(故意犯と過失犯)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
3	看護師の法的責任	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ヒヤリ＝ハット」</li> <li>医療事故と医療過誤</li> <li>秘密の漏示</li> <li>患者の人権</li> <li>患者の自己決定権</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
4	看護関係法規の概観1	<ul style="list-style-type: none"> <li>保助看法</li> <li>医事法、医療法</li> <li>業務に関する法律</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
5	看護関係法規の概観2	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生に関する法律</li> <li>医療と福祉に関する法律</li> <li>医療従事者と労働関係法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前：教科書該当箇所の精読</li> <li>事後：要点をノートに整理</li> </ul>
6	授業ガイダンス 衛生法	授業の目的・進め方・評価・国家試験出題基準 衛生法の分類 医療関係法令の推移	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
7	医療法規 看護法規の歴史	保健師助産師看護師法の成立経過 保健師助産師看護師法の一部改正	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
8	医療法規 看護と法	看護職に直接関係する法律 保健師助産師看護師法—目的・定義・免許・業務	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
9	医療法規 看護と法	看護師等の人材確保の促進に関する法律 基本方針—目的・定義・人材確保の促進・ナースセンター	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
10	医事法規 医師法・歯科医師法・医療法	医師法 任務・免許・臨床研修・業務 歯科医師法 任務・免許・臨床研修・業務 医療法 目的・定義・病院等の管理・病院、公的医療機関、医療法人等監督	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
11	医事法規 医療関係職種の資格法	診療放射線技師法 臨床検査技師に関する法律 理学療法士及び作業療法士法 言語聴覚士法 臨床工学技士法 救急救命士法	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる
12	看護職と介護職の協働	介護職の資格制度と教育 目的・定義・免許・業務	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる

				める																
	13	看護業務と法的責任	看護場面における法的責任 相対的医行為と看護業務 他の医療職種の仕事範囲と看護業務	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる																
	14	看護事故と看護師の法的責任	法的責任の種類 民事責任・刑事責任・行政責任	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる																
	15	法的責任を理解するためのキーワード 全体のふりかえりとまとめ	予見義務・回避義務・注意義務・過失・ 過失相殺・因果関係・不作為・医療水準・ 説明義務・逸失利益・看護師の裁量権	事前：講義終了時に次回の学習課題を提示する 事後：各回の講義内容を自己のノートに整理しまとめる																
関連科目	法学入門、日本国憲法、保健医療福祉行政論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座・看護関係法令-健康支援と社会保障制度[4]-</td> <td>森山 幹夫</td> <td>医学書院 (2,400円+税)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座・看護関係法令-健康支援と社会保障制度[4]-	森山 幹夫	医学書院 (2,400円+税)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	系統看護学講座・看護関係法令-健康支援と社会保障制度[4]-	森山 幹夫	医学書院 (2,400円+税)																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護師を目指す人のための関係法規</td> <td>森田=野畑/編著</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	看護師を目指す人のための関係法規	森田=野畑/編著	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	看護師を目指す人のための関係法規	森田=野畑/編著	法律文化社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験60%以上で合格 平常の小レポート、授業態度等を勘案する。																			
学生への メッセージ	毎回出席してください。 真面目に取り組む基本姿勢を期待します。また、自分の意見や考えを積極的に発言しましょう。 さらに、講義内容を整理し自分のノートを創りましょう。																			
担当者の 研究室等	齋藤 悦子 (枚方キャンパス 7号館3階 研究室21) 小野 晃正 (寝屋川キャンパス 11号館10階 小野准教授室)																			
備考																				

# 專 門 科 目



科目名	看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	初学者が看護学を学ぶ導入とし、基礎となる看護の基本的概念を学び、その後の看護学を発展させる基盤を形成する。看護の歴史を振り返り、看護の本質を探究し、保健医療システムとチーム医療における看護の役割を学ぶ。看護の倫理と法的責任を知ることで、看護職者に必要な態度や社会的責任について考える。看護の現場と看護の機能を知ることを通して、看護の対象である人々への健康支援へのアプローチの概略を学ぶ。また、様々な看護理論を理解することで、自身の看護観を発展させる基礎的能力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基本的概念、看護の役割・機能について説明することができる。</li> <li>2. 看護の倫理と法的責任について説明することができる。</li> <li>3. 看護の歴史的発展について説明することができる。</li> <li>4. 看護理論を学ぶことを通して、自身の看護観について述べるができる。</li> <li>5. 看護学に関する学びを学生同士で話し合い、発展させることができる。</li> </ol>
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。新入生を看護学の世界へ導き、今後の学習を動機づけるため、多くの写真、新聞記事や、闘病記などの患者の手記、現場のエピソードを活用して具体的なイメージを提示する。授業では教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料も適宜追加する。授業ではパワーポイント等を用い、液晶プロジェクターで投影しながら講義を行うが、要点やポイントを自分で把握し、ノートやメモをとることも必ず行うこと。また、学生による発表を課する。授業では、他学生と話し合いを重ね、意見を共有して学びを発展させる。積極的に発言し、大学生として学ぶ態度で授業に参加すること。座席は指定すること。私語や遅刻、途中の出入り、授業に関係のない行為（スマホを操作するなど）は慎むこと。なお、毎回、授業の最後に小レポートを提出する。授業計画は学習の進捗状況によって調整することがあるが、その際は授業で説明を行う。また、Moodleを用いて授業の連絡や学習の助けとするので、常に確認すること。
科目学習の効果(資格)	すべての看護学を学ぶ導入となり、皆さんのキャリアデザインを行うための基礎となる授業科目で、必須科目となっています。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス、看護とは何か	授業ガイダンスで授業計画、評価方法等の詳細について説明する。看護及び看護学とは何かについて概観する。	事前課題：シラバスをよく読み、テキストの目次にどのような項目があるかを確認してきて下さい。 事後課題：テキストの第1章を読み返し整理して下さい。
2	看護の基本的概念(1)：人間および環境	看護における基本的概念のうち、人間及び環境を理解する。	事前課題：テキストの第3章を読んで来て下さい。 事後課題：授業で学んだ人間の発達課題等重要キーワードについて整理しておいて下さい。
3	看護の基本的概念(2)：健康	看護における健康の概念を理解する。	事前課題：テキストの第4章を読んで来て下さい。 事後課題：授業で学んだ健康の概念を表す諸指標、看護との関係について整理しておいて下さい。
4	看護職の資格と教育システム	看護職の様々な資格及びその教育システムについて理解する	事前課題：日本看護協会のホームページにある、「キラリ！看護のシゴト」を読んで来て下さい。 事後課題：授業での学びをもとに、魅力を感じる看護の道についてまとめて下さい。
5	保健医療システムとチーム医療における看護の役割	社会における保健医療を提供するシステムと、チーム医療による様々な活動と看護の果たすべき役割について解説する。	事前課題：第5章に目を通し、保健・福祉・医療にどのような人々が関わっているかを新聞やインターネットなどで調べてみて下さい。 事後課題：関連する法律や制度の名前を整理しておきましょう。
6	看護の倫理と法的責任	看護実践における倫理と患者の権利について考え、社会に対する看護の法的責任について検討する	事前課題：テキストの第9章を読んで来て下さい。 事後課題：倫理の原則、看護者の倫理綱領について復習しておいて下さい。
7	看護の歴史にみる看護の本質(1)	世界と日本における看護の歴史を理解し、人類の歴史を背景とした看護の発展をとらえる。	事前課題：第2章「看護の歴史」を読んで来て下さい。 事後課題：看護の本質が歴史とともにどのように変化し発展してきたかを整理しておいて下さい。
8	看護の現場と看護の機能(1)	病院における看護の現場の実際と、看護の機能、看護実践過程について知る	事前課題：テキストの第6章、第7章に目を通して来て下さい。 事後課題：看護に関連する法律や、看護過程の内容について整理しておいて下さい。
9	看護の現場と看護の機能(2)	病院における看護のマネジメント、病院システムにおける看護の機能を知る	事前課題：テキストの第8章に目を通して来て下さい。 事後課題：病院における看護のシステムについて整理しておいて下さい。
10	看護の現場と看護の機能(3)	医療・看護の質保障と医療安全について学ぶ	事前課題：テキスト第8章の医療安全の章に目を通して来て下さい。 事後課題：授業中に示した課題についてレポートを提出して下さい。
11	看護理論の発展(1)	ナイチンゲール、ペプロウ、ヘンダーソンの理論を紹介する	事前課題：前回の授業で提示した資料を読んでおくこと。 事後課題：各理論の特徴を整理しておいて下さい。
12	看護理論の発展(2)	オレム及びロイの理論を紹介する	事前課題：前回の授業で提示した資料を読んでおくこと。 事後課題：各理論の特徴を整理しておいて下さい。
13	看護理論の発展(3)	ワトソンの理論を紹介するとともに、様々な看護理論の実践への応用について考える	事前課題：前回の授業で提示した資料を読んでおくこと。 事後課題：各理論の特徴を整理しておいて下さい。
14	まとめ(1)	患者の闘病記を用いて、看護の対象者が必要とする看護について話し合い、発表する準備をする。	事前課題：グループで話し合い、闘病記を一つ選定して来て下さい。 事後課題：発表準備を行って下さい。
15	看護学の発展、まとめ(2)	グループでの学びを発表し討議することを通して、自己の看護及び看護学へ	事前課題：発表準備を行って下さい。 事後課題：自分自身の看護への考え方、今後の勉強

		の考えをまとめる。	への課題を整理しておくこと。
関連科目	今後学ぶ、全ての看護学の専門科目の基礎となる科目です。特に、この科目で学んだ内容を、看護対人関係論、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで発展させ、実践する力としていきます。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	看護学概論 看護とは・看護学とは 第5版	松木光子 編
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	ケアの本質 生きることの意味	ミルトン・メイヤロフ
	2	メディカ・マイブックシリーズ①改訂第2版優しい看護理論-現場で生かせるベースの考え方	
	3		
評価方法 (基準)	評価は定期試験及びレポートを総合して判定する。試験には客観問題と論述問題を合わせて出題する。レポートは小レポートと、課題レポートを課す。評価割合はレポート(30%)、定期試験(70%)		
学生への メッセージ	看護学部によろこそ！人間を見つめ、その健康を支えることのできる看護学について皆さんと一緒に概観します。大学での講義スタイルに慣れ、適切にノートをとることも練習しましょう。また、大学では自分の意見や考えを持ち、それを言葉にして他者と話し合っていくことが求められます。そうした機会を多く持ちたいので、積極的に参加して下さい。		
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室3(田中)		
備考			

科目名	看護対人関係論	科目名(英文)	Human Relationship in Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護場における対人関係についての基本的概念・技法の理解と修得を目指す。患者-看護師間のコミュニケーションの特徴を学び、基本的技法としての言語的・非言語的コミュニケーション、治療的コミュニケーションと非治療的コミュニケーションを学び、看護場面のロールプレイ等を用いた学生同士の体験的学習を通して修得する。また、授業全体を通じて、自分自身を振り返るリフレクション、自分と相手を共に尊重するアサーティブな人間関係のあり方について学ぶ。
到達目標	1. 患者・看護師間、医療チーム間のコミュニケーションの特徴について説明できる。 2. コミュニケーションの際に必要な基本的技法について説明できる。 3. 看護場面のロールプレイを、コミュニケーションの基本的技法を用いて学生同士で行うことができる。 4. ロールプレイを通して、自分自身と他者のコミュニケーションの振り返りを行うことができる。
授業方法と留意点	講義で理論を説明し、その中で重要なコミュニケーション技法については小グループを編成し演習を行う。グループで協力して学ぶことが必要である。「知っている」と「できる」とは違う。「できる」ようになるよう、積極的に参加する態度が必要である。そして、この授業で学んださまざまなコミュニケーションの技術を、日常生活の中で練習することが欠かせない。授業では、名札をつけて出席すること。またテキストを毎回持ち参ること。
科目学習の効果(資格)	1年生後期の基礎看護学実習Ⅰでの実践にむけて、看護の対象者やチームのなかで適切に人間関係を構築できるよう、基盤となる力を付けます。また、全ての実習科目を行う上で、この科目での学びが重要です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護の場における対人関係とは	授業ガイダンスを行うとともに、看護の場における対人関係について概要を説明する。また、対人関係を振り返るためのリフレクションについて解説する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
2	患者-看護師関係のコミュニケーションの特徴、「聴くこと」と「話すこと」	患者と看護師の間で築かれる人間関係とそのコミュニケーションの特徴について事例を用いながら学ぶ。また、「聴くこと」・「話すこと」について演習し、考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
3	相手に伝わるように話す(1)	会話は話のキャッチボールを行うものであり、相手が受け取っていない場合は何も伝わらない。会話分析と演習を通して、言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、および相手に伝わるように話すためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
4	相手に伝わるように話す(2)	自分と異なる世代、立場の人と適切に会話をするために、敬語による表現について演習する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
5	相手の気持を受けとめる	相手の気持をうけとめることによって、相手の心を開き、望ましい関係を築くことができる。会話事例を分析し、相手の気持を受けとめるためのポイントをつかむ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
6	自分から出る、自分を出す	自分の主張を伝え、相手に適切に働きかけるためのアサーティブネスを学ぶ。会話事例の分析を行い、会話を組み立ててロールプレイを行う。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
7	相手をもっと知る	患者と適切な関係を構築するためには、相手の立場に立って考えることが必要である。インタビューの演習を行い、さまざまな質問のしかたを用いて相手をよりよく知る方法について理解する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
8	チームビルディング	新たな集団がチームとして機能し、力を合わせて成果を上げるための人間関係構築について、演習を通して学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
9	看護の現場で学ぶ	看護の現場では、学生もチームの一員である。チーム内で成果を上げるための、態度、マナーや表現方法について学ぶ。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
10	ケア場面でのコミュニケーション(1)	患者-看護師の会話事例を分析し、ケア場面に必要なコミュニケーションのセンスについて考えを深める。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
11	ケア場面でのコミュニケーション(2)	患者-看護師の会話事例を分析し、ケア場面に必要なコミュニケーションのセンスについて考えを深める。分析をグループ発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
12	看護の現場でのコミュニケーション：人間関係をスタートする	今まで学んだ技法を活用して、病棟でのチーム、スタッフや、患者に対して適切に人間関係をスタートする方法を考える。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。
13	看護の現場でのコミュニケーション：SBARを使って報告する	効果的なチーム医療における報告の意義を理解する。SBAR(状況：Situation、背景：Background、評価 Assessment、提案・依頼：Recommendation)の枠組み	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。

			による報告は、そのための戦略であり、事例を用いて報告を組み立て、ロールプレイを行う。																	
	14	看護の現場でのコミュニケーション:集団でのコミュニケーション	集団でのコミュニケーションについて学ぶ。特にリーダーシップとメンバーシップ、カンファレンスの持ち方などについて取り上げる。	事前課題：特になし。 事後課題：小レポートを提出すること。授業の資料について復習すること。日常生活の中で学びを練習してみる。																
	15	まとめ	グループに分かれ、看護の場における対人関係についての今までの学びをまとめて振り返り、達成できたことや今後の課題について話し合い、発表する。	事前課題：特になし。 事後課題：指示したテストの出題範囲について復習しておくこと。																
関連科目	カウンセリング論、臨床心理学と関連する。内容は、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱで現場で直接役立つ技術となる。また、基礎看護学技術Ⅰ～Ⅳとも関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仲間とみがかく 看護のコミュニケーション・センス</td> <td>大森 武子, 矢口 みどり</td> <td>医歯薬出版株式会社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仲間とみがかく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	仲間とみがかく 看護のコミュニケーション・センス	大森 武子, 矢口 みどり	医歯薬出版株式会社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業の参加度とレポート (60%)、筆記試験 (40%) により総合評価する。																			
学生への メッセージ	対人関係能力は看護実践に必須の基本的能力です。患者-看護師間はもちろん、医療チームの中で適切にコミュニケーションをおこなっていくことが欠かせません。講義とロールプレイなどを通じた体験に自分から進んで参加し、コミュニケーションスキルを高めましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室3 (田中)																			
備考																				

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護を实践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を实践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことによって行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
7	体位の整え (1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
8	体位の整え (2)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
9	体位の整え (3)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
10	移動・移送の援助 (1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
11	移動・移送の援助 (2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
12	移動・移送の援助 (3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】	

			配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理す

	29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	ること。 【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
	30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 トレーニング課題について指示した準備をしておくこと。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
	関連科目				
基礎看護技術Ⅱ					
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ		深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ		深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	看護技術 講義・演習ノート〈上巻〉日常生活援助技術篇		山口瑞穂子	医学芸術社
	2	基礎看護技術		阿曽洋子	医学書院
	3				
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 40%、授業への参加状況 20%				
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返して行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。				
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室3（田中）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、田丸、森嶋）				
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。				

科目名	基礎看護技術 I	科目名 (英文)	Fundamental of Nursing Skills I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護を实践するための基本的な看護技術のうち、日常生活を整える援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える看護援助を实践するための基本的能力を培う。
到達目標	看護技術の基本的な考え方、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動休息の援助、バイタルサインの観察、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で日常生活を整える援助の理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。 授業では、教科書を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配付資料を適宜追加する。また援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視聴覚教材、パワーポイント等も使用する。 技術演習は、毎回、教員が援助のデモンストレーションを行い、具体的な方法や注意事項等を示すことによって行う。また、少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から
科目学習の効果 (資格)	基礎看護学実習 I、II の履修にかかわる科目。 基礎看護技術 II の履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	看護技術とは	看護技術の基本的な考え方について概観する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	療養環境の調整 (1)	療養環境の調整に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	療養環境の調整 (2)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	療養環境の調整 (3)	ベッドメイキングを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	療養環境の調整 (4)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	療養環境の調整 (5)	臥床患者のシーツ交換を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	体位の整え (1)	ボディメカニクス・体位の整えに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	体位の整え (2)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	体位の整え (3)	臥床患者の体位の整えを实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	移動・移送の援助 (1)	移動・移送の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	移動・移送の援助 (2)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	移動・移送の援助 (3)	車いす・ストレッチャーでの移動・移送の援助を实践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】

			配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	活動・休息の援助	活動・休息の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	バイタルサインの観察(1)	バイタルサインに関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	バイタルサインの観察(2)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
16	バイタルサインの観察(3)	バイタルサインの観察を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
17	衣生活の援助(1)	衣生活の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
18	衣生活の援助(2)	臥床患者の寝衣交換を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
19	食事の援助(1)	食事の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
20	食事の援助(2)	食事の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
21	排泄の援助(1)	排泄の援助に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
22	排泄の援助(2)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
23	排泄の援助(3)	便尿器・おむつによる排泄の援助を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
24	身体の清潔(1)	身体の清潔に関する理論を学ぶ	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
25	身体の清潔(2)	身体の清潔を実践する：口腔ケアを実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
26	身体の清潔(3)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
27	身体の清潔(4)	身体の清潔を実践する：臥床患者の洗髪を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
28	身体の清潔(5)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理す

	29	身体の清潔(6)	身体の清潔を実践する：臥床患者の清拭・足浴を実践する	ること。 【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
	30	まとめ	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する	【事前課題】 トレーニング課題について指示した準備をしておくこと。 【事後課題】 配付資料や視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。	
関連科目	基礎看護技術Ⅱ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ		深井喜代子	メヂカルフレンド社
	2	新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ		深井喜代子	メヂカルフレンド社
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	看護技術 講義・演習ノート〈上巻〉日常生活援助技術篇		山口瑞穂子	医学芸術社
	2	基礎看護技術		阿曾洋子	医学書院
	3				
評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 40%、実技試験 40%、授業への参加状況 20%				
学生への メッセージ	基礎看護技術Ⅰで学ぶ内容は、今後全ての看護学実習の基礎となります。積極的に授業に参加するだけでなく、練習を繰り返して行い、知識と技術を確実に身につけて下さい。				
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室3（田中）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、田丸、森嶋）				
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示します。				

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護を实践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護、リラクゼーション等について根拠を踏まえた技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】

			配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
19	創傷の看護／リラクゼーション	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。また看護技術としてのリラクゼーションについて、意義と基礎的な方法を理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
22	創傷管理	ガーゼやドレッシング材を使用した創傷処置と包帯法を実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
23	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
25	栄養障害の看護	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
26	経管栄養／浣腸	経管栄養チューブ挿入を安全、安楽に実施する方法を理解する。またグリセリン浣腸等について安全、安楽に実施する方法を理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
27	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
28	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
29	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
30	総合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討する。	【事前課題】教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。																
関連科目	基礎看護技術1等。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎看護技術</td> <td>阿曾洋子他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)																		
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。																		
担当者の	7号館3階 研究室2(中山)、研究室3(田中)、研究室1(森木)、助教室1(岡田、田丸、森嶋)																		

研究室等	
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。

科目名	基礎看護技術Ⅱ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護を実践するための看護基本技術のうち、診療に伴う看護技術を学ぶ。具体的には、感染予防の看護、薬物療法の看護、検査時の看護、体温維持の看護、呼吸障害の看護、栄養障害の看護、排泄障害の看護、創傷の看護、リラクゼーション等について根拠を踏まえた技術を修得する。
到達目標	診療に伴う看護技術について、手技の1つ1つの根拠を理解し、実施することができる。
授業方法と留意点	授業計画に沿って教科書を基本とし、各援助方法について学習する。 最新の情報を提供するため、適宜、資料を配布し説明する。 援助場面をイメージできるように、ビデオや写真等の視覚教材、パワーポイント等を使用する。 毎回、教員によるデモンストレーションを実施する。教員が少人数制のグループを担当し、注射等の技術実践時には、安全をはかりながら個別指導を行う。また患者役を体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱを履修するために重要な科目となります。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	診療に伴う看護技術	診療に伴う看護とはどのようなものか、また関連法規からも理解をする。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	薬物療法・注射時の看護	薬物療法、注射時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助が実施できるように関連法規をふまえて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	感染予防の看護	滅菌・消毒方法や無菌操作、またスタンダードプリコーション等について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	感染予防	手指消毒法、マスク、ガウン等の装着方法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	無菌操作(1)	注射器等の取り扱いや注射器と注射針の接続等について実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
7	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
8	皮下注射	上腕モデル等を用いて、安全、安楽に皮下注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
9	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
10	筋肉注射	上腕・臀部モデルを用いて、安全、安楽に筋肉注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
11	検査時の看護	検査時の援助方法および、検体の採取と取扱いについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
12	技術トレーニング/実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
13	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
14	末梢静脈血採血	血管モデルを使用し、安全、安楽に末梢静脈血採血を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
15	薬物療法・輸液の看護	輸液実施時の看護の役割を学び、安全、安楽な援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】

			配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
16	技術トレーニング／実技到達度チェック	学習した注射関連の技術トレーニングを行い、技術の到達度を確認する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
17	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
18	輸液療法・静脈内注射	血管モデルを使用し、安全、安楽に輸液療法及び静脈内注射を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
19	創傷の看護／リラクゼーション	創傷ケアの基礎的な理論と技術を理解する。また看護技術としてのリラクゼーションについて、意義と基礎的な方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
20	排泄障害の看護	排泄障害に対する援助と、その援助方法としてのグリセリン浣腸、導尿法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
21	無菌操作 (2)	滅菌物の取り扱い、および滅菌手袋の装着等を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
22	創傷管理	ガーゼやドレッシング材を使用した創傷処置と包帯法を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
23	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
24	導尿	導尿・膀胱留置バルンカテーテルの挿入についてモデルを用いて実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
25	栄養障害の看護	栄養状態のアセスメント方法、栄養摂取への援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
26	経管栄養／浣腸	経管栄養チューブ挿入を安全、安楽に実施する方法を理解する。 またグリセリン浣腸等について安全、安楽に実施する方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
27	呼吸障害の看護	呼吸障害がある患者のアセスメント方法や呼吸状態を整える援助方法を理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
28	酸素療法	酸素ボンベの取り扱い、酸素療法に伴う援助を実施する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
29	体温維持の看護および温・冷電法	体温の異常についてのアセスメント方法や体温の恒常性への援助方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
30	総合トレーニング(事例患者への援助)	輸液ルートなどを装着している事例患者に対する援助をグループで検討する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。

関連科目 基礎看護技術1等。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎看護技術	阿曾洋子他	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	筆記試験、実技試験、およびレポートと授業参加度や授業態度により評価する。 筆記試験 (60%)、技術到達度チェック (10%)、課題レポート (10%)、授業参加度および授業態度 (20%)
学生へのメッセージ	診療に伴う援助について本格的に学んでいきます。薬物療法など注射に関連する技術なども多く、患者への安全・安楽な技術を目指し、また安全な演習を実施していくためにも気を引き締めて演習を行っていきましょう。
担当者の	7号館3階 研究室2 (中山)、研究室3 (田中)、研究室1 (森木)、助教室1 (岡田、田丸、森嶋)

研究室等	
備考	技術演習時の服装、身だしなみ、持参物品等については、事前に別途指示する。

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			【事前課題】	【事後課題】
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	【事後課題】 視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのフィジカルアセスメント	横山美樹	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	3	ベイツ診察法	Lynn S. Bickley	メディカル・サイエンス・インターナショナル
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 60%、実技課題 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室3（田中）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、田丸、森嶋）			
備考				

科目名	基礎看護技術Ⅲ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	対象者の問題や状態をアセスメントするための情報を収集し、その情報の解釈・分析・統合するための技術の一つであるフィジカルアセスメントの知識・技術を学ぶ。具体的には、ヘルスヒストリーの聴取方法や客観的な情報を得る手段であるフィジカルイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）技術を学ぶ。
到達目標	呼吸器系、循環器系、消化器系、筋・骨格系、脳・神経系のフィジカルアセスメント技術を修得する。
授業方法と留意点	基本的には講義形式でフィジカルアセスメントの理論を学び、その後、基礎看護学実習室にて技術演習を行う。授業では、教科書と視聴覚教材を用いるが、最新の情報やトピックスを提供するため、配布資料を適宜追加する。技術演習は少人数グループを作成し、教員がグループごとに担当し個別指導する。そして、患者役割も体験し、援助を受ける立場から看護技術を振り返る。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱの履修にかかわる科目。 看護師国家試験受験資格にかかわる科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			【事前課題】	【事後課題】
1	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方	看護における看護過程とヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの考え方に関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
2	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術	ヘルスヒストリーとフィジカルアセスメントの基本的技術に関する理論を学び、実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント(1)	呼吸器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント(2)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント(3)	呼吸器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
6	循環器系のフィジカルアセスメント(1)	循環器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
7	循環器系のフィジカルアセスメント(2)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
8	循環器系のフィジカルアセスメント(3)	循環器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
9	消化器系のフィジカルアセスメント(1)	消化器系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
10	消化器系のフィジカルアセスメント(2)	消化器系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
11	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(1)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント(2)	筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
13	脳・神経系のフィジカルアセスメント(1)	脳・神経系のフィジカルアセスメントに関する理論を学ぶ。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
14	脳・神経系のフィジカルアセスメント(2)	脳・神経系のフィジカルアセスメントを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。
15	フィジカルアセスメントトレーニング	学びの整理と総合技術トレーニングを実践する。	教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。	視聴覚教材等を用いて復習し学びを整理すること。

関連科目 基礎看護技術Ⅱ、基礎看護技術Ⅳ、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	成人看護学 ヘルスアセスメント	横山美樹、石川ふみよ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのフィジカルアセスメント	横山美樹	メヂカルフレンド社
	2	ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ヘルスアセスメント	松尾ミヨ子	メディカ出版
	3	ベイツ診察法	Lynn S. Bickley	メディカル・サイエンス・インターナショナル
評価方法 (基準)	筆記試験、実技課題、授業への参加状況（レポートの提出状況・演習に取り組む姿勢など）により評価する。 筆記試験 60%、実技課題 20%、授業への参加状況 20%			
学生への メッセージ	「人体の構造と機能」の知識が基盤となりますので十分に復習してから授業に臨んでください。また授業後は、視聴覚教材等を活用し、積極的に自己学習をしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室1（森木）、研究室3（田中）、研究室2（中山）、助教室1（岡田、田丸、森嶋）			
備考				

科目名	基礎看護技術Ⅳ	科目名(英文)	Fundamental of Nursing Skills IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 結華, 中山 由美, 森木 ゆう子, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護ケアを対象者に提供するための基盤となる看護過程について学ぶ。根拠に基づき、対象者の看護上の問題を明確にし、問題を解決するためのプロセスを学ぶ。ヘンダーソンの理論に基づいた看護過程の展開方法を、演習を通して修得する。
到達目標	授業および演習を通して、看護過程の展開方法を理解できる。 具体的には、事例を活用し、情報整理、情報の分析、看護問題の抽出、看護目標・看護計画の立案、評価方法、看護実践時の記録の記載方法および振り返り方法などを理解できるようになる。
授業方法と留意点	教科書を基本とし、適宜、配布資料を用い説明する。また看護過程の展開方法をイメージできるように視聴覚教材やパワーポイントを使用する。看護過程の展開方法を習得するために、少人数制のグループワークや演習を行い、事例展開をする。
科目学習の効果(資格)	基礎看護学実習Ⅱおよび看護師国家試験受験資格にかかわる科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護過程の展開 (1)	看護理論と看護過程の展開について、またヘンダーソンの理論と14の基本的ニードなどについて理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
2	看護過程の展開 (2)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
3	看護過程の展開 (3)	事例を通して、情報の分類やアセスメント方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
4	看護過程の展開 (4)	事例の全体像の把握、看護問題、看護目標の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
5	看護過程の展開 (5)	事例を通して、看護計画の立案について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 配布資料および教科書に沿って復習を行うこと。
6	看護過程の演習 (1)	グループワークにて、事例の情報分類を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
7	看護過程の演習 (2)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
8	看護過程の演習 (3)	グループワークにて、事例の情報についてアセスメントを行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
9	看護過程の演習 (4)	グループワークにて、事例の看護問題の抽出、関連図の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
10	看護過程の演習 (5)	グループワークにて、事例の看護問題の抽出、関連図、看護目標の検討を行う。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
11	看護過程の演習 (6)	グループワークにて、事例の看護計画を検討する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
12	看護過程の演習 (7)	グループワークにて、事例の看護計画を立案する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
13	看護過程の演習 (8)	グループワークにて行った看護過程の展開内容を発表する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
14	看護過程の展開 (7)	看護問題、看護目標、看護計画、看護実践内容などの評価方法について理解する。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。
15	看護過程の展開 (8)	ケアの実践方法、患者の反応を記録に記載し、考察する方法が理解できる。	【事前課題】 教科書の該当部分を読んだ上で出席すること。 【事後課題】 提示された課題を期日までに行ってくること。

関連科目 基礎看護技術Ⅲおよび基礎看護学実習Ⅱに深く関連します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践に役立つ看護過程と看護診断	三上れつ	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実践看護アセスメント	渡辺トシ子	ヌーヴェルヒロカワ
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポートおよびグループワークでの課題達成状況や授業参加度、授業態度などで評価する。 グループワークでの課題達成状況や参加度等 60%、レポート等 40%			
学生への メッセージ	基礎看護学実習Ⅱに深く関連する科目です。課題を達成していけるように自己学習をしっかり行っていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室2(中山)、研究室3(田中)、研究室1(森木)、助教室1(岡田、田丸、森嶋)			
備考	グループワーク時の課題については、適宜、指示をすることで次回期日までに行ってくること。			

科目名	看護管理学	科目名(英文)	Nursing Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後閑 容子, 竹中 泉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護管理者として、組織・人材、社会・行政、情報、予算、安全などに関する基本的な学習をして、質の良い看護を効率的にかつ効果的に提供し、医療の向上のため、看護管理としてのあり方を学ぶ。具体的には、医療チームの一員として多職種との連携と看護職の専門性、看護職としてのキャリア形成、自身の健康管理などを学ぶ。さらに、最近の話題として、看護管理からみた看護職の倫理、医療安全のあり方をリスクマネジメントへの組織やチームおよび個人としての取り組みと基本的な対策に関して学ぶ。
到達目標	(授業概要・目的と同じ)
授業方法と留意点	適切な看護を提供するために個々の看護職者が果たす役割について、講義や少人数でのグループ討議を行い学びを深める。臨地実習での体験を看護管理の視点から学び直し発表する機会も設定する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。看護管理はどのような場においても、対象を中心に看護サービスを提供するために必要な学修である。より良い看護の提供を創造できる看護職になるために自律的な成長への課題を見出すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護管理の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織とマネジメント</li> <li>看護管理の対象とその実践範囲</li> </ul>	事前課題：統合実習で受けた病院看護管理者の講義や実習の学びを振り返っておく。 事後課題：看護管理の概要について講義内容に該当する教科書の部分を読み復習する。
2	保健医療福祉職との連携と看護職の専門性	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護に関する法律</li> <li>看護と行政組織</li> <li>看護と専門機関・職能団体</li> <li>最近の保健医療福祉政策の動向</li> </ul>	事前学習：最近の保健医療福祉行政の情報収集をしておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み、看護関係法規の学習内容と併せて学びを整理する。
3	看護職としてのキャリア形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護職と生涯教育</li> </ul>	事前学習：これまでの学修した経験より自己のキャリア形成について振り返ってみる。 事後学習：自己の描くキャリアデザインの実現のためにはどのような課題があるのか考え整理する。
4	情報と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療における情報管理</li> <li>患者の権利擁護と看護倫理</li> </ul>	事前学習：看護が扱う情報についてどのようなものがあるか考えてみる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み情報管理のために心がけることを整理する。
5	病院、施設における看護管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護管理のスキル</li> <li>組織の理解</li> <li>経営</li> </ul>	事前学習：臨地実習で学修した看護管理について振り返っておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み実習での学びの根拠を整理する。
6	医療安全と看護の責務	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護業務の法的な規定</li> <li>看護職能団体の取組み</li> </ul>	事前課題：看護関係法規で学んだ内容を復習しておく。 事後課題：臨地実習で学んだことと併せて看護の責務について自己の考えを整理する。
7	看護における安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護業務と事故発生要因</li> <li>医療事故の種類と安全対策</li> </ul>	事前学習：看護職が関係した医療事故について調べてみる。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み自己の行動傾向として必要な安全対策について考え整理する。
8	組織的な安全管理対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織としての取り組み</li> <li>事故原因の分析と対策の検討、実施</li> <li>安全文化の醸成</li> </ul>	事前学習：医療現場での安全対策についてどのような取り組みがされているか調べておく。 事後学習：本日の講義内容に該当する教科書の部分を読み安全文化の醸成に不可欠なことは何か考え整理する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 保健医療福祉行政論、看護関係法規、看護学概論、各領域の看護学概論、看護倫理、実習科目全般、キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナースが「グラフィ」看護の統合と実践(1)看護管理 第3版	村島さい子他	メディカ出版
2	ナースが「グラフィ」看護の統合と実践(2)医療安全 第2版	松下由美子他	メディカ出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜提示する		
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%
学生への	看護管理は管理者だけが行うものではない。チームの一員として一人一人が自分の果たす役割を認識したうえで、リーダーシップを発揮できるよ

メッセージ	うに取り組むこと。主体的に参加し、自己の考えを述べ、ディスカッションにより多様な考えを受止め、視野を広げられることを期待する。
担当者の研究室等	7号館・3階 研究室8 (後閑) 研究室25 (竹中)
備考	

科目名	基礎看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 川畑 安正, 竹中 泉, 中山 由美, 森木 ゆう子, 金原京子, 竹下 裕子, 森谷 利香, 山本 智津子, 吉川 有葵, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子, 小川 宣子, 亀田 直子, 阪上 由美, 志戸岡 恵子, 七山 知佳, 山本 十三代, 吉村 公一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護学概論等の既習内容を踏まえ、保健医療の現場における看護の対象である人とその生活・健康状態、それらを取り巻く環境のあり方、看護職者やチーム専門職者の役割を体験的に学び、看護の役割や機能について理解を深め、今後の看護を学ぶ動機とする。 [実習目的] 看護の対象となる人とその人を取り巻く環境を理解する。また、実習による体験を通して、看護の目的と役割、看護の機能する場および看護活動に関する知識を深める。																
到達目標	1) 看護の対象となる人の療養生活を支える環境のあり方を理解する。 2) 看護の対象となる人とその健康状態、生活や思いを理解し、看護職者およびその他の専門職者による援助の実際を知る。 3) 看護の目的、看護が果たす役割や機能する場、看護のあり方について自己の考えをまとめ、今後の看護を学習する上での課題を見出すことができる。 4) 看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。																
授業方法と留意点	[実習方法] 1. 原則として実習病棟への学生配置は1グループ4～6人編成とし、各グループは教員の指導を受ける。 2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。 3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。 4. 実習施設の概要、看護の目標と特徴について説明を受ける。 5. 病院環境の見学を行い、各部署の機能について説明を受け、対象者の療養生活を支える環境について知る。 6. 病棟の環境、看護の目標や特徴の説明を受ける。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[実習計画] 1. オリエンテーション 1) 事前オリエンテーション 2) 直前オリエンテーション 2. 実習：12月下旬に1週間の病院実習を行う。 【病院実習】 ・実習施設の概要 ・病院環境の見学 ・病棟実習 ケア場面の見学、または基本的な日常生活援助の実施 患者とのコミュニケーション カンファレンス 【学内課題】 ・まとめ																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録を総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	[実習場所] 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学付属枚方病院、枚方公済病院(計4カ所)																

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Fundamental Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 結華, 川畑 安正, 池田 友美, 竹中 泉, 徳重 あつ子, 松本 葉子, 中山 由美, 森木 ゆう子, 金原 京子, 竹下 裕子, 森谷 利香, 吉川 有葵, 岡田 純子, 田丸 朋子, 森嶋 道子, 小川 宣子, 亀田 直子, 阪上 由美, 志戸岡 恵子, 名草 みどり, 山本 十三代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>[概要]</p> <p>医療の場で療養生活を送る入院患者を受け持ち、看護過程を日常生活上のニーズに焦点をあてて実践する。既習の知識・技術を統合して、臨床における看護実践の基礎的能力を培う。看護過程は段階的に行い、対象者と人間関係を形成し、情報収集を行い全人的に把握して分析し、看護援助の必要性を導き出す。対象者に応じた看護計画を立案し、実施・評価する。これらの実践過程を通して、自己の看護観について考えを深める。</p> <p>[実習目的]</p> <p>看護の対象となる人を総合的に理解し、対象者の日常生活の援助に焦点をあて、看護過程を段階的に展開できる基礎的能力を培う。また、看護職者に必要な態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者と対人関係を築きながら発達段階、健康状態、日常生活に焦点を当てて情報を収集することができる。</li> <li>2. 収集した情報を整理・分析し、看護の対象として対象者の全体像を把握することができる。</li> <li>3. 対象者の全体像から、日常生活援助の必要性を導き出し、看護上の問題を明確化することができる。</li> <li>4. 看護上の問題に対する目標を設定し、目標達成に必要な看護計画を立案することができる。</li> <li>5. 立案した看護計画を指導のもと、実施することができる。</li> <li>6. 看護問題、看護目標、看護計画および実施した看護について、評価、修正する方法を理解することができる。</li> <li>7. 実習を通して得た学びを振り返り、看護に対する自らの考えを明らかにすることができる。</li> <li>8. 主体的に実習に取り組み、看護学生として適切な態度で実習に臨むことができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>[授業方法と留意点]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習グループは、1グループ5～6名編成とし、担当教員の指導を受ける。</li> <li>2. 実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>4. 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術の復習を行う。</li> <li>5. 実習にあたり、実習病院・病棟から、病棟の機能や看護職の役割について、オリエンテーションを受ける。</li> <li>6. 原則として、入院中の患者を1名受持ち、対象者に適した看護過程の展開を段階的に行う。</li> <li>7. 病棟実習では毎日、学生主体のカンファレンスを行う。</li> <li>8. カンファレンスでは、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、お互いの学びを共有する。</li> <li>9. 実習記録は、毎日必ず記録し、担当教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。</li> <li>10. 各自の実習における学びを各グループで検討してまとめ、互いに発表を行って共有する。</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 実習前にオリエンテーションを受け、実習に必要な知識・技術の復習を行う。</li> <li>2. 病院実習：2月に、以下の内容で2週間の実習を行う。 1) 対象者の紹介をうけ、人間関係を形成する。 2) 対象者の発達段階、健康状態、日常生活を把握するために必要な情報を、インタビューや記録、フィジカルイグザミネーション、および看護の場面への参加を通して収集する。 3) 収集した情報を整理して分析し、対象者の全体像を把握する。 4) 全体像から日常生活援助の必要性を導きだし、看護上の問題を明確化する。 5) 得られた問題に対する目標を適切に設定する。 6) 目標を達成するための計画を立案する。 7) 計画を実施するために必要な看護技術について、対象者に応じた方法を検討する。 8) 立案した計画を、指導の下で実施する。 9) 看護および実施した看護について、指導教員の指導のもと、評価・修正する。 10) 最終的に実習全体を通じた学びを振り返り、看護に対する自らの考えを述べる。 11) 実習に必要な事前学習を行い、知識・技術を復習して実習の準備をする。 12) 実習を行う上で必要な情報を積極的に求め、グループメンバーと共有し連携する。 13) 臨地実習指導者・指導教員からの助言を適切にうけとめ、積極的に実習に生かす。 14) 実施内容については臨地実習指導者・指導教員の指導を得てから行う。 15) 観察・実施内容については、臨地実習指導者・指導教員に適切に報告を行う。 16) 対象者の権利を尊重し、プライバシーの保護を行う。</li> </ol>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教科書・なし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教科書・なし			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	教科書・なし																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>参考書・必要に応じて適宜紹介する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	参考書・必要に応じて適宜紹介する。																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録、実習態度)を総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考	<p>[実習場所]</p> <p>星ヶ丘医療センター、関西医科大学附属枚方病院</p>																

科目名	成人看護学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	川畑 安正
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性をふまえ、家族や職場・地域社会で様々な役割をもつ成人期の対象の健康及び健康の危機的状況や急性症状を呈する人の健康問題の特徴を理解し、急性的な健康問題のある成人を支援する看護について学習する。また、危機的状態や急性期における看護援助に有用と考える理論や概念について理解を深める。		
到達目標	<p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける成長発達と特徴について説明できる。</li> <li>2. 生活者としての対象の特徴と健康段階について説明できる。</li> <li>3. 成人保健の動向について統計的な視点から説明できる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉の連携の重要性について説明できる。</li> <li>5. 危機的状態やストレスの高い状態の対象への看護援助の基礎となる理論について説明できる。</li> <li>6. 急激な健康破綻を生じた対象が抱える健康問題の特徴と看護援助について説明できる。</li> <li>7. 周手術期の概念、周手術期における対象の特徴と看護の役割について説明できる。</li> <li>8. 周手術期のチーム医療と社会資源の活用について説明できる。</li> </ol>		
授業方法と留意点	まず成人期にある自分を理解する。そして授業計画に沿った講義を通して、ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴とその看護、特に急性期看護をいろいろな視点から幅広く学習する。教科書による予習・復習を課し、教科書の内容を学習するのではなく、教科書の内容を活用して学習する。また、臨床事例や視聴覚教材を活用して、看護の理論などの知識と実践を関連付ける。		
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験の試験科目「成人看護学」の内容を修得するための授業科目の一つである。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	ライフサイクルからみた成人期の特徴	・授業ガイダンス ・成人期の区分 ・成人期の特徴 ・成人発達段階の理論 ・授業前に第 I 章「成人看護学の概念と構成」、第 II 章「成人看護学の特性」2～4. を読んでおくこと。 ・単元の小テスト(形成的評価)
	2	成人期の生活と健康	・授業前に第 III 章「保健・医療・福祉における動向と課題」、第 V 章「健康レベルにおける枠組み」1～2. を読んでおくこと。 ・単元の小テスト(形成的評価)
	3	成人保健の動向	・授業前に第 I 章「成人看護学の特性」1. を読んでおくこと。 ・単元の小テスト(形成的評価)
	4	保健・医療・福祉の連携	・変化する保健・医療・福祉へのニーズと制度 ・単元の小テスト(形成的評価)
	5	急性期看護の基礎となる理論	・危機的状態に対する看護の基盤となる理論・モデル ・ストレスの高い状態に対する看護の基盤となる理論 ・授業前に第 VI 章「成人看護に使用される理論・モデル」3. を読んでおくこと。 ・単元の小テスト(形成的評価)
	6	急性期にある対象の特徴と看護	・急性期の健康の急激な破綻 ・急激な健康破綻をきたした対象の看護 ・授業前に第 V 章「健康レベルにおける枠組み」3. を読んでおくこと。 ・単元の小テスト(形成的評価)
	7	周手術期における対象の特徴と看護(1)	・周手術期の概念 ・周手術期(術前・術中・術後)看護の特徴 ・単元の小テスト(形成的評価)
	8	周手術期における対象の特徴と看護(2)	・周手術期のチーム医療 ・社会資源の活用 -
	9	-	-
	10	-	-
	11	-	-
	12	-	-
	13	-	-
	14	-	-
	15	-	-
関連科目	1 年次前期履修科目のうち、人体の構造と機能 I、人体の構造と機能 II、看護学概論。 1 年次後期履修の同期進行する科目のうち、人体の構造と機能 III、人体の構造と機能 IV、病理学総論、疾病・治療論 I、成人看護学概論 II、地域看護学。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	成人看護学概論(第 2 版)	大西和子、岡部聡子 編 ヌーヴェルヒロカワ(2,200 円 + 税)
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	国民衛生の動向 2014/2015 年版(厚生省の指標・増刊)	厚生労働統計協会(2,315 円 + 税)
	2	周手術期看護論(第 3 版)	雄西智恵美、秋元典子 編 ヌーヴェルヒロカワ(2,400 円 + 税)
	3		
評価方法 (基準)	定期試験及びレポートの内容を総合して総括的評価する。なお、レポート課題は授業中に説明する。 定期試験 (80%)、レポート (20%)。		
学生への	・これまでの講義で修得した知識と成人看護学が関連し、理解が深められるよう、同期進行の授業科目も含めて関連科目をしっかり学習すること。		

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常に問題意識をもち、なぜそうなのかを考え、自分の意見を述べるようにしましょう。</li> <li>・成人看護学の基礎となる内容で広範囲にわたる授業を行うので、遅刻・欠席をせず、時間を有効に使用すること。</li> </ul>
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室26 (川畑)
備考	

科目名	成人看護学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	白田 久美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	ライフサイクルにおける成人期の特性を踏まえ、家族や職場・地域社会で様々な役割を持つ成人期の対象者の健康及び慢性的な健康問題の特徴を理解し、慢性的な健康問題のある成人を支援する看護について学習する。また、慢性的な健康問題のある成人が、主体的にQOLの高い療養生活を送ることができるよう援助するために有用な理論・概念について理解を深める。
到達目標	1. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解および特徴的な看護について説明できる。 2. 慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の看護に有用な主要概念・理論について説明できる。 3. リハビリテーションを必要とする対象の理解と特徴的な看護について説明できる。 4. がんと共に生きる患者の理解および特徴的な看護について説明できる。 5. 成人期の特徴をとらえた統合的なアセスメント・看護過程を学び、効果的な実践への活用について説明できる。
授業方法と留意点	ライフサイクルにおける青年期から向老期の成人の特徴とその看護、特に慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解と看護を幅広く学習する。臨床事例や視聴覚教材を活用して看護理論の知識を深め、実践に活用できる視点、考え方を学習する。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験資格のための必須科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(1)	・慢性疾患の特徴(病の軌跡理論の活用) ・慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の心理・身体・社会的特徴と援助(症状マネジメント、モニタリングの活用)	講義前に教科書第V章3「慢性的な経過をたどる健康障害の患者」、第VI章14「病の軌跡」を読んでおくこと。講義後は学んだ内容について復習すること。以下の講義でも同様に復習を課す。
2	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ対象の理解と特徴的な看護(2)	・健康の再構築への支援が必要な対象の理解、支援が必要となった要因(QOL) ・患者支援教育 ・セルフケア理論の理解と活用	講義前に教科書第V章4「健康再構築への支援を必要としている対象」、第VI章5「セルフケア論」を読んでおくこと
3	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ患者の看護に有用な主要概念・理論(1)	・アンドロゴジ理論の理解と活用 ・自己効力理論の理解と活用 ・エンパワーメント理論の理解と活用	講義前に第VI章10「アンドロゴジ」、6「自己効力理論」、8「エンパワーメント」を読んでおくこと
4	慢性的な経過をたどる健康障害をもつ患者の看護に有用な主要概念・理論(2)	・アドヒアランス理論の理解と活用 ・適応理論の理解と活用	講義前に第VI章13「アドヒアランス」、7「適応理論」を読んでおくこと、講義後、慢性看護に有用な理論・概念を用いた事例についてレポートを課す。
5	リハビリテーションを必要とする対象の理解および特徴的な看護	・リハビリテーションの概念、 ・リハビリテーションを必要とする対象の理解(障害受容) ・リハビリテーション看護と役割	講義前に第V章3「リハビリテーションを必要とする患者」を読んでおくこと
6	がんとともに生きる患者の理解および特徴的な看護(1)	・がん医療の理解 ・がんサバイバーシップの理解と支援(がんとともに生きる、闘病記を用いて) ・不確かさ理論の活用	講義前に事前に渡す「がん看護」に関するプリントおよび「闘病記」、教科書第V章12「不確かさ」を読んでおくこと、講義後、闘病記の感想文をレポートとして課す
7	がんとともに生きる患者の理解および特徴的な看護(1)	・がん看護における倫理的問題・がん医療における緩和ケアの位置づけ ・緩和ケアとがん治療 ・がん医療におけるチームアプローチ	講義前に事前に渡す「がん看護」に関するプリント、教科書IV章「成人看護における倫理と看護者の役割」を読んでおくこと
8	成人看護学におけるヘルスアセスメント、成人期の特徴をとらえた看護過程の展開	・成人看護学におけるヘルスアセスメント ・心理社会的側面に関するアセスメント ・アセスメントの統合、看護過程	講義前に教科書第VII章「成人におけるヘルスアセスメント」、第VIII章「看護過程の展開」を読んでおくこと
9	-	-	-
10	-	-	-
11	-	-	-
12	-	-	-
13	-	-	-
14	-	-	-
15	-	-	-

関連科目 看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、生命倫理、成人看護学概論Ⅰ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	成人看護学概論(成人看護学概論Ⅰと同じ教科書)	大西和子、岡部聡子編	ヌーベルヒロカワ(2,200円+税)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	がん看護	大西和子、飯野京子	ヌーベルヒロカワ(3,000円+税)
2	がん看護 ビジュアルナースィング	濱口恵子、花出正美	学研メディカル秀潤社(4,200円+税)
3			

評価方法(基準) 定期試験及びレポートの内容を総合して評価する。なお、レポート課題は授業中に説明する。レポート(20%)、定期試験(80%)

学生へのメッセージ 講義では広範な内容を網羅し、かつ聞き慣れない専門用語も多いため、予習・復習は欠かせないでしょう。慢性的な経過をたどる健康障害を持つ対象の理解を深め適切な援助を展開していくためにも、闘病記を読み、身近な人の体験談を聞くなど試みてみましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 研究室22(白田)
備考	



科目名	成人看護学援助論 I	科目名 (英文)	Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川畑 安正, 松本 葉子, 竹下 裕子, 吉川 有英
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要・目的】</b> 健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象とその家族の特徴を理解し、生命の維持と心身の早期回復、早期社会復帰に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p><b>【一般目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>健康状態に急激な変化を生じ、生命の危機的状態にある対象や、手術を受ける対象とその家族の身体的、心理・社会的特徴および倫理的課題について理解できる。</li> <li>麻酔・手術における侵襲と生体反応を踏まえ、術後合併症のアセスメントと予防のための看護援助について理解できる。</li> <li>手術によって、形態変化や機能障害をもたらされた対象とその家族の適応および新たなセルフケア能力獲得を促すための看護援助について理解できる。</li> <li>手術を受ける対象とその家族が、周手術期および退院後も、QOLのより高い生活を獲得できるよう、チーム医療のもとで行う看護援助について理解できる。</li> <li>手術を受ける対象とその家族の看護問題を解決するために、主体的な学習態度で取り組むことができる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>下記の授業計画に沿って講義を中心に授業を行う。事前学習として、教科書の該当範囲を読んでおくこと。事後課題として、授業内容を出題範囲とした過去の看護師国家試験問題を解いてくること（毎回、講義後に配布する）。なお、課題は提出を求めないが、事後課題（国家試験問題）は定期試験の試験範囲に含める。</p>
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習（成人看護学実習Ⅰ）において、看護援助を実践するための基盤となる。</li> <li>看護師国家試験の出題範囲である。</li> </ul>

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	救急医療を必要とする対象の看護援助	救急医療体制，トリアージ，心肺蘇生	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	2	救急医療を必要とする対象の看護援助	救急外来における看護援助，代表的な病態を呈する救急患者に対する看護	事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	3	周手術期にある対象の特徴と理解	周手術期にある対象とその家族の特徴と理解，麻酔・手術侵襲に伴う生体反応	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	4	周手術期過程に応じた看護援助—術前	インフォームド・コンセントの支援，術前オリエンテーション，手術に向けた準備，手術室入室時の看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「1. 診断から手術の決定過程の看護」「2. 術前の看護」を読んでおくこと。教科書「成人看護技術」の「呼吸機能検査・循環機能検査(p. 2～p. 14)」, 「膈処置・除毛(p. 110, 111)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	5	周手術期過程に応じた看護援助—術中	手術室環境，麻酔の基礎知識と麻酔導入時～覚醒時の看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「2. 術中の看護」と、「成人看護技術」の「術中の看護技術(p. 120～p. 154)」を読んでおくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	6	周手術期過程に応じた看護援助—術後	術直後の全身状態の観察と看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「4. 術後の看護」を読み、術直後のモニタリングのポイント・観察項目とそれぞれの正常（または基準値）についてまとめておくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	7	周手術期過程に応じた看護援助—術後	術後疼痛マネジメント（患者管理鎮痛法：PCAの管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート1理論編の「II 3. 術後疼痛の体験」と、教科書「成人看護技術」の「疼痛管理(p. 170～p. 174)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	8	周手術期過程に応じた看護援助—術後	早期離床，日常生活援助	事前課題：教科書「成人看護技術」の「離床の介助(p. 207, 208)」について、読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	9	術後合併症予防のための看護援助	呼吸器合併症（呼吸法，排痰訓練含む）予防のための看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 1. 肺合併症」と、教科書「成人看護技術」の「呼吸法，排痰訓練(p. 104～p. 108)」について読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	10	術後合併症予防のための看護援助	循環器合併症予防のための看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 2. 循環不全」を読み、術後の体液バランスと輸液管理についてまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	11	術後合併症予防のための看護援助	消化器合併症（イレウス）予防のための看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 3. イレウス」を読んでおくこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと
	12	術後合併症予防のための看護援助	術後感染，縫合不全（創傷管理・ドレーン管理含む）	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「V 4. 術後感染，5. 縫合不全」と、教科書「成人看護技術」の「ドレーン管理(p. 190～p. 192)」について読んでおくこと。

				事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	13	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助	胃切除術を受ける対象に対する看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「VII 4. 開腹術を受ける人の看護」を読み、胃がんの原因と誘因、症状と発生機序、分類と進行度、術式と各術式の特徴（切除部位、再建方法）などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	14	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助	開心術を受ける対象に対する看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編の「VII 2. 開心術を受ける人の看護」を読むこと。 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
	15	形態変化や機能障害への適応とセルフケア能力獲得促進のための看護援助	人工股関節置換術を受ける対象に対する看護援助	事前課題：教科書「周手術期看護論」パート2実践編のVII 7. 運動器の手術を受ける人の看護」を読み、関節リウマチの原因と誘因、症状と発生機序、分類、術式と各術式の特徴などをまとめておくこと 事後課題：講義後に配布する国家試験問題を解いておくこと																
関連科目	成人看護学概論 I・II 成人病態看護論 人体の構造と機能 I～IV 病理学総論 疾病治療論 I・II 感染と防御																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>周手術期看護論（第3版）</td> <td>雄西智恵美・秋元典子編</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術</td> <td>野島真奈美 他編</td> <td>南江堂（目安価格3,240円）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）	2	看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格3,240円）	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	周手術期看護論（第3版）	雄西智恵美・秋元典子編	ヌーヴェルヒロカワ（目安価格2,592円）																	
2	看護学テキスト NICE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂（目安価格3,240円）																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	定期試験（事後課題の国家試験問題を試験範囲に含める） 評価割合：定期試験 100%																			
学生へのメッセージ	急性期にある対象に対しては、迅速な対処を必要とされることが多く、看護の展開が速いのが特徴です。習得した知識を個別の対象に適用できるためには、十分な事前・事後学習が不可欠です																			
担当者の研究室等	7号館3階 研究室30（竹下）																			
備考																				

科目名	成人看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	白田 久美子, 松本 葉子, 森谷 利香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 慢性的な健康問題のある成人期の人々を理解し、対象が主体的に療養生活に取り組むために必要な看護援助を学習する。また代表的な慢性病をモデルにして、疾病や症状をコントロールするために必要とされる対象のセルフケア、ストレスコーピング、生活の再構築や適応を促進するための看護の援助方法について学習する。</p> <p><b>【学習目的】</b> 慢性的な健康問題を有する成人期の対象と家族の特徴を踏まえ、そのQOLの維持・向上、および主体的な療養生活に向けた看護を実践する能力を身につけることができる。</p>
到達目標	<p><b>【一般目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」とその家族が、慢性的な健康問題によって受ける心身や生活、QOL、倫理的な影響について説明できる。</li> <li>2. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族の、QOLの維持・向上のために必要なセルフケア、ストレスコーピング、あるいは生活の再構築や適応の促進に向けた看護の援助方法について理解し、また、これに関連する援助技術を習得できる。</li> <li>3. 代表的な慢性病をモデルにして、対象とその家族が主体的な療養生活を送り、QOLの維持・向上のために必要なチーム医療について理解し、看護の役割について説明できる。</li> <li>4. 対象とその家族の看護問題の解決に向けて、主体的な学習態度で取り組むことができる。また、看護職者としての価値観、態度、信念を養う。</li> </ol>
授業方法と留意点	授業方法は講義を中心とし、演習やグループワークを含める。事前学習と講義をつなげて理解を深め、事後には復習やレポート課題によって知識の確実な習得を目指すとともに自分の考えをまとめる。また、講義の途中で小テストを行い、知識の確認を行う。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	セルフケアを促進するための看護援助1)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護①	<p><b>【事前学習】</b> 課題1を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>
2	セルフケアを促進するための看護援助2)	慢性心不全により活動耐性の低下した患者の理解と看護②	<p><b>【事前学習】</b> 課題1を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-2-4を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
3	セルフケアを促進するための看護援助3)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護①	<p><b>【事前学習】</b> 課題5を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
4	セルフケアを促進するための看護援助4)	慢性腎不全により恒常性の維持が困難になった患者の理解と看護②	<p><b>【事前学習】</b> 課題5を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-5-1を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
5	セルフケアを促進するための看護援助5)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護①	<p><b>【事前学習】</b> 課題4を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
6	セルフケアを促進するための看護援助6)	糖尿病によりライフスタイルの修正が必要な患者の理解と看護②	<p><b>【事前学習】</b> 課題4を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-4-1を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。</p>	
7	ストレスコーピングを促進するための看護援助1)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護①	<p><b>【事前学習】</b> 課題3を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
8	ストレスコーピングを促進するための看護援助2)	慢性肝炎により肝硬変・肝がんへの進行の不安を抱く患者の理解と看護②	<p><b>【事前学習】</b> 課題3を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-3-2, 3, 4を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
9	ストレスコーピングを促進するための看護援助3)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護①	<p><b>【事前学習】</b> 課題7を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
10	ストレスコーピングを促進するための看護援助4)	白血病の寛解をめざす患者の理解と看護②	<p><b>【事前学習】</b> 課題7を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第V章-6-2を読んでおくこと。</p> <p><b>【事後学習】</b> 教科書と資料の内容を復習すること。</p>	
11	ストレスコーピングを促進	肺がんによる症状マネジメントを必要	<b>【事前学習】</b>	

		するための看護援助 5)	とする患者の理解と看護	課題 2 を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第 V 章-1-3 を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	12	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 1)	膠原病（関節リウマチ）によりライフイベントに影響を受ける患者の理解と看護	【事前学習】 課題 6 を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第 V 章-6-4 を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	13	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 2)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護①	【事前学習】 課題 8 を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第 V 章-7-3 を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。																
	14	生活の再構築や適応を促進するための看護援助 3)	筋萎縮性側索硬化症により身体活動が制限された患者の理解と看護②	【事前学習】 課題 8 を中心に、病態の復習を行うこと。教科書第 V 章-7-3 を読んでおくこと。 【事後学習】 教科書と資料の内容を復習すること。またレポートを課す。																
	15	学習のまとめ	学んだことを整理し、慢性の病の特徴を踏まえ、対象を理解する	【事前学習】 第 1 回～14 回の講義の内容を復習しておくこと。 【事後学習】 レポートを課す。																
関連科目	成人看護学概論、成人病態看護論、疾病・治療論 I～II、人体の構造と機能 I～IV、病理学総論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学 慢性期看護</td> <td>鈴木久美他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	成人看護学 慢性期看護	鈴木久美他	南江堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>慢性期看護論</td> <td>鈴木志津枝他</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 (2) ～(8)、(11)</td> <td></td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ	2	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 (2) ～(8)、(11)		医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	慢性期看護論	鈴木志津枝他	ヌーヴェルヒロカワ																	
2	系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学 (2) ～(8)、(11)		医学書院																	
3																				
評価方法 (基準)	筆記試験(75%)、小テスト(10%)、レポート(15%)の内容を総合して評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目ではさまざまな慢性の病を持つ対象と家族への看護を学びます。慢性の病をもつ対象への関心を深め、また今後の看護実践につなげるために、積極的に学習してください。																			
担当者の研究室等	研究室 29(森谷)																			
備考																				

科目名	成人病態看護論	科目名(英文)	Adult Nursing in Clinical State
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川畑 安正, 白田 久美子, 松本 葉子, 竹下 裕子, 森谷 利香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 様々な症状を呈する成人期の人々に対して、看護を提供するためには、その症状の原因や発生機序、経過、増悪あるいは軽減させる要因について理解する必要がある。本科目では、成人期にある対象の主要な症状を取り上げて、病態とその病態が対象者に及ぼす身体的・心理的・社会的な影響及び的確なアセスメントと看護援助の方法について学習する。</p> <p><b>【目的】</b> 疾病やそれに伴う治療・処置、または、事故や災害などにより発現あるいは増悪する身体症状について、その体験が成人期の対象やその家族に与える身体的・心理社会的影響をふまえ、アセスメントから看護実践につなげる方法を理解する。なお、疾病については発症から終末までのすべての病期を含む。</p>
---------	---

到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症状を発現する病態を理解する</li> <li>2. 症状がもたらす今後の予測される経過とそれに対する看護方針を理解する</li> <li>3. 症状の予防、緩和、および、症状に伴う苦痛の軽減、二次障害の予防のための看護実践方法を理解する</li> <li>4. 終末期にある対象を総合的・全人的に理解し、苦痛の緩和とその人らしさを支える看護実践及び、看取りをする家族への看護について理解する</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	授業方法は講義を中心として、一部は模擬患者（ペーパーペーシェント）を用いて演習を行う。
----------	---

科目学習の効果（資格）	病態や症状に関する看護方法は、看護を実践するうえで不可欠な基礎的能力です。
-------------	---------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	症状を体験する成人の理解と看護 消化・吸収・代謝機能に関連する症状と看護1	症状のとらえ方、症状のメカニズム、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護 便秘：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「便秘」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
2	消化・吸収・代謝機能に関連する症状1	悪心・嘔吐：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「悪心・嘔吐」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
3	消化・吸収・代謝機能に関連する症状3	腹痛：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 消化器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「腹痛」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
4	呼吸・循環機能に関連する症状1	咳嗽・喀痰：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 呼吸器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「咳嗽・喀痰」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
5	呼吸・循環機能に関連する症状2	呼吸困難：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器、Vol.5 循環器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「呼吸困難」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
6	呼吸・循環機能に関連する症状3	胸痛：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.4 呼吸器、Vol.5 循環器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「胸痛」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
7	循環機能に関連する症状1	動悸：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 循環器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「動悸」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
8	循環機能に関連する症状2	浮腫：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 循環器 Vol.8 腎・泌尿器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「浮腫」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
9	循環機能に関連する症状3	ショック：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.1 循環器の〈解剖〉、〈生理〉、および、「ショック」に関連する箇所の復習 事後：教科書および資料の復習
10	脳神経機能に関連する症状1	意識障害、昏睡：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の〈神経系の構造と機能〉、および、「意識障害(p456)」の復習 事後：教科書および資料の復習
11	脳神経機能に関連する症状2	運動麻痺：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状をもつ対象のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：病気がみえる Vol.7 脳・神経の〈運動・感覚・自律神経〉の p160-177 の復習 事後：教科書および資料の復習
12	症状をもつ対象のアセスメント	模擬事例 1 を使用したアセスメントの	事前：1～11 回の授業の復習

		ント	解説 模擬事例2を使用したグループ演習 【演習内容】 1. 情報整理 2. 症状の状態、および、症状に関連している因子の分析 3. 症状にともなう今後の経過の予測 4. 症状をもつ対象の看護上の問題の明確化	事後：【演習内容】1と2の個人ワーク
	13	症状をもつ対象のアセスメント2	第12回「症状をもつ対象のアセスメント」と同様	事前：【演習内容】1と2の個人ワーク 事後：グループ課題の提出
	14	終末期看護	終末期の対象の特徴 終末期にある人とその家族への看護援助	事前：成人看護学概論Ⅱの教科書および授業資料の終末期の対象の特徴と看護に関連する部分の復習 事後：資料の復習
	15	終末期の特徴的な症状	疼痛：症状の定義とメカニズム、随伴症状と二次障害、症状に対する検査と治療、症状のアセスメント、症状をもつ対象への看護方針と援助方法	事前：教科書1.の「がん性疼痛」の〈基礎的知識〉を予習 事後：教科書および資料の復習
関連科目	人体の構造と機能1～4、疾病・治療論1～2、病理学総論、成人看護学概論1～2、成人看護援助論1～2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版	高木永子監修	学研
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(85%)、提出課題(15%)により総括評価する。			
学生への メッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しない。			
担当者の 研究室等	研究室28(松本)			
備考				

科目名	成人看護学援助方法	科目名(英文)	Adult Nursing Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期後半	授業担当者	川畑 安正、白田 久美子、松本 葉子、竹下 裕子、森谷 利香、吉川 有葵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>[概要] 成人期にある看護の対象となる人々の健康段階における代表的な健康問題のある事例を取り上げて、看護過程の展開について学習する。また、成人看護学において必要とされる看護技術について、演習を通して修得する。</p> <p>[目的] 成人期にある対象、およびその家族のニーズを、健康レベルや生活背景を踏まえてアセスメントしたうえで、根拠に基づいた看護を計画展開できる基礎的能力を養う。また、アセスメントをもとにした模擬患者への看護援助技術の提供や患者役の体験を通して、より適切な看護援助技術の実践に向けた事故の課題に気付くことができる。学内実習の振り返りをとおして、看護職者としての倫理観やより質の高い看護実践を展開する応用力を養う。</p>
到達目標	<p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象に適切な看護技術を提供するための情報を得る方法を模擬患者への実践をとおして考察する。</li> <li>2. 進退情報の判断に応じた看護技術の模擬患者への実践をとおして、自己の判断や技術を評価する。</li> <li>3. 模擬患者の情報をもとに、根拠に基づいた看護を計画する方法を理解する。</li> <li>4. 模擬患者への看護援助およびロールプレイをとおして、対応への倫理的配慮をふまえた態度を考察する。</li> </ol>
授業方法と留意点	授業方法は模擬患者（ペーパーペーシェントやシミュレータ）を用いたグループでの演習を中心に行う。原則として欠席は認めない。
科目学習の効果（資格）	成人看護学実習で実際に活用する援助方法です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後課題
1	気道浄化ケア 1	気道内分泌物の排出の援助：排痰法、体位ドレナージ、吸引	事前課題：配布資料参照	事後課題：実践後の振り返りレポート
2	気道浄化ケア 2	第1回 気道浄化ケア 1と同様	第1回 気道浄化ケア 1と同様	
3	看護過程 1	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する アセスメント（情報の解釈・分析まで）	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録の提出
4	看護過程 2	第3回 看護過程 1と同様	第3回 看護過程 1と同様	
5	看護過程 3	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する アセスメント（情報の分析と統合）、看護問題の明確化	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録の提出
6	看護過程 4	第5回 看護過程 3と同様	第5回 看護過程 3と同様	
7	看護過程 5	事例（ペーパーペーシェント）をもとにグループワークにより看護過程を展開する 目標の設定、看護計画の立案	事前課題：演習に関する資料および課題を事前に配布する。事前課題を完成していない場合、演習への参加を認めない。	事後課題：グループワークの記録の提出
8	看護過程 6	第7回 看護過程 5と同様	第7回 看護過程 5と同様	
9	慢性的な健康問題を持つ対象の看護 1	慢性的な健康問題を持つ対象への患者教育技術を実践する ・対象の教育課題に応じた媒体を部分的に作成する ・対象への技術教育を実践する ・対象に有用な教育方法を考察する	事前学習：配布資料を読み、技術の手順と留意点を確認する。また、資料の事例に対する技術教育のシナリオを検討し、教育媒体を部分的に作成する。	事後学習：演習での技術教育の場面を振り返るとともに対象に有用な教育方法を考察する。
10	慢性的な健康問題を持つ対象の看護 2	慢性的な健康問題を持つ対象への患者教育技術を実践する ・対象の教育課題に応じた媒体を部分的に作成する ・対象への技術教育を実践する ・対象に有用な教育方法を考察する	事前学習：配布資料を読み、技術の手順と留意点を確認する。また、資料の事例に対する技術教育のシナリオを検討し、教育媒体を部分的に作成する。	事後学習：演習での技術教育の場面を振り返るとともに対象に有用な教育方法を考察する。
11	術後患者の看護 1-1	術後に病室に入室した時の最初の観察を実施する 実施を振り返り、術直後の対象の特徴に合わせた観察方法を考察する	事前課題：配布資料参照	事後課題：実施の振り返りを通じたレポートの作成と提出
12	術後患者の看護 1-2	第11回 術後患者の看護 1-1と同様	第11回 術後患者の看護 1-1と同様	
13	術後患者の看護 2-1	・術後1日目の早期離床および清潔ケアの援助を実践する。 ・術後の患者に挿入されている点滴・ドレーン類の適切な扱い方を学ぶ。	事前課題：配布する課題に沿って、早期離床および清潔ケアの意義、手順などをまとめる。	事後課題：実践の振り返りを行い、手順やポイントなどを追加修正をした上で課題を完成させて提出する。
14	術後患者の看護 2-2	第13回 術後患者の看護 2-1と同様	第13回 術後患者の看護 2-1と同様	
15	輸液管理技術	輸液ポンプとシリンジポンプを使用した輸液の実施	事前学習：配布資料参照	事後学習：実施を振り返り、事後課題を仕上げ、提出する。

関連科目 人体の構造と機能 1～4、疾病・治療論 1～2、病理学総論、成人看護学概論 1～2、成人看護援助論 1～2、成人病態看護論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術	野島真奈美 他編	南江堂
	2	成人看護学 周手術期看護論(第3版)	雄西智恵美 秋元典子 編	スーヴェルヒロカワ
	3	慢性期看護	鈴木久美 他	南江堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (30%)、演習課題の達成状況 (70%) により総括評価する。			
学生への メッセージ	関連科目の理解が本科目の学習につながるため、予習復習を確実に行ってください。原則として演習を欠席した場合の補講は実施しません。グループ学習を基本とします。メンバー間でよい学びができるよう協力してください。また、看護はチーム医療の一員です。グループワークを通し、リーダーシップやメンバーシップを習得してください。			
担当者の 研究室等	研究室 28 (松本)			
備考				

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	川畑 安正. 竹中 泉. 松本 葉子. 竹下 裕子. 森谷 利香. 吉川 有 葵. 志戸岡 恵子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理社会的側面から理解して、身体的・心理的危機を乗り越え、自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p> <p><b>【実習目的】</b> 1. 既習の看護実践に必要な知識・技術・態度を実際の場面に応用し、手術療法を受ける対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。 2. 周手術期における看護の機能と役割について理解し、保健・医療・福祉の分野におけるチームの一員として、協働・連携するための基礎的能力を養う。 3. 実習を通して、看護観と看護職者に求められる倫理観を深めて人間的に成長し、専門職業人として自己研鑽を積む能力を育む。</p>																
到達目標	<p><b>【実習目標】</b> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別的特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【実習方法】</b> 1. 実習施設で3週間の臨地実習を行う。 2. 実習1グループ5名程度の編成とし、教員および臨地実習指導者の指導を受ける。 3. 実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項等のオリエンテーションを受ける。 4. 実習目的・目標をもとに、自分の実習における目標と課題を明確にする。 5. 成人期特有の健康障害の急性期にある対象の看護に関する事前学習をして実習に臨む。 6. 原則手術を受ける対象を1名受け持ち、その対象を通して学習する。 7. 受け持ち対象の周手術期の経過に応じた看護過程を展開する。 8. 原則受け持ち対象の手術の見学実習を行う。 9. 毎日、学生主体のカンファレンスを行い、自分の一日の振り返りと翌日の計画や、実習メンバーの受け持ち対象の看護内容について意見交換し理解を深める。 10. 実習目標に関連したテーマでカンファレンスを行う。 11. 実習記録は、必ず記録し、教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 12. 実習最終日に、実習グループで、実習における学びを発表し、他グループの発表と意見交換を通して学びを共有する。</p> <p><b>【実習施設】</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習内容】</b> 1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえる。 2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容をふまえて、対象の意思決定の過程を理解する。 3. 対象やその家族と援助的関係を形成する。 4. 対象の全体像をとらえううえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定する。 5. 看護計画を立案し、実施、評価、修正する。 6. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録する。 7. 手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解する。 8. 手術見学を通して対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を理解する。 9. 手術室看護師が実施する看護を見学し、その目的を理解する。 10. 手術室の清潔環境を維持するための行動をする。 11. 麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助をする。 12. 術後合併症の早期発見につながる観察をする。 13. 手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助をする。 14. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門の役割を理解する。 15. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性を理解する。 16. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につける。 17. 対象が直面する倫理的課題に対する自らの考えを述べる。 18. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつ。 19. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別的特徴による看護実践の違いを明確にする。 20. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出す。 21. 理論的知識や先行研究の成果などを探索し、自らの学習に活用する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、事前学習、記録提出物、実習に対する態度、実習目標に対する学生の自己評価および教員評価などから総合的に評価する。																

学生への メッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	成人看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Adult Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	川畑 安正. 竹中 泉. 松本 葉子. 竹下 裕子. 森谷 利香. 吉川 有葵. 志戸岡 恵子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業概要】</b> 急性状態を経過している成人期の人々に対して援助的人間関係を築き、対象を身体的・心理社会的側面から理解して、身体的・心理的危機を乗り越え、自己管理に向かうことができるよう、看護実践に必要な能力及び態度を修得する。</p> <p><b>【実習目的】</b> 1. 既習の看護実践に必要な知識・技術・態度を実際の場面に応用し、手術療法を受ける対象を全人的にとらえ、理論と実践を結びつけた看護活動を展開する能力を養う。 2. 周手術期における看護の機能と役割について理解し、保健・医療・福祉の分野におけるチームの一員として、協働・連携するための基礎的能力を養う。 3. 実習を通して、看護観と看護職者に求められる倫理観を深めて人間的に成長し、専門職業人として自己研鑽を積む能力を育む。</p>																
到達目標	<p><b>【実習目標】</b> 1. 手術を受ける対象と関係を築きながら全人的に理解し、援助的関係を形成できる。 2. 手術を受ける対象の個別の特徴や状態を理解し、看護過程を通して根拠に基づいた看護を実践できる。 3. 術前・術中・術後の基本的な看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる。 4. 周手術期の全過程を通じて一貫性・連続性を維持できるよう、医療チームの一員として関係職者との協働・連携の必要性について理解できる。 5. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につけ、看護実践における倫理的な感性を高めることができる。 6. 自らの実践を振り返ることで自己の課題を見出し、自己研鑽し続けることの重要性が理解できる。</p>																
授業方法と留意点	<p><b>【実習方法】</b> 1. 実習施設で3週間の臨地実習を行う。 2. 実習1グループ5名程度の編成とし、教員および臨地実習指導者の指導を受ける。 3. 実習前に、実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項等のオリエンテーションを受ける。 4. 実習目的・目標をもとに、自分の実習における目標と課題を明確にする。 5. 成人期特有の健康障害の急性期にある対象の看護に関する事前学習をして実習に臨む。 6. 原則手術を受ける対象を1名受け持ち、その対象を通して学習する。 7. 受け持ち対象の周手術期の経過に応じた看護過程を展開する。 8. 原則受け持ち対象の手術の見学実習を行う。 9. 毎日、学生主体のカンファレンスを行い、自分の一日の振り返りと翌日の計画や、実習メンバーの受け持ち対象の看護内容について意見交換し理解を深める。 10. 実習目標に関連したテーマでカンファレンスを行う。 11. 実習記録は、必ず記録し、教員および臨地実習指導者からの助言・指導を受ける。 12. 実習最終日に、実習グループで、実習における学びを発表し、他グループの発表と意見交換を通して学びを共有する。</p> <p><b>【実習施設】</b> 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習内容】</b> 1. 対象の身体的、心理社会的状態を理解し、全体像をとらえる。 2. 対象への病名告知、治療方法・手術の説明内容をふまえて、対象の意思決定の過程を理解する。 3. 対象やその家族と援助的関係を形成する。 4. 対象の全体像をとらえううえで、看護問題を抽出し、優先順位を決定する。 5. 看護計画を立案し、実施、評価、修正する。 6. 受け持ち終了時に、現在の状態の要約、継続看護の視点においてサマリーを記録する。 7. 手術に向けた身体的、心理社会的準備状態をふまえて、術前オリエンテーション・術前準備について理解する。 8. 手術見学を通して対象が受けた麻酔・手術内容および手術経過を理解する。 9. 手術室看護師が実施する看護を見学し、その目的を理解する。 10. 手術室の清潔環境を維持するための行動をする。 11. 麻酔・手術侵襲に対する生体反応をふまえて術後合併症の予防に向けた援助をする。 12. 術後合併症の早期発見につながる観察をする。 13. 手術による形態機能変化に対して必要となる新たなセルフケア能力獲得をうながすための援助をする。 14. 周手術期の各段階で、対象にかかわる職種や部門の役割を理解する。 15. 医療チームにおける看護師の役割および関係職種との協働・連携の必要性を理解する。 16. 実習を通して、人間の尊厳と権利を尊重した態度を身につける。 17. 対象が直面する倫理的課題に対する自らの考えを述べる。 18. 対象の看護に積極的に参加し、自らの行動に責任をもつ。 19. グループディスカッションを通して、疾患・術式、個別の特徴による看護実践の違いを明確にする。 20. 自らの看護実践の振り返りにより自己の課題を見出す。 21. 理論的知識や先行研究の成果などを探索し、自らの学習に活用する。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	成人看護学領域の授業科目で使用した教科書、提示した資料など 疾病・治療論で使用した教科書、提示した資料など																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要に応じて適宜紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて適宜紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	必要に応じて適宜紹介する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習期間出席した上で、事前学習、記録提出物、実習に対する態度、実習目標に対する学生の自己評価および教員評価などから総合的に評価する。																

学生への メッセージ	対象の経過は急性に短期間に変化するので、その時の対象の反応に対してどのような援助が必要か、自分の観察力、洞察力を発揮し、また自分の課題とも向き合い、自己の成長につなげてください。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	白田 久美子, 川畑 安正, 松本 葉子, 竹中 泉, 竹下 裕子, 森谷 利香, 吉川 有葵, 志戸岡 恵子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOLの充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOLの維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>4) 対象とその家族のQOLの維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。</li> <li>6) 自らの看護実践について、対象と家族のQOLの維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>8) 実習を通じた学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする)</li> <li>3. 実習施設 社団法人全国社会保険協会連合会 星ヶ丘厚生年金病院 市立枚方市民病院 関西医科大学附属枚方病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習内容】</b> 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション</li> <li>・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション</li> <li>・日常生活上の援助</li> <li>・治療や処置に関する援助</li> <li>・患者教育</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	成人看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Adult Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	白田 久美子, 川畑 安正, 松本 葉子, 竹中 泉, 竹下 裕子, 森谷 利香, 吉川 有葵, 志戸岡 恵子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 慢性的な健康問題のある成人期の人々に対して、援助的人間関係を築き、対象者を身体的・心理的・社会的側面から理解して、QOL の充実に向けて対象者が主体的に療養生活に取り組むことができるよう、看護実践に必要な能力および態度を修得する。</p> <p><b>【目的】</b> 慢性的な経過をたどる健康障がいをもつ対象者とその家族を理解し、その人らしく生きていくことができるよう支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<p><b>【目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 慢性的な健康問題を有する成人期の対象(以下「対象」)、およびその家族の健康状態と多様な背景について発達段階・発達の特性を踏まえて説明できる。</li> <li>2) 対象、ならびにその家族と援助的人間関係を築くことができる。</li> <li>3) 対象の健康状態や療養上のニーズについて生活背景を踏まえてアセスメントし、QOL の維持・向上のために根拠に基づいた看護を計画し、実践できる。</li> <li>4) 対象とその家族の QOL の維持・向上に必要なチーム医療について理解し、チームにおける看護の役割について説明できる。</li> <li>5) 対象とその家族が直面している倫理的課題について理解し、意思決定の尊重と権利擁護のための行動がとれる。</li> <li>6) 自らの看護実践について、対象と家族の QOL の維持・向上にどのように貢献したのか、また、自己の看護者としての成長について振り返り、課題を明らかにできる。そして、課題の解決に向けて主体的な学習態度で取り組むことができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習グループは原則として1グループ5名編成とする。</li> <li>2) 実習目的・目標、実習計画、事前学習、実習施設概要、留意事項などのオリエンテーションを受ける。</li> <li>3) 実習目的・目標達成に向けて必要な事前学習を行う。</li> <li>4) 臨地に向き、看護過程に沿って、担当教員・臨地実習指導者の指導のもと実習を行う。</li> <li>5) カンファレンスは指定したテーマに基づいて行い、体験や学びをグループで共有するとともに、その後の実践につなげる。</li> <li>6) 実習中に看護過程、サマリー、カンファレンス資料、レポートなどの記録物を作成する。すべての記録物は、期日を厳守して提出する。</li> <li>7) 実習を通して、自己の課題を明確にする。</li> <li>8) 実習を通した学びを振り返り、発表することで、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>2. 実習期間・病棟実習時間 期間…3週間 病棟実習時間…9時～16時(うち1時間を休憩とする)</li> <li>3. 実習施設 社団法人全国社会保険協会連合会 星ヶ丘厚生年金病院 市立枚方市民病院 関西医科大学附属枚方病院 国家公務員共済組合連合会 枚方公済病院</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習内容】</b> 看護過程に沿って以下のような看護を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション</li> <li>・バイタルサインの測定、フィジカルイグザミネーション</li> <li>・日常生活上の援助</li> <li>・治療や処置に関する援助</li> <li>・患者教育</li> </ul>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、および事前学習から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	老年看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Gerontological Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 千登勢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	老年看護の理念とライフサイクルにおける老年期の主要概念を理解した上で、高齢者とその家族に、健康とQOLを高めるための理論と知識及び看護の役割を学ぶ。具体的には、高齢者の現状と特徴を衛生統計を通して学び、高齢化に伴う生活に及ぼす要因について理解し、質の高い健康生活のあり方を学ぶ。さらに高齢者とその家族の健康維持のための社会保障サービスにおける看護活動について学習する。
到達目標	老年看護の概要が理解できる。 老化現象について生理的老化と病的老化が理解できる。 高齢化社会について、疫学的側面から理解できる。 高齢者看護に必要な医療・福祉・看護の法律が理解できる。
授業方法と留意点	基本的には授業計画に沿って授業します。指定した教科書を中心に講義を進めます。必要に応じてプリントを配布しますが、プリントの内容も重要事項となります。 学生たちで発見学習、学習内容の発表も入れています。 普段から広い視野で学習する習慣を身につけましょう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験の科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	老年看護の概念	老年看護とは 老年看護の役割と機能、原則	老年看護を学ぶにあたり、基本的なことを講義します。 テキストを予習して、概要をとらえておいてください。 今後の講義や実習の根幹になりますので、しっかり復習すること。
2	老化の概念	老化現象：人が老いることについて、諸説を学びます。 老化理論：人はなぜ老化するのかについて諸説を学びます。	高齢者を理解するにあたり、基本的なことを講義します。 テキストを予習して、概要をとらえておいてください。 今後の講義や実習の根幹になりますので、しっかり復習すること。
3	老化現象の理解(1)	老年期にある人の身体的変化について学びます。 身体的な側面から老化現象を調べます。	老化現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
4	老化現象の理解(2)	老年期にある人の精神的変化・社会的変化について学びます。 精神・心理的・社会的な側面から老化現象を調べます。	老化現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。
5	老化現象の理解(3)	老年期にある人の老化現象について全体的とらえます。 調べた内容をまとめてみましょう。	老化現象について、参考図書等を活用して、予習・復習してください。 調べたことをまとめ、プレゼンする準備をしましょう。
6	老化現象の理解(4)	老年期にある人の身体的・精神心理的・社会的変化について全体像として学びます。 調べた内容を発表します。	学んだことをすべて復習しましょう。自分なりにまとめることを試してみましょう。
7	老化の概念・老化現象のまとめ	老年期にある人の身体的・精神心理的・社会的変化について発表内容を振り返ります。補足事項の講義をします。	発表内容の復習をしましょう。講義や他者の発表内容をきちんとまとめてみましょう。
8	高齢化社会への対応	我が国の高齢化現象を、衛生統計上から理解し、高齢者の生活を考えてみます。	国民衛生の動向「第2編 衛生の主要指標」を予習しておきましょう。
9	高齢者を取り巻く関連法(1)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、老人福祉法と老人保健法について、まず、老人福祉法から講義を進めます。	テキスト第3章と国民衛生の動向「第3編 保健と医療の動向 第2章2-1 老人保健対策の動向」を予習しておきましょう。
10	高齢者を取り巻く関連法(2)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、老人福祉法と老人保健法について、老人保健法を中心に講義をします。	テキスト第3章と国民衛生の動向「第3編 保健と医療の動向 第2章2-1 老人保健対策の動向」を予習しておきましょう。
11	高齢者を取り巻く関連法(3)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、介護保険法について講義をします。 おもに、介護保険法が成立した経緯と趣旨、さらに医療法との関連、介護保険と高齢者について講義をします。	テキスト第3章と国民衛生の動向「第4編 医療保険・介護保険」を予習しておきましょう。
12	高齢者を取り巻く関連法(4)	高齢者の保健・医療・福祉対策として、介護保険法について講義をします。 高齢者への介護保険制度として法の適応、具体的な実施について講義をします。 さらに、高齢者とその家族へのサポートシステムについて学び、その中の看護の役割を講義します	テキスト第3章と国民衛生の動向「第4編 医療保険・介護保険」を予習しておきましょう。
13	老年期にある人の看護活動	高齢者看護を実践する場、病院や施設、地域等における看護の特徴について講義をします。	学んだことをすべて復習しましょう。学習した内容は自分でまとめること。
14	高齢者看護のありかた	高齢者との看護や関わり方の実際を映像から総合的に学びます。 学びを課題レポートとして提出してください。	今までに学んだことを総復習して、授業を受けてください。 レポートには、その学びをもとに表せるよう心がけましょう。
15	老年期の保健指導	授業に前半は、老年期にある人とその家族への保健指導の方法と実際について	学んだことをすべて復習しましょう。自分なりにまとめることを試してみましょう。

			講義します。 授業の後半は1回目からの総まとめをおこないます。																	
関連科目	看護学概論、公衆衛生学、老年看護学援助論1、老年看護学援助論2、 看護関係法規																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学 概論と看護の実践</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーヴェルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学 概論と看護の実践	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	老年看護学 概論と看護の実践	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2014/2015</td> <td></td> <td>厚生労働統計協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2014/2015		厚生労働統計協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	厚生指標 増刊 国民衛生の動向 2014/2015		厚生労働統計協会																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験(80%)、レポート(20%) 試験は客観的問題と論述問題を合わせて出題します。 レポートは、提出されたレポートを評価します。																			
学生への メッセージ	予習、復習はもちろんのことですが、できるだけ高齢者と接する機会を増やして、高齢者を理解してください。																			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																			
備考																				

科目名	老年看護学援助論 I	科目名 (英文)	Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	徳重 あつ子、小崎 篤志、金原 京子、七山 知佳、松田 千登勢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>(概要) ヘルスプロモーションの視点から、高齢者がエイジングに適応し健康管理や健康保持増進に向けた看護について学びます。具体的には、加齢現象により日常生活能力が変化した高齢者に、QOLの高い生活を送るための理論と知識並びに援助について学習します。さらに高齢者体験等の演習を通して高齢者理解を深めます。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(徳重あつ子/8回) 加齢現象に伴う日常生活能力の低下と援助方法</p> <p>(金原京子/4回) 老化に伴う症状のアセスメントと援助方法</p> <p>(徳重あつ子、金原京子、七山知佳/3回) 高齢者疑似体験演習</p> <p>(6 小崎篤志/8回) 高齢期にあたる人の身体の構造や機能変化のメカニズム、医学的対応が必要となる高齢期に起こりうる特徴的な疾病を取り上げ、疾病の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習します。</p>			
	到達目標	<p>1) 加齢現象を理解した上で、加齢に伴う日常生活能力の変化をアセスメントし、それに適した援助が理解できる。 2) 高齢者疑似体験をすることで、高齢者に適した援助を考察することができる。 3) 高齢者に多く見られる代表的な疾患の病態、治療法を理解できる。</p>		
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画に沿って授業を実施します。テキストを中心に授業を進めますが、プリントなどの補助教材を使用しますので、併せて学習するようにしてください。前半は講義中心の授業ですが、後半には、高齢者疑似体験と高齢者への具体的な援助方法について、演習を行います。学習の習熟度については、小テストを行うこともあります。また、演習にはレポートを課し、評価の対象とします。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>看護師国家試験</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	老化による日常生活機能の低下と援助(1)	【コミュニケーション】 高齢者のコミュニケーション機能から、高齢者との適切なコミュニケーションについての方法を学習します。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。授業後はきちんと復習する習慣を身につけましょう。
	2	老化による日常生活機能の低下と援助(2)	【適切な活動・運動】 老化による運動機能の低下と姿勢・活動の変化について、日常生活を視点におきながら学びます。さらに高齢者に適切な運動と活動への援助について学習します。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
	3	老化による日常生活機能の低下と援助(3)	【睡眠と休息】 老化による睡眠の特徴と変化、適切な休息の取り方について学び、高齢者の睡眠と休息の援助方法を学習します。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
	4	老化による日常生活機能の低下と援助(4)	【保清・衣服の調整】 老化による外皮系の機能の変化を知り、適切な保清などの援助方法について学びます。さらに、高齢者の年齢や活動に応じた衣服の選択についても学習します。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
	5	老化による日常生活機能の低下と援助(5)	【食事】 高齢者が健康に暮らすための栄養と食事について学習します。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
	6	老化に伴う症状のアセスメントおよび援助(1)	【水分出納・脱水】 老化に伴い、水分の出納や腎機能に変化が生じます。そのため、脱水や尿の量や性状に変化が起ってきます。それらの関連性や機序を理解し、適切な援助方法を学びます。	人体の構造と機能、基礎看護学で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
	7	老化による日常生活機能の低下と援助(6)	【環境調整】 老化現象により、感覚機能や運動機能に変化が起こります。環境によりどのように高齢者が反応し、危険等があるか講義し、適切な環境調整を学びます。	基礎看護学で学んだ知識を復習して授業に臨んでください。
	8	老化に伴う症状のアセスメントおよび援助(2)	【転倒・転落】 老化に伴い、転倒しやすくなります。転倒の原因などを知り、転倒予防と転倒による傷害および寝たきりについて学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
	9	老化に伴う症状のアセスメントおよび援助(3)	【褥瘡】 高齢者が寝たきり等になると褥瘡が発生しやすくなります。褥瘡について、最新の知識と予防方法、援助方法について学びます。	人体の構造と機能、基礎看護学で学んだことを復習し、授業に臨んでください。
	10	老化に伴う症状のアセスメントおよび援助(4)	【嚥下障害】 老化によって摂食、嚥下障害がおこり、低栄養や誤嚥性肺炎になりやすくなります。解剖学的、生理学的に復習し、嚥下障害の機序を学び、正しい食事への援助方法を学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学で学んだことを復習して授業に臨んでください。
11	老化による日常生活の	【演習】 グループに分かれ、高齢者疑似	演習方法について事前にオリエンテーションを行いま	

	低下に対する援助:演習	体験などを行います。	す。レポート課題があります。																
12	老化による日常生活の低下に対する援助:演習	【演習】グループに分かれ、高齢者疑似体験などを行います。	演習方法について事前にオリエンテーションを行います。レポート課題があります。																
13	老化に伴う症状のアセスメントおよび援助(5)	【排泄】老化に伴う、排泄機能の変化とその援助方法について学びます。とくに尿失禁、便秘について、老化に伴う特徴的变化と援助方法を学習します。	人体の構造と機能、基礎看護学で学んだことを復習をして授業に臨んでください。																
14	高齢者の薬物療法と看護	老化に伴い、薬物動態に変化が起こります。薬物動態の変化を知り、高齢者への薬物療法の援助方法について学習します。	薬理学で学んだ薬物動態の復習と、基礎看護学の「与薬」の単元を復習してから授業に臨んでください。																
15	老年看護学におけるケアマネジメント	地域包括支援センターからゲストスピーカーを招き、高齢者のケアマネジメントについて学習します。	高齢者を支える法律や制度、社会資源について復習してから授業に臨んでください。																
16	老年における疾病・治療論(脳神経1)	講義にて脳神経疾患、主に神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習																
17	老年における疾病・治療論(脳神経2)	講義にて脳神経疾患、主に神経変性疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習																
18	老年における疾病・治療論(脳神経3)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習																
19	老年における疾病・治療論(脳神経4)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習																
20	老年における疾病・治療論(脳神経5)	講義にて脳神経疾患、主に脳血管疾患の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(3)	教科書内授業部分の予習・復習																
21	老年における疾病・治療論(脳神経6)	講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(1)	教科書内授業部分の予習・復習																
22	老年における疾病・治療論(脳神経7)	講義にて脳神経疾患、主に認知症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。(2)	教科書内授業部分の予習・復習																
23	老年における疾病・治療論(骨疾患など)	講義にて骨疾患、主に骨折や骨粗鬆症の原因、主要症状、病態生理、検査法、治療法等について学習する。	教科書内授業部分の予習・復習																
24	—	—	—																
25	—	—	—																
26	—	—	—																
27	—	—	—																
28	—	—	—																
29	—	—	—																
30	—	—	—																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、薬理学総論、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅱ、看護基礎技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>老年看護学 概論と看護の実践 第5版</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病気がみえる vol.1.7 脳神経</td> <td></td> <td>メデックメディア</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 第2版</td> <td>奥野茂代、大西和子</td> <td>ヌーベルヒロカワ</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーベルヒロカワ	2	病気がみえる vol.1.7 脳神経		メデックメディア	3	老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 第2版	奥野茂代、大西和子	ヌーベルヒロカワ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーベルヒロカワ																
2	病気がみえる vol.1.7 脳神経		メデックメディア																
3	老年看護技術 アセスメントのポイントとその根拠 第2版	奥野茂代、大西和子	ヌーベルヒロカワ																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	定期試験70%、レポート30%																		
学生へのメッセージ	既習の基礎看護学を高齢者に適応する知識や技術と、老年看護概論で学んだ「老化現象」をもとにした学習になります。しっかりと復習して、理解した上で、老年看護援助論に取り組みましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階研究室5																		
備考	病理学総論・疾病治療論と同シリーズの教科書を使用します。(小崎)																		

科目名	老年看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	徳重 あつ子, 金原 京子, 七山 知佳, 松田 千登勢
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	高齢者に特有な心身の健康状態の変化についての知識をもとに、高齢者によくみられる脳神経・循環器・呼吸器・骨関節・感覚器等の疾患をもつ方への援助方法を学習します。また、認知症については、病態の理解とともに、家族や地域を含めた援助方法について学びます。さらに、臨地実習でよく遭遇する事例をもとに、科学的根拠に基づいた看護過程が展開できる能力を養います。
到達目標	1) 高齢者に良くみられる疾患をもつ対象の援助方法について理解できる。 2) 認知症の正しい理解とその援助方法について理解できる。 3) 健康障害をもち、療養中の高齢者(紙上患者)の看護過程の展開ができる。
授業方法と留意点	授業はオムニバス形式で行います。基本的にはテキストを使用して授業を進めますが、適宜プリント等の補助教材を使用します。毎回、テキストと配布したプリントを必ず持参してください。講義で学習した内容については毎回復習を行い、疑問があれば、解決を図るようにしてください。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	疾患をもつ高齢者の看護(1)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(1):脳神経疾患】主に脳血管疾患(脳梗塞)、パーキンソン病等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
3	疾患をもつ高齢者の看護(2)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(2):循環器・消化器疾患】主に心不全、逆流性食道炎等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
4	疾患をもつ高齢者の看護(3)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(3):呼吸器・泌尿器疾患】主に肺炎、閉塞性肺疾患(COPD)、前立腺肥大症等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
5	疾患をもつ高齢者の看護(4)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(4):運動器疾患】主に骨粗鬆症、変形性関節症等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
6	疾患をもつ高齢者の看護(5)	【疾患をもつ高齢者の看護についての理解(5):精神・感染症疾患他】主にうつ病、疥癬、白内障等の対象者への看護について学習します。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
7	疾患をもつ高齢者の看護(6)	【治療を受ける高齢者の看護】手術療法、リハビリテーション等の治療を受ける高齢者の看護について学習します。手術療法では、主に大腿骨頭部骨折について学びます。	病理学総論、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
8	認知症高齢者の看護(1)	認知症について、定義・診断・病態・認知症評価スケール等について学習します。	疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
9	認知症高齢者の看護(2)	認知症高齢者の看護について、具体的に学びます。映像や、手記等から、看護するものとしての考えをまとめていただきます。	前回の授業、疾病治療論、老年看護学援助論Ⅰの復習をしてから、授業に臨んでください。
10	看護過程の展開(1)	事例学習(アセスメント)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
11	看護過程の展開(2)	事例学習(アセスメント)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
12	老年看護学の発展的学習	老人看護専門看護師(CNS)をお招きし、高齢者の看護について専門家の視点からの講義をしていただきます。	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
13	看護過程の展開(3)	事例学習(グループワーク)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
14	看護過程の展開(4)	事例学習(グループワーク)	基礎看護技術Ⅳ、成人看護学、老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学援助論Ⅱの既習部分の復習をしておいてください。
15	看護過程の展開(5)	事例発表	自分のグループの発表のみではなく、他者の評価も行います。

関連科目	老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	老年看護学 概論と看護の実践 第5版	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ
2	老年看護技術 アセスメントとその根拠	奥野茂代、大西和子	ヌーヴェルヒロカワ	
3	生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	山田律子、井出訓	医学書院	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物（授業内で指示するもの） 40%			
学生への メッセージ	疾患をもつ対象者の看護については既習のものが多いと思いますが、老年期における特徴をふまえて考えていくことが必要となります。高齢者によくみられる疾患の特徴と、どのような看護を必要とするのかについての基本を学習しますので、これまでに学習した疾病治療論や看護の実践方法について復習をしておいてください。			
担当者の 研究室等	7号館 3階研究室 5			
備考	看護過程の展開の演習は進度によって、内容が変更になる場合があります。 授業中に案内します。			

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	徳重 あつ子, 金原 京子, 小川 宣子, 七山 知佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 地域や施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者の理解を深めるとともに、高齢者が健康状態を維持することの意義および医療依存度の低い高齢者への援助の実際を学ぶ。さらに保健・医療・福祉をとりまく高齢者ケアのありかたと、看護職の役割について学び、自己の高齢者観を培う。</p> <p><b>【実習目的】</b> 高齢者の日常生活能力について身体的・精神的・社会的側面から理解し、地域で生活する高齢者の健康生活課題について学ぶ。高齢者を取り巻く家族や社会資源について理解を深め、健康生活課題の解決を支援する方法について考えることができる。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。</li> <li>2. 高齢者とその家族を一つの単位としてとらえ、身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、健康・生活上の課題について考えることができる。</li> <li>3. 高齢者とその家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について考えることができる。</li> <li>4. 高齢者の保健・医療・福祉にかかわる専門職の役割・機能を理解できる。</li> <li>5. 高齢者の保健・医療・福祉チームの中での看護の役割について考えることができる。</li> <li>6. 高齢者とその家族の健康問題の解決を支援する方法について説明できる。</li> <li>7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習計画】</b> 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目)          月曜日 学内：オリエンテーション、実習準備          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 実習施設：実習          金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2 週目)          月曜日 実習施設：実習          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 実習施設：実習          金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と老年看護の予習をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習 I	科目名 (英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	徳重 あつ子, 金原 京子, 小川 宣子, 七山 知佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 地域や施設で生活するさまざまな健康レベルにある高齢者の理解を深めるとともに、高齢者が健康状態を維持することの意義および医療依存度の低い高齢者への援助の実際を学ぶ。さらに保健・医療・福祉をとりまく高齢者ケアのありかたと、看護職の役割について学び、自己の高齢者観を培う。</p> <p><b>【実習目的】</b> 高齢者の日常生活能力について身体的・精神的・社会的側面から理解し、地域で生活する高齢者の健康生活課題について学ぶ。高齢者を取り巻く家族や社会資源について理解を深め、健康生活課題の解決を支援する方法について考えることができる。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。</li> <li>2. 高齢者とその家族を一つの単位としてとらえ、身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、健康・生活上の課題について考えることができる。</li> <li>3. 高齢者とその家族を取り巻く保健・医療・福祉に関する社会資源の実際について考えることができる。</li> <li>4. 高齢者の保健・医療・福祉にかかわる専門職の役割・機能を理解できる。</li> <li>5. 高齢者の保健・医療・福祉チームの中での看護の役割について考えることができる。</li> <li>6. 高齢者とその家族の健康問題の解決を支援する方法について説明できる。</li> <li>7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習計画】</b> 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目) 月曜日 学内：オリエンテーション、実習準備 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2 週目) 月曜日 実習施設：実習 火曜日 実習施設：実習 水曜日 実習施設：実習 木曜日 実習施設：実習 金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と老年看護の予習をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	徳重 あつ子, 金原 京子, 小川 宣子, 七山 知佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 健康問題を持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の問題を、身体的・精神的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p><b>【目的】</b> 老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、加齢に伴う変化について身体的・精神的・社会的側面から理解し、入院治療を必要とする高齢者の健康上の問題を解決する方法を学ぶ。 また、高齢者とその家族を理解し、その人がその人らしく生きていくことができるように支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。</li> <li>2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、入院が高齢者におよぼす影響を理解し、健康上の問題を明確にすることができる。</li> <li>3. 健康問題をもつ高齢者の特性・個別性を考慮した援助計画が立案できる。</li> <li>4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正をすることができる。</li> <li>5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。</li> <li>6. 高齢者を取り巻く環境と看護職の役割と責任について理解できる。</li> <li>7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習計画】</b> 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1 週目)          月曜日 実習施設：実習          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 学内：記録整理          金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2 週目)          月曜日 実習施設：実習          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 実習施設：実習          金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	老年看護学実習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Practice in Gerontological Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	徳重 あつ子, 金原 京子, 小川 宣子, 七山 知佳
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 健康問題を持ち治療を受けている高齢者の健康を回復・維持する過程における看護上の問題を、身体的・精神的・社会的側面から解決する方法を学ぶ。さらに援助においては、老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、看護者として高齢者の人権と権利を擁護する態度を養い、自己の高齢者観を深める。</p> <p><b>【目的】</b> 老年看護に必要な基礎的知識・技術を活用し、加齢に伴う変化について身体的・精神的・社会的側面から理解し、入院治療を必要とする高齢者の健康上の問題を解決する方法を学ぶ。 また、高齢者とその家族を理解し、その人がその人らしく生きていくことができるように支援するために必要な知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化や、高齢者に生じやすい健康問題とそれに関連する要因などから、その高齢者が持つ疾患や障害などから、高齢者を多面的・総合的に理解する。</li> <li>2. 疾病や障害をもつ高齢者の身体的・精神的・社会的機能をアセスメントし、入院が高齢者におよぼす影響を理解し、健康上の問題を明確にすることができる。</li> <li>3. 健康問題をもつ高齢者の特性・個別性を考慮した援助計画が立案できる。</li> <li>4. 高齢者の状態に適した看護援助を実践し、評価・修正をすることができる。</li> <li>5. 高齢者の人権と権利を擁護する態度を身につけることができる。</li> <li>6. 高齢者を取り巻く環境と看護職の役割と責任について理解できる。</li> <li>7. 実習を通して自己の高齢者観を深め、老年看護における看護観を考察することができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	実習前のオリエンテーションにて詳細を指示します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習計画】</b> 詳細についてはオリエンテーションにて説明します。</p> <p>(1週目)          月曜日 実習施設：実習          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 学内：記録整理          金曜日 実習施設：実習</p> <p>(2週目)          月曜日 実習施設：実習          火曜日 実習施設：実習          水曜日 実習施設：実習          木曜日 実習施設：実習          金曜日 学内：実習報告会、個人面談・記録整理・記録提出</p>																
関連科目	老年看護学実習Ⅰ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	実習目的・目標の達成状況、実習記録、実習態度等から総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	すでに学んだ専門基礎科目、専門科目の復習と、老年看護学で学んだ内容の確認をしてください。																
担当者の研究室等	7号館3階																
備考																	

科目名	小児看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 佳奈美
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	小児看護学の対象である子どもと家族の理解を踏まえ、発達の促進および健康保持増進に向けた看護者の役割と機能、支援方法を学習する。また、子どもと家族の理解を深めるために、必要な発達理論、親子関係理論、家族システム理論および概念について理解し、子ども観・家族観を深める。
到達目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族の理解を深めることができる 2. 子どもの健康保持増進および発達を促進に向けた看護者の役割と機能を理解する 3. あらゆる発達レベル、健康レベルにある子どもへの支援方法のあり方について理解する 4. 小児看護によく適用される発達理論や家族理論について理解し、看護への適用を考えることができる
授業方法と留意点	子どもの成長・発達的一般原則を理解し、子どものイメージ化を促すため、視聴覚教材や事例を多く用いて講義を進める。また、毎回、事前課題を提示し、それをもとに講義を展開したり、グループワークなどを取り入れながら授業を進める。学習した内容については、身近な子どもの姿を通じて、振り返りができるような課題も取り入れ、学生が主体的に本科目に取り組めるよう工夫をする。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児援助論Ⅰ、小児援助論Ⅱ、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	授業ガイダンス、小児看護学の概観、子どもとは	授業計画をもとに、小児看護学の構成を概観し、授業の進め方、評価について詳細に説明を行う。子どもに対するイメージを言語化し、大人と比較しながら子どもの特徴について、学生間で話し合う。	事前課題：教科書「序章 小児看護学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。 事後課題：身近にいる子どもを観察し、その内容や気づきをまとめる
2	子どもの特徴	子どもの範囲、発達区分、発達観 保健統計からみた子どもと家族、および子どもを取り巻く環境	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
3	小児看護とは、子どもを取り巻く医療の変遷と課題	小児医療・小児看護の変遷、小児看護の対象と目標、小児看護の場と看護の特徴	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
4	子どもの最善の利益	子どもの権利条約、医療における子どもの権利、小児医療で起こりやすい倫理的問題について	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
5	小児看護で用いる概念と理論	発達に関する概念、発達理論(ピアジェ、エリクソン)、母子関係理論(ボウルビー)、家族システム理論等	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
6	子どもの成長・発達の特徴Ⅰ	成長・発達的一般原則、成長・発達への影響因子、各発達段階の特徴と主な健康問題、成長・発達の評価と家族環境アセスメント	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
7	子どもの成長・発達の特徴Ⅱ	子どもの形態的成長と機能的発達の特徴	事前・事後課題：各発達段階の特徴について、グループでまとめる
8	乳児前期の成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅰ	乳児前期の成長・発達の特徴についてグループ発表 乳児前期の成長・発達の特徴・発達段階に応じた日常生活援助	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
9	乳児後期の成長・発達と発達段階に応じた日常生活援助Ⅱ	乳児後期の成長・発達の特徴についてグループ発表 乳児後期成長・発達の特徴・発達段階に応じた日常生活援助	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
10	幼児前期の成長・発達と発達段階に応じた援助Ⅰ	幼児前期の成長・発達の特徴についてグループ発表 幼児前期の成長・発達の特徴と発達段階に応じた日常生活援助	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
11	幼児後期の成長・発達と発達段階に応じた援助Ⅱ	幼児後期の成長・発達の特徴についてグループ発表 幼児後期の成長・発達の特徴と発達段階に応じた日常生活援助	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
12	学童期の成長・発達と発達段階に応じた援助	学童・思春期の子どもたちの成長・発達の特徴についてグループ発表 学童・思春期の子どもたちの成長・発達の特徴と発達段階に応じた日常生活援助	事前課題：前回授業で提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる
13	グループワーク発表	子どもの発達段階に応じた育児用品について	事前・事後課題：グループ発表内容
14	グループワーク発表	子どもの発達段階に応じた育児用品について	事前・事後課題：グループ発表内容
15	子どもを守るわが国の法律と制度と予防接種	母子保健法、学校保健安全法、児童虐待防止法、予防接種法 予防接種に関して	事前・事後課題：小児看護学概論の内容を踏まえ、身近にいる子どもを観察し、①内容や②気づき、③授業前と授業終了後の子どもの見方への学生自身の変化についてまとめる。

関連科目	看護学概論、生命倫理
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論・小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ナーシンググラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学①	中野綾美 編集	MC メディカ出版
	2	系統看護学講座 承認看護学概論 小児臨床看護学総論 小児看護学①	奈良間美穂他	医学書院
	3			
評価方法 (基準)	前期の定期試験および課題やグループワーク内容を総合して評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク 30%			
学生への メッセージ	小児看護学概論では広範な内容を網羅し、子どもの看護を理解する上での基盤となります。知識の記憶ではなく、自らが主体的に考え、理解することを目指しましょう。習得した知識を活用できるよう、周囲の子どもにも目を向け、洞察を深めてください。			
担当者の 研究室等	7号館・3階、研究室17(鎌田)			
備考				

科目名	小児看護学援助論 I	科目名 (英文)	Pediatric Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 大橋 敦
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	様々な発達段階にある子どもの健康状態に応じた日常生活を理解し、適切な看護を提供するために必要な基本的知識と援助技術を学修する。また、健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、子どもと家族を尊重した看護のあり方を考える。
到達目標	1. 各発達段階にある子どもの日常生活と看護援助の特徴を理解する。 2. 子どもの健康問題の特徴と、健康問題が子どもと家族に与える影響について理解する。 3. 子どもの日常生活援助技術および子どものヘルスアセスメントについて理解する。 4. 子どもの身体構造的・機能的な特徴に基づいた症状を理解する。 5. 子ども特有の急性疾患・慢性疾患、手術を必要とする先天性疾患、低出生体重児などに関する病態生理、検査・処置、治療等について理解する。
授業方法と留意点	小児看護学概論で習得内容の振り返りを行いながら授業をすすめる。簡単な事例を用いて演習を行い、習得した知識を活用を促す。小児看護学における援助技術については、事前にグループ学習し、学生が主体となってデモンストレーション、実施、ピア評価を行うことで、学生の自主性、主体性、相乗効果を促せるよう工夫する。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学援助論II、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	病気や入院に対する子どもの理解	子どもの病気の特徴について概観する 子どもは病気や入院をどのように理解するか(認知発達段階の特徴を踏まえ、子どもが病気や入院をどう理解するかについて)	事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
2	健康問題や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護	健康問題や入院が子どもに及ぼす影響について 健康問題が入院が家族に及ぼす影響について 子どもと家族にとって適切な外来および入院環境について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
3	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 I	健康問題をもつ乳児(新生児を含む)と家族の特徴と看護について 健康問題をもつ幼児と家族の特徴と看護について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
4	健康問題をもつ子どもの発達段階に応じた看護 II	健康問題をもつ学童と家族の特徴と看護について 健康問題をもつ思春期の子どもと家族の特徴と看護について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
5	子どもの日常生活援助およびヘルスアセスメント技術演習	子どもの日常生活技術(食、排泄、清潔、移動)の自己演習 子どものヘルスアセスメント技術(バイタルサイン測定、身体測定)の自己演習	事前課題：演習内容のイメージトレーニング 事後課題：グループで各発達段階に応じた技術についての自己演習	
6	治療や検査・処置を受ける子どもと家族への看護 I	子どもの参加する権利の保障 プレパレーションについて 検査・処置技術(与薬、洗腸、救急処置)について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
7	治療や検査・処置を受ける子どもと家族への看護 II	隔離を必要とする子どもと家族の看護について 行動制限を必要とする子どもと家族の看護について 食事制限を必要とする子どもと家族の看護について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
8	小児看護技術(日常生活援助)	食・清潔・排泄、移動に関する援助技術の演習(偶数グループ)を行う	事前課題：配布プリント 事後課題：演習内容についての振り返り	
9	小児看護技術(日常生活援助)	食・清潔・排泄、移動に関する援助技術の演習(奇数グループ)を行う	事前課題：配布プリント 事後課題：演習内容についての振り返り	
10	子どもによくみられる症状と看護	啼泣、不機嫌、発熱、発疹、けいれん、嘔吐、下痢、脱水など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
11	子どもによく見られる症状と看護	呼吸困難、痛み、意識障害、浮腫、搔痒感など、子どもによくみられる症状の機序と看護について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
12	子どものヘルスアセスメント I	子どもとのコミュニケーションについて ヘルスアセスメントの目的・意義について 子どもの観察と情報収集の方法について	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる	
13	子どものヘルスアセスメント II	事例を用いながら、アセスメントの実際について演習する	事前課題：前回授業で課題を提示する 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	
14	ヘルスアセスメント技術演習	バイタルサイン測定および身体計測(奇数グループ)技術の演習を行う	事前課題：配布プリント 事後課題：演習内容についての振り返り	
15	ヘルスアセスメント技術演習	バイタルサイン測定および身体計測(奇数グループ)技術の演習を行う	事前課題：配布プリント 事後課題：演習内容についての振り返り	
16	新生児の疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。	

		庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 新生児、未熟児の生理機能と代表的な疾患を理解する。	
17	小児の呼吸器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児の呼吸生理の特徴と、小児に多い呼吸器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
18	小児の循環器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児の循環生理の特殊性と先天性心疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
19	小児の血液疾患・悪性腫瘍について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い血液疾患、悪性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
20	小児の消化器疾患、腎・泌尿器疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い消化器疾患、腎・泌尿器疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
21	小児の神経疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い神経疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
22	小児の内分泌・代謝疾患について	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い内分泌疾患、成長障害、代謝性疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
23	小児の感染症、免疫・アレルギーについて	小児の成長発達や健康上の課題に視点をあてて整理し、看護の対象である小児の理解を深める。 対象の個性(年齢、疾患の重症度、家庭環境)に応じた看護援助を行うための理論と援助技術などを学習する。 小児に多い感染症、免疫・アレルギー疾患を理解する。	事前課題：課題プリント 事後課題：授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
24	—	—	—
25	—	—	—
26	—	—	—
27	—	—	—
28	—	—	—
29	—	—	—
30	—	—	—

関連科目 小児看護学概論、基礎看護技術

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新体系 看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論 小児保健	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武/濱中喜代 編集	メジカルフレンド社
3	ナーシンググラフィカ 小児看護技術 小児看護学②	中野綾美 編集	メディカ出版

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	小児科学 第2版	金子一成 編集	金芳堂

	2	小児の疾患と看護 小児看護③	中野綾美 編集	メディカ出版
	3	小児臨床看護学各論 小児看護学②	奈良間美穂 他	医学書院
評価方法 (基準)	後期の定期試験 70%、課題、演習、グループワーク 30%とし総合的に評価する			
学生への メッセージ	小児看護学援助論 I では非常に広範囲の内容を含んでいます。単に知識の記憶に止まらず、自ら主体的に考え、理解し、活用できるよう学習を深めて下さい。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室 17(鎌田)、18(池田)			
備考				

科目名	小児看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Pediatric Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池田 友美, 鎌田 佳奈美, 亀田 直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	疾病・障がいがある子どもと家族の健やかな育ちを支えるために、小児期によくみられる疾患をもつ子どもの看護を理解する。また、さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を看護過程を通して考える。
到達目標	1. 疾患や障がいがある子どもと家族の援助について説明できる。 2. 急性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 3. 慢性期にある子どもと家族の看護について考案できる。 4. さまざまな発達段階や健康状態にある子どもとその家族の最善の利益を目指した看護のあり方を考案できる。 5. 小児看護特有の基本的技術を習得する。
授業方法と留意点	視聴覚教材や外部講師による講義を活用し、疾患や障がいのある子どもを理解しやすいように解説する。また、事例演習はグループワークによって、さまざまな健康レベルにある子どもの援助についての理解をうながす。技術演習では、事例を用いて、子どもの発達、健康状態、生活、心理面を力動的にアセスメントし、子どもと家族のニーズから抽出された看護援助を検討するためにグループワークを行なう。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験受験のための必須科目である。 本科目は、小児看護学実習の理解を深めるための基盤となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	急性期にある子どもと家族への看護(1)	急性期にある子どもと家族の特徴	事前課題: 教科書第6章Ⅰを読む。 事後課題: 課題プリント
2	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(2)	急性期の主な症状とその病態、観察ポイント、援助方法	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
3	【事例演習】急性期にある子どもと家族の看護(3)	急性期にある子どもとその家族への援助方法	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
4	【事例演習: 事例の発表】急性期にある子どもと家族の看護(4)	急性期にある子どもと家族の事例を用いた看護過程	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
5	慢性期にある子どもと家族への看護(1)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族の特徴	事前課題: 教科書第6章Ⅱを読む。 事後課題: 課題プリント
6	【事例演習】慢性期にある子どもと家族の看護(2)	慢性疾患を抱えながら生活する子どもとその家族への援助方法	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
7	【事例演習: 事例の発表】慢性期にある子どもと家族の看護(3)	慢性期にある子どもと家族の事例を用いた看護過程	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
8	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族への援助	事前課題: 教科書第7章Ⅶを読む。 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
9	障がいのある子どもと家族の看護 在宅に移行する子どもと家族の看護	障がいのある子どもとその家族の意思決定、在宅に移行するための準備、地域で生活するための看護師の役割(外部講師による講義を予定しています)	事前課題: 教科書第7ⅦⅦを読む。 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
10	災害に遭遇した子どもと家族の看護 心の問題がみられる子どもと家族の看護	子どもの被災の特徴 心の問題をもつ子どもと家族への援助	事前課題: 教科書7章13、7章15を読む。 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
11	ターミナル期に至る子どもと家族の看護	死にゆく子どもとその子どもを看取る家族への援助	事前課題: 教科書第6章Ⅲを読む。 事後課題: 授業でわからなかった内容やさらに深く学習したいことについて調べる。
12	【事例演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(1)	事例による看護計画の立案	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
13	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(2)	立案した計画による援助の実施	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
14	【技術演習】急性期・慢性期にある子どもと家族の看護 まとめ(3)	立案した計画による援助の実施	事前課題: 課題プリント 事後課題: 課題プリント
15	これからの小児看護の方向性	子どもと家族の最善の利益を守るための、小児看護における看護師の役割(外部講師による講義を予定しています)	事前課題: 子どもに関するニュース、新聞記事を集める。 事後課題: 子どもに関するニュース、新聞記事を読み感想をまとめる。

関連科目 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護	松尾宣武、濱中喜代	メヂカルフレンド社
2	ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術	中野綾美	メディカ出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小児看護学概論 小児臨床看護総論	奈良間美保	医学書院
2	写真でわかる小児看護技術	山元恵子	インターメディカ	

	3		
評価方法 (基準)	定期試験および課題・グループワーク・技術演習を総合的に評価する。 定期試験 70%、課題・グループワーク・技術演習 30%		
学生への メッセージ	小児看護学実習に向けての実践的な授業になります。 課題やグループワークも多いので、既習の知識を振り返りながら計画的にすすめましょう。		
担当者の 研究室等	7号館 3階 研究室 18 (池田)、17 (鎌田)、4 (亀田)		
備考			

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。</li> <li>2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。</li> <li>4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。</li> <li>5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。</li> <li>2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。</li> <li>3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。</li> <li>4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。</li> <li>5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。</li> <li>6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。</li> </ol> <p><b>【留意点】</b> 1.</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。</p> <p><b>【実習計画】</b> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 1週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田研究室																
備考	実習施設：星ヶ丘厚生年金病院、枚方市民病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	小児看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Pediatric Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 亀田 直子, 中山 祐一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 小児看護学の既習内容の知識・技術を統合して、子どもと家族を理解し、最良の健康状態の維持促進を目指して、子どもと家族を尊重した支援を実践するための基礎的能力を養う。そのため、実習施設の小児病棟において、小児期にある対象を受け持ち、子どもの発達や健康段階に応じた子どもと家族への看護過程を展開する。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達を統合的に理解し、個々の特性に応じた日常生活援助を行う。</li> <li>2. 健康問題や入院が子どもと家族に与える影響を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康レベル、発達段階に応じた看護問題・ニーズを抽出し、計画・実践・評価する。</li> <li>4. 子どもと家族の生活を支えるチームにおける看護師の役割を理解し、多職種との連携の実際を知る。</li> <li>5. 実習を通して自己の看護観・子ども観を深め、今後の課題を明らかにする。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1グループ5～6人編成とし、小児病棟において2週間の実習を行う。</li> <li>2. 原則として1名の子どもを受け持ち、子どもと家族との関わりを通して、看護過程を展開する。</li> <li>3. 看護の実施は、臨地実習指導者または実習指導教員と共に行う。</li> <li>4. 実習時には行動計画を指導者に発表し、終了時には必ず報告を行う。</li> <li>5. 毎日カンファレンスを実施し、子どもと家族への理解を深め、ニーズに応じた計画の立案を促す。</li> <li>6. ケア実施後は記録することで、自己の実践の振り返りを行い、学習を深める。</li> </ol> <p><b>【留意点】</b> 1.</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【事前の計画】</b> 1) 実習目的・目標、方法、留意点など、事前にオリエンテーションを行う。 2) 事前の情報をもとに、受け持ちの子どもについての理解を深める。</p> <p><b>【実習計画】</b> 1) 2日間の保育所実習を行い、子どもの成長発達および日常生活について理解を深める。 2) 病院実習 1週目：受け持ちの子どもと家族との関係形成および看護実践に必要な情報収集、分析、統合を行う。 2週目：子どもと家族のニーズに基づいた看護計画を立案する。立案した計画を実施し、評価を行い計画を修正する。</p> <p><b>【事後の計画】</b> 臨地での体験の振り返りを通じて、自己の看護観、子ども観および今後の学生自身の課題を明確にする。</p>																
関連科目	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容・カンファレンスでの討議状況、提出記録をもとに総合的に実習指導教員が評価する																
学生へのメッセージ	小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学修した知識を活かして、子どもと家族が真に必要な看護を実践して下さい。																
担当者の研究室等	鎌田研究室17、池田研究室16、亀田研究室																
備考	実習施設：星ヶ丘厚生年金病院、枚方市民病院、関西医科大学附属枚方病院、愛仁会リハビリテーション病院、大阪市立総合医療センター、枚方市立保育所																

科目名	母性看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	泉川 孝子, 赤井 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	母性看護に関連する諸概念を理解し、母性看護の役割を学び、母性看護の変遷、母性保健の動向や母子保健施策、女性のライフサイクルに伴う身体の形態的・機能的な変化、母性看護の対象を取り巻く心理的・社会的側面などから、現在の女性の健康問題を捉え、対象を支援する母性看護のあり方を学習する。
到達目標	母性看護に関連する諸概念を理解する。様々な母性看護の役割から現在の女性の健康問題を捉え、対象を支援する母性看護のあり方を理解する。
授業方法と留意点	事前の学習課題は展開される講義内容が書かれているテキスト部分をよく読んでくる。グループ課題もあり、主体的に参加してもらいます。
科目学習の効果(資格)	授業内容は、国家試験の母性看護学の科目に出題されることがあります。この科目を受けて資格が取れるということはないですが、国家試験に直結する科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習課題	事後学習課題
1	母性の健康と看護1	母性看護の概念と専門性について学ぶ。GWの課題について説明する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
2	母性の健康と看護2	1の続きと、社会的背景を踏まえ母性保健の変遷について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
3	母性の健康と看護3	母子保健の動向と課題について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
4	母性の健康と看護4	母性看護に必要な法制度、及び性と生殖の健康について理解する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
5	母性看護の対象理解1	母性看護の対象の特徴を理解し、各期のライフスタイルと健康について理解する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
6	母性看護の対象理解2	女性のライフサイクルと家族の発達段階と機能について学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
7	母性と親性、親となる過程の支援	母性と親性について理解し、子どもへの愛や親となる過程を支援するのに必要なことを学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
8	セクシャリティ	人間の性差について理解し、セクシャリティについて学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
9	リプロダクティブヘルスケア	計画的に子どもを産むことの意味や方法について理解する(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
10	母性看護における看護技術1	周産期の死と看護、障害を持つ子どもと家族のケアについて学ぶ(講義)	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習
11	母子保健の課題と母性看護の役割	育児不安、児童虐待とDV、母性領域の倫理問題を取り上げ、母性看護の役割を学ぶ(グループ発表)	事前学習課題: グループ発表部分の学習をしてくる	事後学習課題: グループレポート提出(グループで調べたレポートとメンバーの役割を記載)、個人レポート(テーマ: グループ発表後、母性看護の役割を考える)提出
12	思春期の健康	思春期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、思春期におけるセクシュアリティの課題について学ぶ。	事前学習課題: なし	事後学習課題: 講義内容の復習
13	成熟期の健康	成熟期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、成熟期のセクシュアリティの課題および不妊症について学ぶ。	事前学習課題: なし	事後学習課題: 講義内容の復習
14	更・老年期の健康	更年期・老年期の身体的、心理的、社会的特徴を理解すると共に、セクシュアリティの課題について学ぶ。	事前学習課題: なし	事後学習課題: 講義内容の復習
15	母性看護における看護技術2	母性看護の特殊性を踏まえた看護技術や看護過程について説明する	事前学習課題: テキストの該当部分を読んでくる	事後学習課題: 講義内容の復習

関連科目	人体の構造と機能、食生活論、家族関係論、疾病治療論、看護関係法規、看護学概論、看護対人関係論、生命倫理、地域看護学、家族看護学、看護倫理、女性学
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	母性看護学概論	石井邦子 他	医学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験、授業参加度(出席率・提出課題・授業態度等)を総合して判定する。 割合: 定期試験80%(泉川60点、赤井20点)、授業参加度20%
学生へのメッセージ	授業は学生と教員で作っていくので、みんなで力を合わせて実りある授業にしましょう。
担当者の研究室等備考	泉川: 研究室15、赤井: 研究室14

科目名	母性看護学援助論 I	科目名 (英文)	Maternal Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子, 但馬 まり子, 小林 浩
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>〈概要〉 次代を担う母性準備期（思春期）、母性が最も発揮する時期（成熟期）、母性継承期（更年期・老年期）にある女性の、月経異常、性感染症、不妊症、ホルモン療法、婦人科疾患（子宮筋腫、子宮がんなど）、妊娠・分娩に関する健康障害と治療法について学ぶ。 また、妊娠期・分娩期・産褥期の生理的变化、心理・社会的特徴、胎児の発育、新生児の生理、周産期における家族の役割について学び、アセスメントと看護の方法について学ぶ。 （オムニバス 方式／全23回）</p>
到達目標	母性看護学の基礎知識が習得できる
授業方法と留意点	講義・グループワーク・DVD鑑賞・課題などの方法で学ぶ
科目学習の効果（資格）	母性看護学援助論Ⅱの基礎科目になり、母性看護学実習の履修要件である

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	妊娠期の身体的特徴と胎児の発育について	1. 妊娠の成立 2. 妊娠期の身体的特性 3. 胎児の発育について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
2	婦人科疾患の診断と治療	遺伝と出生前診断、不妊治療について学ぶ 月経困難症と子宮内膜症、子宮がんについて学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
3	婦人科疾患の診断と治療	STD（HIV の母子感染も含む）、エストロゲン欠乏に関連する疾患（更年期障害・尿失禁・骨粗鬆症）について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
4	正常な妊娠経過について	母体の生理的变化と正常な妊娠経過	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
5	正常妊娠	妊娠期：妊娠期間等の概要、母子手帳発行について、全身の変化、循環器系の変化、糖代謝の変化、呼吸器系の変化、泌尿器系の変化	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
6	妊娠の異常	妊娠期：妊娠高血圧症候群、流産・早産、胎児発育評価と IUGR、IUGR と将来の生活習慣病、胎盤機能の異常と IUGR、羊水の機能と生理 分娩期：児頭の下降、フリードマン曲線	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
7	妊娠期の異常	ハイリスク妊婦とは 妊娠期の異常：妊娠初期の異常（妊娠悪阻、流産、異所性妊娠）、 妊娠中期（多胎妊娠、早期産、切迫早産）、 妊娠後期（前置胎盤、常位胎盤早期剥離） 妊娠期の感染症（母子感染について、風疹、トキソプラズマ症、B型肝炎、C型肝炎、成人T細胞性白血病、パルボウイルス B19 感染症、B 群溶血性レンサ球菌感染症、梅毒、性器クラミジア、淋菌感染症、エイズ）	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
8	分娩期の異常	分娩期：陣痛発来について、胎位について、娩出力について、分娩監視装置について 分娩期の異常：産道の異常、微弱陣痛、過強陣痛、胎位の異常、胎児機能不全の診断について、帝王切開について	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
9	産褥・新生児の異常	産褥期：精神障害、マタニティブルー、エジンバラ産後鬱診断表について、新生児の異常：新生児仮死、新生児蘇生アルゴリズム、低出生体重児、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
10	婦人科疾患、妊娠・分娩・産褥の異常	DVD 視聴、全体的まとめ（試験対策）	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
11	妊娠期の心理と社会的特性	1. 妊娠期の心理的变化 2. 親なる心理的变化と母性の心理を把握するための理論を学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
12	妊婦と胎児のアセスメント 妊婦と家族の看護	1. 妊婦検診の実際と妊娠経過のアセスメントについて学ぶ 2. 妊婦が受ける母性保健サービスと保健指導について学ぶ 3. マイナートラブルと対処について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
13	ハイリスク妊婦の看護	1. ハイリスク妊婦 2. 異常妊娠 3. 合併症のある妊婦	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習
14	正常分娩の経過	1. 分娩の要素と機序	事前学習課題：テキストを読んでくる

		2. 分娩経過に伴う産婦の身体的変化 3. 分娩経過の胎児への影響 4. 分娩期の産婦・家族の心理的变化 5. 出生2時間までの新生児の生理	事後学習課題：講義内容の復習																
15	分娩期のアセスメントと看護	1. 分娩経過と産婦の健康状態のアセスメントと看護 2. 産婦と家族の心理・社会面のアセスメントと看護 3. 安全・安楽な分娩への援助 4. 胎児の健康状態のアセスメントと看護 5. 出生後2時間までの新生児のアセスメントと看護 6. 母子関係形成に向けての援助	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
16	ハイリスク分娩の看護	1. 分娩期の異常と看護 2. 産科手術と看護 3. 胎児・新生児の異常と看護	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
17	褥婦の身体的変化	退行性変化と進行性変化について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
18	褥婦の心理・社会的変化	Rubin の母親への適応過程、家族の心理的变化について学ぶ。	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
19	産褥期の異常と看護	会陰裂傷・会陰切開を行った褥婦、乳房にトラブルのある褥婦、精神にトラブルのある褥婦、および新生児に問題がある褥婦の看護等について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
20	新生児の生理と看護	新生児の生理と看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
21	産褥期のアセスメントの考え方と看護(1)	情報を振り分け、分析する演習を行う	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
22	産褥期のアセスメントの考え方と看護(2)	21回の演習内容の解説を受けて、アセスメントと看護について学ぶ。	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
23	帝王切開術と看護	帝王切開術を受けた褥婦のアセスメントと看護について学ぶ	事前学習課題：テキストを読んでくる 事後学習課題：講義内容の復習																
24																			
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			
30																			
関連科目	人体の構造と機能、臨床心理学、疾病治療論、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、看護関係法規、看護対人関係論、基礎看護技術、成人看護援助論、小児看護援助論、精神看護援助論、地域看護学、家族看護学、看護倫理、生命倫理、心理学、母性看護学概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>系統看護学講座 母性看護学各論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>系統看護学講座 母性看護学概論</td> <td>森恵美他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院	2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院																
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ルヴァ・ルービン母性論</td> <td>新道幸恵他訳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>母性の心理社会的側面と看護ケア</td> <td>新道幸恵他</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院	2	母性の心理社会的側面と看護ケア	新道幸恵他	医学書院	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ルヴァ・ルービン母性論	新道幸恵他訳	医学書院																
2	母性の心理社会的側面と看護ケア	新道幸恵他	医学書院																
3																			
評価方法(基準)	定期試験、提出物等を見て総合的に評価する																		
学生へのメッセージ	母性看護学は妊婦だけではなく、女性の健康を支援する看護学です。そのために、夫をはじめとした家族も看護の対象となるなど、幅広い対象に看護を行います。本科目で学ぶ内容は身近な現象として想像することができます。「生命の始まりはいつか」「子どもを産めばすぐに親になれるのか」などのたくさんの問いを持って、楽しく真摯に学んで下さい。																		
担当者の研究室等備考	赤井由紀子(研究室14)、福山智子(研究室13)、宮本雅子(研究室12)、但馬まり子・名草みどり(共同研究室5)																		

科目名	母性看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Maternal Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	泉川 孝子, 赤井 由紀子, 福山 智子, 宮本 雅子, 但馬 まり子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>《概要》 母性看護学実習で、対象（妊産褥婦と新生児）を受け持つ時に必要な科学的思考と、母性看護技術について、講義、自己学習、グループワーク、実技演習を通して学びます。</p> <p>《目的》 マタニティサイクルにある女性が、心身共に健康な状態を維持・促進するために、科学的思考を用いて、一人一人に応じた看護を見出し、実践する方法を学ぶ。</p>
到達目標	<p>1) マタニティサイクルにある女性とその新生児が、健康な状態を維持・促進するための看護過程の方法について理解する。</p> <p>2) マタニティサイクルにある女性が、異常に移行した際に必要な看護について、考えることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、講義、自己学習、グループワーク、母性看護技術の実技演習で行います。</p> <p>個人およびグループの課題の内容、母性看護技術の実技演習の概要、評価方法については、3回目の授業で全て説明します。</p> <p>母性看護技術演習は、ユニフォームを着用して実習室で行います。</p>
科目学習の効果(資格)	母性看護学実習に向けて重要な科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	母性看護の看護過程に必要な理論を学ぶ	科学的看護論の概要について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事後学習をする
2	母性看護の看護過程に必要な思考を学ぶ	看護問題の考え方について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事前・事後学習をする
3	事例による看護過程の展開<情報化>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オリエンテーションを受けて看護過程の展開と母性看護技術の演習について理解する。</li> <li>●紙面とDVDから事例の情報を整理する</li> </ul>	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
4	事例による看護過程の展開<アセスメント>	事例の情報をアセスメントする(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
5	母性看護技術演習(1)	<p>第5回と第6回は2コマ続きで母性の技術演習を行う。(母性小児実習室)</p> <p>妊娠期:レオポルド触診法、子宮底と腹囲の測定、児心音の聴取</p> <p>分娩期:分娩期の援助</p> <p>産褥期:乳房タイプ別授乳時の抱き方、排気法</p>	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
6	母性看護技術演習(2)	5回目と同内容	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
7	事例による看護過程の展開<看護問題の明確化>	アセスメントの結論を導きだして、看護問題を明確化する(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
8	母性看護技術演習(3)	第8回と第9回は2コマ続きで母性の技術演習を行う。(母性小児実習室)	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
9	母性看護技術演習(4)	第8回と同内容	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
10	事例による看護過程の展開<看護計画の立案>	看護計画を立案する(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に完成させた資料を提出する
11	事例による看護過程の展開<看護計画の立案>	看護計画を立案する(グループワーク)	グループで立案した看護計画を提出する
12	事例による看護過程の展開<看護計画の実践>	第12回と第13回は2コマ続きで行う。グループで考え、教員から指導を受けた看護計画をロールプレイで発表する。	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
13	事例による看護過程の展開<看護計画の実践>	第12回と同内容	3回目に配布する資料を参考に、事前・事後課題を提出する
14	事例による看護過程の展開<看護計画の評価>	看護の評価と修正の必要性を考える(講義と演習)	3回目に配布する資料を参考に、自己学習で課題を完成させる
15	退院指導と退院から1か月までの支援について	退院指導の種類と役割について、退院後1か月までの支援の実際について学ぶ(講義)	テキスト・配布資料で事前・事後学習をする

関連科目 既習の専門基礎科目、専門科目は全て関連していますが、特に、人体の構造と機能、代謝栄養学、食生活論、病理学総論、感染と防御、家族関係論、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰは大きく関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	系統看護学講座 母性看護学各論	森恵美他	医学書院
2	系統看護学講座 母性看護学概論	森恵美他	医学書院	
3	ナースが診る病気/ナースが診る人体	薄井坦子	講談社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	写真でわかる母性看護技術	小沢ひとみ編	インターメディカ
2	母性看護技術	石村由利子他編	医学書院	
3	ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程	太田操編著	医歯薬出版	

評価方法 (基準)	筆記試験、課題の進行・提出状況、授業態度を見て総合的に評価します
学生への メッセージ	母性看護学援助論Ⅱは母性看護学実習をイメージした実践に近い科目です。課題が多いですが、既習の知識を整理しながら頑張りましょう
担当者の 研究室等	福山智子（研究室13）、赤井由紀子（研究室14）、宮本雅子（研究室12）、但馬まり子、名草みどり（共同研究室5）
備考	

科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子, 但馬 まり子, 名草 みどり
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>概要</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができる。</li> <li>2. 周産期の母子とその家族に対して看護過程の展開ができる。</li> <li>3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則1グループ5名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2日目より臨地実習に入る。最終日は学内でカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。</li> <li>5. 実習2日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。</li> <li>6. 実習中は1組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。</li> <li>7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する</li> <li>8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。</li> <li>9. 最終週の木曜日後には臨床側に参加してもらい反省会を行う。</li> <li>10. 最後の金曜日は学内で施設合同のカンファレンスを行い、学びを共有する。</li> </ol> <p>留意点</p> <p>妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に2つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内             <ul style="list-style-type: none"> <li>初日に実習のオリエンテーション、最終日には学内で施設合同のカンファレンスを実施する。</li> </ul> </li> <li>2. 病棟実習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1組の褥婦とその新生児を2人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。</li> <li>2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。</li> <li>3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。</li> </ol> </li> <li>3. 外来実習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。</li> <li>2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。</li> <li>3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。</li> </ol> </li> <li>4. カンファレンス             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていること意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。</li> <li>2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。</li> <li>3) 学内で施設合同のカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>5. 事前事後学習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。</li> <li>2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。</li> </ol> </li> <li>6. 実習態度およびルール             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。</li> <li>2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。</li> <li>3) 実習で知れた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。</li> <li>4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。</li> </ol> </li> </ol>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	

備考	実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院
----	---



科目名	母性看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Maternal Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子, 但馬 まり子, 名草 みどり
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>概要 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な特性や生理的な経過を踏まえ、看護実践を通して周産期にある対象の健康保持増進、異常の予防における看護の実際を学習する。妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期にあるケースを受け持ち、その正常経過と周産期の看護の実際および家族への支援方法を学び、看護過程が展開できる能力を養う。また、産婦への産痛緩和などのケアを通して分娩に立ち会い、命の尊厳について考える。</p> <p>目的：周産期にある女性および家族の総合的な理解、さらに、新生児の子宮外生活への適応過程を理解し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。</p>																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができる。</li> <li>2. 周産期の母子とその家族に対して看護過程の展開ができる。</li> <li>3. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原則 1 グループ 5 名の編成とし、各グループの担当教員の指示に従い実習する。実習内容は病棟実習と外来実習、カンファレンスで構成され、ローテーションで行う。</li> <li>2. 実習初日は、学内実習とオリエンテーションがある。各自、実習で困らないように実習目的・目標をもちに事前学習しておく。また、母性で必要となる技術の練習をしておく。</li> <li>3. 2 日目より臨地実習に入る。最終日は学内でカンファレンスを持ち、記録の整理と提出を行う。</li> <li>4. 実習では日々、各自の実習における課題と目標を明確にし、具体的な実習計画を立案して臨む。</li> <li>5. 実習 2 日目に病棟のオリエンテーションを受け、病棟・外来の構造や機能や看護者の役割、一日の業務の流れと妊産褥婦・新生児の生活の流れを理解する。</li> <li>6. 実習中は 1 組の母子を受け持ち看護過程を展開したり、分娩見学、外来で妊婦健康診査の一部実施、特殊外来の見学をする。</li> <li>7. 日々、学生主体のカンファレンス（一日の振り返り、疑問点等の意見交換）を行い、学びを共有する</li> <li>8. 実習記録は毎日必ず記録し、指導教員や臨床側から指導や助言を受ける。</li> <li>9. 最終週の木曜日後には臨床側に参加してもらい反省会を行う。</li> <li>10. 最後の金曜日は学内で施設合同のカンファレンスを行い、学びを共有する。</li> </ol> <p>留意点 妊娠や出産は病気ではないが、妊産褥婦は精神的に不安定で、疲労も強い。訪室時間や言動に注意をし、新生児は抵抗力がなため、体調を整え学生自身が感染症にかからないようにする。さらに、同時に 2 つの命を扱うため、看護実践では細心の注意が必要である。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[実習内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内 初日に実習のオリエンテーション、最終日には学内で施設合同のカンファレンスを実施する。</li> <li>2. 病棟実習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1 組の褥婦とその新生児を 2 人の学生で情報を共有しながら受け持ち看護過程の展開をする。</li> <li>2) 分娩があれば、産婦を受け持ち、産婦および新生児のケアを指導者と共に実施または見学する。</li> <li>3) 新生児室実習は治療や要観察、新生児だけの入院の新生児で、スタッフの指導の下もとにケアを行う。</li> </ol> </li> <li>3. 外来実習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医師の妊婦健診を受ける妊婦の妊娠経過を把握し、健康診査に同行し、見学又は一部を実施する。</li> <li>2) 助産師外来の妊婦健康診査に同行し、指導者の基に健康診査や保健指導を見学する。</li> <li>3) 不妊外来、思春期外来、更年期外来などの特殊外来、学級活動の見学を行う。</li> </ol> </li> <li>4. カンファレンス             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一日の実習の振り返り、疑問点や困っていること意見交換を行い、教員や指導者から助言を受ける。</li> <li>2) 受け持ち事例に関連したテーマで全員が発表し、学びを共有する。</li> <li>3) 学内で施設合同のカンファレンスを行い、実習目標に沿って、その評価や今後の課題をのべ、学びを共有する。</li> </ol> </li> <li>5. 事前事後学習             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習で計画した実習内容に必要な知識や技術は事前に学習し、技術は習得しておく。また、実習での学びは自分で学習ノートを作り、復習しておく。</li> <li>2) 実習で必要となる情報は、学生間で共有し、連携も取っておく。</li> </ol> </li> <li>6. 実習態度およびルール             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護師・教員の助言は真摯な態度で受け止め、積極的に実習や学習に生かす。</li> <li>2) 実習内容は事前にスタッフや教員に報告して助言や許可を得てから実施する。勝手に行動することは、禁止する。</li> <li>3) 実習で知れた情報や実施内容は、適宜、看護師や教員に必ず報告する。</li> <li>4) 対象に畏敬の念を持ち、対象の権利を尊重し、プライバシーの保護に努める。</li> </ol> </li> </ol>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	出席状況、実習内容、実習態度、実習記録をもとにした実習目標の到達度を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	

備考	実習場所 星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、JCHO 大阪病院
----	---



科目名	精神看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	眞野 祥子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	精神看護学の対象は、精神疾患を持つ人に限らず、あらゆる発達段階にある人々を含んでいる。本科目では、心の健康を保持・増進するために必要となる基本的な知識を学び、精神医療に関連する基本的な概念を理解する。具体的には、精神看護学と精神保健の基本、現代社会におけるストレスと健康、精神医療・保健・福祉の歴史と法律、精神疾患を持つ人の実態、リエゾン精神看護について学習する。また、将来、看護職に就く者として自身の心の健康を保持・増進するための知識についても学習する。
到達目標	心の構造と機能について説明できる。 心の健康・不健康について説明できる。 現代社会の変化によって、私たちの心の健康にどのような影響があるか説明できる。 自分自身の心の健康を保つための知識を身につけ、実践することができる。 災害時などの状況において危機状況とその対応・予防について説明できる。 精神保健の概念について説明できる。 精神科看護師の役割について説明できる。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神看護学を身近に感じられるように、学生自身の経験や知識、健康に関するトピックスを活用し、メンタルヘルスの現状や問題点を概観し、心の健康・不健康について自分の言葉で考察できるようになることを目指す。また、精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、視聴覚教材や精神医療に関する映画などを補助的に活用して興味・関心を引き出し、イメージの促進を促していく。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促したい。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。

科目学習の効果(資格) 看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	精神看護学の基本	精神看護学の位置づけ、精神看護の対象となる人・生活の場について理解する。	事前：教科書①「第1章-I~IV」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。
2	心とは何か	精神力動的な考え方にもとづいて、心の構造と働きを理解する。	事前：教科書「第2章I」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
3	心の健康とは何か	心の健康—不健康について理解する。	事前：教科書①「第2章I~II」「第3章I~III」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
4	ストレスと健康	ストレスの概念、対処行動、危機介入、PTSDについて理解する。	事前：教科書①「第6章I~IV」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
5	暮らしの場と心の健康	現代社会に生きる人々の心の健康問題について、家庭、地域、学校の生活の場ごとに学習する。	事前：教科書①「第5章I~IV」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
6	ライフサイクルと危機	エリクソンの生涯発達理論、フロイトの精神的発達論について理解する。	事前：教科書①「第4章I」「第6章II」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
7	看護師のメンタルヘルス	バーンアウトとその対処法、看護職者の感情体験について理解する。	事後：授業内容を整理しておいてください。	
8	自己理解	エゴグラムを用い、自分から見た自分と他者から見えている自分を知り、自分と他者との認識の違いから生じる不都合とその対処法について考える。	事後：授業内容を整理しておいてください。	
9	精神保健医療福祉の歴史の変遷①	視聴覚教材を用い、精神保健医療福祉の歴史について理解する。	事後：レポートを作成し提出してください。	
10	精神保健医療福祉の歴史の変遷②	欧米、日本の精神保健医療福祉の歴史と変遷について理解する。	事前：教科書①「第7章I~II」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
11	精神看護における法と人権擁護	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)について理解する。	事前：教科書①「第7章III~IV」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
12	精神障害者の現状と精神保健医療福祉施策の動向	自立と社会復帰、地域生活支援など、精神障害者の保健・医療・福祉の現状について理解する。	事前：教科書①「第7章V」、教科書②「第1章I」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
13	精神障害を持って生きる人の生活	精神障害者が置かれている社会的立場、偏見、社会生活を維持する上での困難について理解する。	事前：教科書②「第2章I」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
14	リエゾン精神看護	身体疾患を持つ患者の精神的健康、患者・家族の精神的健康について理解する。	事前：教科書②「第11章」を読んで来ててください。 事後：授業内容を整理しておいてください。	
15	精神看護学の動向と課題	認定・専門看護師制度、触法精神医療等について理解する。	事後：授業内容を整理しておいてください。	

関連科目 精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論・精神保健	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社
2	新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤 壹三	メヂカルフレンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験(85%)及びレポート、ワークシート(15%)を総合して判定する。なおレポート課題については授業の時に説明する。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)			
備考	学生の理解度に応じてシラバスを変更することがある。			

科目名	精神看護学援助論 I	科目名 (英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一, 小笠原 一能
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	精神看護を実践するために必要となる基本的な知識・技術を学ぶ。精神看護では、患者―看護師の対人関係が病気回復において重要となる。そこで患者―看護師関係に関する理論を理解したうえで、患者―看護師関係を展開していくためのスキルトレーニング法であるロールプレイング、プロセスレコードを用いた演習で自己洞察を深め、患者―看護師関係における自己の活用能力向上を目指す。 精神疾患を持つ患者理解の基礎となる幻覚・妄想、躁、うつ状態などの精神症状の捉え方について学び、患者の精神症状をアセスメントし、看護介入が行えるようになることを目指す。また、精神科で行われている治療とその看護について学ぶ。 精神科医療における診断と治療の概念、精神疾患に関する病態、診断、回復過程、治療について精神医学の立場から学ぶ。
到達目標	援助的人間関係に関する理論を理解する。 援助的人間関係に関する技術を身につける。 幻覚・妄想、躁、うつ状態、不安状態、強迫状態等の精神症状のとらえ方を理解する。 精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解する。 各精神疾患の症状、診断、治療について理解する。
授業方法と留意点	下記の授業計画に沿って講義を行う。精神医療・精神障害者をイメージすることが難しいと考えられるため、現場で働いている看護師による講義を取り入れ、興味・関心を引き出し、イメージの促進を図る。 授業は講義を中心に行うが、学生が授業中も頭を働かせて参加できるように質問に対する答えや意見・感想を求め、授業への積極的参加を促す。毎回の授業の最後に「ワークシート」を配布し、その日の授業テーマに基づく課題の解答を求め、次回の授業で学生にフィードバックしていく。
科目学習の効果 (資格)	看護師国家試験受験資格のための必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	援助的人間関係 (理論編)	患者―看護師関係の発展	事前:「第2章-I-C」「第2章-II・III」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
2	援助的人間関係 (実践編)	ロールプレイングの演習を通して、治療的援助としての患者―看護師関係について理解を深める。	事前:同上	
3	援助的人間関係 (実践編)	プロセスレコードを用いた演習を行い、自己洞察を深める。	事前:「第2章-III-B」「第2章-V-B-2」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
4	プロセスレコードの分析と評価	プロセスレコードの振り返りを行う。		
5	精神症状のアセスメント	幻覚妄想状態と看護	事前:「第4章-I-B-1・2」「第4章-I-C-3」「第7章-I-C」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
6	精神症状のアセスメント	意欲低下、引きこもり状態と看護	事前:「第4章-I-B-5」「第4章-I-C-7・8」「第7章-I-L」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
7	精神症状のアセスメント	拒絶と看護	事前:「第4章-I-B-5」「第7章-I-J」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
8	精神症状のアセスメント	不安状態、強迫状態と看護	事前:「第4章-I-B-4」「第4章-I-C-1」「第6章-I-C-1」「第7章-I-A・E」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
9	精神症状のアセスメント	躁、うつ状態、希死念慮と看護	事前:「第2章-VII-D-1」「第4章-I-C-4」「第7章-I-B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
10	精神症状のアセスメント	操作的状態と看護	事前:「第4章-I-B-5」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
11	精神科治療と看護 (1)	薬物療法を受ける患者の看護	事前:「第5章-III-A」「第8章III・IV」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
12	精神科治療と看護 (2)	精神療法、作業療法を受ける患者の看護	事前:「第5章-III-C、D」「第8章-V、VI」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
13	症状マネジメント力を高める支援	心理教育、SST、症状マネジメント	事前:「第5章-III-D-2」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
14	家族支援	精神障害者の家族心理や家族支援のあり方	事前:「第3章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
15	精神科救急の実際	・精神科救急の現場で実践されている看護 ・精神科救急における看護師の役割・機能	復習をしておいてください	
16	総論・外因性精神疾患	・精神疾患の診断体系、原因、症状、治療 ・外因性精神疾患	事前:「第1章」「第4章」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
17	うつ病・躁うつ病・統合失調症	うつ病、躁うつ病、統合失調症の症状、診断、治療等	事前:「第6章-I-A」「第6章-I-B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。	
18	発達障害 (遅滞・LD・ADHD・ASD他)	児童・青年期の精神障害の症状、診断、治療等	事前:「第6章-II-A、B」を読んで来てください。 事後:授業内容を整理しておいてください。ください。	
19	脳神経系と精神的治療	・精神疾患における脳神経の機能、 ・薬物療法	事前:「第5章-III」、概論で使用した教科書「精神看護学概論精神保健」の「第2章-I-B-4、5」を読んで	

				来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。																
20	精神科的治療Ⅱ、神経症性障害	・薬物療法、非薬物療法 ・神経症性障害の分類、症状、治療		事前：「第6章-Ⅱ-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。																
21	神経症性障害・心身症	神経症性障害の分類、症状、治療等		事前：「第6章-Ⅱ-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。																
22	パーソナリティ障害、依存・乱用・嗜癖	・パーソナリティ障害の分類、症状、治療等 ・依存症の症状、治療等		事前：「第6章-I-D」「第6章-I-G」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。																
23	摂食障害、てんかん、性関連、睡眠障害他	・摂食障害の症状、治療等 ・てんかんの類型、発作の種類、治療等		事前：「第6章-I-H」「第6章-II-C」を読んで来てください。 事後：授業内容を整理しておいてください。																
24		-		-																
25		-		-																
26		-		-																
27		-		-																
28		-		-																
29		-		-																
30		-		-																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅱ、精神看護学実習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護</td> <td>佐藤壹三</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>はじめての精神医学</td> <td>渡辺雅幸</td> <td>中山書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社	2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三	メヂカルフレンド社																	
2	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	合否は、定期試験（85%）及びワークシート、演習、演習時の課題（15%）を総合して判定する。 なおレポート課題については、授業の時に説明する。																			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加してください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室19（眞野）、研究室18（山本智）、共同研究室4（吉村）																			
備考	学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。 16～23回は外部講師による講義になる。日程（日程変更を含む）は追って連絡するので、注意深く掲示板の確認をすること。																			

科目名	精神看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Psychiatric and Mental Health Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山本 智津子, 眞野 祥子, 吉村 公一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>本科目は、精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基本的な知識・技術をふまえたうえで、精神疾患と治療等を理解するとともに、精神疾患を有する対象とその家族に対する基本的看護援助方法を学ぶ。</p> <p>また精神看護学概論および精神看護学援助論Ⅰで学んだ基礎知識を活用しながら、ペーパーペーシェントによる看護過程の展開を行い、対象をアセスメントする技術と、必要な看護援助方法を理解する。</p> <p>さらに精神科救急における看護や、地域社会でその人らしく暮らすための支援体制について学ぶ。</p>
到達目標	<p>各精神疾患の症状、治療、看護援助方法について理解できる。</p> <p>ペーパーペーシェントを通して、対象にとって必要な看護援助方法が理解できる。</p> <p>精神科救急で実践されている看護とそこで働く看護師の役割を理解できる。</p> <p>地域における精神保健福祉活動が理解できる。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的には授業計画にそってスライドを用いながら講義を行う。一方的な講義にならないよう学生が発言する機会を設け、また精神疾患・精神症状や精神障害者への理解を深められるように視聴覚教材を活用する。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>看護師国家試験受験資格のための必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	疾患による看護の特徴(1)	統合失調症(者)の理解と看護	事前:「第9章-G」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
2	疾患による看護の特徴(2)	気分障害(者)の理解と看護	事前:「第9章-H」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
3	疾患による看護の特徴(3)	神経症性障害(者)の理解と看護	事前:「第9章-I」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
4	疾患による看護の特徴(4)	人格障害・摂食障害(者)の理解と看護	事前:「第9章-JおよびN」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
5	疾患による看護の特徴(5)	アルコール依存および薬物依存(者)の理解と看護	事前:「第9章-E」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
6	疾患による看護の特徴(6)	身体合併症をもつ対象の看護、精神科救急	事前:「第9章-K」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
7	地域精神保健福祉活動の現状、他職種との連携	精神障害者の地域生活支援	事前:「第10章-II」を読んできてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
8	精神症状がセルフケアへ及ぼす影響のアセスメント	オレム・アンダーウッド理論と活用法	事前:事前に配布する資料で予習しておいてください。 事後:授業内容を整理しておいてください。
9	精神科救急の実際	・精神科救急の現状で実践されている看護 ・精神科救急における看護師の役割や機能	事前:これまで援助論Ⅰおよび援助論Ⅱで学習した内容を復習してきてください。
10	事例演習(1)	情報収集と整理、アセスメント	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。
11	事例演習(2)	問題点の抽出	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。
12	事例演習(3)	看護計画立案	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。
13	事例演習(4)	事例に関するグループ討議①	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。
14	事例演習(5)	事例に関するグループ討議②	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。
15	事例演習(6)	事例発表会	事前:第1~6回までの授業内容を復習してきてください。

関連科目 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精神看護学②精神障害をもつ人の看護	佐藤壹三監修	メヂカルフレンド社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての精神医学	渡辺雅幸	中山書店
	2			
	3			

評価方法(基準) 合否は定期試験、グループ討議、事例発表会、レポート等を総合して評価する。(評価割合:定期試験85%、グループ討議・事例発表会・レポート等15%)

学生へのメッセージ 積極的に授業に参加してください。

担当者の研究室等 7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)

備考 学生の理解度に応じて、シラバスを変更することがある。

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。</li> <li>受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。</li> <li>精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。</li> <li>実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。</li> <li>実習中は、受持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。</li> <li>毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習期間】</b> 2014年9月～12月の2週間</p> <p><b>【実習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。</li> <li>治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。</li> </ol> <p><b>【事前学習課題】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習をしておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19(眞野)、研究室18(山本智)、共同研究室4(吉村)																
備考	<p><b>【実習場所】</b> 大阪府立精神医療センター、京都府立洛南病院、宇治おうばく病院、大阪市立総合医療センター、ハートランドしぎさん</p>																

科目名	精神看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Psychiatric and Mental Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	眞野 祥子, 山本 智津子, 吉村 公一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【概要】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱでの学習をもとに、精神科病棟での精神疾患を持つ人とのかかわりを通し、精神看護について学ぶ。具体的には、精神に障害を持つ人および家族について理解し、人間性を尊重したかかわりを通して、健康段階やその変化に応じた基礎的知識、技術およびコミュニケーション能力を養う。</p> <p><b>【目的】</b> 精神に障害を持つ人と看護師との関係について学ぶとともに、その人の全体像を把握し、病気やセルフケア能力の回復過程に沿った援助に必要な看護実践能力を修得する。また、精神医療の現状を理解する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者-看護師関係を理解し、援助的人間関係を樹立することができる。</li> <li>受け持ち患者の全体像を把握し、健康やセルフケア能力の回復過程に沿った援助を実践することができる。</li> <li>精神障害者の権利擁護、精神医療の現状と他職種との連携について理解することができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>原則として1グループ5名編成とし、担当教員の指導を受ける。</li> <li>実習前に、実習目的・目標、実習計画・事前学習・実習施設概要・留意事項等のオリエンテーションを受ける。</li> <li>実習目的・目標をもとに、各自の実習における課題と目標を明確にする。</li> <li>実習にあたり、実習病院・病棟のオリエンテーションを受け、病棟の機能や看護職の役割を理解する。</li> <li>実習中は、受け持ち対象者に適した看護過程の展開を行う。</li> <li>毎日カンファレンスを行い、一日の振り返りと翌日の計画について意見交換し、互いの学びを共有する。</li> </ol>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【実習期間】</b> 2014年9月～12月の2週間</p> <p><b>【実習内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学生は特定の患者を受け持ち、看護過程を展開する。</li> <li>看護場面を選択して、プロセスレコードを記載し、振り返りを行う。</li> <li>治療効果を考慮して、学生主催のレクリエーションを企画・運営する。</li> </ol> <p><b>【事前学習課題】</b> 精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ・Ⅱで学習した知識と技術を活用できるように復習しておくこと。特に統合失調症、うつ病、躁うつ病、精神保健福祉法、援助的人間関係に関しては必ず復習しておくこと。</p>																
関連科目	精神看護学概論、精神看護学援助論Ⅰ、精神看護学援助論Ⅱ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習内容(実習目的・目標の達成状況、記録)、レポートを総合して評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室19 (眞野)、研究室18 (山本智)、共同研究室4 (吉村)																
備考	<p><b>【実習場所】</b> 大阪府立精神医療センター、京都府立洛南病院、宇治おうばく病院、大阪市立総合医療センター、ハートランドしぎさん</p>																

科目名	在宅看護学概論	科目名(英文)	Introduction to Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 石橋 文枝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	在宅看護の変遷を踏まえて、社会の変化と諸制度、人々の多様な価値観の変化、QOLの重視、セルフケア、自己決定の尊重という観点から在宅看護の目的を理解する。同時に、地域で生活しながら療養する人々とその家族・生活環境を理解し、療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基本的知識・技術・倫理観を学ぶ。在宅看護における社会資源及びチームケア・職種間の連携の在り方について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の目的と特徴の理解ができる。</li> <li>2. 在宅看護を支える制度と在宅看護の変遷について理解ができる。</li> <li>3. 在宅看護とケアマネジメント方法について理解できる <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会資源の種類を理解する</li> <li>・社会資源の活用方法と看護職の役割を理解する</li> </ul> </li> <li>4. 家族理論の概要を理解する</li> <li>5. 在宅看護過程の特性について理解する</li> <li>6. 在宅療養生活に必要な支援・教育について知る <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象別看護の概要を理解する</li> </ul> </li> <li>7. 継続看護について理解できる</li> </ol>
授業方法と留意点	授業計画に沿って講義を中心に進めていく予定である。在宅看護の方法としての訪問看護や他職種・他機関との連携、在宅ケアマネジメント方法などイメージが困難な学習には、DVDの活用、事例を用いて学習を進める。講義終了後は、講義資料やノート整理を習慣づけてください。復習時に理解の困難な用語や事柄については、次講義時間を活用する、あるいは教員の研究室の方に来るなど、主体的に学習に取り組みその時の学びを大切にしてください。
科目学習の効果(資格)	患者の入院から退院・退院後の生活に向けて継続した看護に必要な基礎的知識を獲得をする領域でもある。在宅看護は、療養者の生活の場で展開される。したがって、医療・保健・福祉分野との連携に必要な知識・技術・倫理観について幅広く学ぶ機会である。臨床看護師としてだけでなく、地域社会における役割と認識を深め、社会のニーズに即した専門職のあり方を持つことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	在宅看護の概念	地域療養を支える看護 在宅ケアと在宅看護 在宅看護の倫理と基本理念について;自己決定支援 訪問看護の実際について視聴覚教材(DVD)の使用	事前学習・・・・第1回受講時、用語の定義1.2.3.を調べて参加する(A4サイズ用紙)。 1.在宅ケアとは 2.地域看護とは 3.在宅看護とは
2	訪問看護はどのように作られたか 在宅看護の歴史と変遷	講義中心 ・第1回目講義の学習のまとめと内容の確認 日本の在宅看護の変遷と社会背景 ・在宅看護の社会的背景について	第3回目; 日本の在宅看護の変遷と社会背景について、ナーシンググラフィカ P16-P22、新版在宅看護論 P187-P197までを読んで講義に参加すること。
3	在宅ケアを支える制度と社会資源 訪問看護の成り立ち 介護保険/医療保険制度	講義中心 ・訪問看護の仕組みと提供 ・事前講義の学習のまとめと確認 ・前課題の学習内容を基に進めていきます。	第3回講義参加時の課題 1.医療保険の種類 2.介護保険についてP204-P211までを読んで参加すること。
4	第2回目からの継続講義 ケアマネジメントについて	講義中心 第3回講義内容 ケアマネジメントの実際理解ができるように、事例を通して説明をする。 ケアマネジメントの過程 ケースマネジメント	ケアマネジメントについてP211-218まで読んで受講する。 ケアマネジメントに関連するレポート課題あり
5	訪問看護制度の法的枠組み 医療保険と訪問看護 介護保険と訪問看護 障害者総合支援法	医療保険と介護保険の両制度における訪問看護の役割と機能について 第3回の講義の復習を兼ねて質疑応答で進めていく	講義終了後に課題提示
6	在宅療養者と家族支援1	*第5回までの学習評価-小テスト- 在宅療養を必要とする人たち 在宅療養者の成立条件 在宅療養者の権利 在宅療養者への看護活動	講義終了後に課題提示
7	在宅療養者と家族支援2	家族とは 家族と看護介護家族の状況(家族の介護負担とその軽減) 家族に関する理論(・家族対処理論・構造-機能理論・発達理論・家族システム理論	講義終了後に課題提示
8	在宅療養者と家族支援2	家族に関する理論(・家族対処理論・構造-機能理論・発達理論・家族システム理論	講義終了後に課題提示
9	在宅療養を療養を支える看護 社会資源の活用	講義中心 1部グループワーク 社会資源とは 社会資源活用のプロセス;障害者自立支援について 住環境/福祉用具について	講義終了後に課題提示
10	在宅療養を療養を支える看護 多職種と連携・協働すること	講義中心 多職種との連携・協働の必要性 訪問看護の役割 在宅ケアにおける保健医療福祉チーム	講義終了後に課題提示
11	訪問看護の実践(看護過程)	訪問看護における看護過程の特徴	講義終了後に課題提示

			訪問看護家庭の実際 訪問看護記録																	
	12	さまざまな療養者に対する 在宅看護 1	要介護高齢者への在宅看護 認知症高齢者への在宅看護 がん療養者への在宅看護・・・・・・・・ 視聴覚教材 DVD 神経系難病療養者への在宅看護 感染症を持つ療養者への在宅看護	講義終了後に課題提示																
	13	さまざまな療養者に対する 在宅看護 2	講義中心/DVD 小児への在宅看護 精神疾患を持つ療養者への在宅看護 ・・・視聴覚教材 DVD	講義終了後に課題提示																
	14	継続看護について	第13回まで学習評価-小テスト- 退院計画とは 看護職との連携の方法(病院と在宅の継続看護、福祉施設での看護と訪問看護、保健所・市町村と訪問看護)	講義終了後に課題提示																
	15	在宅看護管理とは 在宅看護まとめ	訪問看護ステーションの事業運営 安全管理 看護の質の管理	講義終了後に課題提示																
関連科目	家族関係論 地域看護学 専門科目の概論のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>在宅看護論</td> <td>木下由美子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア</td> <td></td> <td>MCメディア出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版	2	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア		MCメディア出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版																	
2	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア		MCメディア出版																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい家族社会学</td> <td>森岡清美・望月崇</td> <td>培風館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>根拠がわかる在宅看護技術</td> <td>岡崎美智子</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい家族社会学	森岡清美・望月崇	培風館	2	根拠がわかる在宅看護技術	岡崎美智子		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい家族社会学	森岡清美・望月崇	培風館																	
2	根拠がわかる在宅看護技術	岡崎美智子																		
3																				
評価方法 (基準)	小テスト・レポート(10%) 定期試験(90%)を総合的に判断する。																			
学生への メッセージ	現在、我が国は少子化社会そして超高齢社会にあり、看護職の働く場は病院看護から在宅看護へ拡大されています。病院看護との違いは、療養者の「生活の場」で行う看護支援は、幅広い知識と創造力を更に求められます。短い時間で幅広い学習をすることになります。日々の学習(予習・復習)を大事にしましょう。講義中の質問は大歓迎です。15コマを通して在宅看護の理解に達します。欠席をしないように受講することが求められます。																			
担当者の 研究室等	7号館 3階 第8研究室 後閑容子																			
備考	不定期に、小テスト、レポートを行う。在宅ケアマネジメント学習は、演習の取り組み姿勢も評価の対象とする。欠席をしないようにすること。教科書は、2冊とも購入のこと。参考書の「根拠がわかる在宅看護技術」は、3年次前期の在宅看護学援助論で、必須となる教科書です。																			

科目名	在宅看護学援助論 I	科目名 (英文)	Home Care Nursing I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後閑 容子, 阪上 由美, 石橋 文枝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	概要 在宅看護実践は、療養者の自宅に赴き「生活の場」で展開される。そのため、療養者・家族との信頼関係の構築が重要である。病院看護とは異なり医療設備の不足する環境で、さまざまな発達段階や健康障害（難病疾患、COPD、脳血管障害後遺症、精神疾患、終末期ケア、在宅酸素療法、高度医療処置）を持つ人への医療処置・援助方法について理解する。全般を通し療養者・家族の自立・QOL に向けた支援方法について考えることができる。
到達目標	1. 在宅でのコミュニケーション・面接技術について理解できる 2. 在宅療養者に必要な日常生活援助技術について理解できる 3. 在宅医療及び医療管理を必要とする人への看護を理解できる 4. 対象別、病態別看護の在宅看護を理解できる 5. 在宅終末期看護について理解できる
授業方法と留意点	講義と演習を中心にすすめていく。在宅で使用する医療器材や物品について、現物を紹介し使用方法や管理について学習する。また、高度医療機器に（人工呼吸器）についても取り扱い方法や留意事項など直接、触れて学べる時間（演習）を持つ。また、療養者の生活の場で看護を提供するためには、療養者・家族の個々の生活支援には看護者の創意工夫が求められる。また、GW を予定しています。GW では、事例にもとづいて、援助の工夫を考えますので、欠席をしないようしてください。
科目学習の効果（資格）	在宅看護学実習及び他領域実習に必要な「知識・技術・態度」を学ぶことができる。看護師国家試験学習のために知識の獲得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	在宅看護援助技術 在宅でのコミュニケーション・面接技術	家庭訪問の意義と訪問マナー 信頼関係の形成 訪問マナーについて実演(学生による)	新版在宅看護論 P39-P48 を読んで講義に臨む 講義後のノート整理を行うこと
2	在宅における日常生活援助 環境/食事/排泄	講義;在宅における環境整備とは 食事とは 排泄とは 日常生活行動、特に自立の程度は、療養者や家族の生活・QOL に影響します。日常生活の負担を少なくすることは、在宅療養を継続するうえで重要です。基礎看護学技術で学んだ内容をベースに在宅環境に合わせた援助の方法について講義します。	講義後のノート整理を行うこと 1年次の基礎看護技術の環境/食事/排泄を復習すること	
3	在宅における日常生活援助 清潔/移動	講義;在宅における清潔/移動 日常生活行動、特に自立の程度は、療養者や家族の生活・QOL に影響します。日常生活の負担を少なくすることは、在宅療養を継続するうえで重要です。基礎看護学技術で学んだ内容をベースに在宅環境に合わせた援助の方法について講義します。	講義後のノート整理を行うこと 1年次の基礎看護技術の清潔/移動を復習すること	
4	在宅における日常生活援助 衣(更衣)/服薬	講義;在宅における衣とは 服薬とはについて 日常生活行動、特に自立の程度は、療養者や家族の生活・QOL に影響します。日常生活の負担を少なくすることは、在宅療養を継続するうえで重要です。基礎看護学技術で学んだ内容をベースに在宅環境に合わせた援助の方法について講義します。	講義後のノート整理を行うこと 1年次の基礎看護技術の衣(更衣)/服薬を復習すること	
5	在宅における医療処置の支援・看護方法について 医療処置の目標、支援、教育のポイントについて	在宅の医療処置の現状 ・在宅中心静脈栄養法 ・人工肛門	講義後のノート整理を行うこと	
6	在宅における医療処置の支援・看護について 事例:脳卒中後遺症を持つ高齢者	脳卒中の事例(医療処置管栄養、膀胱カテーテル、褥瘡の発生)に対する看護の展開 経管栄養は、シュミレーターを用いて理解を深める	講義後のノート整理を行うこと	
7	在宅における医療処置の支援・看護について 腹膜透析(PACD) の実際と在宅での援助	・血液透析の生活指導との比較 ・腹膜透析の患者の支援・看護	講義後のノート整理を行うこと ・第7回講義課題;慢性腎不全について(血液透析患者の生活指導についてレポート) 1年次、2年次の病態学;慢性腎不全の病態の復讐をしておくこと 講義後のノート整理を行うこと	
8	事例にみる在宅看護(50人:講義/50人 演習) -1コマ COPDを持つ人への在宅看護 筋萎縮性側索硬化症を持つ人の在宅看護	事例(第8.9コマ続き) (50人:講義/50人 演習) -1コマ COPDを持つ人への在宅看護 筋萎縮性側索硬化症を持つ人の在宅看護 演習;人工呼吸器の管理 酸素濃縮器の管理	事前課題;慢性呼吸不全の定義について調べる 事前課題;筋萎縮性側索硬化症・難病について調べておく 講義後、課題レポートあり	
9	第8回・9回コマ続き 事例(50人:講義/50人 演習) -2コマ COPDを持つ人への在宅看護 筋萎縮性側索硬化症を持つ人の在宅看護	事例にみる在宅看護 (50人:講義/50人 演習) -1コマ COPDを持つ人への在宅看護 筋萎縮性側索硬化症を持つ人の在宅看護 演習;人工呼吸器の管理	事前課題;慢性呼吸不全の定義について調べる 事前課題;筋萎縮性側索硬化症・難病について調べておく 講義後、課題レポートあり	

		酸素濃縮器の管理 演習；人工呼吸器の管理 酸素濃縮器の管理																	
10	COPD/ALS を持つ人の看護について	在宅療養をする医療依存度の高い人への看護について テーマごとにGW 小テスト	事前課題；筋萎縮性側索硬化症・難病について調べておく 講義後のノート整理を行うこと																
11	さまざまな疾患を持つ人の在宅看護 在宅で生活する精神障害を持つ人への支援 在宅で生活する小児への支援	病院における看護との違いと在宅での援助方法 小児の在宅支援の理解と在宅ケア特有の支援技術	講義後のノート整理を行うこと																
12	さまざまな疾患を持つ人の在宅看護 事故により中途障害を持った若者に対する在宅看護 認知症を持つ人への在宅看護	頸椎損傷に伴う四肢麻痺で寝たきりに対する援助 褥瘡の予防 四肢硬縮の予防 摘便 認知療養者の理解 認知症療養者・家族への支援方法	講義後のノート整理を行うこと																
13	在宅ターミナルケア	在宅ターミナルを可能にする要件 WHO 疼痛ラダーについて 終末期プロセス 看取り(エンゼルケアを含む)	講義後のノート整理を行うこと																
14	在宅ターミナルケア	在宅ターミナルを可能にする要件 WHO 疼痛ラダーについて 終末期プロセス 看取り(エンゼルケアを含む)	講義後のノート整理を行うこと																
15	在宅援助論まとめ	小テスト	特になし																
関連科目	基礎科目、専門基礎科目、地域看護学、家族関係論、領域実習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 在宅看護論</td> <td>木下由美子</td> <td>医歯薬出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>根拠がわかる在宅看護技術</td> <td>岡崎美智子</td> <td>メジカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版	2	根拠がわかる在宅看護技術	岡崎美智子	メジカルフレンド社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版																
2	根拠がわかる在宅看護技術	岡崎美智子	メジカルフレンド社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>よくわかる在宅看護</td> <td>角田直枝</td> <td>GaKKen</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	講義/演習への参加態度 10% 科目終講試験 90%																		
学生への メッセージ	在宅看護では、患者のことを「患者」とは言いません。療養者あるいは訪問看護を利用する「利用者さん」と呼称します。在宅援助方法の原理原則は基礎看護技術と変わりませんが、療養者それぞれの生活があるように援助も百人百様の方法で援助を提供しなければなりません。看護のフィールドも変化・拡大しつつあります。頭を柔軟に学習に取り組んでください。																		
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 石橋文枝 7号館 3階 第9研究室																		
備考																			

科目名	在宅看護学援助論Ⅱ	科目名(英文)	Home Care Nursing II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 阪上 由美, 石橋 文枝
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	在宅看護概論、在宅援助論Ⅰの既習知識を活用し、様々な発達段階、健康上の問題を抱えながら、地域で生活する療養者への援助の実践方法について修得する。 在宅における看護過程の展開の特徴と訪問看護の役割を述べることができる。 在宅で提供する援助技術が安全、安楽に実施できるための方法論について学ぶ			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>在宅における看護過程の展開を理解できる <ol style="list-style-type: none"> <li>事例に基づいて、情報収集の視点の必要性を理解できる</li> <li>対象を生活者として捉え、アセスメントする必要性を理解できる</li> </ol> </li> <li>看護計画の立案ができる <ol style="list-style-type: none"> <li>療養者、家族介護者に無理のない計画内容で立案できる</li> <li>計画内容の実践シミュレーションを計画できる(演習計画)</li> <li>シミュレーションに沿った援助の実践と評価ができる</li> <li>看護計画の実践、評価から、適宜、修正することの必要性を理解できる</li> </ol> </li> <li>在宅看護記録の方法について理解できる</li> </ol>			
授業方法と留意点	この授業は、演習中心に行うので、主体的に取り組むこと ・事前学習、課題を通して講義内容の理解ができるようにしてください ・共同学習、グループ学習の場面が多くあります。個人の意見をもって参加できること、また、他者の意見に耳を傾けることが大切になる授業展開になります。			
科目学習の効果(資格)	在宅看護学実習及び他領域実習に必要な「知識・技術・態度」を学ぶことができる。看護師国家試験学習のために知識の獲得。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事例に基づいた看護過程の展開	在宅における看護過程の展開について-講義中心- 事例紹介 事例に基づいて①情報収集 ②アセスメント・問題の明確化③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す	看護過程の構成要素について復讐をしておくこと 課題；紹介する事例について看護過程の情報収集・問題の明確化と全体像の把握までを展開をする。講義したところまでを個人で展開する
	2	第1回目 継続講義	看護過程の展開 第1回にひき続き③看護計画④実践⑤評価のプロセスの一連の流れを示す 講義したところまでを個人で展開する	課題；紹介する事例について看護過程の情報収集・問題の明確化と全体像の把握までを展開をする。
	3	事例についてグループワーク 1回目 情報収集、全体像の把握、問題点の明確化、について意見交換	1クラスを3区分し1教員3；2-33人程度での学習展開/1G(6人)×5=32-33人 指定された教室でグループワークの実施 担当教員の相談。アドバイスを得ながら進めていく	個人学習を必ずして参加する。
	4	事例についてグループ討議 2回目 看護計画の具体的な内容について意見交換	全体像から浮かび上がった問題点について根拠を確認する それぞれの問題点に対する長期目標・短期目標 O-P)、T-P)、E-P)について援助内容の確認と共有 T-P)からグループの援助内容を決定する。	個人学習を必ずして参加する。
	5	全体学習 事例を用いた看護過程の実践計画(看護計画)の発表 2コマ続き(4.5時限)	・事例に対する看護計画の発表と意見交換 1.担当教員のグループ；2~3グループ/5グループの援助計画に対する意見交換	講義終了後説明します。
	6	全体学習 事例に対する看護過程の実践計画(看護計画)の発表 2コマ続き(4.5時限)	・事例に対する看護計画の発表と意見交換 1.担当教員のグループ；2~3グループ/5グループの援助計画に対する意見交換 計画に基づいた援助の実践について説明	演習計画に対する必要物品、手順、評価方法について作成/個人課題。
	7	グループ別演習計画の立案 教室；在宅演習室	演習計画書を各グループで作成/教員位演習計画を提出 必要物品 手順 評価方法	演習内容の学習をしておくこと。
	8	演習グループ/課題グループ 2コマ続き 援助の実際 1援助=30分×2援助の演習	看護計画に基づいて援助計画の演習 各グループ；役割分担と援助後の評価もって終了 空き時間は、課題への取り組み	演習内容の学習をしておくこと。
	9	演習グループ/課題グループ 2コマ続き 援助の実際 1援助=30分	看護計画に基づいて援助計画の演習 各グループ；役割分担と援助後の評価もって終了	演習内容の学習をしておくこと。

	援助の演習/1G2 演習	空き時間は、課題への取り組みと計画に修正評価	
10	在宅看護過程の展開のまとめ 事例を用いた看護過程の展開と演習から学んだこと-意見交換-	グループ学習	講義終了後説明します。
11	ロールプレイ(4コマ) 在宅ケアマネジメント 初回訪問/サービス担当者会議	次回、演習ロールプレイングの説明 1年次立案した在宅ケアマネジメントを用いて初回訪問の設定 20分の模擬演習(1G10人=9G) 役割分担、役づくり：1回目レポート 実演：2回目レポート一部(DLT)	講義終了後説明します。
12	2コマ：継続 在宅ケアマネジメント 初回訪問/サービス担当者会議	在宅ケアマネジメント 初回訪問/サービス担当者会議 演習20分(DLT) レポート グループ間での意見交換	講義終了後説明します。
13	3コマ 在宅ケアマネジメント 初回訪問/サービス担当者会議	各グループのロールプレイングの学び；映像を通して意見交換	講義終了後説明します。
14	4コマ；3コマの継続 在宅ケアマネジメント 初回訪問/サービス担当者会議	各グループのロールプレイングの学び；映像を通して意見交換	講義終了後説明します。
15	在宅看護学演習のまとめ	在宅看護援助技術 地域で生活を支えるということ 家族、多職種との関わり方についてのまとめ	ロールプレイングでの感想や自分なりの意見を持って講義に参加する

関連科目 基礎専門科目。専門科目の全て

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	根拠のわかる在宅援助技術	岡崎美智子	メジカルフレンド社
2	新版 在宅看護論	木下由美子	医歯薬出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	写真でわかる訪問看護	押川眞喜子	インターメディアカ
2	よくわかる在宅看護	角田直枝	GaKKen
3			

評価方法 (基準)	グループでの学習成果(提出物)や個人課題の提出物、演習への参加姿勢を含め点数評価；50点 演習を終えての課題レポート；50点
学生への メッセージ	演習中心(GW)に学習を進めていきます。 グループ学習は、個人の参加意識が学習成果に影響します。グループで取り決めた到達目標、自己役割を果たし在宅で療養する人に必要な看護の展開方法や必要な医療処置やセルフケアに必要な支援方法について学習しましょう。
担当者の 研究室等	後閑容子 7号館 3階 第8研究室 阪上由美 7号館 3階 共同研究室4
備考	演習内容によっては、4コマ続きや2コマ続きがあります。時間割の確認を怠らないことと全出席ができるように体調管理・生活管理をしてください

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後閑 容子, 阪上 由美, 山本 十三代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1)訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2)地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3)対象の健康上の問題について述べられる 4)対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5)対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6)対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7)対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1.看護学臨地実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2.実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3.実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4.実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5.実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1.訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2.実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3.初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4.訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5.2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6.継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7.他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8.実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9.学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1.実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 阪上 由美 7号館 3階 共同研究室4 山本十三代</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	在宅看護学実習	科目名 (英文)	Practice in Home Care Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	後閑 容子, 阪上 由美, 山本 十三代
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>実習目的 在宅で看護を必要としているあらゆるライフステージにある人々やその家族の生活の実態、健康上の問題を理解し在宅における看護の機能と役割の実際を学ぶ。</p>																		
到達目標	<p>到達目標 1)訪問看護ステーションの組織・機構の概要について述べられる。 2)地域看護における訪問看護の特性について述べられる 3)対象の健康上の問題について述べられる 4)対象に対する医療・福祉活動の実際について述べられる 5)対象およびその家族の生活の実際について記述できる 6)対象およびその家族に対する看護活動の実際について記述できる 7)対象およびその家族の尊厳と権利を尊重した態度、行動をとることができる</p>																		
授業方法と留意点	<p>1.看護学臨地実習要項をよく読み理解した上で、在宅実習要項で示している実習目的・目標を達成できるよう務める。 2.実習オリエンテーションには、必ず出席する。 3.実習目標を理解し必要な事前学習・演習を行い主体的に実習に取り組む。 4.実習期間中、訪問看護師に同行し看護の実際を見学/体験をする。 5.実習期間中の教員からの指導は時間設定し行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1.訪問看護ステーションで2週間(学内演習3日間、臨地実習7日間)の実習。 2.実習1日目は、直接実習施設に行くので事前に交通アクセスの把握が必要。 3.初日より、訪問看護師に同行し在宅療養者のご自宅へ行き看護の実際を学ぶ。 4.訪問は1日2ケース(2ケース×7日のうち1ケースを継続訪問する)。 5.2日目からの同行は基礎看護技術を用いて療養者にかかわれるように取り組む。 6.継続訪問の利用者に対しては、ケース把握(全体像)、問題点の明確化、看護計画の立案という流れを用いて在宅療養者や家族に対する必要な援助を考える。 7.他機関、他職種との協働の場面もあるので事前学習は確実にしておく。 8.実習施設の最終日には、指導者を交えたカンファレンスの実施。 9.学内最終日は、各施設ごとのプレゼンテーションを行い情報の共有と意見交換を行い在宅看護の理解を深める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2.3年次に用いた教科書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2.3年次に用いた教科書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	2.3年次に用いた教科書																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介する																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>1.実習目標の達成度や実習態度を含めて評価 (実習への出席率によって目標の達成が困難な場合は確認・指導します)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>2週間の短い期間の実習です。学習目標を明確にして取り組みましょう。 在宅実習は、様々な職種の人との交流や協議の場面に参加することができます。連携すること、協働することの意義を理解し訪問看護師の役割について丁寧に考えてみてください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>後閑 容子 7号館 3階 第8研究室 阪上 由美 7号館 3階 共同研究室4 山本十三代</p>																		
備考	<p>体調管理に気をつける。</p>																		

科目名	地域看護学	科目名(英文)	Community Health Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	後閑 容子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	<p>地域看護学の理念、対象(個人・家族・集団・コミュニティ)、活動の場の特性、法規、活動の展開方法、計画策定と実践などの概要の学習を通して、地域看護学の概念を理解し、看護の役割と機能を学習する。さらに、地域看護学の歴史的発展と現状、今後の課題を社会的現象とのかかわりを通して、地域において看護職が果たす機能や役割を考える。</p> <p>また、地域保健における母子保健管理体系の学習と保健・医療・福祉との連携、看護職の役割を理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域看護学、公衆衛生看護学の対象、場、活動方法などを学び、地域看護学、公衆衛生看護学の概念を理解する。</li> <li>2. 地域看護/公衆衛生看護の歴史を学ぶ。</li> <li>3. ヘルスプロモーションと施策を理解する。</li> <li>4. 地域保健活動において用いる理論、モデルを理解する。特に、地域診断、保健指導で用いるモデルを理解する。</li> <li>5. 地域保健活動におけるグループ支援、組織活動などの、集団およびコミュニティーへの活動について理解し、看護職の役割を把握する。</li> <li>6. 地域保健福祉計画、健康増進計画などをとおして、地域における各種保健政策を知る。</li> <li>7. 地域看護における倫理を学ぶ。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>原則として、授業計画に基づき授業を展開する。授業に使用するテキストは「公衆衛生看護学.JP」、「国民衛生の動向」を使用し、授業に参加する学生には、予習を促すようにする。毎回、授業の振り返りを行い、さらに学生の質問と授業への感想、要望をとり、授業の内容と進め方に反映させる。</p> <p>地域看護学における活動方法などは、実践例を用いた教材を作成し、学生が理解できるように工夫する。さらに、保健指導の方法では、集団や個別の指導方法を実践的に学ぶ機会を設けるなどして、学生の学習を助ける。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>地域の理解、地域看護(保健師)の理解により、統合看護に繋がる</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地域看護の概要	地域看護学、公衆衛生看護学の理念、活動の概要、活動の対象と場	健康とはどのような状態か、健康の定義とは何か、調べてまとめてください。2.公衆衛生看護学.JP3-13ページを読んでください。
	2	地域保健活動の歴史	リアンワールドと公衆衛生看護活動、日本の保健師活動の特徴と歴史	公衆衛生看護学.JP22-37を読んでください。2.保健師の活動について書かれた本を紹介します。
	3	ヘルスプロモーションと施策	プライマリーヘルスケア、WHOの活動、オタワ憲章、バンコク憲章、世界の健康と看護職の活動	ヘルスプロモーションに関する文献を読んでください。第1回授業時に渡します。
	4	地域診断と保健活動	地域診断の目的・意義を理解する 1.地域診断過程、2.コミュニティアズパートナーモデル、プリシード・プロシードモデル、3.地域保健活動でどのように地域診断を活用しているか、事例をとおして理解する。	地域診断に関するテキストの章を読んでください。
	5	プリシード・プロシードモデルと健康教育(1)グループディスカッション	プリシード・プロシードモデルを基に、食生活に関する健康問題を考える	プリシード・プロシードモデルについてテキストを予習する
	6	プリシード・プロシードモデルと健康教育(2)グループディスカッションと発表	プリシード・プロシードモデルを基に、食生活に関する健康問題を考える	グループ学習の発表の準備
	7	地域保健活動の方法	地域保健活動に用いる方法として、健康教育、健康相談、家庭訪問など、個人・家族、集団に対する活動方法の概要を学ぶ	公衆衛生看護学.JP、保健師と公衆衛生活動、公衆衛生活動の場、方法を予習する
	8	公衆衛生看護活動方法の実際	家庭訪問について学ぶ	事後学習として、家庭訪問のVTRを視聴し、保健師の行う家庭訪問の特徴と地域における看護活動に関してレポートを作成する。
	9	行動変容と保健指導	地域看護活動と行動変容モデル・看護活動モデル	自分の保健行動に関して評価します。事後学習としてまとめてください。
	10	保健信念モデル、保健行動のシーソーモデル	保健信念モデルの理解と、保健活動への活用	保健信念モデルの活用を考える。
	11	母子保健活動	母子保健の諸指標と保健師活動の概要 母子保健における地域の健康問題と保健活動 1.母子手帳と保健活動、2.こんにちは赤ちゃん事業、3.乳幼児健康診査・健康相談	自分の母子手帳を持ってきてください。
	12	地区組織活動	保健師活動と地区組織活動について、実際の活動例を基に学ぶ	事前に配布する資料を読んで予習してきてください。
	13	自助グループ支援	コミュニティにおける保健師活動、地域住民と健康意識、健康づくり、自助グループ育成への支援などについて理解する。	自助グループについて調べてみましょう。地域にはどのようなグループがあるのでしょうか?
	14	地域看護管理	地域における保健医療福祉計画、事業計画などと保健師の役割	あなたの住んでいる市町村のHPから地域保健計画を探してみましょう。どのような計画がありましたか。あらかじめ調べて授業に参加しましょう。
	15	地域看護における倫理	個人情報保護と保健活動、保健活動における倫理的判断などを理解する。	あなたのご家族は健康診査の結果をどのように知りますか?保健師と関わりがあるかどうか、聞いてみましょう。
関連科目	看護学概論 在宅看護学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公衆衛生看護学.JP第4版	荒賀直子、後閑容子編	インターメディカル

	2	国民衛生の動向（最新版）（8月頃発売予定です）	厚生統計協会	厚生統計協会
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	保健師業務要覧	日本看護協会監修	日本看護協会
	2	ヘンリー・ストリートの家	リリアン・ウォルド	日本看護協会出版会
	3			
評価方法 （基準）	<p>授業で紹介する保健師の活動記録に関する本や論文に関するレポート、講義中の質問に対する回答及び定期試験の結果を基に、総合的に評価する。          授業の欠席が多い場合は定期試験を受けることができない。          定期試験（80%）、講義の参加状況（10%）、レポート（10%）</p>			
学生への メッセージ	<p>地域看護学には公衆衛生看護学、在宅看護学、学校保健、産業看護などたいへん広い看護の活動の場が含まれています。本授業では、地域看護学とは何か、健康と看護とのかかわりを理解し、さらに、健康増進や健康づくり、疾病予防に関連する看護活動を広く学習します。看護学への導入とともに地域における看護活動の実際も理解できるように、事前・事後学習として出された課題をしっかりと学習してください。また、授業に出席することは、本科目にとって必須条件です。自身の健康管理に気をつけて、授業を休まないようにしてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室8（後閑）			
備考				

科目名	家族看護学	科目名(英文)	Family Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	看護職は患者とともに家族を看護の対象として、またチーム医療の構成員として協働する者と捉えて、看護を行う。本科目は、家族看護学の歴史や概念を理解し、家族を理解するための理論を学ぶ。さらに、実践の場において活用できるように、実際例を通して、家族への看護のアセスメント、計画、をとおして看護職の役割りを学ぶ。具体的には、家族看護過程に沿った展開を学習する。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族看護学の概念を理解する。</li> <li>2. 家族を理解するための理論を学ぶ。</li> <li>3. 家族アセスメントモデルを理解する。</li> <li>4. 家族看護過程を学ぶ。</li> <li>5. 家族看護における看護者の役割を学ぶ。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	講義及び演習を取り入れて、具体的に学習できるようにする。講義においては、既学習における学びをもとに、家族看護学における理論の学びを深め、さらに、実際例をとおした看護過程の展開を学ぶ。そのために、看護学の専門領域で学んだことを復習することを期待する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	看護学部3年生を対象とした授業科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族看護学とは何か</td> <td>家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められているもの</td> <td>テキスト第1章を読んでくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護学における家族の理解</td> <td>わが国の家族 家族と健康</td> <td>国民衛生の動向から、人口、世帯数、世帯構造の推移を学習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>家族と理論 1</td> <td>家族発達理論</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>家族と理論 2</td> <td>家族システム理論</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>家族と理論 3</td> <td>家族ストレス対処理論</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族看護過程 1</td> <td>家族看護アセスメント</td> <td>テキストの予習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族看護アセスメント</td> <td>ジェノグラム、エコマップの学習</td> <td>事前配布資料の学習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族看護アセスメントモデル</td> <td>カルガリーアセスメントモデル、等</td> <td>事前配布資料の学習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家族看護アセスメントモデル</td> <td>フリードマン家族アセスメントモデル</td> <td>テキスト予習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>家族看護アセスメントモデル</td> <td>家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル</td> <td>テキスト予習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家族看護の実際例を学ぶ 1</td> <td>在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習</td> <td>配布資料の予習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>家族看護の実際例を学ぶ 2</td> <td>在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習 共有</td> <td>グループ検討の資料</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>家族看護の実際例を学ぶ 3</td> <td>終末期看護の実際例 グループ学習</td> <td>事前配布資料の予習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>家族看護の実際例を学ぶ 4</td> <td>週末期看護の実際例 グループ学習 共有</td> <td>グループ検討資料の確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>家族看護学のまとめ</td> <td>授業の振り返り 看護者の役割と援助姿勢</td> <td>今までの振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	家族看護学とは何か	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められているもの	テキスト第1章を読んでくる	2	看護学における家族の理解	わが国の家族 家族と健康	国民衛生の動向から、人口、世帯数、世帯構造の推移を学習	3	家族と理論 1	家族発達理論	テキストの予習	4	家族と理論 2	家族システム理論	テキストの予習	5	家族と理論 3	家族ストレス対処理論	テキストの予習	6	家族看護過程 1	家族看護アセスメント	テキストの予習	7	家族看護アセスメント	ジェノグラム、エコマップの学習	事前配布資料の学習	8	家族看護アセスメントモデル	カルガリーアセスメントモデル、等	事前配布資料の学習	9	家族看護アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル	テキスト予習	10	家族看護アセスメントモデル	家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル	テキスト予習	11	家族看護の実際例を学ぶ 1	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習	配布資料の予習	12	家族看護の実際例を学ぶ 2	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習 共有	グループ検討の資料	13	家族看護の実際例を学ぶ 3	終末期看護の実際例 グループ学習	事前配布資料の予習	14	家族看護の実際例を学ぶ 4	週末期看護の実際例 グループ学習 共有	グループ検討資料の確認	15	家族看護学のまとめ	授業の振り返り 看護者の役割と援助姿勢	今までの振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	家族看護学とは何か	家族看護学の定義、目的 家族看護学に求められているもの	テキスト第1章を読んでくる																																																																
2	看護学における家族の理解	わが国の家族 家族と健康	国民衛生の動向から、人口、世帯数、世帯構造の推移を学習																																																																
3	家族と理論 1	家族発達理論	テキストの予習																																																																
4	家族と理論 2	家族システム理論	テキストの予習																																																																
5	家族と理論 3	家族ストレス対処理論	テキストの予習																																																																
6	家族看護過程 1	家族看護アセスメント	テキストの予習																																																																
7	家族看護アセスメント	ジェノグラム、エコマップの学習	事前配布資料の学習																																																																
8	家族看護アセスメントモデル	カルガリーアセスメントモデル、等	事前配布資料の学習																																																																
9	家族看護アセスメントモデル	フリードマン家族アセスメントモデル	テキスト予習																																																																
10	家族看護アセスメントモデル	家族生活力量モデル、家族エンパワメントモデル	テキスト予習																																																																
11	家族看護の実際例を学ぶ 1	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習	配布資料の予習																																																																
12	家族看護の実際例を学ぶ 2	在宅療養の高齢者の家族への看護 グループ学習 共有	グループ検討の資料																																																																
13	家族看護の実際例を学ぶ 3	終末期看護の実際例 グループ学習	事前配布資料の予習																																																																
14	家族看護の実際例を学ぶ 4	週末期看護の実際例 グループ学習 共有	グループ検討資料の確認																																																																
15	家族看護学のまとめ	授業の振り返り 看護者の役割と援助姿勢	今までの振り返り																																																																
関連科目	授業中に紹介する																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族看護学 理論と実践</td> <td>鈴木和子、渡辺裕子</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	家族看護学 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	家族看護学 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族看護学 理論・実践・研究</td> <td>村田恵子ほか訳</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族のケア 家族へのケア</td> <td>上野千鶴子ほか</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>長期療養を支える家族ケア</td> <td>渡辺裕子</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	家族看護学 理論・実践・研究	村田恵子ほか訳	医学書院	2	家族のケア 家族へのケア	上野千鶴子ほか	岩波書店	3	長期療養を支える家族ケア	渡辺裕子	医学書院																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	家族看護学 理論・実践・研究	村田恵子ほか訳	医学書院																																																																
2	家族のケア 家族へのケア	上野千鶴子ほか	岩波書店																																																																
3	長期療養を支える家族ケア	渡辺裕子	医学書院																																																																
評価方法(基準)	期末試験、グループ学習への参加の程度などを総合的に評価する。授業への欠席の多い場合、期末試験を受けることはできない。期末試験80%、グループ学習への貢献度20%を予定している。																																																																		
学生へのメッセージ	看護学実習に入る前に、家族は看護の対象であり、時には、患者への看護の協働者でもあることを理解し、実際の看護に活用できる学びを期待する。予習復習をすること、グループ学習への積極的な参加を期待する。																																																																		
担当者の研究室等	教員研究室は7号館3階。																																																																		
備考																																																																			

科目名	看護倫理	科目名(英文)	Nursing Ethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期前半	授業担当者	鎌田 佳奈美, 川畑 安正, 塚田 敬義
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	医療専門職に求められるバイオエシックス(生命倫理)の基本的事項を学習する。その視点として、バイオエシックスの問題を倫理的・法的・社会的問題(ELSI; ethical, legal and social issues)として捉え、看護倫理を含めた広い視点から講義を行う。さらに、最新のトピックを紹介しながら、現行の法律、諸制度およびバイオエシックス(生命倫理)に係る問題群が複雑かつ密接に関係していることを理解する。
到達目標	①医療と医学研究における倫理の重要性を理解する。②患者の基本的権利を熟知し、現状の問題点が整理できる。③インフォームド・コンセントを中心に患者の主体的同意を得られるよう、対話と必要な考え方を身につける。④医療者の義務と裁量について理解し、基本的態度や考え方を学ぶ。⑤医療の安全性確保と危機管理について学ぶ。⑥チーム医療の重要性を理解し、医療従事者との連携を図る能力を身につける。⑦生命倫理学で取り上げられる問題群について詳しく説明できる。
授業方法と留意点	授業が整理できるようにデジタル教材を効果的に使いながら進める。 具体的な学習方法や課題、スケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項(ポータル・掲示等)を見落とさないように留意すること。
科目学習の効果(資格)	看護師国家試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	バイオエシックス総論①	歴史的背景: WW II 以前	事前に教科書を読む 講義の内容をまとめる
	2	バイオエシックス総論②	歴史的背景: WW II 以降	事前に教科書を読む 講義の内容をまとめる
	3	自己決定と人間の尊厳	インフォームド・コンセントの法理	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	4	医療と法律①	医療関係法規	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	5	医療と法律②	医療事故、医療訴訟	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	6	生殖補助医療・人工妊娠中絶	生殖補助医療の現状と課題、母体保護法	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	7	遺伝子およびゲノム	遺伝子をめぐる生命倫理	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	8	ライフサイエンス	科学政策	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	9	人の死について	安楽死、尊厳死、自然死	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	10	脳死と移植医療	死の概念、臓器移植法	事前に教科書を読む 講義内容をまとめる
	11	小児看護と倫理①(鎌田)	子ども虐待について	事前課題プリント 講義内容のまとめ
	12	小児看護と倫理②(鎌田)	子どもの意見表明権	事前課題プリント 講義内容のまとめ
	13	臨床看護における倫理的課題の検討①(鎌田) 事例検討	事例検討	事前課題プリント 講義内容のまとめ
	14	臨床看護における倫理的課題の検討②(鎌田) 事例検討	事例検討	事前課題プリント 講義内容のまとめ
	15	臨床看護における倫理(川畑)	臨床における看護倫理のまとめ	事前課題プリント 講義内容のまとめ

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>生命倫理・医事法</td> <td>塚田敬義, 前田和彦</td> <td>医療科学社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生命倫理・医事法	塚田敬義, 前田和彦	医療科学社	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	生命倫理・医事法	塚田敬義, 前田和彦	医療科学社													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度等に基づいて総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階 研究室17(鎌田)
備考	

科目名	看護教育学	科目名(英文)	Nursing Education
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹中 泉
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護教育制度の歴史の変遷や現状を知り、継続教育の必要性を理解し、教育方法や教育評価について学ぶ。具体的には、看護教育制度、看護教育課程、看護継続教育、看護教育学における倫理的基盤、看護教育方法、教育目標・計画等の立案および看護教育評価等に関する基礎的知識を学ぶ。
到達目標	(授業概要・目的と同じ)
授業方法と留意点	看護教育の歴史の変遷や現状に興味をもてるよう、社会背景の変化と比較しながら講義する。 看護教育課程は、社会のニーズを踏まえて構築されると同時に、国家資格を得るために必要不可欠な法的基盤との関係性について説明する。 看護職の自律について考え、自己の課題と将来展望について討議し、専門職として自己のキャリア形成に結び付けられるようにする。 教授学習過程は到達をめざす目標に向かって、何を教授する必要があるのか吟味し、内容に応じた方法論が必要であり、評価が次のステップの重要な指標となることをグループや全体で討議しながら理解できるよう展開する。また、これまでの学習経験を振り返ることにより、自己評価能力を高める必要性を自覚できるようにする。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	看護教育制度	看護教育の歴史の変遷と看護教育制度	事前学習：自分自身が看護を学ぶ場として大学を選んだ理由を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育・看護学教育・看護教育学の定義を整理する。
2	看護教育課程	指定規則と看護学基礎教育課程の関係、カリキュラムデザイン	事前学習：保健師助産師看護師法における保健師助産師看護師学校養成所指定規則について読んで受講する。 事後学習：自身が学んできたカリキュラムを通して科目間の関連や履修の時間がどのように学習経験に影響しているか検討する。
3	生涯教育と看護継続教育	看護職としてのキャリア形成	事前学習：キャリアの定義を説明できるように準備する。 事後学習：自己のキャリア目標・ビジョンを表現する。
4	成人教育における学習理論	主体的・自発的学習	事前学習：学生生活の中でどのような場合に学習意欲が高まったか説明できるように準備する。 事後学習：自己の看護を学ぶことへの動機づけは何か考察する。
5	看護教育学における倫理的基盤	看護教育の場における倫理の重要性と倫理的問題	事前学習：看護を学ぶ過程で倫理の重要性を感じた状況を説明できるように準備する。 事後学習：看護教育の場における倫理的問題についての対策を整理する。
6	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(1)	教授学習過程、看護学教育における授業形態と授業方法	事前学習：講義・演習・実習それぞれの授業方法の特徴を説明できるように準備する。 事後学習：学習内容と授業形態の選択について整理する。
7	看護学教育における教育目標・教育計画・教育評価(2)	看護学教育評価	事前学習：評価に関する自己の考えを説明できるように準備する。 事後学習：教育評価の意義について整理する。
8	看護教育学の課題と展望	看護教育学の学習内容の整理、看護教育学の課題と展望	事前学習：看護教育学の課題は何か説明できるように準備する。 事後学習：看護教育学の課題を整理し、展望についてまとめる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	看護学概論、看護関係法規その他これまでに学んだ全ての科目
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 第5版増補版	杉森みどり/舟島なをみ	医学書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う	クレッグ美鈴/池西悦子	南江堂
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験および課題やグループワークの内容を総合して評価する。 定期試験 60%、課題・グループワーク 40%
----------	---

学生へのメッセージ	看護職として成長することは、人として成長することである。今の自分に向き合い、自分自身について考え、自己の課題を明確にして取り組んでほしい。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館・3階 25研究室 (竹中)
----------	-------------------

備考	
----	--



科目名	国際看護学	科目名(英文)	International Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期後半	授業担当者	野田 洋子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	国際看護学は、地球上に生活するすべての人々の生活と健康、特に開発途上国の人々の健康問題をマイクロ・マクロの視点からとらえ、看護者として持つべき基礎的知識・態度・行動を育成することを目的とする。また異文化(多文化共生) 地域における保健・医療・看護の現状および在日外国人や海外在留邦人の健康・健康問題についても理解を深める。																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護の概念・意義について理解できる</li> <li>2. 国際保健・看護活動にかかわる国際機関および活動について理解できる</li> <li>3. 世界の人々、ことに開発途上国の人々の健康状況とプライマリヘルスケアの活動について理解できる</li> <li>4. 異文化を考慮した看護活動について考察できる</li> <li>5. 国際間の看護者間協力の必要性について理解できる</li> <li>6. 世界の保健・医療・看護について概観する</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	原則として授業計画に基づき授業を展開する。授業は講義の他、グループワークや体験学習などを取り入れる。また DVD やインターネットの利用、テーマによってゲストスピーカーの特別講義を予定する。 テキスト使用およびプリント配布																																																																		
科目学習の効果(資格)	「海外医療セミナー」を履修するための必須科目。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 国際看護と異文化(多文化共生) 看護の概念</td> <td>自己紹介と授業の進め方の確認 国際看護、異文化看護の概念、看護の対象 異文化理解のワークショップ</td> <td>「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際機関と日本の ODA</td> <td>国際援助・国際協力組織 日本の国際協力組織；ODA, NGO, NPO</td> <td>テキスト第 2 章 I</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>グローバルヘルスの基本概念</td> <td>健康に影響する要因 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 国連ミレニアム目標</td> <td>既習の知識の復習「公衆衛生看護学.jp」 p. 14-21 テキスト第 1 章 I</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>途上国の健康課題</td> <td>リプロダクティブヘルス 感染症、HIV/AIDS 生活習慣病 その他</td> <td>テキスト第 1 章 II</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>異文化理解と異文化コミュニケーション</td> <td>体験学習</td> <td>異文化体験について A4 用紙 1 枚にまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>在日外国人、海外在留邦人の健康課題と看護</td> <td>在日外国人の母子保健、精神保健 海外在留邦人の健康課題 医療ツーリズム など</td> <td>テキスト第 3 章第 4 章</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国際保健・看護活動の現状</td> <td>途上国への看護職の協力活動の実際 看護職の国際移動</td> <td>テキスト第 2 章 II 海外で活躍している看護職 (ODA, 青年海外協力隊、NGO など) について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>世界の保健医療制度・看護制度</td> <td>先進国と途上国の保健医療制度 先進国と途上国の看護制度と看護教育制度 アメリカの看護事情</td> <td>各自の関心のある国についての保健医療・看護制度についてまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 国際看護と異文化(多文化共生) 看護の概念	自己紹介と授業の進め方の確認 国際看護、異文化看護の概念、看護の対象 異文化理解のワークショップ	「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる	2	国際機関と日本の ODA	国際援助・国際協力組織 日本の国際協力組織；ODA, NGO, NPO	テキスト第 2 章 I	3	グローバルヘルスの基本概念	健康に影響する要因 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 国連ミレニアム目標	既習の知識の復習「公衆衛生看護学.jp」 p. 14-21 テキスト第 1 章 I	4	途上国の健康課題	リプロダクティブヘルス 感染症、HIV/AIDS 生活習慣病 その他	テキスト第 1 章 II	5	異文化理解と異文化コミュニケーション	体験学習	異文化体験について A4 用紙 1 枚にまとめる	6	在日外国人、海外在留邦人の健康課題と看護	在日外国人の母子保健、精神保健 海外在留邦人の健康課題 医療ツーリズム など	テキスト第 3 章第 4 章	7	国際保健・看護活動の現状	途上国への看護職の協力活動の実際 看護職の国際移動	テキスト第 2 章 II 海外で活躍している看護職 (ODA, 青年海外協力隊、NGO など) について	8	世界の保健医療制度・看護制度	先進国と途上国の保健医療制度 先進国と途上国の看護制度と看護教育制度 アメリカの看護事情	各自の関心のある国についての保健医療・看護制度についてまとめる	9	—	—	—	10	—	—	—	11	—	—	—	12	—	—	—	13	—	—	—	14	—	—	—	15	—	—	—
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 国際看護と異文化(多文化共生) 看護の概念	自己紹介と授業の進め方の確認 国際看護、異文化看護の概念、看護の対象 異文化理解のワークショップ	「国際看護学」に期待すること、関心あることを各自まとめる																																																																
2	国際機関と日本の ODA	国際援助・国際協力組織 日本の国際協力組織；ODA, NGO, NPO	テキスト第 2 章 I																																																																
3	グローバルヘルスの基本概念	健康に影響する要因 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 国連ミレニアム目標	既習の知識の復習「公衆衛生看護学.jp」 p. 14-21 テキスト第 1 章 I																																																																
4	途上国の健康課題	リプロダクティブヘルス 感染症、HIV/AIDS 生活習慣病 その他	テキスト第 1 章 II																																																																
5	異文化理解と異文化コミュニケーション	体験学習	異文化体験について A4 用紙 1 枚にまとめる																																																																
6	在日外国人、海外在留邦人の健康課題と看護	在日外国人の母子保健、精神保健 海外在留邦人の健康課題 医療ツーリズム など	テキスト第 3 章第 4 章																																																																
7	国際保健・看護活動の現状	途上国への看護職の協力活動の実際 看護職の国際移動	テキスト第 2 章 II 海外で活躍している看護職 (ODA, 青年海外協力隊、NGO など) について																																																																
8	世界の保健医療制度・看護制度	先進国と途上国の保健医療制度 先進国と途上国の看護制度と看護教育制度 アメリカの看護事情	各自の関心のある国についての保健医療・看護制度についてまとめる																																																																
9	—	—	—																																																																
10	—	—	—																																																																
11	—	—	—																																																																
12	—	—	—																																																																
13	—	—	—																																																																
14	—	—	—																																																																
15	—	—	—																																																																
関連科目	公衆衛生学、地域看護学、文化人類学など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際看護・国際保健</td> <td>丸井英二・森口育子・李節子 編</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際看護・国際保健	丸井英二・森口育子・李節子 編	弘文堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際看護・国際保健	丸井英二・森口育子・李節子 編	弘文堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際保健医療学 第 3 版</td> <td>日本国際保健医療学会編</td> <td>杏林書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護の統合と実践③国際看護学</td> <td>田村やよい編</td> <td>メディカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>開発と健康 ジェンダーの視点から</td> <td>青山温子、原ひろ子、喜多悦子</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際保健医療学 第 3 版	日本国際保健医療学会編	杏林書院	2	看護の統合と実践③国際看護学	田村やよい編	メディカルフレンド社	3	開発と健康 ジェンダーの視点から	青山温子、原ひろ子、喜多悦子	有斐閣																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際保健医療学 第 3 版	日本国際保健医療学会編	杏林書院																																																																
2	看護の統合と実践③国際看護学	田村やよい編	メディカルフレンド社																																																																
3	開発と健康 ジェンダーの視点から	青山温子、原ひろ子、喜多悦子	有斐閣																																																																
評価方法(基準)	レポート (50%)、講義時間内小テスト、課題 (40%)、グループワークなど授業参加度 (10%)																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は選択科目であり、学生が主体的に授業に参加されることを希望します。 選択した学生数および学生のニーズにより授業内容・方法を変更することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館 3階研究室 20																																																																		
備考	授業は 2 コマ続きの開講となります。																																																																		

科目名	臨床看護学演習 I	科目名 (英文)	Clinical Nursing Practice I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	川畑 安正、松本 葉子、竹下 裕子、吉川 有葵、河野 武幸、辻 琢己
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>【授業概要】 看護学部学生と薬学部学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、各健康障がい看護の対象となる人々に関する情報を模擬カルテから読み取り、看護計画及び薬物治療計画の立案に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>【学習目的】 薬学部学生との共同演習を通して、模擬カルテから対象の情報を読み取り、それぞれの医療専門職の視点から明らかになった情報や問題点及び対策を共有し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的資質が修得できる。</p>
到達目標	<p>【一般目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提示された事例に関する様々な情報を模擬カルテから収集して、疾患と治療経過および心理社会的背景といった対象の全体像を説明できる。</li> <li>2. 対象の情報をアセスメントし、医療上の問題と解決策を明らかにして、チームメンバーに提案できる。</li> <li>3. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。</li> <li>4. 看護師・薬剤師の医療専門職の役割を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。</li> <li>5. 演習を通して、対象を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームの協働・連携の必要性と方法を説明できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	薬学部学生と小グループを編成してグループワークを行い、課題を作成する。成果物は全体発表会にて共有する。 グループワークに積極的に参加すること。個人情報の取り扱いについて留意すること。 本演習は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡(ポータル・掲示)は必ず確認すること。
科目学習の効果(資格)	臨床実習でのカルテ読解が円滑になり、実習の学習効果の促進に貢献する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	演習の進め方・注意事項について説明する	-
	2	カルテ読解演習 (1)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	3	カルテ読解演習 (2)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	4	カルテ読解演習 (3)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	5	カルテ読解演習 (4)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	6	カルテ読解演習 (5)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	7	カルテ読解演習 (6)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	8	カルテ読解演習 (7)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	9	カルテ読解演習 (8)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	10	カルテ読解演習 (9)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	11	カルテ読解演習 (10)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	12	カルテ読解演習 (11)	薬学部学生との小グループ討議によって、一事例の模擬カルテから対象の情報を読み取り、医療上の問題と解決策を導く	担当する事例の疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する
	13	まとめ	発表用資料の作成	発表練習
	14	発表 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成
15	発表 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成	
関連科目	成人看護学概論 I・II、成人看護学援助論 I・II、成人病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I・II、薬物治療学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	関連科目で使用した教科書・参考書、資料など		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の実践において必ず必要になる知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 研究室26 (川畑)			
備考				

科目名	臨床看護学演習Ⅱ	科目名(英文)	Clinical Nursing Practice II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	白田 久美子, 竹中 泉, 森谷 利香, 埜 由美子, 小森 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>《概要》 看護学生と薬学生との共同演習を通して、医療職の専門性を尊重しつつ、役割分担と連携の必要性を理解し、医療の対象となる人々に対して計画的かつ安定した医療に参画できるようにするために、検査・治療計画の標準化の必要性とクリニカルパス作成に対する看護師と薬剤師の関与を理解し、クリニカルパス作成に必要な基本的知識と技術を学習する。</p> <p>《学習目的》 薬学部学生との共同演習を通して、計画的かつ安定した医療の提供のための検査・治療の標準化の必要性およびそのツールとしてのクリニカルパスについて理解する。クリニカルパス作成における各医療職種役割と連携のあり方について理解し、チーム医療に貢献できる看護師に必要な基本的能力を修得できる。</p>
到達目標	<p>《一般目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画的かつ安定した医療に参画できるようにするために、検査・治療計画の標準化の必要性について理解し、説明できる。</li> <li>2. クリニカルパス作成およびパスに沿った医療の提供における各医療専門職の役割について理解し、説明できる。</li> <li>3. クリニカルパス作成を通して、看護の視点に立った患者に有効な指導内容及び方法を他職種に提案できる。</li> <li>4. 自分の意見をわかりやすくチームメンバーに伝え、メンバーの意見を尊重し、積極的に効果的なグループ討議に主体的に参加できる。</li> <li>5. 看護師・薬剤師の医療専門職の特性を理解し、相手の立場を尊重したコミュニケーションを行うことができる。</li> <li>6. 演習を通して、患者を中心とする治療・看護計画について他職種と共通の理解をもつことの重要性や医療チームおよび地域の関連機関との協働・連携の必要性と方法について説明できる。</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>薬学部学生と小グループを編成してグループワークを行い、課題を作成する。成果物は全体発表会にて共有する。グループワークには積極的に参加すること。</p> <p>本授業は集中日程で実施するため、スケジュールや演習場所を間違わないように留意し、教員からの連絡（ポータル・掲示）は必ず確認すること。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>臨地実習においてクリニカルパスが適応されている患者を担当することがある。そのため、実習の学習成果の促進に貢献する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	クリニカルパスの概要・作成・評価(バリエーション)について(2)	授業テーマに関する講義・演習に関するオリエンテーション	講義内容の復習
3	看護におけるクリニカルパスの活用	授業テーマに関する講義	講義内容の復習
4	患者用クリニカルパス作成(1)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、課題を行う。 個人課題を作成する。
5	患者用クリニカルパス作成(2)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
6	患者用クリニカルパス作成(3)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
7	患者用クリニカルパス作成(4)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
8	患者用クリニカルパス作成(5)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
9	患者用クリニカルパス作成(6)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
10	患者用クリニカルパス作成(7)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
11	患者用クリニカルパス作成(8)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。 個人課題を作成する。
12	患者用クリニカルパス作成(9)	薬学部生との小グループ討議によって、一疾患の医療者用クリニカルパスに基づいて患者用クリニカルパス作成をする。発表用資料を作成する。	担当する疾患・治療及び看護について資料を収集し、理解する。 グループワークの進捗状況に応じて、事前・事後に課題を作成する。

				個人課題を作成する。
	13	発表 (1)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成
	14	発表 (2)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成
	15	発表 (3)	学生主体の運営による発表会	課題レポートの作成
関連科目	成人看護学概論 I II、成人看護学援助論 I II、病態看護論、成人看護学援助方法、病理学総論、疾病治療論 I II、薬物治療学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題成果物・参加態度から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	臨地実習やその後の臨床実践において必要な知識・技術を修得する機会です。積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 白田研究室			
備考				

科目名	災害看護論	科目名(英文)	Nursing in Disaster
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松田 宣子, 寺師 榮, 担当者未定
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。授業の目的は、被災者の心身に及ぼす影響と災害時の看護者としての役割を理解し、看護支援活動の基礎を学ぶことにある。授業では、災害の定義、分類、サイクル、諸制度と備えを学び、国内の災害事例を紹介しながら、災害の看護の方法を時系列的に学ぶ。また海外での看護支援活動を通して国際的な視野を持って災害看護を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解する。</li> <li>2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解する。</li> <li>3. 災害サイクルに応じた看護支援活動と看護の果たす役割を理解する。</li> <li>4. こころのケア、トリアージおよび救急救命等を体験的に理解する。</li> <li>5. 個人の備えと地域防災を理解し、提示された課題において具体的な備えを検討できる。</li> <li>6. 病院における看護部の災害対応計画を理解する。</li> <li>7. 国際的視野での看護活動を理解する。</li> </ol>
授業方法と留意点	講義、演習および課題学習方式で教科書、ビデオおよび資料など用いる。本講義は、具体的に災害看護を実践できるように演習やビデオ、課題別グループワークなど予定にしているため、積極的に参加すること。
科目学習の効果(資格)	講義、演習およびグループワークを通して自己理解・他者理解を深め、自分と災害など危機管理との関わりを考え、災害看護の基礎を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション：災害看護論の授業概要、日本の健康危機管理システム	講義：災害看護論とはどのような学問なのか、なぜ必要なのかについて概説を行う。日本の健康危機管理システムを説明する。	授業内容の復習
2	災害および災害看護に関する基礎知識	講義：災害および災害看護に関する基礎知識として法律、災害発生時の社会の仕組みや個人の備えについて説明する。	授業内容の復習
3	病院における災害対応計画	講義：病院特に看護部における災害対応計画について具体的に説明する。	授業内容の復習
4	災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動	講義：災害時に看護が果たす役割と災害各期の看護活動の際に災害看護に期待される能力と災害看護の基本姿勢および災害サイクル各期における看護活動、避難所・仮設住宅および復興住宅における看護活動について説明する。	授業内容の復習
5	災害時に必要な技術1(被災者の心理のプロセスとこころのケア等)	講義：災害時に必要な技術1(被災者の心理のプロセスとこころのケア等)について説明する。	授業内容の復習
6	課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)	演習：課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)をグループワークする	課題別学習したことをまとめておく
7	課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)	演習：課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)をグループワークする	課題別学習したことをまとめ、発表の準備をする
8	課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)	課題別演習結果を発表する	課題別発表したことを共有する
9	課題別演習(大学・個人の備え、指定避難所である大学を避難所としてレイアウト、被災者の心のケア、生活援助の工夫)	課題別演習結果を発表する	課題別発表したことを共有する
10	国際災害看護活動	海外での災害看護活動の実際と課題について概説する。	授業内容の復習
11	災害時に必要な技術2(トリアージの概念・方法・課題)	講義：災害時に必要な技術2(トリアージの概念・方法・課題)について説明する。	授業内容の復習
12	災害時に必要な技術2(トリアージの概念・方法・課題)	演習：災害時に必要な技術2(トリアージの概念・方法・課題)	授業内容の復習
13	一次救急救命処置	演習：人形を用いて、一次救急救命措置について学ぶ	授業内容の復習
14	二次救急救命処置	演習：人形を用いて二次救急救命措置について学ぶ	授業内容の復習
15	まとめと確認	これまでの授業に関して伝えたいポイントを再確認し、補足説明を行うとともに、われわれが災害看護についてどれほど関心を持っていたか確認を行う。	授業内容の復習

関連科目	救急看護、臨床心理学、公衆衛生学および公衆衛生看護学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	災害看護学・国際看護学	日本赤十字社 事業局看護部 浦川喜久子他	医学書院
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	災害看護一心得ておきたい基本的な知識	小原真理子監修／酒井明子監修	南山堂
	2	災害救護	勝見 敦・小原真理子編集	廣川書店
	3			
評価方法 (基準)	学期末試験 60%、レポート 20%、小テスト 10%、演習まとめ 10%で評価する。			
学生への メッセージ	今災害が頻繁に起こっており、看護職者として支援の役割があると考えますので、災害への関心を持ってもらい、積極的に学んでほしい。			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	研究入門	科目名(英文)	Introduction to Research
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>【参考】設置認可申請「授業科目の概要」                  研究とはまだ明らかになっていないことを明らかにするため、科学的手法を用いてデータを収集し、科学的推論によって仮説を検証する一連のプロセスである。本科目では、卒業研究を行う前に理解しておくべき研究についての基本的な事柄について学習し、受講者が研究とは何か、データをどのように収集するのか、集めたデータをどのように要約するのか、要約したデータをどのように解釈するのかなどのプロセスを踏まえて研究を行える能力を養う。また、研究倫理について学ぶ。</p>																																																																		
到達目標	研究の意義、目的、方法、プロセスなどを理解し、研究の基礎を習得する。研究倫理の意味と重要性を理解し、研究不正の重大性を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>研究とは何か</td><td>研究の役割、種類、プロセス</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究テーマ(1)</td><td>研究テーマを見つける</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究テーマ(2)</td><td>リサーチ・クエスチョンと概念モデル</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>4</td><td>研究の倫理</td><td>研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>5</td><td>文献の検索方法</td><td>文献検索の必要性と方法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>6</td><td>量的研究の概要</td><td>研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>7</td><td>量的研究のデータ収集(1)</td><td>質問票の目的、構成、作成方法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>8</td><td>量的研究のデータ収集(2)</td><td>質問票の作成</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>9</td><td>量的研究のデータ分析</td><td>データの入力と分析</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>10</td><td>質的研究の概要</td><td>研究の種類、データの収集・分析法</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>11</td><td>質的研究のデータ収集・分析</td><td>インタビューガイドとデータ分析</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>12</td><td>文献の読み方</td><td>文献の構造と内容</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>13</td><td>研究計画書の書き方</td><td>研究計画書の構成と内容</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>14</td><td>論文の書き方</td><td>論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> <tr><td>15</td><td>研究発表</td><td>研究発表の準備と実践</td><td>授業をよく聞くこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	研究とは何か	研究の役割、種類、プロセス	授業をよく聞くこと	2	研究テーマ(1)	研究テーマを見つける	授業をよく聞くこと	3	研究テーマ(2)	リサーチ・クエスチョンと概念モデル	授業をよく聞くこと	4	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	授業をよく聞くこと	5	文献の検索方法	文献検索の必要性と方法	授業をよく聞くこと	6	量的研究の概要	研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出	授業をよく聞くこと	7	量的研究のデータ収集(1)	質問票の目的、構成、作成方法	授業をよく聞くこと	8	量的研究のデータ収集(2)	質問票の作成	授業をよく聞くこと	9	量的研究のデータ分析	データの入力と分析	授業をよく聞くこと	10	質的研究の概要	研究の種類、データの収集・分析法	授業をよく聞くこと	11	質的研究のデータ収集・分析	インタビューガイドとデータ分析	授業をよく聞くこと	12	文献の読み方	文献の構造と内容	授業をよく聞くこと	13	研究計画書の書き方	研究計画書の構成と内容	授業をよく聞くこと	14	論文の書き方	論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成	授業をよく聞くこと	15	研究発表	研究発表の準備と実践	授業をよく聞くこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	研究とは何か	研究の役割、種類、プロセス	授業をよく聞くこと																																																																
2	研究テーマ(1)	研究テーマを見つける	授業をよく聞くこと																																																																
3	研究テーマ(2)	リサーチ・クエスチョンと概念モデル	授業をよく聞くこと																																																																
4	研究の倫理	研究実施に必要な倫理的配慮と科学的姿勢の重要性	授業をよく聞くこと																																																																
5	文献の検索方法	文献検索の必要性と方法	授業をよく聞くこと																																																																
6	量的研究の概要	研究の種類、研究デザイン、対象者の抽出	授業をよく聞くこと																																																																
7	量的研究のデータ収集(1)	質問票の目的、構成、作成方法	授業をよく聞くこと																																																																
8	量的研究のデータ収集(2)	質問票の作成	授業をよく聞くこと																																																																
9	量的研究のデータ分析	データの入力と分析	授業をよく聞くこと																																																																
10	質的研究の概要	研究の種類、データの収集・分析法	授業をよく聞くこと																																																																
11	質的研究のデータ収集・分析	インタビューガイドとデータ分析	授業をよく聞くこと																																																																
12	文献の読み方	文献の構造と内容	授業をよく聞くこと																																																																
13	研究計画書の書き方	研究計画書の構成と内容	授業をよく聞くこと																																																																
14	論文の書き方	論文の構成とまとめ方、引用文献、図表作成	授業をよく聞くこと																																																																
15	研究発表	研究発表の準備と実践	授業をよく聞くこと																																																																
関連科目	情報リテラシーⅡ、疫学・保健統計																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>楽しくなる看護研究</td> <td>上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司</td> <td>メヂカルフレンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	楽しくなる看護研究	上野栄一 出口洋二 一ノ山隆司	メヂカルフレンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、研究入門を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を読むだけでは把握しにくいので、毎回の授業には真剣に臨むこと。</li> <li>・授業中の私語、教室の出入りは厳禁</li> <li>・授業中にあてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱い</li> </ul>																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	看護研究Ⅰ	科目名(英文)	Nursing Research I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後閑 容子, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 川畑 安正, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 白田 久美子, 田中 結華, 野田 洋子, 池田 友美, 竹中 泉, 徳重 あつ子, 松本 葉子, 眞野 祥子, 金原 京子, 竹下 裕子, 中山 由美, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 森谷 利香, 山本 智津子, 吉川 有葵, 田丸 朋子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「研究入門」の学びをもとに、看護実践上の問題解決にむけ、看護研究の意義を理解し看護研究の実施（遂行）に必要な基礎的知識を習得するとともに、研究成果を活用して科学的に探究する基礎的能力を養う。																		
到達目標	1. 看護実践上の問題解決のために、研究成果を活用する意義を理解できる。 2. 研究方法の種類と基本的手法を理解できる。 3. 研究論文の検索、クリティークの方法を理解できる。																		
授業方法と留意点	看護研究の目的や研究方法、研究プロセス、研究手法、看護研究論文のクリティーク等について、担当教員のもとで学習する。これらの学びを4年次開講の「看護研究Ⅱ」に発展させる。 具体的な学習方法や課題、スケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（ポータル・掲示等）を見落とさないように留意すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第1回目 担当教員から看護研究をすすめる上で、研究倫理および研究不正防止について、詳細に説明を受ける。 第2回目以降 担当教員の指示を受け研究をすすめる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>担当教員の指示を受けること</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	担当教員の指示を受けること			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	担当教員の指示を受けること																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度等に基づいて総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考	看護研究ⅠとⅡは同じ教員が担当する。																		

科目名	看護研究Ⅱ	科目名(英文)	Nursing Research II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 川畑 安正, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 齋藤 悦子, 白田 久美子, 田中 結華, 野田 洋子, 池田 友美, 竹中 泉, 徳重 あつ子, 松本 葉子, 眞野 祥子, 金原 京子, 竹下 裕子, 中山 由美, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 森谷 利香, 山本 智津子, 吉川 有葵, 田丸 朋子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	「研究入門」「看護研究Ⅰ」の学びをもとに、人や看護に対して関心や疑問をもち、それらを探究できるような研究的態度と方法論を習得する。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、担当教員のもとで、研究計画書の作成、研究への取り組み、論文作成、発表を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人や看護に関する疑問を研究テーマにすることができる。</li> <li>2. 研究計画書を作成できる。</li> <li>3. 研究対象者に対し倫理的配慮ができる。</li> <li>4. テーマに沿った研究への取り組みができる。</li> <li>5. 研究成果を論文にすることができる。</li> <li>6. 研究成果を発表できる。</li> </ol>		
授業方法と留意点	担当教員のもとで研究をすすめること。具体的な方法やスケジュール、教室は担当教員によって異なるため、担当教員からの授業に関する連絡事項（ポータル、掲示）を見落とさないように留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の指示を受け研究をすすめる。</li> <li>・研究における倫理的配慮について、担当教員から指導を受け、研究計画書を作成する。</li> <li>・研究計画書に沿って研究を実施する。</li> <li>・論文作成時の不正について担当教員より説明を受ける。</li> <li>・研究結果に基づいて忠実に論文を作成し、発表する。</li> </ul>		
関連科目	「研究入門」「看護研究Ⅰ」		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	担当教員の指示を受けること	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	担当教員の指示を受けること	
	2		
	3		
評価方法(基準)	課題の達成状況および参加態度に基づいて総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	自ら積極的・計画的に研究をすすめて下さい。		
担当者の研究室等			
備考	看護研究Ⅰ・Ⅱは、原則として同じ教員が担当する。		

科目名	総合看護学演習	科目名(英文)	Seminar in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後閑 容子, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 川畑 安正, 小崎 篤志, 小堀 栄子, 齋藤 悦子, 白田 久美子, 田中 結華, 野田 洋子, 池田 友美, 竹中 泉, 徳重 あつ子, 松本 葉子, 眞野 祥子, 金原 京子, 竹下 裕子, 中山 由美, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 森谷 利香, 山本 智津子, 吉川 有葵
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	4年間の学習内容を総合的に振り返り、専門基礎科目、専門科目を統合して、横断的に学習する。また、学生自ら本学で学習した必要な知識を系統的に整理し、理解することで、看護を行う上での基盤を形成し、加えて、将来にわたり主体的に学習が継続できる力を養う。
到達目標	1. これまでに学習した学習内容の知識を系統的に整理し、理解する。 2. 自ら主体的に学習を継続することができる。

授業方法と留意点	各専門科目をオムニバス形式とし、10月中旬から11月末まで集中講義および試験を実施する。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	人体の構造と機能	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	2	薬理学総論・薬物治療学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	3	病理学総論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	4	疾病・治療論	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	5	公衆衛生	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	6	統合看護・関係法規	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	7	基礎看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	8	基礎看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	9	成人看護学Ⅰ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	10	成人看護学Ⅱ	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	11	老年看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	12	在宅看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	13	母性看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	14	小児看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う
	15	精神看護学	担当教員の指示どおり	授業テーマに沿って事前事後学習を行う

関連科目	全専門基礎科目、全専門科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	看護師国家試験高正答率過去問題集一でた！でた問	東京アカデミー	東京アカデミー
	2	看護学生スタディガイド	池西静江、石東佳子	照林社
	3	レビューブック	岡庭 豊	MADIC MADIKA

評価方法(基準)	定期試験と臨時試験を総合して評価を行う
----------	---------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	各担当教員の研究室
----------	-----------

備考	
----	--

科目名	統合看護学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Integrated Nursing
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	後閑 容子, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 鎌田 佳奈美, 川畑 安正, 白田 久美子, 田中 結華, 池田 友美, 竹中 泉, 徳重 あつ子, 松本 葉子, 眞野 祥子, 金原 京子, 竹下 裕子, 中山 由美, 福山 智子, 宮本 雅子, 森木 ゆう子, 森谷 利香, 山本 智津子, 吉川 有葵, 岡田 純子, 亀田 直子, 阪上 由美, 志戸岡 恵子, 但馬 まり子, 田丸 朋子, 名草 みどり, 七山 知佳, 森嶋 道子, 山本 十三代, 吉村 公一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p><b>【授業の概要】</b>          自らが関心のある看護専門領域(対象領域;基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、小児看護学領域、母性看護学領域、精神看護学領域、在宅看護学領域、助産学領域)を選択し、指定の実習施設において実習を行う。</p> <p><b>【実習目的】</b>          自らが関心のある看護領域において自己の課題解決を目指し、これまでに学習した看護を統合して、対象者の健康課題を明らかにするとともに、保健・医療・福祉チームの一員として他職種と協働・連携し、必要な看護を考え提供するための能力を養う。また、その看護実践の基盤となる看護観と倫理観を育み、自己の課題の達成状況を評価し、さらなる看護実践能力と問題解決能力を高めるため、専門職業人として自己研鑽し続ける能力を身につける。</p>																
到達目標	<p><b>【実習目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践上の自己の課題を明確にし、その解決をめざして主体的に実習に取り組むことができる。</li> <li>2. 既習の知識・技術・態度を統合して看護の対象者を全人的に捉え、健康課題を明らかにし、看護を実践できる。</li> <li>3. 看護の機能と役割を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他の医療専門職者との協働・連携の必要性を説明できる。</li> <li>4. 実習を通して、自らの看護に対する考えを深め、看護観を説明できる。</li> <li>5. 倫理的視点で看護実践を捉え、人間の尊厳と権利を尊重した行動ができ、自らの倫理観を説明できる。</li> <li>6. 生涯にわたり看護専門職者として成長し続けるために、自己の課題の達成状況および看護実践過程や方法を振り返ることを通して、主体的に自己研鑽に取り組む必要性を説明できる。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p><b>【授業方法】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習1日目は、学内において領域別にオリエンテーションを受ける。午後より、看護管理について受講する。</li> <li>2. 実習2日目より、領域別臨地実習をおこなう(詳細については、各領域の実習要綱参照)。</li> <li>3. 実習最終日は、学内において領域別に実習目標の達成の成果、学びを深める。</li> </ol> <p><b>【留意事項】</b>          統合実習要綱を熟知し、実習に臨む。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当教員の指示をうけること。																
関連科目	専門基礎科目・専門科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特に指定しない																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各領域の評価に準ずる。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等																	
備考																	

科目名	周産期医学	科目名(英文)	Perinatal Medicine
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	杉本 有紀子, 担当者未定
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	最新の周産期医療現場で必須の知識を修得し、異常に対する診断および治療法を理解する。 新生児の生理と異常について学習し、異常に対する診断及び治療法を理解する。演習では新生児蘇生を学ぶ			
到達目標				
授業方法と留意点	産科：各自に割り振られたテーマを調べ、授業で発表 可能であれば実症例を提示してディスカッションを行う。実技練習も取り入れていきたい。 新生児科：テキストおよび配布するプリント等により授業を行います。			
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験に合格するとともに、実際の現場で異常を察知し対応できるために、知識ならびに手技・手法を身に付ける			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	内分泌異常・不妊症	月経異常と排卵障害、月経困難症および子宮内膜症、更年期症状とHRT、出生前診断、環境因子(栄養・化学物質・薬剤など)が妊婦・胎児の健康に及ぼす影響	1名1テーマを調べ発表する形式
	2	新生児の異常兆候	新生児の異常兆候(呼吸障害、嘔吐、けいれん、麻痺、黄疸、心雑音、なんとなく元気がない<not doing well>など)	講義内容の復習
	3	妊娠初期の異常	不育症、流産、胎状奇胎、悪阻、異所性妊娠 演習・実技：超音波検査1	1名1テーマを調べ発表する形式(5名)
	4	妊娠中期・後期の異常	切迫早産、頸管無力症、前期破水、妊娠高血圧症候群、HELLP症候群 演習・実技：超音波検査2	1名1テーマを調べ発表する形式(5名)
	5	新生児蘇生	新生児蘇生(新生児仮死の診断、新生児蘇生法)	講義内容の復習
	6	ハイリスク新生児	ハイリスク新生児とその対応(低出生体重児・早産児など)	講義内容の復習
	7	妊娠中期・後期の異常	Rh不適合妊娠、胎児の異常、胎児発育不全、羊水の異常 演習・実技：胎児心拍数モニタリング演習	1名1テーマを調べ発表する形式(4名)
	8	合併症妊娠1	風疹・トキソプラズマ、サイトメガロウイルス・水痘、HBV・HCV、HTLV1・HIV、麻疹・ムンプス・リンゴ病、GBS・クラミジア 演習・実技：胎児心拍数モニタリング演習	1名1テーマを調べ発表する形式(6名)
	9	新生児疾患	新生児疾患-1(呼吸器疾患、分娩外傷、感染症など)	講義内容の復習
	10	妊娠合併症2	子宮筋腫、卵巣嚢腫、てんかん 糖尿病、甲状腺疾患 演習・実技：縫合練習	1名1テーマを調べ発表する形式(5名)
	11	妊娠合併症3	腎疾患、心疾患、ITP、SLE、気管支ぜんそく 演習・実技：縫合練習	1名1テーマを調べ発表する形式(5名)
	12	新生児疾患	新生児疾患-2(循環器疾患、消化器疾患、血液疾患など)	講義内容の復習
	13	異常分娩-1	多胎、胎児位置異常(後方後頭位、骨盤位)、遷延分娩 演習・実技：吸引分娩(縫合練習)	1名1テーマを調べ発表する形式(3名)
	14	異常分娩-2	前置胎盤、常位胎盤早期剥離、肩甲難産 演習・実技：肩甲難産(縫合練習)	1名1テーマを調べ発表する形式(3名)
	15	産科救急	子宮内反症、子宮破裂、羊水塞栓、弛緩出血、産科危機的出血と産科DIC 演習・実技：産科危機的出血への対応	1名1テーマを調べ発表する形式(4名)
関連科目	助産学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本産婦人科医学会 産科ガイドライン2014		日本産婦人科学会
	2	日本版救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト(改訂第2版)		メジカルビュー社
	3	新生児学入門	仁志田 博司	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ウィリアム臨床産科マニュアル		メジカルビュー社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	産科：レポート作成、実技で評価			
学生への メッセージ	<p>産科：卒後は、疑問に思ったことは自学自習する必要があります。助産学異常編では、各自が調べ発表したものに、補足を加える形で進めていきたいと考えています。産科実技を行えるものは実技練習もできるだけ取り入れていく予定です。</p> <p>新生児科：正しい知識に基づいた、自ら考える医療を実践してくために、新生児時期の特徴的な疾患と病態を理解し学習しましょう。</p>			
担当者の 研究室等 備考	1号館2階 非常勤講師室			

科目名	助産学概論	科目名(英文)	Introduction to Midwifery
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	この授業では、助産学の理論と助産学の発展のために必要な、助産ケアの実践能力の基礎への理解を深めます。そして、専門職として社会から期待される助産師の役割について考えていきます。
到達目標	助産学の理論を理解し、学んだ理論を助産ケアと関連づけて考えることができる。さらに、助産師の役割を認識することができる。
授業方法と留意点	講義とグループワークを中心に進めていきます。毎回の講義の振り返りをしてください。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助産とは	助産とは何かを軸に、助産の起源、概念の変遷と社会的背景の関連について述べる。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習
2	助産の概念	助産に関係する概念(リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダーなど)と、助産診断について概説する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
3	①助産師の歴史と文化 ②母子保健の変遷と動向	①助産の歴史、産育習俗について説明の後、課題の提示をする。 ②時代背景を踏まえ母子保健の変遷と動向について理解する。	事前学習：なし 事後課題：講義の復習と課題を調べる	
4	助産と法律	①助産師教育の変遷からの学びを深め、これからの助産師のあり方を考える。②助産師をとりまく法律について理解し、助産業務に関する法律について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
5	助産学の理論	助産学を構成する理論について学習する。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
6	グループワーク 1	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
7	日本と諸外国の母子保健	日本と諸外国の母子保健の現状を把握し、助産師の役割を考える。	事前学習：なし該当部分を読んでくる 事後課題：講義の復習と課題を調べる	
8	グループワーク 2	バイオエシックスの概念について述べる。出生前診断、減数中絶と母体保護法、体外受精の倫理と法的問題やウイメンズヘルス(DV含む)についてグループワークをする	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
9	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
10	専門職としての助産師	専門職のあり方と助産業務について考える。 講師：日本助産師会会長 岡本喜代子	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
11	課題発表	助産師活動に携わる時、考えていく必要がある要因について考える	事前学習：発表できる準備 事後課題：講義の復習	
12	グループワークの発表	グループ発表の内容から、我が国の助産師に期待されること、専門職としての課題について考える。	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
13	助産と研究	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	エビデンスは助産ケアをよりよく行うための方法論である。ここでは、エビデンスに基づいた助産ケアの開発と必要性について論じる。	
14	助産と漢方	産科領域に関連する東洋医学、漢方について学ぶ 講師：蔭山医院院長 蔭山充	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	
15	助産と漢方	産科領域に関連する東洋医学、漢方について学ぶ 講師：蔭山医院院長 蔭山充	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習	

関連科目 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、周産期医学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎助産学Ⅰ 助産学概論	我部山キヨ子 他	医学書院
2	基礎助産学〔2〕 母子の基礎科学〔第5版〕	我部山 キヨ子/武谷 雄二 編集	医学書院	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験60%、グループワーク・課題発表40%			
学生への メッセージ	助産師を目指す皆さんが「助産とはなにか」、「看護とどう違うのか」など、助産のあり方について考えていく科目です。助産師としての課題を明確にしていきます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、泉川(研究室15)			
備考				

科目名	助産診断・技術学Ⅰ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	泉川 孝子, 赤井 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	妊娠期の助産過程の展開を通して、助産診断に必要な知識と技術の基本を学ぶ。			
到達目標	妊娠期の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理について学習する。また、健康問題を解決するために必要な相談、教育、援助技術の基本を学ぶ。 DV・流早産・死産などの心理的危機に直面した妊婦と家族のケアやライフサイクルにおける助産師の役割について学習する。			
授業方法及び留意点	学習方法は、グループワークを多く取り入れた内容です。積極的に意見交換をしてください。			
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助産診断とは	助産診断とは何か、助産診断の定義と範囲、助産診断類型について学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	2	助産技術学の概要	助産技術の意義と助産診断学・助産技術学の理論構築について学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	3	妊娠期の助産診断とは	妊娠期の助産診断の特徴と診断類型について	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	4	妊娠期の助産過程の展開①	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	5	妊娠期の助産過程の展開②	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	6	妊娠期の助産過程の展開③	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	7	妊娠期の助産過程の展開④	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	8	妊娠期の助産過程の展開⑤	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	9	妊娠期の助産過程の展開⑥	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	10	妊娠期の助産過程の展開⑦	グループ毎に事例を用いて妊娠期の助産過程を展開する。健康教育の基本を学ぶ	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。。
	11	妊娠期の助産過程の展開⑧	グループワークの発表	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	12	妊娠期の助産過程の展開⑨	グループワークの発表	事前課題：なし 事後学習課題：講義内容の復習。
	13	相談・指導技術①	さまざまな相談技術の特徴や手法について学ぶ	事前学習：相談技術を調べておく 事後学習課題：事例展開の振り返り
	14	相談・指導技術②	女性の健康支援に関する事例について実際の相談を展開する(演習)	事前学習：相談技術を調べておく 事後学習課題：事例展開の振り返り
	15	相談・指導技術③	発表(ロールプレイ)	事前学習：発表できる準備
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅱ, 助産診断・技術学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期	我部山キヨ子 他	医学書院
	2	基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学 [第4版]	村瀬 聡美/我部山 キヨ子 編集	医学書院
	3	基礎助産学 [3] 母子の健康科学 [第5版]	我部山 キヨ子/武谷 雄二 編集	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	試験70%、グループワーク・課題発表30%			
学生へのメッセージ	妊娠期の助産診断の特徴を理解し、事例の展開から助産診断について考えていきます。			
担当者の研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、泉川(研究室15)			
備考				

科目名	助産診断・技術学Ⅱ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	赤井 由紀子, 宮本 雅子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	分娩期の助産過程の展開を通して、助産診断に必要な知識と技術の基本を学ぶ。
到達目標	産婦の安全・安楽な分娩のために必要な助産診断とケアを実践するための基本を学ぶ。 産婦の状況に応じたケアが実践できる知識と技術の基本について学ぶ。 また、異常の発生予測と予防的行動、異常発生時の観察と対処について学習し、産婦のケアと助産師の役割について考える
授業方法と留意点	教科書を用いた講義とグループワークを中心とする。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関わる必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前課題	事後学習課題
1	分娩の生理について	分娩の定義と種類、分娩の3要素、分娩が母体および胎児に及ぼす影響について学ぶ。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
2	分娩期の心理社会的変化	産婦の心理と家族関係の特徴および産婦の健康生活について学ぶ。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
3	分娩期の助産診断の特徴と診断類型	分娩期の助産診断の特徴と分娩予測について説明する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
4	分娩期のフィジカルアセスメント	産婦の健康診査、分娩開始の診断、分娩期の経過診断、胎児の健康状態のアセスメントについて学習する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
5	分娩期の助産過程の展開1	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
6	分娩期の助産過程の展開2	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
7	分娩期の助産過程の展開3	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
8	分娩期の助産過程の展開4	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
9	分娩期の助産過程の展開5	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
10	分娩期の助産過程の展開6	グループ毎に事例を用いて分娩期の助産過程を展開する。	事前課題：なし	事後学習課題：講義内容の復習
11	分娩経過の異常とアセスメント	・分娩の3要素の異常とアセスメント ・ケースシナリオによるグループワーク	事前課題なし	事後課題は、授業の内容を振り返る
12	分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症のアセスメントと支援	・軟産道裂傷と弛緩出血、産科ショックの原因と対応 ・産科救急処置：ケースシナリオによるデモンストレーション	事前課題なし	事後課題は、授業の内容を振り返る
13	ハイリスク・異常産婦のアセスメントと支援	・身体的ハイリスク因子のアセスメントと支援 ・心理・社会的ハイリスク因子のアセスメント支援 ・ケースシナリオによるグループワーク	事前課題なし	事後課題は、授業の内容を振り返る
14	産科手術を受ける産婦のアセスメントと支援	・帝王切開術を受ける産婦の術前術後の準備と支援(演習) ・骨盤位、クリステル胎児圧出法、吸引・鉗子分娩の実際(演習)	事前課題なし	事後課題は、授業の内容を振り返る
15	出生直後の新生児の救急処置	・新生児救急処置：ケースシナリオによるデモンストレーション	事前課題なし	事後課題は、授業の内容を振り返る

関連科目 母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習、周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断技術学演習、助産学実習、助産管理論

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期	我部山キヨ子 他	医学書院	
2	最新産科学 正常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷	
3	最新産科学 異常編 改訂22版	荒木勤	東京文光堂本郷	

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1				
2				
3				

評価方法(基準)	試験70%、グループワーク・課題発表30%
学生へのメッセージ	課題学習が多くあります。自己学習に努めてください。
担当者の研究室等	7号館3階 赤井(研究室14)、宮本(研究室12)
備考	教科書：改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座 藤森敬也著 メディカ出版

科目名	助産診断・技術学Ⅲ	科目名(英文)	Midwifery Diagnostics and Technique III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子, 赤井 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	<p>(概要)          褥婦・新生児経過の助産診断に必要な知識・技術の基礎と原理を学習する。分娩想起や褥婦の心理・社会的側面の診断、褥婦の復古促進や母子の愛着形成促進のためのケアが実践できるよう学習する。そして、母子とその家族を包括したケアの展開をめざし、新しい役割や家族システムの変化への支援を行うための知識・技術の基礎を学習する。また、新生児は正常な適応過程が診断でき、状況に応じたケアを学習する。</p> <p>(目的)          産褥・新生児期の助産診断の特徴と、経過の助産診断に必要な知識と技術の基本について理解できる</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産褥・新生児期の助産診断の特徴、および診断類型について理解できる</li> <li>2. 褥婦・新生児の助産診断に必要な身体・心理社会的変化の特徴について理解できる</li> <li>3. 産褥・新生児期の経過と適応過程についてアセスメントと助産診断ができる</li> <li>4. 助産診断に基づき、事例に必要な助産計画を立案できる</li> <li>5. 産褥期の復古促進、母子愛着形成に必要なケアと新生児期の経過に応じたケアと個別指導について学ぶ</li> </ol>			
授業方法と留意点	講義およびレポート作成、助産過程と個別指導の発表			
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格に関わる必修科目です			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	助産診断の特徴	産褥期における助産診断の特徴を学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	2	正常産褥期の生理	・産褥期の前身の変化と経過について学ぶ ・産褥期の正常な進行性変化、退行性変化について学ぶ	事前課題なし 授業で事例の紹介と助産課程の展開方法について説明する 事後課題は、自己学習ノートの作成
	3	正常新生児の生理	・生後24時間の身体的な子宮外適応過程について学ぶ ・生後24時間以後の早期新生児期と、生後1か月までの生理的变化について学ぶ ・乳児期の発育・発達過程を学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	4	産褥・新生児期の心理・社会的変化	・分娩の想起と産褥期、育児への影響について考える ・産褥期の心理経過の特徴を学ぶ ・家族の形成と社会的変化について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	5	母子関係形成過程と援助	・母子関係形成の過程について学ぶ ・母子関係形成に必要な援助について学ぶ ・育児行動取得への支援について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	6	褥婦・新生児のフィジカルアセスメント	・産褥・新生児期に必要なアセスメント項目と内容について理解する ・褥婦・新生児の全身のアセスメントについて学ぶ ・母乳栄養確立の診断について学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	7	褥婦・新生児への援助	・褥婦の退行性変化への支援内容について学ぶ ・褥婦の日常生活適応と家庭・社会生活復帰への支援内容について学ぶ ・産後の家族計画の支援について学ぶ ・生後24時間、および早期新生児期、生後1ヶ月までの新生児の援助について学ぶ ・家庭生活への移行とフォローアップについて学ぶ	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	8	ハイリスク褥婦と新生児の助産診断と援助	・ハイリスク褥婦と必要な援助について学ぶ ・ハイリスク新生児と必要な援助について学ぶ ・NICU・GCUと母子関係形成への援助について学ぶ ・ディベロップメンタルケアについて理解する	事前課題なし 事後課題は、1～8回の授業を振り返り、事例の展開と事例への個別指導案を作成する
	9	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(1)	・事例を用いて助産過程の展開を実施する ・グループワークを実施する ・グループで事例のアセスメント、助産診断、助産計画の立案を実施する	課題 ・各グループで産褥・新生児期の助産過程の展開を実施する ・個別指導案を作成する ・個別指導に必要な教材を作成する ・助産課程と個別指導の発表の準備を行う
	10	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(2)	・事例を用いて助産過程の展開を実施する ・グループワークを実施する ・グループで事例のアセスメント、助産診断、助産計画の立案を実施する	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備
11	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開(3)	・事例を用いて助産過程の展開を実施する ・グループワークを実施する	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備	

			・グループで事例のアセスメント, 助産診断, 助産計画の立案を実施する																	
	12	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (4)	・事例を用いて助産過程の展開を実施する ・グループワークを実施する ・グループで事例のアセスメント, 助産診断, 助産計画の立案を実施する	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備																
	13	産褥・新生児期の事例を用いた助産過程の展開 (5)	・事例を用いて助産過程の展開を実施する ・グループワークを実施する ・グループで事例のアセスメント, 助産診断, 助産計画の立案を実施する	事前・事後課題 助産過程の展開と個別指導案、教材、発表の準備																
	14	発表とまとめ (1)	・助産過程と個別指導の発表 ・質疑応答 ・学びとまとめ	事後課題: 質疑応答や教員のコメントをもとに修正し, 提出する																
	15	発表とまとめ (2)	・助産過程と個別指導の発表 ・質疑応答 ・学びとまとめ	事後課題: 質疑応答や教員のコメントをもとに修正し, 提出する																
関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期</td> <td>横尾 京子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新生児学入門 第4版</td> <td>仁志田博司</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健</td> <td>我部山 キヨ子/毛利 多恵子 編集</td> <td>医学書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院	2	新生児学入門 第4版	仁志田博司	医学書院	3	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健	我部山 キヨ子/毛利 多恵子 編集	医学書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期	横尾 京子 編集	医学書院																	
2	新生児学入門 第4版	仁志田博司	医学書院																	
3	助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健	我部山 キヨ子/毛利 多恵子 編集	医学書院																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日の助産 改訂第3版</td> <td>北川真理子・内山和美 編集</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日の助産 改訂第3版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 50%、助産過程の展開・教材作成 30%、助産課程と個別指導発表 10%、自己学習ノート 10%																			
学生へのメッセージ	助産学実習や助産師国家試験対策のための自己学習ノートを作成し, 要点をまとめておきましょう。助産過程の展開は授業開始から自主的に開始してください																			
担当者の研究室等	7号館3階 赤井 (研究室14)、宮本 (研究室12)																			
備考	保健指導案, および教材は助産学実習で活用します																			

科目名	助産技術学演習	科目名 (英文)	Practice in Midwifery Skills
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	宮本 雅子, 赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 但馬 まり子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

専門科目

授業概要・目的	<p>(概要) 助産師としてケアを提供するために必要な知識、技術、態度について助産診断・技術学の履修内容をもとに、演習を通して統合できる能力を養う。妊婦の診察技術、分娩介助技術、出生時の新生児処置技術、産褥期のケアである乳房マッサージ、褥婦及び新生児の診察について演習を通して学ぶ。助産師の行う業務として分娩介助とともに保健指導は重要な内容である。集団指導、個別指導・家族指導（家庭訪問、1ヶ月健診時）の方法を演習を通して学ぶ</p> <p>(目的) 周産期に必要な母児の診察と処置技術、分娩介助技術、保健指導技術について助産の技法を学修する</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期の知識と助産診断をもとに対象者への援助を実施できる</li> <li>2. 妊産褥婦・新生児の診察と処置の助産技術を習得できる</li> <li>3. 周産期の保健指導技術を習得できる</li> <li>4. 分娩介助技術を習得できる</li> <li>5. 対象者へのケアの提供に対する責任と敬意をもった態度で援助ができる</li> </ol>			
授業方法と留意点	演習を主に、妊産褥婦・新生児への助産技術、および集団指導、分娩介助演習を行います			
科目学習の効果（資格）	助産師国家試験、および助産学実習に関わる科目です			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	助産師に必要な保健指導について (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団指導と個別指導</li> <li>・指導案作成の基礎</li> <li>・集団指導時の媒体の使用方法</li> <li>・保健指導の実施と評価</li> </ul>	事前課題なし 授業で集団指導テーマ紹介とグループ分けをする 事後課題は保健指導案作成を開始する
	2	助産師に必要な保健指導について (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実際</li> <li>・個別指導の実施と評価</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	3	妊娠期の健康診査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦のフィジカルアセスメント</li> <li>・妊婦健診項目と診察技術</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	4	出生直後の新生児の処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生直後の呼吸確立への援助</li> <li>・新生児のフィジカルアセスメント</li> <li>・インファントウォーマーの機能と使用</li> <li>・母子のアタッチメントの技術</li> <li>・新生児の蘇生</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	5	産褥・新生児期のケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産褥・新生児期の診察技術</li> <li>・褥婦の退行性変化を促進するケア</li> <li>・母乳確立への援助</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	6	家庭訪問の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後の家庭訪問における指導技術</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
	7	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前課題は集団指導案の作成 授業で、以下の準備を行う ・ 集団指導発表時は役割分担を決める ・ 資料や媒体（教材）と発表の準備 事後課題は集団指導の発表の準備を行う
	8	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備
	9	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備
	10	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備
	11	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備
	12	集団保健指導の指導案作成と指導準備 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育（母親教室後期）</li> <li>・退院指導（産後の生活と家族計画）</li> <li>・育児指導（新生児の観察と母乳育児）</li> <li>・沐浴指導</li> </ul>	事前・事後課題 集団指導案の作成と媒体作成 発表準備
	13	集団指導発表と討議 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産準備教育発表</li> <li>・退院指導発表</li> </ul>	事前課題は指導案と発表用資料を完成させる 授業は以下のとおり行う ・ 発表 ・ 質疑応答 ・ 評価と修正 事後課題は、発表時のコメントをもとに修正し、指導案と資料を提出する
	14	集団指導発表と討議 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児指導発表</li> <li>・沐浴指導発表</li> </ul>	事前課題は指導案と発表用資料を完成させる 授業は以下のとおり行う ・ 発表 ・ 質疑応答 ・ 評価と修正

			事後課題は、発表時のコメントをもとに修正し、指導案と資料を提出する
15	思春期教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期教育の必要性</li> <li>・思春期教室の実際</li> </ul>	事前課題なし 事後課題は、授業の内容を振り返る
16	分娩介助技術手順作成 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助手順の作成</li> <li>・介助技術の根拠をもとにする</li> </ul>	事前課題はなし 事後課題は分娩介助手順の作成
17	分娩介助技術手順作成 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助手順の作成</li> <li>・介助技術の根拠をもとにする</li> </ul>	事前課題は分娩介助手順の作成 ・グループワークを行い、学生5人1グループで分娩介助手順を作成する
18	分娩介助技術手順作成 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助手順の作成</li> <li>・介助技術の根拠をもとにする</li> </ul>	事前課題は分娩介助手順の作成 ・グループワークを行い、学生5人1グループで分娩介助手順を作成する
19	分娩介助技術手順作成 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助手順の作成</li> <li>・介助技術の根拠をもとにする</li> </ul>	事前課題は分娩介助手順の作成 ・グループワークを行い、学生5人1グループで分娩介助手順を作成する
20	分娩介助技術手順発表	2グループの分娩介助手順に沿った介助方法について発表	事前課題は分娩介助手順の完成 発表後に以下説明する ・学内分娩介助手順の説明 ・産婦事例の提示 事後課題は学内分娩介助手順について熟読する
21	分娩介助技術演習 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助デモンストレーション</li> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は学内分娩介助手順について熟読する 授業で分娩介助試験ガイダンスを行う 事後課題は分娩介助練習を各自実施する
22	分娩介助技術演習 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
23	分娩介助技術演習 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
24	分娩介助技術演習 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
25	分娩介助技術演習 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
26	分娩介助技術演習 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
27	分娩介助技術演習 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
28	分娩介助技術演習 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
29	分娩介助技術演習 (9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る
30	分娩介助技術演習 (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自分娩介助技術の練習</li> <li>・産婦事例の経過に応じた助産診断をもとに分娩介助を実施する</li> <li>・分娩介助助産師、間接介助 (新生児) 産婦役を決め、グループで役割を交代して分娩介助を実施する</li> </ul>	事前課題は分娩介助技術の練習 事後課題は、授業の内容を振り返る

関連科目	母性看護学概論, 母性看護学援助論Ⅰ, 母性看護学援助論Ⅱ, 母性看護学実習, 小児看護学概論, 小児看護学援助論Ⅰ, 小児看護学援助論Ⅱ, 地域看護学, 家族看護学, 精神看護学援助論Ⅰ, 周産期医学, 助産学概論, 助産診断・技術学Ⅰ, 助産診断・技術学Ⅱ, 助産診断・技術学Ⅲ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ	堀内 成子	医学書院
	2	食品 80 キロカロリーガイドブック—大きさ・量がひと目でわかる	香川芳子	女子栄養大学 出版部
	3	UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい 母乳育児支援ガイド ベーシック・コース 「母乳育児成功のための 10 カ条」の実践	BFHI 2009 翻訳編集委員会 訳	医学書院
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今日の助産 改訂第 3 版	北川真理子・内山和美 編集	南江堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 30%、保健指導案 20%、保健指導発表 10%、分娩介助技術試験 40%			
学生への メッセージ	保健指導技術や分娩介助技術は助産学実習の実施項目です。自主的、積極的に学習してください			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 赤井 (研究室 14)、宮本 (研究室 12)			
備考	分娩介助技術, および保健指導案は助産学実習で活用します			

科目名	助産管理論	科目名(英文)	Midwifery Management
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	赤井 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	助産管理の概要及び運用に必要な基本概念(法的根拠やその内容、管理の原則)を理解し、管理者が果たす役割、助産における危機管理について学ぶ。
到達目標	助産管理の概要を理解し、助産における危機管理について理解する。 また、助産業務の行われる場の管理、業務の管理に必要な基礎的知識、さらに、産科医療の特徴と医療事故防止について理解を深める。
授業方法と留意点	実際の事例を通して、産科医療の特徴を学び、助産の場面での管理の在り方を考えていきます。
科目学習の効果(資格)	助産師国家試験受験資格取得に関連する必修科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学習
1	助産管理の基本概念とプロセスについて	マネジメントの定義とマネジメントサイクル、管理理論について学ぶ。	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
2	助産管理の概念	助産師の業務範囲、助産管理の特性と組織化について	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
3	助産と医療経済	医療保障制度と助産業務について、助産業務の診療報酬	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
4	関係法規と助産師の義務・責任について	助産業務に関連する法律について	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
5	周産期管理システムの実際	母体搬送システムについて	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
6	助産所における助産業務管理	助産所の助産業務管理 柏助産院院長：柏悦子先生	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
7	周産期の医療事故とリスクマネジメントー1	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメント	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
8	周産期の医療事故とリスクマネジメントー2	周産期医療事故と助産業務におけるリスクマネジメント	事前学習：なし	事後学習：講義の復習
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、助産学概論、周産期医学、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学演習、助産学実習、統合実習
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	助産学講座 10 助産管理	我部山キヨ子 他	医学書院
2	新版 助産師業務要覧 第2版 [1基礎編]	福井トシ子	日本看護協会出版会	
3	母子保健の主なる統計 平成26年度	公益財団法人母子衛生研究会編集	公益財団法人母子衛生研究会	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	試験：80点、出席：20点
----------	---------------

学生へのメッセージ	助産師課程のまとめの講義です。目標とする助産師を目指すには、今、何を課題とすべきか考えていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等備考	研究室14(赤井)
------------	-----------

科目名	助産学実習	科目名 (英文)	Clinical Practice in Midwifery and Maternity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	11	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤井 由紀子, 泉川 孝子, 福山 智子, 宮本 雅子, 但馬 まり子, 名草 みどり
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>(概要) 妊婦、産婦、褥婦及び新生児とその家族への助産課程の展開を通して、助産診断及び助産技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。また、実践を通して個別的な援助方法について学び、医療・保健チームの中での助産師の役割や機能を考察する。そして、受け持ち事例を通して、地域におけるケア継続の必要性について理解を深め、地域における助産師の役割を考え、助産師としての職業アイデンティティの形成を図る素地を養う。</p> <p>(目的) 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、助産診断・技術に必要な知識と技術を習得し、実践できる能力を養う。実習を通して助産のあり方を考え、職業的アイデンティティの形成を図る。</p>																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊産褥婦と新生児及びその家族に対して、助産過程を展開し、母子のニーズに応じた援助ができる。</li> <li>2. 対象の人間性を尊重し、倫理的な態度や能力を習得することができる。</li> <li>3. 助産活動を通じて、助産師としての役割と責任について理解できる。</li> <li>4. 助産実践の向上、助産学の発展のため、常に主体的に学習する態度を養う。</li> </ol>																		
授業方法と留意点	病院および助産所にて助産に関わる実習を行う																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	助産学実習要綱参照 (継続実習、分娩介助実習、助産所実習)																		
関連科目	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ、母性看護学援助論Ⅱ、母性看護学実習 小児看護学概論、小児看護学援助論Ⅰ、小児看護学援助論Ⅱ、地域看護学、家族看護学、精神看護学援助論Ⅰ 周産期医学、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ 助産技術学演習、助産管理論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	分娩介助技術、実習内容、実習態度、実習記録、出席状況を基にした実習目標の達成度を総合的に評価する。詳細は、助産学実習要綱参照のこと。																		
学生へのメッセージ	教材は、関連科目の教科書、参考書を用いて学習する。実習時は必要時紹介します。少人数制で長期の実習となります。健康管理を十分行ってください。チームワークをもちながらも、個々に主体的・積極的な態度で臨んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 赤井 (研究室14)、宮本 (研究室12)																		
備考	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院：星ヶ丘医療センター、市立ひらかた病院、関西医科大学附属枚方病院、大阪病院、大阪府済生会野江病院、大阪市立総合医療センター、西川医院、済生会京都府病院、大和郡山病院</li> <li>・助産所：大谷助産院、ひまわり助産院、ゆう助産院、橋本助産院、柏助産院</li> </ul> </li> <li>2. 分娩介助実習では、分娩介助例数が10例に達するまで継続的に実習を行う</li> </ol>																		

# 教 養 科 目



科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山中 延之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>大学で合格点を得るためのレポート＝論理的文章を書く力を養うための知識を解説し、実際に論理的文章を書く訓練をする。これは、社会人にとって必要な文章作成能力を身につけることでもある。</p> <p>あわせて、言葉の基礎知識を得るために、毎回小テストとその解説を行う。現代社会において規範とされる話し言葉（主に敬語）と、書き言葉（文章語）を習得し、その区別ができるようになるためである。</p>
到達目標	<p>レポート・論文等の論理的文章の書き方の基礎を身に付ける。</p> <p>敬語・文章語等、社会人として身に付けておくべき言葉を身に付ける。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、教科書の解説・練習問題を用いて基礎を学ぶ。必要に応じて練習問題を追加配布する。</p> <p>2度、課題を作成する。</p> <p>毎回、日本語表現や語彙力を養成する小テストを行う。</p>
科目学習の効果(資格)	大学や社会で必要な文章作成能力が書けるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業の目的、方法の説明	配布プリントの問題の復習
	2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項	配布プリントの問題の復習
	3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方	配布プリントの問題の復習
	4	事実と意見	事実と意見の書き分け	配布プリントの問題の復習
	5	課題1 説明文	必要なことをわかりやすく述べる	配布プリントの問題の復習
	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習
	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	配布プリントの問題の復習
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習
	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	配布プリントの問題の復習
	11	課題2 論説文	資料を引用して意見を述べる	配布プリントの問題の復習
	12	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習
	13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点を教える	配布プリントの問題の復習
	14	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	配布プリントの問題の復習
	15	手紙の書き方	手紙の約束事を知る	配布プリントの問題の復習

関連科目	コミュニケーションに関する分野
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	摂南大学 日本語文章表現の会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	<p>課題 50%、小テスト 20%、定期試験 30%により総合評価する。</p> <p>2度の課題提出は必須である。完成度に応じて再提出を求めることがある。</p>
----------	---

学生へのメッセージ	<p>時と場合によって書き方を変えることは誰もがやっていることです。</p> <p>苦手意識がある人もとりあえずそれを脇に置いて、今の実力を少しずつ正確で幅の広いものにしてゆきましょう。</p>
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	文章表現法	科目名(英文)	Academic Japanese
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山中 延之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>大学で合格点を得るためのレポート＝論理的文章を書く力を養うための知識を解説し、実際に論理的文章を書く訓練をする。これは、社会人にとって必要な文章作成能力を身につけることでもある。</p> <p>あわせて、言葉の基礎知識を得るために、毎回小テストとその解説を行う。現代社会において規範とされる話し言葉(主に敬語)と、書き言葉(文章語)を習得し、その区別ができるようになるためである。</p>																																																																
到達目標	<p>レポート・論文等の論理的文章の書き方の基礎を身に付ける。</p> <p>敬語・文章語等、社会人として身に付けておくべき言葉を身に付ける。</p>																																																																
授業方法と留意点	<p>毎回、教科書の解説・練習問題を用いて基礎を学ぶ。必要に応じて練習問題を追加配布する。</p> <p>2度、課題を作成する。</p> <p>毎回、日本語表現や語彙力を養成する小テストを行う。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)	大学や社会で必要な文章作成能力が書けるようになる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>はじめに</td><td>授業の目的、方法の説明</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>文章の書き方1</td><td>レポート・論文の基本事項</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>文章の書き方2</td><td>わかりやすい文章の書き方</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>事実と意見</td><td>事実と意見の書き分け</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>課題1 説明文</td><td>必要なことをわかりやすく述べる</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>構成</td><td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td><td>返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>要約</td><td>要旨の要約の作成方法を知る</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>文章を引用する</td><td>文章を引用する方法を学ぶ</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>図表を引用する</td><td>図表を引用する方法を学ぶ</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>意見を述べる</td><td>考察に基づいて意見を述べる</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>課題2 論説文</td><td>資料を引用して意見を述べる</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>レポートの書き方1</td><td>レポートの体裁について学ぶ</td><td>返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>レポートの書き方2</td><td>レポート作成の注意点を教える</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>資料収集の方法</td><td>文献の検索について学ぶ</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>手紙の書き方</td><td>手紙の約束事を知る</td><td>配布プリントの問題の復習</td></tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の目的、方法の説明	配布プリントの問題の復習	2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項	配布プリントの問題の復習	3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方	配布プリントの問題の復習	4	事実と意見	事実と意見の書き分け	配布プリントの問題の復習	5	課題1 説明文	必要なことをわかりやすく述べる	配布プリントの問題の復習	6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習	7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	配布プリントの問題の復習	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習	10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	配布プリントの問題の復習	11	課題2 論説文	資料を引用して意見を述べる	配布プリントの問題の復習	12	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習	13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点を教える	配布プリントの問題の復習	14	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	配布プリントの問題の復習	15	手紙の書き方	手紙の約束事を知る	配布プリントの問題の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	はじめに	授業の目的、方法の説明	配布プリントの問題の復習																																																														
2	文章の書き方1	レポート・論文の基本事項	配布プリントの問題の復習																																																														
3	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方	配布プリントの問題の復習																																																														
4	事実と意見	事実と意見の書き分け	配布プリントの問題の復習																																																														
5	課題1 説明文	必要なことをわかりやすく述べる	配布プリントの問題の復習																																																														
6	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習																																																														
7	要約	要旨の要約の作成方法を知る	配布プリントの問題の復習																																																														
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習																																																														
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	配布プリントの問題の復習																																																														
10	意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	配布プリントの問題の復習																																																														
11	課題2 論説文	資料を引用して意見を述べる	配布プリントの問題の復習																																																														
12	レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ	返却された課題の復習 配布プリントの問題の復習																																																														
13	レポートの書き方2	レポート作成の注意点を教える	配布プリントの問題の復習																																																														
14	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	配布プリントの問題の復習																																																														
15	手紙の書き方	手紙の約束事を知る	配布プリントの問題の復習																																																														
関連科目	コミュニケーションに関する分野																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生の日本語文章表現</td> <td>摂南大学 日本語文章表現の会</td> <td>摂南大学 日本語文章表現の会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	摂南大学 日本語文章表現の会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	摂南大学 日本語文章表現の会																																																														
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1																																																																	
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	<p>課題50%、小テスト20%、定期試験30%により総合評価する。</p> <p>2度の課題提出は必須である。完成度に応じて再提出を求めることがある。</p>																																																																
学生へのメッセージ	<p>時と場合によって書き方を変えることは誰もがやっていることです。</p> <p>苦手意識がある人もとりあえずそれを脇に置いて、今の実力を少しずつ正確で幅の広いものにしてゆきましょう。</p>																																																																
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																
備考																																																																	

教養科目

科目名	コミュニケーション論	科目名(英文)	Study of Communication
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	生命に関わる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。本科目では、日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。コミュニケーションの諸場面に生じる問題を通して、円滑な意志疎通のあり方を探る。																																																																		
到達目標	日常的に行っているコミュニケーションの特性や仕組みを知り、表現のスキルを向上させていくことを目指す。それを通じてコミュニケーションの諸場面に生じる問題を乗り越え、円滑な意志疎通が可能能力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	講義による授業方法。																																																																		
科目学習の効果(資格)	特になし																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション コミュニケーションとは何か考えてみましょう。</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コミュニケーションの構造</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コミュニケーションとコンテキスト</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>言語とコミュニケーション①</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>言語とコミュニケーション②</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>言語とコミュニケーション③</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>非言語とコミュニケーション①</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>非言語とコミュニケーション②</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>非言語とコミュニケーション③</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非言語とコミュニケーション④</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>表情のコミュニケーション</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>広告のメッセージを解説する</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>うわさの働き</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>異文化コミュニケーション①</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>異文化コミュニケーション②</td> <td>講義</td> <td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション コミュニケーションとは何か考えてみましょう。	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	2	コミュニケーションの構造	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	3	コミュニケーションとコンテキスト	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	4	言語とコミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	5	言語とコミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	6	言語とコミュニケーション③	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	7	非言語とコミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	8	非言語とコミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	9	非言語とコミュニケーション③	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	10	非言語とコミュニケーション④	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	11	表情のコミュニケーション	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	12	広告のメッセージを解説する	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	13	うわさの働き	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	14	異文化コミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること	15	異文化コミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション コミュニケーションとは何か考えてみましょう。	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
2	コミュニケーションの構造	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
3	コミュニケーションとコンテキスト	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
4	言語とコミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
5	言語とコミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
6	言語とコミュニケーション③	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
7	非言語とコミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
8	非言語とコミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
9	非言語とコミュニケーション③	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
10	非言語とコミュニケーション④	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
11	表情のコミュニケーション	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
12	広告のメッセージを解説する	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
13	うわさの働き	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
14	異文化コミュニケーション①	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
15	異文化コミュニケーション②	講義	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること																																																																
関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション学など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	基本的に定期試験100%で評価しますが、授業態度(①授業での質問に対する積極的な応答、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢など)を考慮します。																																																																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を求めます。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	心理学	科目名(英文)	Psychology
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小牧 一裕
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を修得する。 心理学とは、われわれが周囲のさまざまな環境とのかかわりの中でとる行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。現代社会での実際的な問題、日常的な話題を多く取り上げ、個人・対人間・集団関係での行動と心理の理解を目指す。
到達目標	学生が、講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。 学生が、分析力(自己、他者、社会を分析する力)と対人関係力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義方式で教科書と資料を併用する。講義中には、心理学的知見を実際に体感するため、グループワークや調査も行う予定にしているので、積極的に参加すること。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 心理学概論	心理学とはどのような学問なのかについて概説を行う。	授業内容の復習
2	パーソナリティの心理	パーソナリティに関する諸説を解説し、その測定方法についても学ぶ。また、パーソナリティの形成に影響を与える外的要因、特に文化の影響について考える。	授業内容の復習
3	発達の心理	われわれが小さい子どものころから成長していく過程で、最も大きな影響を受けるのは家庭や家族である。ここでは、親の養育態度や出生順位が子どもにどのような影響を与えるのかについて学ぶ。	授業内容の復習
4	青年の心理	青年期の人間関係、特に友人関係に焦点を当て、青年期における友人関係の特徴とその背景について解説する。また、対人関係能力の低下についても考える。	授業内容の復習
5	自己の心理	自分のことは自分が一番良く知っていると考えた人は多いが、本当にそうだろうか？ 自分の気づかない自分について知り、また、自分の情報を他人に言う自己開示や他人に良い印象を与える過程についても考える。	授業内容の復習
6	対人認知	われわれが人と良い関係を築いていくためには、まず自分を取り巻く環境や他者を知る(認知)することが必要となる。ここでは、他者を理解するプロセスに働く、心理的な規則やルールについて学ぶ。	授業内容の復習
7	対人魅力	われわれは印象形成の次の行動として、相手の人に対する評価的な感情を抱く。ここでは、人に対する好意的や非好意的な態度である対人魅力の規定因について考える。	授業内容の復習
8	コミュニケーションの心理	人とうまくいかないときに、その原因はコミュニケーションにあることが多い。コミュニケーションの阻害や歪みについてその原因を理解し、より良い人間関係を築くための対策を学ぶ。	授業内容の復習およびレポート作成
9	説得的コミュニケーションとその応用	われわれ一人ひとりの態度はさまざまに異なっている。自分と意見が違う人と接することはよくあることだが、そのときにどのような行動を取るだろうか。ここでは説得に関して、影響する要因とその応用について学ぶ。	授業内容の復習
10	集団の心理	集団の条件や集団規範、まとまり(凝集性)をよくするにはどうしたらいいかについて学ぶ。さらに、集団の葛藤とその解消について理解を深める。	授業内容の復習
11	組織の心理	チームワークやリーダーシップ、メンタリングについて学び、集団や組織の中でどのように振る舞い、リーダーシップを発揮したり、適応していくのかについて理解を深める。	授業内容の復習
12	ストレスと健康の心理	人間関係は、ストレスの原因にもなるし、やる気の源にもなる。ここではストレスの原因とその結果に影響を及ぼす要因として人間関係や個人特性に注目し、どのようにしたらストレスに強くなれるのかについて学ぶ。	授業内容の復習
13	幸福の心理	人が幸せになるためにはどのようなこ	授業内容の復習

			とが必要だろうか？ ポジティブ心理学から幸福の関連要因について学び、いかに充実した人生を送るのかを考える。																	
	14																			
	15																			
関連科目	臨床心理学、カウンセリング論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーションプロセス</td> <td>西川一廉・小牧一裕</td> <td>二瓶社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーションプロセス	西川一廉・小牧一裕	二瓶社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	コミュニケーションプロセス	西川一廉・小牧一裕	二瓶社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	学期末試験 60%、レポート 40%で評価する。																			
学生への メッセージ	できるだけ身近な例を取り上げながら講義を進める予定ですので、自分や自分を取り巻く社会と心理的事象を結びつけながら、理解を深めてください。																			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																			
備考																				

科目名	哲学	科目名(英文)	Philosophy
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>学問の教科書、たとえば心理学や看護学の教科書には、たいていその学問が何であるのかといった定義がはじめに書かれています。ところが哲学の教科書で「哲学とは何か」の説明から始まるものはまずありません。そのような説明から始まるとしても『哲学とは何か』という問いがすでに哲学をするいとなみである」といったようなことが書いてあるぐらいです。それでは哲学の授業では何を学ぶのでしょうか。</p> <p>たしかに、哲学をひとことと言いつつはできないかもしれませんが、しかしながら、物事を根本から考えると、批判的に考えると、あるいはものごとを複数の視点から観察するとかいったようなこと、すなわち哲学のいとなみを成り立たせていると考えられているものを手がかりに「哲学とは何か」という問いについて考えていくことはできるでしょう。</p> <p>この授業では、新聞や雑誌の記事、映画、小説、マンガといった身近な素材を活用して、哲学的なものの見方、考え方を養います。</p>		
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 現実の問題を哲学と結びつけて考えることができる  (2) 世の中で常識とされていることを疑って批判的に考えることができる  (3) ものごとを複数の視点から眺め考察することができる</p>		
授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。</p>		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。
	2	さまざまなものの見方	ものごとは視点を変わるとまったく違うように見えることがあります。まずは実例にもとづいてそのことを体験します。その上で、もし世界が見る側(あなた)の見方によって見え方が異なるのであるとするならば、ありのままの世界とはどのようなものなのか、そして私たちはそれを知ることができるのか、という問題について考えます。これは哲学の専門用語では「認識論」と呼ばれる問題です。
	3	常識にとらわれない	私たちは一人ひとり違う人間で価値観や考え方も違うはずなのに、びっくりするほど同じようなものの見方をしています。この回では、いくつかのワークを通して私たちが常識にとらわれていることを確認します。その上で、そのそも常識とは何なのか、常識にとらわれないものの見方をするにはどうすればよいのかを考えます。
	4	見えない権力に気づく	世の中にはさまざまな権力関係が存在します。誰から見てもはっきりとわかるようなものもあれば、よく考えなければわからないようなものもあります。この回では、見えない権力関係に気づくためにはどうしたらよいのかを考えます。
	5	哲学的思考	哲学的思考ができるようになるためには、一定の訓練が必要です。では、訓練すれば誰でも哲学的に物事を考えられるようになるのでしょうか。そもそも哲学的思考とは何なのか、それは訓練によって誰でも身につけることができるようになるものなのか、考えます。
	6	コミュニケーション	コミュニケーションとは何なのか。コミュニケーション障害ということばもよく耳にするようになりました。視覚覚料をもとに、コミュニケーションについて考えます。
	7	生と死について考える(1)	視覚覚料をもとに、生と死について考えます。
	8	生と死について考える(2)	視覚覚料をもとに、生と死について考えます。
	9	生と死について考える(3)	昔話の『うばすて山』、赤瀬川原平の『老人力』を手がかりに、歳をとることの意味について考えます。
	10	記号化された世界について考える(1)	都市化が進むなかで、私たちが従来の自然に接する機会は少なくなってきました。また経済的合理性を追求することで自動化と分業化が進み、私たちがふだん口にする食べ物がどのように作られたり育てられたりしているのかが見えにくくなってきました。この回では、記号

			化を手がかりに、世界について考えます。																	
	11	記号化された世界について考える(2)	前回に引き続き、視聴覚資料をもとに、記号化された世界について考えます。	授業中に指示します。																
	12	記号化された世界について考える(3)	アウシュビッツ強制収容所の写真を見ながら、記号化された世界について考えます。	授業中に指示します。																
	13	自由について考える	自由も哲学の大きなテーマの一つです。自由の問題について考えます。	授業中に指示します。																
	14	わたしとあなた	〈わたし〉と〈あなた〉の関係は、ある意味で特別な関係です。これはほかの誰か(三人称)ではなく、まさにあなた(二人称)とわたし(一人称)の関係なのであって、その意味で、あなたはわたしにとって特別な相手なのです。もしかすると看護師と患者の関係は、この〈わたし〉と〈あなた〉、一人称と二人称の関係と言えるかもしれません。これは哲学のなかでも大きなテーマの一つです。この回では、ある看護の実践に関するドキュメンタリーを観た上で、わたしとあなたとの関係について考えます。	授業中に指示します。																
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。																
関連科目	ボランティア活動論、倫理学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	この授業は授業内課題(リアクションペーパー)15%、受講態度(積極的な発言など)5%、小テスト10%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。																			
学生へのメッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																			
担当者の研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 1号館2階 非常勤講師室 メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)																			
備考																				

科目名	文学	科目名(英文)	Literature
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	丹下 暖子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	日本の古典文学、特に平安から鎌倉初期に書かれた物語、日記、和歌などを鑑賞する。「古典」というと、過去のものというイメージがあるかもしれないが、描かれているのは、親子の情愛、恋のときめき、別れのせつなさ…といった、現代に通じる「人の思い」である。古典を読むことで、さまざまな考え、感じ方に触れ、思考力を豊かにすることを目的とする。また、さまざまなジャンルの作品に触れることで、物事を多角的に見る力を養うことも目的とする。なお、授業で扱うのは古典文学だが、古典文学の現代における映像化などについても取り上げることがある。																																																																		
到達目標	さまざまな文学作品を味わい、鑑賞する力を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式。事前に授業で取り上げる作品についてプリントを配布するので、目を通した上で、受講する。授業中にミニレポート（作品に対するコメントなど）を課すことがある。適宜、現代語訳を用意するので、古典文学・文法に関する知識は特に必要ない。																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生として必要最低限の古典文学の知識が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、進め方を説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日記を読む（1）</td> <td>平安時代の日記について説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日記を読む（2）</td> <td>平安時代の女性の日記、『蜻蛉日記』と『紫式部日記』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>歴史物語を読む（1）</td> <td>藤原道長の栄華を描いた『栄花物語』と『大鏡』について説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>歴史物語を読む（2）</td> <td>『栄花物語』と『大鏡』を読み比べる</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>物語を読む（1）</td> <td>『源氏物語』の概略を説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>物語を読む（2）</td> <td>『源氏物語』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日記を読む（3）</td> <td>『源氏物語』に憧れた女性の日記、『更級日記』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>日記を読む（4）</td> <td>「看取りの記」と呼ばれる『讃岐典侍日記』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>軍記物語を読む（1）</td> <td>『平家物語』の概略を説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>軍記物語を読む（2）</td> <td>『平家物語』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>日記を読む（5）</td> <td>『平家物語』の時代を生きた女性の日記、『建礼門院右京大夫集』を読む</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>和歌を読む（1）</td> <td>和歌に関する基礎知識を説明する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>和歌を読む（2）</td> <td>百人一首を鑑賞する</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業内容を再確認する</td> <td>関連書籍を読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、進め方を説明する	配布プリントを読む	2	日記を読む（1）	平安時代の日記について説明する	配布プリントを読む	3	日記を読む（2）	平安時代の女性の日記、『蜻蛉日記』と『紫式部日記』を読む	配布プリントを読む	4	歴史物語を読む（1）	藤原道長の栄華を描いた『栄花物語』と『大鏡』について説明する	配布プリントを読む	5	歴史物語を読む（2）	『栄花物語』と『大鏡』を読み比べる	配布プリントを読む	6	物語を読む（1）	『源氏物語』の概略を説明する	配布プリントを読む	7	物語を読む（2）	『源氏物語』を読む	配布プリントを読む	8	日記を読む（3）	『源氏物語』に憧れた女性の日記、『更級日記』を読む	配布プリントを読む	9	日記を読む（4）	「看取りの記」と呼ばれる『讃岐典侍日記』を読む	配布プリントを読む	10	軍記物語を読む（1）	『平家物語』の概略を説明する	配布プリントを読む	11	軍記物語を読む（2）	『平家物語』を読む	配布プリントを読む	12	日記を読む（5）	『平家物語』の時代を生きた女性の日記、『建礼門院右京大夫集』を読む	配布プリントを読む	13	和歌を読む（1）	和歌に関する基礎知識を説明する	配布プリントを読む	14	和歌を読む（2）	百人一首を鑑賞する	配布プリントを読む	15	まとめ	これまでの授業内容を再確認する	関連書籍を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、進め方を説明する	配布プリントを読む																																																																
2	日記を読む（1）	平安時代の日記について説明する	配布プリントを読む																																																																
3	日記を読む（2）	平安時代の女性の日記、『蜻蛉日記』と『紫式部日記』を読む	配布プリントを読む																																																																
4	歴史物語を読む（1）	藤原道長の栄華を描いた『栄花物語』と『大鏡』について説明する	配布プリントを読む																																																																
5	歴史物語を読む（2）	『栄花物語』と『大鏡』を読み比べる	配布プリントを読む																																																																
6	物語を読む（1）	『源氏物語』の概略を説明する	配布プリントを読む																																																																
7	物語を読む（2）	『源氏物語』を読む	配布プリントを読む																																																																
8	日記を読む（3）	『源氏物語』に憧れた女性の日記、『更級日記』を読む	配布プリントを読む																																																																
9	日記を読む（4）	「看取りの記」と呼ばれる『讃岐典侍日記』を読む	配布プリントを読む																																																																
10	軍記物語を読む（1）	『平家物語』の概略を説明する	配布プリントを読む																																																																
11	軍記物語を読む（2）	『平家物語』を読む	配布プリントを読む																																																																
12	日記を読む（5）	『平家物語』の時代を生きた女性の日記、『建礼門院右京大夫集』を読む	配布プリントを読む																																																																
13	和歌を読む（1）	和歌に関する基礎知識を説明する	配布プリントを読む																																																																
14	和歌を読む（2）	百人一首を鑑賞する	配布プリントを読む																																																																
15	まとめ	これまでの授業内容を再確認する	関連書籍を読む																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業への取り組み・ミニレポートなど（50%）、定期試験（50%）により、総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業で取り上げる作品は、約千年前の日本で書かれたものですが、今なお読み継がれ、時には映像化もされます。翻訳された作品もあり、海外でも親しまれています。現代に通じる古典文学の魅力に触れてみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	ボランティア活動論	科目名(英文)	Study of Volunteer Activity
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

**授業概要・目的**  
東日本大震災という未曾有の災害を経験し、ボランティア活動が日本で再び注目されるようになってきました。1995年が日本のボランティア元年と呼ばれるようになったきっかけは阪神・淡路大震災でした。ただ、一言でボランティア活動と言っても、地域の清掃を行うといったような身近なものから専門的な知識を要するものまで活動の分野、規模、種類、求められる条件などはさまざまです。この授業では、ボランティア活動の意義、歴史、活動の分野や種類、そして社会制度との関係など、ボランティア活動の基本を学修し理解することを目標にしています。

**到達目標**  
この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。  
(1) ボランティア活動の意義について理解し説明できる  
(2) 多様なボランティア活動について理解し説明できる  
(3) ボランティアを必要とする人びとがいることを知るとともに、ボランティアを必要とする社会のしくみについて理解し説明できる

**授業方法と留意点**  
この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回アクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。

**科目学習の効果(資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の時期、方法、基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	概論	ボランティア活動の意義、目的、必要性、種類、歴史について学修します。	授業中に指示します。
3	なぜボランティアが必要なのか?	ボランティアの必要性について学修します。	授業中に指示します。
4	日本のボランティア活動	日本でボランティア活動が盛んになった経緯について学修します。	授業中に指示します。
5	市民社会論	ボランティア活動の基礎にある市民について、市民とは何か、市民社会とはどのようなものか学修します。	授業中に指示します。
6	NPO、NGO	NPO、NGOとは何か、またそれらがボランティア活動において果たす役割はどのようなものなのか学修します。	授業中に指示します。
7	社会制度とボランティア活動	社会制度がNPO、NGOの活動やボランティア活動にもたらす影響について学修します。	授業中に指示します。
8	中間のふり取り	前回までの内容をひと通り理解し、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。	授業中に指示します。
9	災害とボランティア(1)	災害とは何か、また災害時にどのようなボランティア活動があるのか学修します。	授業中に指示します。
10	災害とボランティア(2)	災害時に活躍する専門ボランティアについて学修します。	授業中に指示します。
11	医療福祉ボランティア	医療福祉ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
12	文化ボランティア	文化ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
13	国際ボランティア	国際ボランティアの種類や特徴について学修します。	授業中に指示します。
14	マイノリティとボランティア活動	マイノリティを支援するボランティア活動について学修します。	授業中に指示します。
15	まとめ、全体のふり取り	この授業で何を学んだのかを振り返ります。	これまでの授業をふり取りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。

**関連科目** 哲学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

**評価方法(基準)**  
この授業は授業内課題(アクションペーパー)15%、受講態度(積極的な発言など)5%、小テスト10%、期末試験70%で評価します。評価の基準については学部の規定に準じます。

**学生への**  
決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんに

メッセージ	よく尋ねます。日本でも毎日いろいろなことが起こっていますが、世界ではもっといろいろなことが起こっています。ボランティアが必要であるということも、そうした世界での出来事に目を向けることから始まります。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の研究室等	メールアドレス : xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされてきた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。また、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
到達目標	
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用し授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果(資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思えます。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
8	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
9	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
10	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習
11	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習・事例を探すレポート
12	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	震災、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起こっているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	女性学	科目名(英文)	Women's Study
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荒木 菜穂
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	女性学とは、男女ともが、社会のしくみについて考える場である。社会の「主人公」が男性であることが自明であった時代、「見えない存在」とされていた女性のあり方に目を向けることが女性学のきっかけとなった。しかし、それは、性別によって個人が生き方を決められてしまう社会のしくみそのものを問う学問および活動を意味する。現在では、性をめぐる社会のしくみは、男女それぞれの個人としての「生きにくさ」と何かしら関係があるのかもしれないと捉えられる一方、「もはや性別による不都合など存在しない」という意見も多く見られる。本授業では、1970年代以降、女性学において語られてきた様々なトピックをヒントに、性をめぐっての、今日的な社会のしくみについて、家族、恋愛、仕事、セクシュアリティなど様々な角度から理解を深める。また、一般論としての「あたりまえ」ではなく、自分を主語としてそれらの問題について語ることができるようになることを目標とする。
到達目標	
授業方法と留意点	各回、テーマに関して、女性学等においてこれまで語られてきたことの振り返りと並行させ、ニュースや図表や文献資料、映像など、今日的な問題に沿った資料を使用して授業を進める。授業終了後に、そのテーマについて、各人が自分の考えをまとめる時間を設ける。
科目学習の効果(資格)	様々な角度からの議論を紹介していきたいと思います。自分とは異なる価値観を持つ他者と柔軟に向き合うことができ、幅広い視野で社会を読み解くことができるようになればよいと考えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/女性学とは何か	女性学について、また、日本における女性学誕生からジェンダー概念の普及までの簡単な歴史的な振り返りを行う。	配布プリントの復習
2	メディアの中の男女のイメージ(1)	様々なメディアの中で、男性、女性のイメージがどのように描き分けられているか、またなぜそうなっているのかについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴し次回に備える。
3	メディアの中の男女のイメージ(2)	メディアにおける表現の問題性、また、メディアと接する際のリテラシーについて考える。	配布プリントの復習・意識的にメディアを視聴する
4	恋愛・結婚・家族とジェンダー(1)	モテ非モテ、愛と暴力など、日常的問題の背景にある社会のしくみを知る。	配布プリントの復習
5	恋愛・結婚・家族とジェンダー(2)	恋愛意識、経済、家族のあり方など、様々な社会の問題と結びつく「結婚」という制度について、結婚が困難になりつつある近年の現状をデータなどで振り返り、その構造について考える。	配布プリントの復習
6	恋愛・結婚・家族とジェンダー(3)	結婚・家族などをめぐる「あたりまえ」を疑ってみる。	配布プリントの復習
7	個人の外見と身体と社会	個人の「見た目」がジェンダーや社会による制約を受ける問題について、単に批判するだけでなく、我々が積極的に表現する行為としての意味を考える。	配布プリントの復習
8	身体と性	出産・健康・医療をめぐり、男女の身体や性が社会とどのような関係にあったのかを学ぶ。	配布プリントの復習
9	セクシュアリティとジェンダー	快楽の性、性的なものをめぐる差別など、性と社会に関する様々なことを学ぶ。	配布プリントの復習
10	労働と社会(1)	個人が生きる上での仕事、労働、生活について、現代の男女のライフコースとの関わりで考える。	配布プリントの復習
11	労働と社会(2)	格差社会と男女共同参画といった観点から、資本主義社会の中のジェンダーと労働について学ぶ。	配布プリントの復習・事例を探しレポート
12	女性運動から学ぶこと	過去および現在のフェミニズム運動やその主張の多様性から平等とは何かを学ぶ。	配布プリントの復習
13	グローバリゼーションとジェンダー	様々な文化における男女を取り巻く社会状況に目を向け、「私」とは、どのような立ち位置の女性(男性)か、について考える。	配布プリントの復習
14	教育とジェンダー	日本の教育に関するジェンダーの問題について考える。	配布プリントの復習
15	今日的課題と向き合う	震災、貧困、ネット社会など、社会の変化をもたらした様々なキーワードを、女性学、ジェンダーの切り口から再考する。	配布プリントの復習

関連科目 社会と個人について考える科目全てに関連性があるといえます。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3		
評価方法 (基準)	授業内レポートおよび課題レポート (30%)、定期試験 (70%) により総合評価する。		
学生への メッセージ	難解な理論を把握することよりも、日常生活の中の問題を、「あたりまえ」だけではない様々な視点で考えることができるようになることが本授業の目的です。この問題はなぜ起きているのだろう、世の中ってどうなってるんだろう、と一緒に考えていけたらと思います。		
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室		
備考			

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	憲法に関する学習を通して、様々な考え方にふれ、物事を多角的にみる能力を養い、そして見識のある人間としての基礎を築くために、自分自身についての洞察を深め、生涯にわたって自己研鑽に努める習慣を身につけます。授業では、できるだけ身近な素材を利用して進めますので、「憲法」と日常生活とのかかわりについて考える機会にもなります。憲法改正の議論が活発化する今、日本国憲法の基礎知識をしっかりと修得しましょう。
到達目標	日本国憲法の基礎的知識を習得し、さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようなることを目標とする
授業方法と留意点	成績評価は、期末テストだけではなく、通常の授業のなかで提出してもらう小テストやミニ・レポートの筆記内容も重視します。授業での教員の説明をよく聞き、その内容をノートにしっかりとまとめましょう。日頃から、新聞・テレビ・雑誌などのさまざまなメディアを通して、政治・社会問題に関心をもつよう心がけてください。
科目学習の効果(資格)	専門基礎科目の保健医療行政論、専門科目の看護関係法規を学ぶ上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の進め方及び成績評価について 現代日本の法制度の概要について	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
2	憲法とは何か	近代憲法の特徴について 明治憲法および日本国憲法の歴史について	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
3	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理である国民主権・平和主義を中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
4	憲法で保障する人権とは？ 人権総論	憲法における人権保障の意義およびその限界を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
5	自由権(1) 信教の自由・政教分離の原則	教育現場で問題になった信教の自由をめぐる判例を検討する。また政教分離にかかわる重要判例を取り上げる。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
6	自由権(2) 表現の自由	表現の自由が保障される意義を学ぶ。さらに表現活動が制限をうける場合について、21条に関する重要判例を通して考える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
7	自由権(3) 刑事手続と人権	憲法で述べられている適正手続の保障について考察する。 冤罪事件をめぐる問題について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
8	社会権(1) 生存権と生活保護	生活保護をめぐる事例を検討するとともに、生活保護の諸問題を考える。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
9	社会権(2) 教育を受ける権利	教育権をめぐる重要判例を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
10	法の下での平等	平等権に関わる最重要判例を学ぶ。 日本の違憲審査制について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
11	新しい人権(プライバシー権、自己決定権)	幸福追求権から導かれる新しい人権に関する重要判例を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
12	統治のしくみ(1) 国会・内閣	国会・内閣の基本的機能について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
13	統治のしくみ(2) 裁判所	裁判所の組織、司法権の独立などについて考察する。また、裁判員制度の問題点等を検討する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
14	憲法改正の問題	戦後からこれまでの憲法改正をめぐる動向を概観する。また国民投票法について考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
15	講義全体のまとめ	重要ポイントの再確認および憲法問題に関する今後の展望	レジュメの指示にしたがって復習しておくこと。

関連科目	法学入門、保健医療福祉行政論、看護関係法規
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法(第6版)	芦部信喜	岩波書店
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験80%、平常点(授業内の課題提出、学習態度など)20%により総合評価します。 詳しくは初回の授業で説明します。
----------	--

学生へのメッセージ	日頃から、新聞・テレビ・雑誌などのさまざまなメディアを通して、政治・社会問題に関心をもつよう心がけましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柄谷 藍香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	授業では、憲法・民法・刑法を主たる素材として、法が社会のなかでどのような機能を果たしているのかについて体系的に学ぶ。																																																																		
到達目標	法がもつダイナミズムを重視し、具体的な事例（学生の関心事例や医療に関する事例など）を用い、今後の社会生活で活用できるような法学の基礎的知識を身につけることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は用いず、参考書は授業中に適宜紹介する。なお、授業レジュメ・資料を毎回配布する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	法律の基本的知識やその活用について学ぶことは、今後の社会生活（私生活、卒業後の社会人生活ともに）に必須である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義の目的、進め方や成績評価/私たちの生活と法・法律</td> <td>予習として今後の講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>なぜ法律を学ぶのか</td> <td>身を守るために必要な法律知識/法的思考(リーガルマインド)とは</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>法律の世界-「法」および「法律」とは/「法」と「道徳」の関係</td> <td>法・法律の基礎知識/日本社会と法・法律の歩み/日本の法制度</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>憲法(1)</td> <td>憲法のしくみ</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>憲法(2)</td> <td>国民主権/平和主義/権力分立</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>憲法(3)</td> <td>基本的人権の保障</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>民法(1)</td> <td>民法のしくみ</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>民法(2)</td> <td>契約の自由/財産関係</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>民法(3)</td> <td>家族関係(結婚、離婚、相続など)と法</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>刑法(1)</td> <td>刑法のしくみ</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>刑法(2)</td> <td>罪刑法定主義/責任主義</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>刑法(3)</td> <td>犯罪の成立要件/刑事手続</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>医療と法・法律(1)</td> <td>医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>医療と法・法律(2)</td> <td>医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)</td> <td>前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ・補足</td> <td>これまでの授業の復習</td> <td>前回の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の目的、進め方や成績評価/私たちの生活と法・法律	予習として今後の講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	2	なぜ法律を学ぶのか	身を守るために必要な法律知識/法的思考(リーガルマインド)とは	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	3	法律の世界-「法」および「法律」とは/「法」と「道徳」の関係	法・法律の基礎知識/日本社会と法・法律の歩み/日本の法制度	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	4	憲法(1)	憲法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	5	憲法(2)	国民主権/平和主義/権力分立	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	6	憲法(3)	基本的人権の保障	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	7	民法(1)	民法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	8	民法(2)	契約の自由/財産関係	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	9	民法(3)	家族関係(結婚、離婚、相続など)と法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	10	刑法(1)	刑法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	11	刑法(2)	罪刑法定主義/責任主義	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	12	刑法(3)	犯罪の成立要件/刑事手続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	13	医療と法・法律(1)	医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	14	医療と法・法律(2)	医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認	15	まとめ・補足	これまでの授業の復習	前回の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の目的、進め方や成績評価/私たちの生活と法・法律	予習として今後の講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
2	なぜ法律を学ぶのか	身を守るために必要な法律知識/法的思考(リーガルマインド)とは	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
3	法律の世界-「法」および「法律」とは/「法」と「道徳」の関係	法・法律の基礎知識/日本社会と法・法律の歩み/日本の法制度	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
4	憲法(1)	憲法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
5	憲法(2)	国民主権/平和主義/権力分立	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
6	憲法(3)	基本的人権の保障	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
7	民法(1)	民法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
8	民法(2)	契約の自由/財産関係	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
9	民法(3)	家族関係(結婚、離婚、相続など)と法	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
10	刑法(1)	刑法のしくみ	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
11	刑法(2)	罪刑法定主義/責任主義	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
12	刑法(3)	犯罪の成立要件/刑事手続	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
13	医療と法・法律(1)	医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
14	医療と法・法律(2)	医療活動に関わる法律問題(特に、薬事法など薬学と関連する事例・事件を中心に)	前回の復習・予習として講義と関連する関心事例（事件・ニュース）を新聞等で確認																																																																
15	まとめ・補足	これまでの授業の復習	前回の復習																																																																
関連科目	日本国憲法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法学入門</td> <td>末川 博</td> <td>有斐閣双書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代法学入門</td> <td>伊藤 正己・加藤 一郎</td> <td>有斐閣双書</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法学入門	末川 博	有斐閣双書	2	現代法学入門	伊藤 正己・加藤 一郎	有斐閣双書	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	法学入門	末川 博	有斐閣双書																																																																
2	現代法学入門	伊藤 正己・加藤 一郎	有斐閣双書																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	成績は、毎回の授業アンケート（詳しくは第1回目の授業で提示する）の提出状況、不定期に課すレポートの成績および定期試験で、総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	学生のみなさんの関心事項・事件に配慮した、生きた法・法律の授業にしたいと考えています。法・法律は、私生活においても、今後の社会人生活においても、常に関わってくる問題です。この授業を通じて、そのことを実感するとともに、社会問題を問いなおす視点を身につけてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	経済学	科目名(英文)	Economics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	紀国 正典
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<p>経済学は人間の生活全般に関係する学問です。このためその取り扱う範囲や課題は広大です。概論として表面をなぞって説明したとしても、とても2単位には収まりません。</p> <p>それゆえ本講義では、「リスク管理・制御」、「生活者」、「現代性」という三つのキーワードで、講義テーマを絞り込みます。</p> <p>一つめの「リスク管理・制御」とは、人間の生存や幸福を妨げるいりんなリスク要因を学び、それを上手に管理・制御して、人間の持続的的幸福を実現することです。このための経済のあり方を、生活者の立場から、わかりやすく学び、考えます。さらに詐欺にあたり、損失をかかえたり、借金漬けになったりしないための生活知識を、わかりやすく学び、考えます。学生さんも、社会に出てから生涯かわかる生活問題ですので、興味・関心をもって参加していただけたらと思います。</p> <p>二つめの「生活者」とは、実際にこの社会で生活しているみなさん自身の立場から、社会や経済のあり方をみて、学び、考えることです。生活者の視点からみると、日本経済と世界経済の全体と問題点をとてもよく理解できます。また金融は誰でもがかわかる生活取引ですので、その点、金融・国際金融から世の中をみると、いりんな謎がわかるのです。</p> <p>三つめの「現代性」とは、現実にはみなさんの目の前で起こっている経済現象を材料にして、講義をすすめることです。できるだけ最新のニュースや新聞記事を資料として配布し、テーマに関係したDVDを上映いたします。みなさんの身の回りで実際に起こっていることですので、興味・関心をもって、聞いていただけたらと思います。</p>			
到達目標	<p>講義の三つのキーワードの順序でいうと、到達目標は次の三つになります。</p> <p>第1に、人間の持続的的幸福を実現するための経済のあり方についての知識を学び、詐欺にあたり、損失をかかえたり、借金漬けになったりしないための生活知識を身につけることです。</p> <p>第2に、生活者の視点から、日本経済と世界経済の出来事をよく理解できるようになることです。</p> <p>第3に、自分の身の回りで実際に起こっている日本経済と世界経済について、興味・関心をもてるようにすることです。</p>			
授業方法と留意点	<p>まじめに努力すれば、その努力度を評価しますので、誰でも良い成績がとれる授業です。ただしマナー・モラルを守らない不真面目な学生さんは、単位を取れません。</p> <p>学習方法は、毎回、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。</p> <p>次の三つの講義方針で臨みます。</p> <p>(1) 努力がむくわれる講義 真面目に努力したことが成績に反映するよう工夫しております。</p> <p>(2) 参加型講義 学生さんが、毎回の講義について、意見カードで自分の感想や考えを述べてもらい、授業への努力集中度を成績に反映します。</p> <p>(3) モラル・マナーが守られる講義 私語でうるさい学生さん、およびスマホをいじっている学生さんは退出させます。遅刻の多い学生さんはマイナス評価をします。</p> <p>なお、感想・意見カードに書いて頂いた講義内容に関する疑問・質問の内、重要なものについては、次の講義の最初に回答いたします。また授業時間中に回答できなかった疑問・質問と、それ以外の要望や相談事項については、次のメールアドレスに、携帯・スマホ・パソコンから送信してもらえば、その返信で回答いたします。件名に必ず、「摂南大学：学部・氏名」と入れてください。紀国メールアドレス (kinokuni@pure.biglobe.ne.jp)</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>生活の経済学という内容で講義しますので、教養の経済学としての科目学習効果は十分に得られると思います。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	経済学の概要とこの講義での授業方法および成績評価方法について知ります。 教材DVDで、スマホ・インターネットの功罪と上手な付き合い方について考えます(情報の経済学)	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	2	人間の持続的的幸福を実現する経済およびリスクとリスク管理制御方法について考えます。 教材DVDで、地球温暖化問題について考えます(環境経済学)	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	3	自然リスクの管理・制御方法について考えます。 教材DVDで、大震災の予測と防災について考えます(防災経済学)。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
	4	リスク管理・制御の大失敗例として福島原発事故を取り上げ、事故の発生原因とリスク管理・制御方法について考えます(原子力の経済学)。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所の指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。

	教材DVDで、原発事故予防対策について考えます。		
5	<p>原発リスク、核リスクについて考えます。(エネルギー経済学)</p> <p>教材DVDで、ヒロシマ、チェルノブイリ、フクシマと続いた大惨事を振り返り、人類が核とどのように対処すべきなのかについて、考えます。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
6	<p>リスク管理・制御方法に、どのような方法があるかについて考えます。</p> <p>教材DVDで、自然エネルギーについて考えます(リスク管理経済学)。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
7	<p>公共財である金融の制御方法について考えます。</p> <p>教科書の概要を説明して、誰もが持続的的幸福を得られる経済と金融のあり方について考えます(公共性の経済学)。</p> <p>期末試験の問題予告をし、その学習方法について説明します。試験は、教科書を学習して、自分で選択した章について、自分の意見を述べる方式で行います。</p> <p>教材DVDで、地球の危機を救うお金の使い方について考えます(社会的責任金融論)。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
8	<p>買う取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます(消費者経済論)。</p> <p>教材DVDで、悪質勧誘に対処する方法について考えます。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
9	<p>売る取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます(労働経済論)。</p> <p>リスクとは、若者を使い捨てにするブラック企業やブラックバイトのことです。リスク管理とは、ブラック企業の見分け方とブラック企業・ブラックバイトへの対処の仕方のことです。</p> <p>教材DVDで、ブラック企業の実態と対処方法について学びます。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
10	<p>借りる取引にひそむリスクとリスク管理方法を考えます(福祉経済論)。</p> <p>教材DVDで、貧困と多重債務問題への対策として、家計を見直し生活再建をめざす方法について考えます。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
11	<p>リスク管理・制御の大失敗例として世界金融危機と取り上げ、その発生原因と制御方法について考えます(国際金融論)。</p> <p>教材DVDで、世界金融危機の引き金になったサブプライム・ローンの実態について知ります。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
12	<p>金融商品のリスクとリターン法の則および預貯金について学び、貯める取引のリスクとリスク管理方法について考えます(金融消費者論)。</p> <p>教材DVDで、わかりやすい貯める方法について学びます。</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。
13	<p>投資詐欺・金融詐欺にあわないためのリスクとリスク管理方法について考えます</p>	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。

	(金融犯罪論)。 教材DVDで、投資詐欺・金融詐欺のいろんな手口について学びます。	序で行います。																	
14	外貨建金融商品およびFX取引について学び、貯める取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます(外国為替論)。 教材DVDで、外貨建金融商品についてわかりやすく学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。																
15	公社債(国債)と株式投資および投資信託について学び、貯める取引にひそむリスクとリスク管理方法について考えます(国債管理と財政学)。 教材DVDで、日本国債と財政危機について学びます。	学習方法は、講義での説明、教材DVDの上映、自分で考えた感想・意見カードの提出、教科書の関係箇所への指示という順序で行います。	必要があれば講義の際にその都度、指示いたします。																
関連科目	とくになし。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>金融の公共性と金融ユニバーサルデザイン</td> <td>紀国正典</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融の公共性と金融ユニバーサルデザイン	紀国正典	ナカニシヤ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	金融の公共性と金融ユニバーサルデザイン	紀国正典	ナカニシヤ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>毎回の授業で提出してもらった感想・意見カードを点数評価して15回分を合計し、これに期末試験の点数を加えて、成績を評価します。</p> <p>感想・意見カードの点数(70%)、期末試験の点数(30%)の割合で、合計いたします。</p> <p>コツコツと努力したことが、確実に成績に反映する公正な評価方法です。</p>																		
学生への メッセージ	<p>経済あるいは経済学についての予備知識はまったくありません。</p> <p>経済・金融あるいは経済学が苦手という学生さんこそ、大歓迎です。</p> <p>わかりやすく、おもしろく、楽しい授業を、いっしょに創り出していきたいと思います。</p>																		
担当者の 研究室等	1号館2階(非常勤講師室)																		
備考																			

科目名	生命科学概論	科目名(英文)	Introduction to Life Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹内 健治
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	生命科学の基礎を学習する。解剖・生理・生化学の基礎を包含しつつ、生命科学の先端情報や学習項目と医療・健康との関わりについても理解する。
到達目標	生命科学の基礎を習得する。
授業方法と留意点	教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。
科目学習の効果(資格)	

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	細胞	生命の基本単位である細胞の成り立ちについて。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	細胞と個体①	多細胞生物の構成。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	細胞と個体②	主要器官の構成と機能。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	生殖と発生	体細胞分裂と減数分裂。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	生物の構成成分①	生体の構成元素。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	生物の構成成分②	タンパク質、糖質、脂質、核酸。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	酵素と代謝①	酵素反応。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	酵素と代謝②	糖代謝、アミノ酸代謝、脂質代謝、核酸代謝。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	遺伝	メンデルの法則、遺伝の多様性、ヒトの遺伝学、遺伝子と形質。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	遺伝子の複製と発現①	DNAと遺伝子、DNAの複製。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	遺伝子の複製と発現②	転写、翻訳、遺伝子発現、遺伝子修復。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	恒常性①	内部環境と恒常性、内分泌系と恒常性。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	恒常性②	自律神経系と恒常性、内分泌系と自律神経系による恒常性調節、恒常性と規則性。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	生体防御系①	免疫システム。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	生体防御系②	自然免疫、獲得免疫。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目	生物・化学の基礎、人体の構造と機能Ⅰ、人体の構造と機能Ⅱ、代謝栄養学
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	illustrated 基礎生命科学第2版	竹島浩	京都廣川書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト(30%)、課題(20%)、定期試験(50%)により評価する。
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	質問は適宜受け付けます。
-----------	--------------

担当者の研究室等	1号館5階
備考	

科目名	生物・化学の基礎	科目名(英文)	Biology and Chemistry
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安原 智久、片岡 誠
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	生物、化学は、看護師を目指す学生が専門科目を学ぶ上で基礎となる学問である。したがって、十分な生物、化学の基礎知識を有することが必須であるが、高校での履修科目のみでは不十分な点も多い。更には、高校時代に生物、化学を選択しなかった、あるいは生物、化学のみを選択した学生もいる。従って、本科目では、以後の専門科目の履修に必要な生物、化学に関する基礎力を身につける。
到達目標	医療・健康に関連する領域はもちろん、自然界で生じる現象に対して基礎的な範囲で科学的に説明する。 将来、仕事を共にする医師・薬剤師等の医療スタッフとの共通知識基盤として、基本的な科学に基づいた思考を行う。
授業方法と留意点	講義（講義室）
科目学習の効果（資格）	生物、化学は、職業人の教養として必要であり、また、専門家を目指す上での基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	細胞の構造と生命誕生	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
3	原子と電子、電子の居場所	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
4	生命体を構成する物質	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
5	化学結合、溶質の化学	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
6	細胞の分裂・情報伝達・がん化	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
7	電磁波の科学、電磁波の使い方	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
8	生命体の受精と成長	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
9	仕事をする能力、熱のエネルギー、自由エネルギー、生体内のエネルギー	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
10	遺伝の仕組みと遺伝病	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
11	物質変化の速さ、溶液の化学	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
12	遺伝の仕組みと遺伝病、遺伝子の構造と機能	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
13	化学式、構造式の読み方	講義（講義室）（担当：安原）	教科書、配布資料の予習復習・配布演習問題の自習
14	遺伝子の構造と機能	講義（講義室）（担当：片岡）	教科書、参考書の予習復習
15	リメディアル演習・試験（生物・化学）	講義（講義室）（担当：安原）	リメディアル演習用冊子・プリント

関連科目 人体の構造と機能（1年次前後期）、代謝栄養学（1年次後期）、感染と防御（1年次後期）、薬理学総論（2年次前期）、薬物治療学（2年次後期）

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	やさしい物理化学—自然を楽しむための12講	小池 透	共立出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	はじめて学ぶ化学	『はじめて学ぶ化学』野島高彦	化学同人
3			

評価方法（基準） リメディアル演習・試験時に実施する演習と試験、および授業終了後の定期試験で総合的に評価する。100点満点中60点以上で合格。

学生へのメッセージ 看護師を目指す上で、生物、化学の基礎は必要である。特に高等学校時代にこれらの科目を履修していない、あるいは3年間履修していない学生は、この機会に、高等学校の教科書や参考書も含めて、しっかりと学習することをすすめる。また、履修した学生でも、受験科目として勉強していない場合、自分が思うよりも力がついていないことが多いので、予習、復習を欠かさずに行うことをすすめる。

担当者の研究室等 生物：片岡誠 1号館4階 薬剤学研究室  
化学：安原智久 1号館2階 薬学教育研究室・Academic Support Center(校方キャンパス)

備考 看護に関係する範囲を中心に、高等学校で学ぶ内容の復習から専門性の高い内容まで幅広い講義になります。限られた回数での早足の講義になります。また、大学の学習は、講義だけではなく、学生各自の自学自習をもって完結するものです。特に高等学校で生物、化学を十分に学習していない学生は、予習（教科書を読むだけでも構いません）、復習をしっかりと行うこと。高等学校の理科（生物・化学）の内容に自信がない者は、高校で用いた教科書、参考書、資料集等を残しておくこと。  
また、別途、生物・化学を未履修および苦手の学生を対象にしたリメディアル演習プログラムが用意されるので、そちらにも積極的に参加して基礎知識を補うこと。

科目名	生命倫理	科目名(英文)	Bioethics
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大橋 範子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	医療・ケアの専門職としてその社会的な責務を果たすためには、ケアの実践において人々の人権を尊重することが求められる。また科学技術の急速な進歩に伴う、医療現場における多くの倫理的な課題についての理解が必要である。本科目では、現代の医療が直面する倫理的諸問題の歴史的・社会的背景を、具体的事例を交えながら考察し、生命倫理と患者主体の医療の中で看護職の果たす役割について学習する。
到達目標	現代の医療は、生殖補助医療、出生前診断、安楽死・尊厳死、臓器移植・脳死、ターミナルケア等多くの倫理的問題を抱えている。このような倫理的問題の本質とさまざまな側面を、具体的事例を通して学ぶことで、自ら問題を抽出し、より良いケアを考える力を育む。
授業方法と留意点	『事例でまなぶ ケアの倫理』(G supple 編集委員会編、メディカ出版)を教科書とし、レジュメを配布する。講義中心。
科目学習の効果(資格)	看護職に就くものとして備えるべき高い倫理観の醸成に資し、看護の専門科目を学ぶ上での基礎となる。

教養科目

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	医療倫理・生命倫理の基本原則と課題	講義:医療・生命科学研究が守るべき原則を理解し、患者主体の医療に必要なことを説明できる(生命倫理4原則、インフォームドコンセント等)。看護師の倫理規定を理解する。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。
2	生殖補助医療技術	講義:生殖補助医療技術について説明できる。女性の身体の道具化、生殖のビジネス化、子どもの出自を知る権利等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
3	出生前診断と選択的人工妊娠中絶	講義:出生前診断・着床前診断と、選択的人工妊娠中絶について説明できる。優生思想、優生保護法の倫理的問題、胎児条項、リプロダクティブ・ライツ、胚と胎児の道徳的地位等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
4	重症新生児治療の差し控え・中止	講義:新生児医療が直面する問題について説明できる。NICUにおける医療倫理、重症新生児の治療をめぐる諸ガイドライン等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
5	安楽死・尊厳死	講義:安楽死と尊厳死の違いについて説明できる。海外での安楽死・尊厳死をめぐる主要な出来事と関連法、日本における経緯と現状を理解する。患者と家族に対して医療者ができることを考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
6	脳死と臓器移植	講義:生体臓器移植・脳死臓器移植およびそれらが抱える問題について説明できる。脳死は人の死か、脳死患者と移植待機患者そしてそれぞれの家族の苦悩について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
7	子どもにおけるインフォームドコンセント	講義:子どもに医療におけるインフォームドコンセント(アセント)と親権、児童虐待の問題について説明できる。病気説明・告知や治療に関する自己決定の在り方、医療現場における児童虐待の発見と課題について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
8	患者のQOLとは何か	映像資料鑑賞:映像資料を通して、患者のQOLとは何か、自分が当事者であればどう考え行動するか、専門職医療者としては何ができるかを考える。	講義直後にレポート提出。	
9	病気と差別	講義:HIV感染症と、その感染者やAIDS発症者をめぐる問題について説明できる。薬害HIV事件、強制HIV検査の是非、守秘義務と警告義務について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
10	難病を生きるということ	講義:難病と難病政策について説明できる。難病を抱えながら生きる人々に対し医療者ができること、患者とその家族の苦悩や負担について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
11	自己決定と遺伝カウンセリング	講義:遺伝子診断と遺伝カウンセリングについて説明できる。遺伝子診断をめぐる倫理的問題(知る権利と知らないでいる権利、血縁者への情報提供、DTC遺伝子検査、遺伝子差別等)について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
12	認知症を抱えて	講義:認知症とそのケアの在り方について説明できる。患者のQOL、身体拘束、高齢者虐待、認知症患者が関わる事件・事故(交通事故・行方不明など)等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
13	ターミナルケア	講義:終末期の医療・緩和ケア、家族や遺族のケアについて説明できる。死の受容と延命治療、鎮静(セデーション)、家族・遺族の悲嘆のケアの在り方等について考える。	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。また、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。	
14	医療が患者に害をもたらす	講義:医療事故とインシデントおよびそ	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。ま	

	とき	れらへの取り組みについて説明できる。実際に起こった医療事故例を振り返り、失敗に学ぶ医療安全体制の構築や患者の救済について考える。	た、講義後は学んだ内容を確認・整理しておくこと。																
15	医療倫理に関する事例の検討	講義：これまで学んできた、生命倫理・医療倫理における諸問題を、映像資料鑑賞を通して確認し、これからの医療と医療者に課せられた問題とあるべき姿について考える。	講義直後にレポート提出。																
関連科目	看護倫理をはじめとした看護専門科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例でまなぶ ケアの倫理</td> <td>G supple 編集委員会編</td> <td>メディカ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	事例でまなぶ ケアの倫理	G supple 編集委員会編	メディカ出版																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中のレポート (20%)、定期試験 (80%) により評価する。100 点満点の 60 点以上で合格とする。																		
学生への メッセージ	医療・ケアの現場で起きている、あるいはこれから起きる可能性がある諸問題について学びます。病気や障害を抱える人に接するうえで大事にしなければならない、専門職としての考え方・視点とともに、様々な立場の当事者の視点や社会の関わりについても理解していく一助となればと思います。																		
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 非常勤講師室																		
備考																			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。		
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	PC、インターネットの基礎 (1)	しくみ、機能、著作権、基本操作 (1) 情報のセキュリティとモラル (1) PC を使い慣れること
	2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2) PC を使い慣れること
	3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3) PC を使い慣れること
	4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4) PC を使い慣れること
	5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5) PC を使い慣れること
	6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6) PC を使い慣れること
	7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーション資料の作成 (図表) 情報のセキュリティとモラル (7) PC を使い慣れること
	8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル (8) PC を使い慣れること
	9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9) PC を使い慣れること
	10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10) PC を使い慣れること
	11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11) PC を使い慣れること
	12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12) PC を使い慣れること
	13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13) PC を使い慣れること
	14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル (14) PC を使い慣れること
	15	まとめ	まとめの演習 PC を使い慣れること
関連科目	なし		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版 実教出版
	2	情報モラル&情報セキュリティ	FOM 出版
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。		
学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。		
担当者の研究室等	7号館 3階 24		
備考			

教養科目

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	今日、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本科目では、パソコン初心者を想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に行い、グループを作って互いにサポートし合いながら進める。情報セキュリティやモラルについて事例を通して学ぶ。
到達目標	コンピューターを使って、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようになる。 情報セキュリティやモラルについて理解し、実行できる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせ、理解とスキルの習得を高める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	PC、インターネットの基礎 (2)	インターネット、電子メール、基本操作 (2) 情報のセキュリティとモラル (2)	PC を使い慣れること
3	ワードの使い方 (1)	Windows の基礎、文書の作成 (1) 情報のセキュリティとモラル (3)	PC を使い慣れること
4	ワードの使い方 (2)	文書の作成 (2) 情報のセキュリティとモラル (4)	PC を使い慣れること
5	ワードの使い方 (3)	図表・グラフの作成、文書の作成 (3) 情報のセキュリティとモラル (5)	PC を使い慣れること
6	パワーポイントの使い方 (1)	プレゼンテーション資料の作成 (文章) 情報のセキュリティとモラル (6)	PC を使い慣れること
7	パワーポイントの使い方 (2)	プレゼンテーション資料の作成 (図表) 情報のセキュリティとモラル (7)	PC を使い慣れること
8	パワーポイントの使い方 (3)	プレゼンテーションの構成と方法 情報のセキュリティとモラル (8)	PC を使い慣れること
9	エクセルの使い方 (1)	データの入力・計算 情報のセキュリティとモラル (9)	PC を使い慣れること
10	エクセルの使い方 (2)	表の作成 情報のセキュリティとモラル (10)	PC を使い慣れること
11	エクセルの使い方 (3)	図の作成 情報のセキュリティとモラル (11)	PC を使い慣れること
12	エクセルの使い方 (4)	グラフの作成 情報のセキュリティとモラル (12)	PC を使い慣れること
13	エクセルの使い方 (5)	エクセル関数 情報のセキュリティとモラル (13)	PC を使い慣れること
14	エクセルの使い方 (6)	データベースの利用、ワード文書への貼り付け 情報のセキュリティとモラル (14)	PC を使い慣れること
15	まとめ	まとめの演習	PC を使い慣れること

関連科目 なし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2013	実教出版	実教出版
2	情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。
学生へのメッセージ	授業に出席してコンピューターに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にパソコンを使うこと。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 24
備考	

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では統計理論の基本を学び、また実際にエクセルを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、エクセルを使って正しく統計解析を行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせて、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>統計とは</td> <td>統計の役割と種類、尺度</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計の基本(1)</td> <td>度数分布、ヒストグラム</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計の基本(2)</td> <td>代表値(平均値、中央値、最頻値など)</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>統計の基本(3)</td> <td>代表値と散布度(分散、標準偏差など)</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相関と回帰</td> <td>相関係数と回帰直線</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>確率分布(1)</td> <td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>確率分布(2)</td> <td>二項分布、<math>\chi^2</math>乗分布</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>確率分布(3)</td> <td>F分布、t分布</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>母集団と標本(1)</td> <td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>母集団と標本(2)</td> <td>中心極限定理</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>母集団と標本(3)</td> <td>母分散と標本分散</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>推定(1)</td> <td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>推定(2)</td> <td>母集団の分散・比率の推定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>検定(1)</td> <td>Z検定、F検定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>検定(2)</td> <td><math>\chi^2</math>乗検定、t検定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	エクセルを使い慣れること	2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	エクセルを使い慣れること	3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	エクセルを使い慣れること	4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	エクセルを使い慣れること	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	エクセルを使い慣れること	6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	エクセルを使い慣れること	7	確率分布(2)	二項分布、 $\chi^2$ 乗分布	エクセルを使い慣れること	8	確率分布(3)	F分布、t分布	エクセルを使い慣れること	9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること	10	母集団と標本(2)	中心極限定理	エクセルを使い慣れること	11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること	12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	エクセルを使い慣れること	13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定	エクセルを使い慣れること	14	検定(1)	Z検定、F検定	エクセルを使い慣れること	15	検定(2)	$\chi^2$ 乗検定、t検定	エクセルを使い慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	エクセルを使い慣れること																																																																
2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	エクセルを使い慣れること																																																																
3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	エクセルを使い慣れること																																																																
4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	エクセルを使い慣れること																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	エクセルを使い慣れること																																																																
6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	エクセルを使い慣れること																																																																
7	確率分布(2)	二項分布、 $\chi^2$ 乗分布	エクセルを使い慣れること																																																																
8	確率分布(3)	F分布、t分布	エクセルを使い慣れること																																																																
9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること																																																																
10	母集団と標本(2)	中心極限定理	エクセルを使い慣れること																																																																
11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること																																																																
12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	エクセルを使い慣れること																																																																
13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定	エクセルを使い慣れること																																																																
14	検定(1)	Z検定、F検定	エクセルを使い慣れること																																																																
15	検定(2)	$\chi^2$ 乗検定、t検定	エクセルを使い慣れること																																																																
関連科目	疫学・保健統計																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仕事に役立つExcel 統計解析 第4版</td> <td>日花弘子</td> <td>SBクリエイティブ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために</td> <td>片平潤彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仕事に役立つExcel 統計解析 第4版	日花弘子	SBクリエイティブ	2	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平潤彦	桐書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	仕事に役立つExcel 統計解析 第4版	日花弘子	SBクリエイティブ																																																																
2	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平潤彦	桐書房																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	エクセルに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にエクセルを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

教養科目

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名(英文)	Information Literacy II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	この授業では統計理論の基本を学び、また実際にエクセルを使ったデータの基本的な統計解析が行えるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	統計の基本を理解し、エクセルを使って正しく統計解析を行えるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせて、理解を深める。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>統計とは</td> <td>統計の役割と種類、尺度</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計の基本(1)</td> <td>度数分布、ヒストグラム</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計の基本(2)</td> <td>代表値(平均値、中央値、最頻値など)</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>統計の基本(3)</td> <td>代表値と散布度(分散、標準偏差など)</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>相関と回帰</td> <td>相関係数と回帰直線</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>確率分布(1)</td> <td>正規分布、標準正規分布、確率、累積確率</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>確率分布(2)</td> <td>二項分布、<math>\chi^2</math>乗分布</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>確率分布(3)</td> <td>F分布、t分布</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>母集団と標本(1)</td> <td>標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>母集団と標本(2)</td> <td>中心極限定理</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>母集団と標本(3)</td> <td>母分散と標本分散</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>推定(1)</td> <td>母集団の平均値の推定、95%信頼区間</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>推定(2)</td> <td>母集団の分散・比率の推定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>検定(1)</td> <td>Z検定、F検定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>検定(2)</td> <td><math>\chi^2</math>乗検定、t検定</td> <td>エクセルを使い慣れること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	エクセルを使い慣れること	2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	エクセルを使い慣れること	3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	エクセルを使い慣れること	4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	エクセルを使い慣れること	5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	エクセルを使い慣れること	6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	エクセルを使い慣れること	7	確率分布(2)	二項分布、 $\chi^2$ 乗分布	エクセルを使い慣れること	8	確率分布(3)	F分布、t分布	エクセルを使い慣れること	9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること	10	母集団と標本(2)	中心極限定理	エクセルを使い慣れること	11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること	12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	エクセルを使い慣れること	13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定	エクセルを使い慣れること	14	検定(1)	Z検定、F検定	エクセルを使い慣れること	15	検定(2)	$\chi^2$ 乗検定、t検定	エクセルを使い慣れること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	統計とは	統計の役割と種類、尺度	エクセルを使い慣れること																																																																
2	統計の基本(1)	度数分布、ヒストグラム	エクセルを使い慣れること																																																																
3	統計の基本(2)	代表値(平均値、中央値、最頻値など)	エクセルを使い慣れること																																																																
4	統計の基本(3)	代表値と散布度(分散、標準偏差など)	エクセルを使い慣れること																																																																
5	相関と回帰	相関係数と回帰直線	エクセルを使い慣れること																																																																
6	確率分布(1)	正規分布、標準正規分布、確率、累積確率	エクセルを使い慣れること																																																																
7	確率分布(2)	二項分布、 $\chi^2$ 乗分布	エクセルを使い慣れること																																																																
8	確率分布(3)	F分布、t分布	エクセルを使い慣れること																																																																
9	母集団と標本(1)	標本抽出、母平均と標本平均、母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること																																																																
10	母集団と標本(2)	中心極限定理	エクセルを使い慣れること																																																																
11	母集団と標本(3)	母分散と標本分散	エクセルを使い慣れること																																																																
12	推定(1)	母集団の平均値の推定、95%信頼区間	エクセルを使い慣れること																																																																
13	推定(2)	母集団の分散・比率の推定	エクセルを使い慣れること																																																																
14	検定(1)	Z検定、F検定	エクセルを使い慣れること																																																																
15	検定(2)	$\chi^2$ 乗検定、t検定	エクセルを使い慣れること																																																																
関連科目	疫学・保健統計																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>仕事に役立つExcel 統計解析 第4版</td> <td>日花弘子</td> <td>SBクリエイティブ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために</td> <td>片平潤彦</td> <td>桐書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	仕事に役立つExcel 統計解析 第4版	日花弘子	SBクリエイティブ	2	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平潤彦	桐書房	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	仕事に役立つExcel 統計解析 第4版	日花弘子	SBクリエイティブ																																																																
2	やさしい統計学—保健・医業・看護・福祉関係者のために	片平潤彦	桐書房																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり(「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	エクセルに慣れるようにすること。授業中に疑問点を解決すること。個人的にしっかり学ぶことはもとより、グループメンバー間でサポートし、グループ全員で知識を共有しながら理解を深めていくこと。授業時間以外にも積極的にエクセルを使うこと。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階24																																																																		
備考	なし																																																																		

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西鶴 智香
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>●概要:「キャリア=人生そのもの」という概念のもと、看護師として何を目標にしていくか、いかにキャリアを積んでいくか、はもろんのこと、キャリア=「仕事」「家族」「学習」「趣味」「余暇」を含む自分の人生そのものを、どうデザインしていくか、をじっくり考えていく時間です。</li> <li>●看護師という職業が今、職務・職域拡大等どのような変革をしようとしているか学習し、キャリアデザインの参考にします。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>●到達目標:2年次の自分なりに、看護師になって自分は何がやりたいのか、自分がやりがいを持てるのは何か、自分をどのように変革させればいいのか、等、ぼんやりでも描けるようになることを目標とします。</li> <li>●ディスカッションを通じて、「多様な価値観を認められる自分になること」「周囲からの評価を気にせず、自分の意見を言えるようになること」も目標としています。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎回、講義のほか、少人数でのディスカッション、全体でのディスカッションを実施。テーマによって、配布したワークシートを記入しながらのディスカッションもあります。</li> <li>●毎回終了時に、A4サイズ・プリント1枚のレポート提出あります。</li> <li>●周りを気にせず、自分の意見を述べることを求めます。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●看護師としての生涯キャリアを学生時代にデザインできていることで、迷うことなく進路選択ができ、またしっかりと動機づけされた職業人生をスタートできます。</li> <li>●周囲に惑わされず、自律し、自分の力で人生を切り拓いていくことができる力を養います。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義概要、講師自身のキャリア形成、社会の現状とキャリアデザインの重要性</li> <li>●「上手に議論する方法」について説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「キャリア」とは、「キャリアデザイン」とは何か。「働く」ということはどういうことなのか、社会はどのようなふう動いているのか、しっかりと理解しましょう。</li> <li>●多様な価値観の受容、他人の評価を気にしない自分の確立、が早期に重要であることを理解しましょう。</li> </ul>
2	「看護師」という職業を考える!	自分が将来なるであろう「看護師」という職業について現状を分析し、外国の看護師との比較もしながら課題は何かを探る。ナースプラクティショナー等職域拡大に向けての動きは、どんな内容なのか、それが実現するとどうなるだろうかを皆でディスカッション!	日本における「職業・看護師」の現在、今後の課題、看護師の職域拡大、等、「職業・看護師」について調べてみましょう。
3	日本の医療業界の現状、今後のゆくえ	日本の世界に誇る国民皆保険制度、医療、介護の将来像、医療業界の問題点についてディスカッション。	新聞記事等にある内容から、現在の医療業界の現状を読んでおいて下さい。自分が総理大臣だったら、日本の医療制度をどのように変化させたいか、意見を考えておいて下さい。
4	自分自身を知る①	自己分析、自己イメージを高める、自分の価値観や行動パターンについて、自分のどんな考え方が根拠になっているのか整理する。	率直に意見を言い合う面白さ、を実感しましょう。
5	自分自身を知る②	自分の成功パターン、成功体験の整理、自信のつけ方、についてグループディスカッション	自分が気づいていなかった自分、をしっかりと見つめてみましょう。
6	リーダーシップを考える	社会で求められるリーダーになるには何を身につければいいのか。	今まで自分が見てきたリーダーはどんなところが優れていたのか、まとめてみましょう。リーダーのタイプを観察し、まとめてみましょう。
7	ゲストスピーカー	現役看護師を講師と全員で、インタビュー。どのようにキャリアデザインしてきたのか、意志決定のポイントをお聞きします。	「プロ職業人」は、今までどう意志決定してきたのか、皆でインタビューしてみましょう。看護師として、女性として、一人の人間として、どうキャリアを考えているのか、どう迷っているのか、悩んでいるのか、自分と比較しながらインタビューして下さい。
8	自分の生涯キャリアを考える	自分のキャリアデザインシート作成	友人、家族にも意見をもらい、参考にしながら作成してみましょう。
9	事前オリエンテーション	講義形式	テーマにそって、考えをまとめてみましょう
10	看護学部と薬学部との共同ディスカッション	ディスカッション形式	事前に与えられたテーマについて、意見を考えておいて下さい
11	ディスカッション内容の発表①	ディスカッション形式	論理的に話せるよう、自分の意見をまとめておくようにして下さい。
12	ディスカッション内容の発表②	ディスカッション形式	論理的に話せるよう、自分の意見をまとめておくようにして下さい。
13	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」①	発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
14	「自分はこんな人、こんな看護師になりたい」②	発表	誰からの評価も気にせず、自分の意見を発表しましょう。今の自分の意見、で構わないのです。
15	まとめ～「自分のキャリア」は何を目指しているのか	「自分のキャリアは自己責任」を理解し、セルフカウンセリング力をつける重要性について	常に、「なぜそうなのか?」を考えるクセをつけましょう。

関連科目 特記なし

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	薬学生のためのキャリアデザインブック（この本の半分以上をテキストとして使用します）	西鶴智香	薬事日報社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義を通じて作成するワークシートを完成させ、講義終了時のレポートと合わせ提出することを必須要件とする。</li> <li>・出席回数・講義中に使用するワークシート記入・講義終了後レポート内容 60% ディスカッションでの発言・受講態度40%</li> </ul> ※評価ポイント <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートには、正しい日本語で、自分の考えを論理的に記入する。</li> <li>・ディスカッションで自分の考えを積極的に発言し、また他人の意見に耳を傾け受容し、コミュニケーションをとっているか。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<p>自分の人生プランを一から描けるのは、若い時にだけできること。 この講義を通して、自分自身のこと、人生で絶対やりたいこと、等を整理し、これからの人生を、自立できて、迷うことなく明るく進んでほしいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻厳禁！前半の講義進行に影響が出るので慎むこと。</li> <li>・私語厳禁！誰かが発言している際に私語を慎むのは、大人の常識！ 意見を言いたい時には、手を挙げて発言すること。</li> <li>・自立した大人を目指すため、様々なアドバイスをします。耳が痛いことも言うかもしれませんが、皆さんが社会人になって「残念な人だ」と言われないために、と思っはつきりと注意します。ご理解下さい。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	非常勤講師			
備考	メールアドレス chika@career-position.com			

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	沢田 美保子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	医療、健康に関係する基本的な語句や表現を習得。 TOEIC Bridge 受験に向けての学習を通して英語 4 技能基本習得をめざす
到達目標	TOEIC Bridge (180 点満点) の 140 点以上を目指す
授業方法と留意点	健康、医療をテーマにした短いエッセイを読んだり、会話を聞く。 TOEIC Bridge に向けての Practice を重点的におこなう

科目学習の 効果 (資格)	TOEIC Bridge
------------------	--------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1: Eating out be 動詞	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	TOEIC Word Book level1 の単語テストを毎回実施
	2	Unit 2: Travel 一般動詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: Amusement 品詞 Reading: Colds, Flu and Folk Advice (handout)	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: Meetings 自動詞、他動詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: Personnel 受動態	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Unit 6: Shopping 代名詞 Useful Expression 1	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	Unit 7: Advertisement 教詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	8	Unit8: Daily Life 数量詞	復習テスト 1	授業で提示します。
	9	Unit9: Office Work 不定詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 10: Business 動名詞 Reading : Insomnia (handout)	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 11: Traffic 助動詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 12: Finance and Banking 前置詞	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 13: Media 接続詞 Useful Expression 2	TOEIC Bidge 模擬テスト	授業で提示します。
	14	Unit 14: Health and Welfare 比較	TOIEC Bridge 模擬テスト	授業で提示します。
15	全体のまとめ	復習テスト 2	授業で提示します。	

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Crossing the TOEIC Bridge ブリッジから始める TOEIC テスト	Shiho Hayashi/ Harumi Nishida/ Brian Cvert	Asahi Press (朝日出版社)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学 校語彙で学ぶ TOEIC テスト		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(授業参加度、小テスト、課題等)	30%	
	復習テスト 2回	40%	
	単語小テスト(level 1)	10%	
	TOEIC Bridge IP Test	20%	

教養科目

	により総合的に評価 100点満点中60点で合格
学生への メッセージ	辞書必携 語学は「継続は力なり」です。休まずに出席してください
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	米田 繭子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目では、TOEIC Bridge テストを正しく把握し、その出題形式や問題自体に慣れ、問題を解いていく過程で、リスニングおよびリーディングを中心に看護の現場で使える総合的な英語基礎力を養う。
到達目標	TOEIC Bridge で140点以上を狙える力を身につける。
授業方法と留意点	テキストに沿って、TOEIC Bridge のリスニング、リーディング対策を行う。練習問題をたくさんこなしてTOEIC Bridge の点数アップを狙う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge 等

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	テキストの予習の仕方、授業の進め方、評価の方法などについて説明する。	
	2	Unit 1: Restaurant	単語テスト (1) pp. 2-7 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	3	Unit 1 + Unit 2: Hotel	単語テスト (2) pp. 8-13 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	4	Unit 2 + 小テスト1	単語テスト (3) pp. 14-19 小テスト1 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	5	TOEIC Bridge Half Test (1)	単語テスト (4) pp. 20-25	授業で提示します。
	6	Unit 3: Shopping	単語テスト (5) pp. 26-31 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	7	Unit 3 + Unit 4: Financing	単語テスト (6) pp. 32-37 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	8	Unit 4 + 小テスト2	単語テスト (7) pp. 38-43 小テスト2 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	9	TOEIC Bridge Half Test (2)	単語テスト (8) pp. 44-49	授業で提示します。
	10	Unit 5: Hospital	単語テスト (9) pp. 50-55 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	11	Unit 5 + Unit 6: Airport	単語テスト (10) pp. 56-61 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	12	Unit 6 + 小テスト3	単語テスト (11) pp. 62-67 小テスト3 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	13	Unit 7: Transportation	単語テスト (12) pp. 68-73 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
	14	Unit 7 + Unit 8: Sightseeing + 小テスト4	単語テスト (13) pp. 74-79 小テスト4 文法・読解・リスニングを中心に授業を行う。	授業で提示します。
15	まとめ	まとめのテスト		

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Overall Skills for the TOEIC Test	石井隆之 他著	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEICR Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業参加度・小テスト・課題等) (30%)、まとめのテスト (30%)、単語小テスト (Level 1) (10%)、TOEIC Bridge Half Test 2回 (10%)、TOEIC Bridge?IP テスト (20%) により総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	辞書必携。
----	-------

	出席日数は平常点としない。 予定する授業内容は上記の授業計画の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度や内容など調整することもある。
--	---

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護現場における基本的英会話をDVDで見て表現を聞き取り、その後重要語句を確認したり全体の内容把握を行う。			
到達目標	医療に携わる専門家として必要とされる英語力を身につける。			
授業方法と留意点	DVDを利用したリスニング、ディクテーションを中心とする。			
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL のスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	患者と挨拶を交わす 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	
	2	患者と挨拶を交わす 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 001-010
	3	入院患者への説明 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 011-020
	4	入院患者への説明 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 0210-030
	5	エックス線検査 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 031-040
	6	エックス線検査 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 041-050
	7	患者の話を聞く 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 051-060
	8	患者の話を聞く 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 061-070
	9	患者から許可を得る 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 071-080
	10	患者から許可を得る 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 081-090
	11	注射 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 091-100
	12	注射 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 101-110
	13	バイタルサイン 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 111-120
	14	バイタルサイン 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 121-130
	15	まとめと復習	TOEIC 単語復習テスト	TOEIC 単語復習テスト準備
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	単語テスト10%、TOEIC Bridge Test 20%、受講態度20%、復習テスト50%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	非常勤講師室			

教養科目

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	沢田 美保子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	英文症例を毎回読むことで、医療関連の英語に慣れることを目的とする 現場で実際に使われている dialogue を用いて英語会話の練習を繰り返す
到達目標	英語Ⅰでの4技能の英語基礎能力を土台に医療関係の語彙、表現について学習し、英語コミュニケーション能力修得を目指す
授業方法と留意点	英文症例を詳しく学習することで専門用語を習得する 看護師と患者の会話を聞いて内容を把握し、重要な語句や表現をチェックする。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション(授業の進め方、評価について) Unit 1: First Visit to a Hospital	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	英語Ⅰに続き(level2)の単語テスト勉強
	2	Unit 2: How to Fill in a Registration Form	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	3	Unit 3: Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	4	Unit 4: Mr. Brown's Symptoms	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	5	Unit 5: Medical Check Up 1	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	6	Unit 6: Medical Check up 2	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	7	前半の復習	復習テスト1	授業で提示します。
	8	Unit 7: Mr. Brown's Diagnosis	読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	9	Unit 8: Mr. Anderson's Symptoms	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	10	Unit 9: Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	11	Unit 10: Explaining Blood Test Results	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	12	Unit 11: How to Take Medicine	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	13	Unit 12: Mrs. Johnson Feels Dizzy	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	14	Unit 13: An MRI Test	単語小テスト 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
	15	全体のまとめ	復習テスト2	授業で提示します。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Aid! English for Nursing	Akihiko Higuchi, John Tremarco	KINSEIDO (金星堂)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	単語小テスト 10% 平常点(授業参加度、小テスト、課題など) 40% 復習テスト2回 50%
----------	---

学生へのメッセージ	辞書必携
-----------	------

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	米田 繭子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目では、「英語Ⅰ」で培った能力を土台にして、医療で用いられる語彙や表現について学習し、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を高め、看護職者に必要とされる英語コミュニケーション能力を向上させることを目的とする。
到達目標	日常生活においてよく使われる医療、健康に関する基本的な語句や表現を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	しっかり予習をして授業に臨んでください。 辞書は各自必ず持参すること。

科目学習の効果(資格)	TOEIC等
-------------	--------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Hospital Departments [病院の科]	単語小テスト(1) pp. 90-95 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
3	Unit 2: Application Forms [問診票の記入]	単語小テスト(2) pp. 96-101 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
4	Unit 3: Parts of the Body [身体のパーツ]	単語小テスト(3) pp. 102-107 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
5	Unit 4: Illnesses [病気の種類]	単語小テスト(4) pp. 108-113 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
6	Unit 5: Hospital Routine [病院の日課]	単語小テスト(5) pp. 114-119 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
7	Unit 6: Hospital Objects [医療用品]	単語小テスト(6) pp. 120-123 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
8	Unit 7: Locations of Hospital Objects [医療用品の収納場所]	単語小テスト(7) pp. 124-127 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
9	Unit 8: Hospital Directions and Objects [病院内の案内]	単語小テスト(7) pp. 128-131 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
10	Unit 9: Directions (Outside the Hospital) [道案内]	単語小テスト(8) pp. 128-131 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
11	Unit 10: Chatting with a Patient [患者とおしゃべり]	単語小テスト(9) pp. 132-135 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
12	Unit 11: Taking a Medical History [アナムネの聴取]	単語小テスト(10) pp. 136-139 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
13	Unit 12: Hospital Procedures [病院での検査]	単語小テスト(11) pp. 140-143 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
14	全体のまとめ	単語小テスト(12) pp. 143-147 リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
15	全体のまとめ	まとめのテスト	授業で提示します。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Vital Signs 2 (Reading & Writing)	Vivian Morooka 他著	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等) (40%)、まとめのテスト1回 (50%)、TOEIC 単語小テスト (level 2) (10%)により総合的に評価する。100点満点中60点で合格。
----------	--

学生へのメッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。辞書は必携。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

教養科目

科目名	英語Ⅱ	科目名(英文)	English II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	看護現場における基本的英会話をDVDで見て表現を聞き取り、その後重要語句を確認したり全体の内容把握を行う。			
到達目標	医療に携わる専門家として必要とされる英語力を身につける。			
授業方法と留意点	DVDを利用したリスニング、ディクテーションを中心とする。			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL のスコアアップ			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	リハビリテーション 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	
	2	リハビリテーション 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 131-140
	3	手術 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 141-150
	4	手術 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 151-160
	5	体位変換 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 161-170
	6	体位変換 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 171-180
	7	医薬品 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 181-190
	8	医薬品 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 191-200
	9	退院 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 201-210
	10	退院 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 211-220
	11	事務管理 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 221-230
	12	事務管理 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 231-240
	13	患者にアドバイスする 1	DVDを利用したリスニング、ディクテーション	TOEIC 単語集 241-250
	14	患者にアドバイスする 2	語彙と文法確認	TOEIC 単語集 251-260
	15	まとめと復習	TOEIC 単語復習テスト	TOEIC 単語復習テスト準備
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Everyday English for Nursing on DVD	Yasuko Onjoji	SEIBIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji NISHIYA	SEIBIDO
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	単語テスト10%、TOEIC Bridge Test 20%、受講態度20%、復習テスト50%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	非常勤講師室			

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	沢田 美保子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	災害看護や医療ツーリズムの進展により、看護に携わる者にとって英語学習の必要性はますます高まっている。本科目では、医療関連の英語の新聞・雑誌記事から関心のある内容を選びより高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職に必要とされる英語コミュニケーション能力を身につける。
到達目標	医療、看護に関する専門用語の修得 TOEIC IP 470点以上 獲得を目指す
授業方法と留意点	1年に引き続き TOEIC に出題される単語を学び TOEIC IP を受験予定 さらに医療、そして看護という点から さまざまな場面の reading, listening を行う。積極的に参加することで評価を受けることができる。
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	TOEIC Vocabulary quiz 1 Unit 2: The Digestive System: How It Works	医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	授業で提示
3	TOEIC Vocabulary quiz 2 Unit 3: The Cardiovascular System: The Heart, Pump for Life-giving Blood	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。 本 Unit からの小テスト、そして ToEIC 単語の小テストも行う。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
4	TOEIC Vocabulary quiz 3 Unit 4: The Neurological System: Neuroscience	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	授業で提示
5	TOEIC Vocabulary quiz 4 Unit 5: The Urinary System: Kidney Transplantation	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
6	TOEIC Vocabulary quiz 5 Unit 6: The Reproductive System: Infertility Treatments	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
7	まとめテスト (Unit 1-6)	今までのテキストからの内容復習のテスト	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
8	TOEIC Vocabulary quiz 6 Unit 7: The Skeletal System: Bone Health	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	授業で提示
9	TOEIC Vocabulary quiz 7 Unit 8: The Immune System: Allergies	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
10	TOEIC Vocabulary quiz 8 Unit 9: The Endocrine System: Diabetes	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
11	TOEIC Vocabulary quiz 9 Unit 10: Preventing the Spread of Infectious Disease	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	授業で提示
12	TOEIC Vocabulary quiz 10 Unit 11: Cancer Detection	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
13	TOEIC Vocabulary quiz 11 Unit 14: Clinical Research	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回の授業と小テストに向けて予習すること。
14	TOEIC Vocabulary quiz 12 Unit 15: Health Care for the Aging: Geriatric Nursing	本 Unit を通して、医療・介護英単語を増やし、さらに医療について英語を通して進んだ理解を深める。	次回のまとめテストに向けて復習すること。
15	まとめテスト (Unit 7 以降について)	Unit 7以降について、テキストからの内容復習のテスト	特になし

関連科目	他の英語関係科目及び専門医療用語
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Understanding Health Care 医療の世界	Tsukimaro Nishimura / David L. Brooks	Asahi Press 朝日出版社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (1年次のテキスト継続使用)			
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点(受講態度、小テスト、提出物など) (30%) まとめテスト2回 (40%) TOEIC単語テスト(level 3) (10%) TOEIC IP (20%) これらを総合的に評価 100点満点中60点以上で合格
学生への メッセージ	指示に従って予習を行い、授業に真面目にかつ積極的に参加してください。 辞書必携
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	英語 I I I では TOEIC の単語は Level 3 を順次指定して小テストを行う。 辞書必携

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	米田 繭子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本科目では、「英語Ⅱ」での学習をもとに、より高度なリーディング・ライティング・リスニング・スピーキングの4技能を修得し、看護職者に必要とされる英語コミュニケーション能力を身につける。
到達目標	看護に関わる様々な話題を述べた英文を読み、理解する力を備える。
授業方法と留意点	しっかり予習をして授業に臨んでください。 辞書は各自必ず持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC等

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	テキストの予習の仕方、授業の進め方、評価の方法などについて説明する。	授業で提示します。
2	Unit 1: Risk for Injury: How to Maintain Safety [安全な生活環境]	単語小テスト(1) pp. 158-161 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
3	Unit 2: Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene [身体の清潔]	単語小テスト(2) pp. 162-165 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
4	Unit 3: Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress [呼吸困難の看護]	単語小テスト(3) pp. 166-169 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
5	Unit 4: Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance [体液バランスの管理]	単語小テスト(4) pp. 170-173 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
6	Unit 5: Insomnia: How to Promote Rest and Sleep [睡眠と心の健康]	単語小テスト(5) pp. 174-177 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
7	Unit 6: Chronic Pain: How to Minimize or Relieve Pain [リウマチ患者の介護]	単語小テスト(6) pp. 178-181 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
8	Unit 7: Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight [摂食障害と食事指導]	単語小テスト(7) pp. 182-185 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
9	Unit 8: Urinary Retention: How to Avoid Bladder Distention [膀胱カテーテル処置]	単語小テスト(8) pp. 186-189 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
10	Unit 9: Constipation: How to Promote Normal Bowel Function [排便とその援助]	単語小テスト(9) pp. 190-193 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
11	Unit 10: Impaired Physical Mobility: How to Help with Crutch Walking [リハビリテーションとケア]	単語小テスト(10) pp. 194-197 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
12	Unit 11: Impaired Skin Integrity: How to Manage burn Care [小児のやけど]	単語小テスト(11) pp. 198-201 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
13	Unit 12: Visual Alternations: How to Adjust to Visual Disorder [加齢に伴う健康問題]	単語小テスト(12) pp. 158-171 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
14	Unit 13: Surgical Client: How to cope with Anxiety [手術前・手術後の看護]	単語小テスト(12) pp. 172-185 読解・リスニング・ライティング・スピーキング	授業で提示します。
15	全体のまとめ	まとめのテスト	授業で提示します。

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Nursing Case Studies	杉田 由仁	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	平常点(授業参加度・小テスト・課題等)(30%)、まとめのテスト1回(40%)、単語小テスト(レベル3)(10%)、TOEIC IPテスト(20%)により総合的に評価する。
----------	--

学生への メッセージ	指示に従って、しっかりと予習をし、休まずに積極的な態度で臨んでください。辞書は必携。
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	英語Ⅲ	科目名(英文)	English III
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 理恵子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	<p>本授業では現代人の心身の健康に関係する内容を取り扱います。テキストの内容を把握し、小テストで読解確認をした後、最新の情報や発表論文の一部や研究結果などを利用しながら、さらに理解を深めていく予定です。テキストの内容は多岐にわたっているために、興味のある情報を取り上げ、理解し、さらにその情報を update していくことが求められます。さらに、1年生から行ってきた TOEIC の単語学習をさらに進めるといって形では TOEIC の内容もカバーしていきます。(単語テキストは Part 3 が相当します)</p> <p>小テスト、提出物については毎週あるので、必ずテキストの内容については予習するようにしましょう。(単語小テストについては、授業中にテスト範囲予定を配布します)</p>
到達目標	1年生で復習した英語全般を利用しながら、さらに専門分野での英語を理解し、さらに応用できるようになることを目指します。TOEIC で試される英語力も意識しながら、医療系の情報を英語で理解し、ある程度発信できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	<p>情報処理室を利用し、ワード等を利用するので、Keyboard には慣れておくこと。</p> <p>さらに、リスニングに際しても PC を利用する予定であるので、操作に慣れておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	TOEIC 等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 4~6	Unit 4~6 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 7~9 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
3	Unit 7~9	Unit 7~9 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 10~12 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
4	Unit 10~12	Unit 10~12 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
5	Review Quiz & Class Report (1)	Unit 1~12 について、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	Unit 13~15 の予習が必要になる。
6	Unit 13~15	Unit 13~15 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 16~18 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
7	Unit 16~18	Unit 16~18 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 19~21 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
8	Unit 19~21	Unit 19~21 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 22~24 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
9	Unit 22~24	Unit 22~24 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。
10	Review Quiz & Class Report (2)	Unit 13~24 について、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	Unit 25~27 の予習が必要になる。
11	Unit 25~27	Unit 25~27 までの内容を listening、そして Reading の両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの	Unit 28~30 の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。

			ちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。																	
	12	Unit 28~30	Unit 28~30までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 31~33の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。																
	13	Unit 31~33	Unit 31~33までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	Unit 34~36の予習が必要になる。本日の必要な部分ができている場合は、宿題となる。																
	14	Unit 34~36	Unit 34~36までの内容をlistening、そしてReadingの両方を使い把握する。その内容を利用し、そのうちの一つを選び、現在の研究について英語検索をし、自らの研究ノートに付加していく。	授業で提示します。																
	15	Review Quiz & Class Report (3)	テキスト全体から、内容のまとめと、自らの研究ノートの情報から、指示されたことについて、英文の授業内レポートを書く。	テキストすべての中からの復習をしておくこと																
関連科目	他の英語科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「Good Health」</td> <td>Yukio Seya 他</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「Good Health」	Yukio Seya 他	南雲堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「Good Health」	Yukio Seya 他	南雲堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	単語小テスト(10%) TOEIC IP テスト(20%) Review Quiz & Class Report (50%) 研究ノートと発表(20%)																			
学生への メッセージ	できるだけ、実践的、かつ学術的な英語を理解し、話せるようになっていただきたいと思いますので、英語でのプレゼンテーションなどの場合は、自分の力をしっかり出していただきたい。さらに、発音についても、日頃からNativeの発音を聞くようにしていただきたい。																			
担当者の 研究室等	1号館2階 非常勤講師室																			
備考																				

科目名	英語IV	科目名(英文)	English IV
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	辻 琢己, 小森 浩二
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	本授業では、医療、看護、科学に関する英文学術論文を読解できる能力を養う。また、より多くの情報を得るために、インターネット等を用いた学術論文の収集方法を学習し、学術論文の要点を把握する能力を修得することを目的とする。さらに、医療現場等で必要とされる実用的な英語力を身につけるために、科学英語の基本的知識と技能を修得し、生涯にわたって学習する習慣を身につける。
到達目標	1) 医療、看護、科学等に関する英語の代表的な用語を列挙し、その内容を説明できる。 2) 医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読んで、内容を説明できる。 3) 医療、看護、科学等に関連する英語の代表的な用語、英語表現を列記できる。 4) インターネット等を用いて学術論文の読解に必要な情報を収集できる。 5) 医療、看護、科学等に関する英文学術論文を読解し、その内容を説明できる。
授業方法と留意点	医療、看護、科学等に関して英語で書かれた文章を読解します。また、英文学術論文を読み、その内容に関する説明資料の作成・発表を行います。辞書を必ず持参して下さい。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(1)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	2	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(2)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	3	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(3)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	4	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(4)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	5	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(5)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	6	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(6)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	7	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(7)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	8	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(8)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	9	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(9)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	10	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(10)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	11	医療、看護、科学等に関する英語文章の読解(11)	医療、看護、科学等に関する英語文章を読み、内容を説明する。	復習： 授業で用いた英語文章の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	12	英文の学術論文の読み方(1)	学術論文の読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	13	英文の学術論文の読み方(2)	学術論文のデータの読み方について実際の論文を用いて説明する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 次回の授業範囲の単語、慣用語句等を調べる。
	14	英文の学術論文の要約作成	学術論文の要約を作成する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。
15	英文の学術論文の内容発表と全体のまとめ	学術論文の内容を発表する。	復習： 授業で用いた学術論文の単語等を復習する。 予習： 要約作成・発表に必要な情報を調査する。	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「プリント」を講義で配付します。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学術論文の発表に用いるプレゼン資料 (20%)、各授業中の発表と学術論文発表 (20%) および定期試験 (60%) で総合的に評価します。なお、出席、受講態度不良の者については 20 点を限度に減点することがあります。			
学生への メッセージ	積極的に授業に参加し、発表して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館3階 病態医科学研究室 (薬学部)			
備考	事前学習：次回の授業範囲の単語、慣用語句等に関する学習および要約作成・発表に必要な情報調査等 (1時間×15回) 事後学習：授業で用いた英語文章の単語等の復習 (0.5時間×15回)			

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的 中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。

到達目標 単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。

授業方法と留意点 授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。

科目学習の効果 (資格) 1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1), 複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
2	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
3	形容詞述語文, 副詞 1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
4	会話 1	第 1 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
5	是構文, 副詞 2, 構造助詞 1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
6	会話 2	第 2 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
7	動目構造, 動詞重畳, 文末助詞 2, 副詞 3, 二重目的語, 副詞 4	第 3 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
8	会話 3	第 3 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
9	数詞, 量詞 1, 数詞 2, 副詞 5, 所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
10	会話 4	第 4 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
11	数詞 3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
12	会話 5	第 5 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
13	方位詞, 不定代名詞, 量詞 2, 動詞「在」, 副詞 6, 指示代名詞 2	第 6 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
14	会話 6	第 6 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
15	第 1 課～第 6 課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目 中国語

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 (80%)、出席、授業態度 (20%) により総合評価する。

学生へのメッセージ 「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。

担当者の研究室等 1号館 2階 非常勤講師室

備考

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	今中 崇文
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果 (資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	四声, 単母音, 子音(1), 複母音(1), 複母音(2), 鼻母音(1)	発音編 1, 2	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	複母音(3), 鼻母音(4), 子音(3), 子音(4), 子音(5)	発音編 3, 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	形容詞述語文, 副詞 1, 変調, 文末助詞, 主述述語文, 自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	会話 1	第 1 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	是構文, 副詞 2, 構造助詞 1, 指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2, 副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	会話 2	第 2 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	動目構造, 動詞重畳, 文末助詞 2, 副詞 3, 二重目的語, 副詞 4	第 3 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	会話 3	第 3 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	数詞, 量詞 1, 数詞 2, 副詞 5, 所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	会話 4	第 4 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	数詞 3, 曜日, 時間詞, 名詞述語文, 疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	会話 5	第 5 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	方位詞, 不定代名詞, 量詞 2, 動詞「在」, 副詞 6, 指示代名詞 2	第 6 課 1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	会話 6	第 6 課 4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	15	第 1 課～第 6 課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (80%)、出席、授業態度 (20%) により総合評価する。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館 2階 非常勤講師室
備考	

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。																																																																		
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7</td> <td>第7課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話7</td> <td>第7課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8</td> <td>第8課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>会話8</td> <td>第8課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句</td> <td>第9課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>会話9</td> <td>第9課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>第7課～第9課会話文から出題</td> <td>復習3</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1</td> <td>第10課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>会話10</td> <td>第10課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4</td> <td>第11課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>会話11</td> <td>第11課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12</td> <td>第12課1</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>会話12</td> <td>第12課4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第10課～第12課会話文から出題</td> <td>復習4</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第7課～第12課まとめ</td> <td>テスト</td> <td>授業中学習した項目を復習し、よく練習すること</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	2	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	3	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	4	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	5	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	6	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	7	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	8	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	9	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	10	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	11	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	12	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	13	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	14	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること	15	第7課～第12課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
2	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
3	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
4	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
5	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
6	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
7	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
8	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
9	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
10	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
11	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
12	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
13	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
14	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
15	第7課～第12課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること																																																																
関連科目	中国語																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>摂南大学 中国語入門</td> <td>摂南大学外国語学部</td> <td>摂南大学外国語学部</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(80%)、出席、授業態度(20%)により総合評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。																																																																		
担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	今中 崇文
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	中国語を初めて学ぶ者にとって、中国語の基本的な発音や文法を理解することや一定の語彙数を早期に修得することが重要である。この授業では、中国語の発音や文法について学習するとともに、日常における中国語の表現方法の学習を通して、読む・書く・聴く・話すための基礎的な能力を修得する。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業中集中して聴くこと、間違いを気にせず大きな声を出すことが授業の中心となる。
科目学習の効果(資格)	1年終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。2年目以降の継続学習のための基礎力がつく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	介詞3, 量詞3, 連動文, 選択疑問文, 副詞7	第7課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	2	会話7	第7課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	3	介詞4, 動量詞, 了1, 了2, 了1了2, 副詞8	第8課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	4	会話8	第8課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	5	状態補語, 介詞5, 結果補語, 介詞6, 副詞9, 把字句	第9課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	6	会話9	第9課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	7	第7課～第9課会話文から出題	復習3	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	8	動態助詞「過」副詞10, 動量詞2, 副詞11, 能願動詞1	第10課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	9	会話10	第10課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	10	能願動詞2, 動量詞3, 疑問代名詞4, 能願動詞3, 比較文, 能願動詞4	第11課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	11	会話11	第11課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	12	方向補語, 進行文, 接続詞1, 疑問代名詞5, 副詞12	第12課1	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	13	会話12	第12課4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	14	第10課～第12課会話文から出題	復習4	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること
	15	第7課～第12課まとめ	テスト	授業中学習した項目を復習し、よく練習すること

関連科目	中国語
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	摂南大学 中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(80%)、出席、授業態度(20%)により総合評価する。
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	「聴く」「話す」に力を入れてほしい。これがある程度できるようになってから「読む」「書く」に取り組んでも遅くはない。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的  
本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

到達目標  
まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

授業方法と留意点  
教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

科目学習の効果 (資格)  
韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎 1 課
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書	基礎 1 課
2	母音 1	基本母音	教科書	基礎 2 課
3	子音 1	基本子音	教科書	基礎 3 課
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書	基礎 3 課
5	母音 2	複合母音	教科書	基礎 4 課
6	文字の確認	文字の確認		
7	パッチム	終声について	教科書	基礎 5 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書	1 課
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書	2 課
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書	3 課
13	復習	復習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る		

関連科目  
韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)  
授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等  
1号館2階 非常勤講師室

備考

教養科目

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

**授業概要・目的** 本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的な文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。

**到達目標** まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。

**授業方法と留意点** 教科書に基づいて文法説明を加えつつ、講読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。

**科目学習の効果(資格)** 韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			教科書	基礎 課題
1	韓国語とは	文字の仕組み	教科書	基礎 1 課
2	母音 1	基本母音	教科書	基礎 2 課
3	子音 1	基本子音	教科書	基礎 3 課
4	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書	基礎 3 課
5	母音 2	複合母音	教科書	基礎 4 課
6	文字の確認	文字の確認		
7	パッチム	終声について	教科書	基礎 5 課
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 0 - 3 1
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書	基礎 6 課 p 3 2 - 3 4
10	体言の平叙文	体言文 (平叙)	教科書	1 課
11	体言の疑問文	体言文 (疑問)	教科書	2 課
12	体言の否定文	体言文 (否定)	教科書	3 課
13	復習	復習		
14	総確認	総確認		
15	韓国語の実際	韓国のドラマを見る		

**関連科目** 韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)** 授業時に行われる複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。

**学生へのメッセージ**

**担当者の研究室等** 1号館2階 非常勤講師室

**備考**

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書 基礎2課-4課
	2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書 基礎5課
	3	発音の復習	発音の復習	教科書 基礎6課
	4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書 9課・10課
	5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書 4課
	6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書 5課
	7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書 7課
	8	文法事項の確認	文法事項の確認	
	9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書 6課
	10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書 8課 p 82-86
	11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書 8課 p 87
	12	助詞	助詞	教科書 172・173
	13	文の作成練習	文の作成練習	
	14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室

科目名	韓国語Ⅱ	科目名(英文)	Korean II
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

授業概要・目的	前期に引き続き、韓国語の構造、文法と表現の特色を学習しながら、日常韓国語の運用（特に読む、書く）能力を養うことを目指す。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。
到達目標	日常会話で使う基本的な表現を学んでいく。語尾表現を中心に習得し、簡単な文を作れるようにする。
授業方法と留意点	教科書に基づいて文法説明を加えつつ、購読、作文練習等を行う。欠席すると次回の受講に困難をきたすので、欠席しないことが望ましい。辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	文字の復習	母音・子音の復習	教科書 基礎2課-4課
	2	パッチムの復習	パッチムの復習	教科書 基礎5課
	3	発音の復習	発音の復習	教科書 基礎6課
	4	数詞	固有数詞と漢数詞	教科書 9課・10課
	5	用言文1	公的で固い表現の「です・ます」形1	教科書 4課
	6	用言文2	公的で固い表現の「です・ます」形2	教科書 5課
	7	用言文3	公的で固い表現の「です・ます」形3	教科書 7課
	8	文法事項の確認	文法事項の確認	
	9	用言文4	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形1	教科書 6課
	10	用言文5	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形2	教科書 8課 p 82-86
	11	用言文6	日常使いのやわらかい表現の「です・ます」形3	教科書 8課 p 87
	12	助詞	助詞	教科書 172・173
	13	文の作成練習	文の作成練習	
	14	総確認	総確認	
15	韓国語の実際	韓国のドラマをみる。		

関連科目	韓国語関連科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版	木内明	国書刊行会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時に行う複数のテストや、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技術の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式を行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおりである。 アルティメット・テニスなど。 受講生を半数に区分し、4回以降の授業は2コースに分かれて行う；Aコース前半アルティメット、後半テニス。Bコース前半テニス、後半アルティメット。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>履修上の注意など</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習、審法・ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習、審法・ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	11	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ	12	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ	13	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	14	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技術点25%として、総合評価する。 100点満点中60点以上で合格。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室へ問い合わせてください。																																																																		
担当者の	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室(ただし授業開講曜日のみ)																																																																		

研究室等	他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学	科目名(英文)	Sports Science
学部	看護学部	学科	看護学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林 真美, 横山 喬之
教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			

教養科目

授業概要・目的	健康を基盤として生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たします。本科目では、運動技術の習得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としています。																																																																		
到達目標	①運動技術の向上 ②競技ルールの理解 ③学生相互のコミュニケーション能力の向上																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う(雨天の場合、講義形式を行う場合がある)。 授業での開講種目は、以下のとおりである。 アルティメット・テニスなど。 受講生を半数に区分し、4回以降の授業は2コースに分かれて行う；Aコース前半アルティメット、後半テニス。Bコース前半テニス、後半アルティメット。																																																																		
科目学習の効果(資格)	生活していくうえでの個人における基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術の獲得である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>履修上の注意など</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>屋内種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習、審法・ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>競技の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習、審法・ゲームの解説</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価	4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ	7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	11	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ	12	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ	13	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ	14	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	履修上の注意など	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	屋内種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技 Aコース：アルティメット Bコース：テニス	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	競技の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、審法・ゲームの解説	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	基礎技術練習、簡易試合、解説とゲーム	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技 Aコース：テニス Bコース：アルティメット	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点50%、態度点25%、技術点25%として、総合評価する。 100点満点中60点以上で合格。																																																																		
学生へのメッセージ	授業への質問などは、授業前後の休憩時間にグリーンハウス教員室へ来てください。授業曜日以外は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室へ問い合わせてください。																																																																		
担当者の	枚方キャンパスグリーンハウス体育準備室(ただし授業開講曜日のみ)																																																																		

研究室等	他の曜日は、寝屋川キャンパス総合体育館1階体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）